SETSUNAN UNIVERSITY

SYLLABUS

2017 法学部 授業計画

法律学科

法　学　部

（学部略号：J）

Faculty of Law

法律学科
（学科略号：J）
Department of Law

法学部　法律学科

◎教育研究上の目的

幅広い教養と法学・政治学・法政策学に関わる専門的知識に裏打ちされ、論理的に問題解決ができる能力を有し、主体的に社会貢献をなしうる人間力を持った人材を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（法学）の学位を授与します。

■知識・理解

［ＤＰ１］国際的教養人として多様な価値観の存在を認めることができるために、人文・社会・自然科学などからなる教養科目および基礎科目を配当し、幅広い教養に関する知識を身につけている。（専門科目学習の前提となる教養に関する知見）

［ＤＰ２］憲法、民法、刑法などを学ぶ「法学」、行政学、国際政治などを学ぶ「政治学」、地域政策、スポーツ法政策などを学ぶ「法政策学」に関する専門的な知識および理解力を有している。（専門科目の基礎知識）

■思考・判断

［ＤＰ３］法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用することができる。（応用問題対応力）

［ＤＰ４］法学・政治学・法政策学の専門的知識を運用し、応用的問題に対する解決策を立案することができる。（応用問題対応・解決力）

［ＤＰ５］社会における諸問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考することができる。（リーガルマインド）

■関心・意欲・態度

［ＤＰ６］ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる。（チームワーク）

［ＤＰ７］将来のキャリア形成のため、自主的、計画的に学習する姿勢を身につけている。（能動性・主体性）

■技能・表現

［ＤＰ８］現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができる。（コミュニケーション能力）

［ＤＰ９］修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文字で的確に表現することができる。（自らの考えを口頭、文章等で正しく表現する力）

［ＤＰ10］修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、論拠をもって他者を説得することができる。（論拠をもって他者を説得する力）

◎カリキュラム・ポリシー（CP：教育課程編成・実施の方針）

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①人々の生き方や社会のあり方を多面的に理解できる国際的教養人としての素養を身につけるため、外国語、情報処理などの分野からなる「基礎科目」および人文社会系、自然系、地域志向系などの分野からなる「教養科目」を配当する。

②法学・政治学・法政策学の学問内容および方法論に関する体系的な知識を修得するため、１年次前期には導入として法学と政治学に関する概論科目、1年次後期から２年次にかけて専門基礎科目を段階的に配当する。さらに、基礎から応用までの法学・政治学の知識を段階的かつ体系的に深めるため、２年次から分属する「法律学特修」、「企業法務」、「地域政策」、「スポーツ法政策」の各コースに対応した、「国際取引法」、「地方自治法」、「租税法」、「経済刑法」など法学の専門性を広げる科目を配当する。

■思考・判断

③法学・政治学・法政策学の専門的知識を活用し、社会における応用的問題を認知し、利害の衝突を予測したうえで、バランスの取れた解決方法を思考する力を身につけるため、2年次からは、専門基礎科目の修得を前提に、公法・刑事法・民事法に関する「応用講義」などの発展的専門科目を配当する。

■関心・意欲・態度

④ゼミ活動やグループワークを行う際に、メンバーの意見に耳を傾け、相手の立場に立ちつつ、協調して活動することができる力を身につけるため、２年次後期からは、学生各自　の関心に応じて研究テーマを設定し、協同作業を通じた研究成果の発表を行いつつ、問題点を発見し、それに対する解決力を修得する少人数制の「専門演習」を配当する。

⑤将来のキャリア形成や、自主的、計画的に学習する習慣を身につけるため、初年次からキャリア形成科目を配当する。さらに、3年次からは、法学の分野を中心として、将来のキャリア目標に向けた心構えと準備学習の機会として、少人数からなる「法政キャリア特別講義」を配当する。

■技能・表現

⑥現代社会における法的、政治的問題に対する情報に興味を持って接し、ゼミ内でそれらの諸問題について、他者に配慮しながら議論する力を身につけるため、法学と政治学に関する少人数制の演習科目（１年次「法学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、２年次「プレ専門演習」、「専門演習Ⅰ」、３年次「専門演習Ⅱ」）を配当する。

⑦修得した法学・政治学・法政策学の知識をもとに、自分の考えを口頭ないし文章で的確に表現する力を身につけるため、学生各自が２年次後期から３年次までのゼミ活動を通じて設定した研究テーマに関する卒業論文の執筆と成果の発表を目標とする「卒業研究」を４年次に配当する。

◎アドミッション・ポリシー（AP：入学者受入れの方針）

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①法学・政治学・法政策学の文献の読解および社会科学的文章の表現力の基礎となる「読む・書く」という能力を身につけるための「国語」を修得している。

②法学部で学ぶ諸科目の修得のために必要な基礎的教養・知識である「世界史」、「日本史」などの人文科学、「現代社会」、「政治・経済」などの社会科学、数理科学および語学（英語）などに関する高等学校の教育課程を幅広く修得している。

■思考・判断

③資料を数理的に捉えて理解し、分析するための基礎的な思考能力を身につけている。

■関心・意欲・態度

④法律や政治について興味を持ち、大学で学ぶ法律学や政治学や法政策学についての知識や経験を社会で活かしたいという意欲があり、 自らの将来のキャリア形成について真剣に考え、その実現のために主体的・計画的に学修する意欲・態度を有している。

⑤課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

■技能・表現

⑥自身の考えを他者に伝えることのできるコミュニケーション能力（国語表現力と英語力）を有している。

⑦取得した資格やスポーツの経験などを特定の分野において活用できる能力や技能を有している。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授　業　計　画

科目名	担当者	ページ
イ		
インターンシップⅠ	石井三恵	585
インターンシップⅡ	石井三恵 水野武	586
エ		
英会話Ⅰ	ダンカン ホワイト	347
英会話Ⅰ	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	348
英会話Ⅰ	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ	349
英会話Ⅱ	ダンカン ホワイト	350
英会話Ⅱ	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ	351
英会話Ⅱ	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ	352
英語Ⅰ	有本好一郎	421
英語Ⅱ	有本好一郎	422
英語Ⅲ	高橋章夫	424
英語Ⅳ	高橋章夫	425
英語Ⅰa	鳥居祐介	353
英語Ⅰa	ブルース ライリー	354
英語Ⅰa	籔井恵美子	355
英語Ⅰa	松下乃亜	356
英語Ⅰa	西谷継治	358
英語Ⅰa	岩永道子	359
英語Ⅰa	松浦茂寿	360
英語Ⅰa	田村康子	361
英語Ⅰa	有本好一郎	362
英語Ⅰb	鳥居祐介	363
英語Ⅰb	ブルース ライリー	364
英語Ⅰb	籔井恵美子	365
英語Ⅰb	松下乃亜	366
英語Ⅰb	西谷継治	368
英語Ⅰb	岩永道子	369
英語Ⅰb	松浦茂寿	370
英語Ⅰb	田村康子	371
英語Ⅰb	有本好一郎	372
英語Ⅰc	藤岡真樹	374
英語Ⅰc	有本好一郎	376
英語Ⅰc	金原真由美	377
英語Ⅰc	関初海	378
英語Ⅰc	中野阿佐子	380
英語Ⅰc	中本明子	381
英語Ⅰc	田村康子	382
英語Ⅰc	松浦茂寿	383
英語Ⅰc	高橋章夫	384
英語Ⅰd	藤岡真樹	385
英語Ⅰd	有本好一郎	387
英語Ⅰd	金原真由美	388
英語Ⅰd	関初海	389
英語Ⅰd	中野阿佐子	390
英語Ⅰd	中本明子	391
英語Ⅰd	田村康子	392
英語Ⅰd	松浦茂寿	393
英語Ⅰd	高橋章夫	394
英語Ⅱa	ジェフリー ベル	395
英語Ⅱa	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ	396
英語Ⅱb	ジェフリー ベル	397
英語Ⅱb	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ	398
英米法	家本真実	13
エンプロイメントデザインⅠ	水野武 石井三恵 荻田喜代一	588
エンプロイメントデザインⅡ	水野武 石井三恵 荻田喜代一	590
オ		
応用情報処理	寺内睦博	426
カ		
海外語学研修	齋藤安以子	427
海外ビジネスインターンシップ	佐井英子	429
会計学	佐井英子	430
会社法	牛丸與志夫	15
会社法Ⅰ	牛丸與志夫	16
家族と地域の法社会史	牧田勲	17
環境法	浮田徹	18
キ		
企業法務特別講義Ⅰ（金融法実務）	牛丸與志夫	19
企業法務特別講義Ⅱ（貿易実務）	牛丸與志夫	20
企業法務特別講義Ⅲ（不動産取引実務）	牛丸與志夫	22
北河内を知る	荻田喜代一	431
キャリアデザインⅠ	水野武 亀田峻宣 橋本朗子 山岡亮太	592
キャリアデザインⅠ	石井三恵	594
キャリアデザインⅡ	水野武 亀田峻宣 橋本朗子 山岡亮太	596
キャリアデザインⅡ	石井三恵	597
キャリアデザインⅢ	水野武 安久典宏 石井三恵	598
キャリアデザインⅢ	水野武 安久典宏 石井三恵	600
教育課程論	大野順子	633
教育経営論	朝日素明	635
教育原理	小山裕樹	637
教育実習Ⅰ	朝日素明	639
教育実習Ⅱ	朝日素明	640
教育実習Ⅲ	朝日素明	641

科目名	担当者	ページ
教育社会学	大野順子	642
教育心理学	吉田佐治子	644
教育相談	吉田佐治子	645
教育方法論	林茂樹	646
教職実践演習（中・高）	吉田佐治子	648
教師論	朝日素明	650
行政学	中沼丈晃	23
行政救済法Ⅰ	金谷重樹	24
行政と政策	中沼丈晃	25
行政法応用講義	金谷重樹	26
行政法各論	金谷重樹	27
行政法総論	金谷重樹	28
行政法の基礎理論Ⅰ	金谷重樹	29
教養化学	竹内健治	432
教養経済学	朝田康禎	433
教養数学	早味俊夫	434
教養数学	西脇純一	435
教養数学	黒木和雄	436
教養生物	大塚正人	437
教養中国語Ⅰ	曹櫻	439
教養中国語Ⅱ	曹櫻	440
教養物理	島津浩哲	441
近世日本の法文化	牧田勲	30
近代日本政治史	和田泰一	31
金融商品取引法	牛丸與志夫	33
金融論	堀篤史	35

ク

グローカルな視点から異文化共生を考える	糟谷英之	442
グローバル社会とスポーツ	石井信輝	36
グローバル社会論	河原匡見	37

ケ

経営学入門	西之坊穂	443
経済学Ⅰ	堀篤史	445
経済学Ⅱ	朝田康禎	446
経済学入門	堀篤史	447
経済刑法	小野晃正	38
刑事政策	島田良一	40
刑事訴訟法	島田良一	41
刑事訴訟法Ⅰ	島田良一	42
刑事訴訟法応用講義	島田良一	43
刑事法概論	小野晃正	44
刑事法概論	島田良一	46
刑法応用講義Ⅰ	小野晃正	47
刑法応用講義Ⅱ	小野晃正	48
刑法各論	小野晃正	49
刑法各論Ⅰ	小野晃正	51
刑法総論	小野晃正	53
刑法総論Ⅰ	小野晃正	55
健康論	藤林真美	448
現代社会と刑事法	島田良一	57
現代ビジネス論	牧美喜男	450
憲法Ⅰ（基本的人権）	浮田徹	58
憲法Ⅱ（統治機構）	浮田徹	60
憲法応用講義	浮田徹	62
憲法概論	浮田徹	63
憲法概論	松島裕一	65

コ

公共政策の基礎	中沼丈晃	67
国語学	橋本正俊	452
国語学Ⅰ	橋本正俊	453
国際関係史	河原匡見	68
国際関係論	河原匡見	69
国際私法Ⅰ	小山昇	70
国際私法Ⅱ	小山昇	71
国際私法各論	小山昇	72
国際私法総論	小山昇	73
国際社会と法	糟谷英之	74
国際人権法	糟谷英之	75
国際組織法	糟谷英之	76
国際取引法	小山昇	77
国際取引法Ⅰ	小山昇	78
国際法の基礎理論	糟谷英之	79
国際ボランティア論	浅野英一	80
コミュニケーション能力開発	津村忠 橋本朗子	601

サ

債権各論	大川謙蔵	81
債権総論	大川謙蔵	82
債権法Ⅰ	大川謙蔵	83
債権法Ⅱ	大川謙蔵	84
財政学	柿本尚志	85
裁判制度特別講義	家本真実	86

シ

時事英語Ⅰ	里井真理子	454
時事英語Ⅱ	里井真理子	455
自然地理学	笠原俊則	456
実定法特別講義Ⅰ	松島裕一 前田剛志	88
実定法特別講義Ⅱ	松島裕一 前田剛志	90
市民社会論	森康一	92
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野順子	652
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野順子	654
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上正英	656
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上正英	658
社会学Ⅰ	谷岡謙	457
社会学Ⅱ	谷岡謙	458
社会調査実習	中沼丈晃	93
社会調査の方法	増田知也	459

科目名	担当者	ページ
社会保障法	前田剛志	95
就職実践基礎	亀田峻宣	460
就職実践基礎	山岡亮太	461
就職実践基礎	亀田峻宣	462
住民協働論	増田知也	96
少年法	島田良一	97
消費者と法	城内明	98
商法応用講義	牛丸與志夫	99
情報処理Ⅰ	橋本はる美	399
情報処理Ⅰ	橋本はる美	400
情報処理Ⅰ	橋本はる美	463
情報処理Ⅱ	橋本はる美	401
情報処理Ⅱ	橋本はる美	402
情報処理Ⅱ	橋本はる美	464
商法総論	牛丸與志夫	101
商法総論Ⅰ	牛丸與志夫	102
親族法	古川行男	103
人文地理学	笠原俊則	465
心理学Ⅰ	城戸楓	466
心理学Ⅱ	城戸楓	467

ス

科目名	担当者	ページ
数的能力開発	亀田峻宣	602
数的能力開発	山岡亮太	603
数的能力開発	橋本朗子	604
数的能力開発Ⅰ	亀田峻宣	605
数的能力開発Ⅰ	山岡亮太	606
数的能力開発Ⅰ	橋本朗子	607
数的能力開発Ⅱ	亀田峻宣	608
数的能力開発Ⅱ	山岡亮太	609
数的能力開発Ⅱ	橋本朗子	610
スポーツ医学の基礎	岡﨑和伸	468
スポーツ医学の理論と実際	渡辺一志	104
スポーツ栄養学	堀美幸	469
スポーツ科学概論	藤林真美	403
スポーツ科学実習Ⅰ	藤林真美 内部昭彦 堀美幸 村上陽一郎	470
スポーツ科学実習Ⅱ	藤林真美 内部昭彦 岡﨑和伸 村上陽一郎	471
スポーツ科学実習Ⅰa	藤林真美 内部昭彦 堀美幸 村上陽一郎	405
スポーツ科学実習Ⅰb	藤林真美 内部昭彦 岡﨑和伸 村上陽一郎	406
スポーツ科学実習Ⅱa	河瀬泰治 藤林真美	407
スポーツ科学実習Ⅱb	内部昭彦 西村和恵	408
スポーツ教育学	近藤潤	105
スポーツ教育学	近藤潤	472
スポーツ指導者入門	横山喬之	473
スポーツ社会学	石井信輝	106
スポーツ心理学	石井信輝	474
スポーツ政策論	石井信輝	107
スポーツと法律	石井信輝	108
スポーツトレーニングの基礎	岡本香代子	475
スポーツの歴史	近藤潤	109
スポーツの歴史	近藤潤	476
スポーツビジネス	大川謙蔵	110
スポーツビジネスと法	大川謙蔵	111
スポーツプログラミング	岡本香代子	112
スポーツプログラミング	岡本香代子	477
スポーツ文化論	河瀬泰治	113
スポーツマネジメント	石井信輝	114

セ

科目名	担当者	ページ
政治学概論	中沼丈晃	115
政治過程論	和田泰一	117
政治史	和田泰一	119
政治と政策	増田知也	121
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅野英一	478
生徒指導論	朝日素明	659
生命科学入門	大塚正人	479
西洋女性史	小宮山直子	122
西洋政治思想史	和田泰一	124
西洋の裁判の歴史	小宮山直子	126
西洋の人権の歴史	小宮山直子	127
世界史概論	林田敏子	481
世界の政治	森康一	128
世界の政治と社会	森康一	129
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	橋本正治	482
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石田裕子	483
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	浅野英一	484
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	久保貞也	485
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	鶴坂貴恵	486
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	尾山廣	488
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	居場嘉教	489
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	一色美博	490
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	田中賢太郎	491
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	大田住吉	492
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	石井信輝	494
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	内部昭彦	495
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	藤林真美	496
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	水野武	497
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	林茂樹	498
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	荻田喜代一	499
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	西之坊穂	500

科目名	担当者	ページ
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	栢木紀哉	501
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	橋本正治	502
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石田裕子	503
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	浅野英一	504
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	久保貞也	505
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	鶴坂貴恵	506
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	尾山廣	508
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	居場嘉教	509
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	一色美博	510
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	田中賢太郎	511
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	大田住吉	512
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	石井信輝	514
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	内部昭彦	515
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	藤林真美	516
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	水野武	517
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	林茂樹	518
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	荻田喜代一	519
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	西之坊穂	520
摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	栢木紀哉	521
専門演習Ⅰ	小山昇	130
専門演習Ⅰ	金谷重樹	131
専門演習Ⅰ	牛丸與志夫	132
専門演習Ⅰ	木村秀一	133
専門演習Ⅰ	牧田勲	134
専門演習Ⅰ	小島俊朗	135
専門演習Ⅰ	河原匡見	136
専門演習Ⅰ	古川行男	137
専門演習Ⅰ	中沼丈晃	138
専門演習Ⅰ	浮田徹	139
専門演習Ⅰ	石井信輝	140
専門演習Ⅰ	島田良一	141
専門演習Ⅰ	家本真実	142
専門演習Ⅰ	城内明	143
専門演習Ⅰ	小野晃正	144
専門演習Ⅰ	萩原佐織	145
専門演習Ⅰ	大川謙蔵	146
専門演習Ⅰ	松島裕一	147
専門演習Ⅰ	増田知也	148
専門演習Ⅰ	和田泰一	149
専門演習Ⅱ	小山昇	150
専門演習Ⅱ	金谷重樹	151
専門演習Ⅱ	牛丸與志夫	152
専門演習Ⅱ	糟谷英之	153
専門演習Ⅱ	木村秀一	154
専門演習Ⅱ	牧田勲	155
専門演習Ⅱ	小島俊朗	156
専門演習Ⅱ	河原匡見	157
専門演習Ⅱ	古川行男	158
専門演習Ⅱ	中沼丈晃	159
専門演習Ⅱ	浮田徹	160
専門演習Ⅱ	石井信輝	161
専門演習Ⅱ	島田良一	162
専門演習Ⅱ	家本真実	163
専門演習Ⅱ	城内明	164
専門演習Ⅱ	小野晃正	165
専門演習Ⅱ	萩原佐織	166
専門演習Ⅱ	大川謙蔵	167
専門演習Ⅱ	松島裕一	168
専門日本語ＦⅠ	中岡樹里	522
専門日本語ＦⅡ	中岡樹里	523
専門日本語Ｒ	中岡樹里	409

ソ

相続法	古川行男	169
ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	524
租税法Ⅰ	小島俊朗	170
租税法Ⅱ	小島俊朗	171
卒業研究	小山昇	172
卒業研究	金谷重樹	173
卒業研究	牛丸與志夫	174
卒業研究	糟谷英之	175
卒業研究	木村秀一	176
卒業研究	牧田勲	177
卒業研究	小島俊朗	178
卒業研究	河原匡見	179
卒業研究	古川行男	180
卒業研究	中沼丈晃	181
卒業研究	浮田徹	182
卒業研究	石井信輝	183
卒業研究	島田良一	184
卒業研究	家本真実	185
卒業研究	城内明	186
卒業研究	小野晃正	187
卒業研究	萩原佐織	188
卒業研究	大川謙蔵	189
卒業研究	松島裕一	190

タ

ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	526
体力測定とスポーツ相談	堀美幸	191
担保物権法	古川行男	192

チ

地域政策応用講義Ⅰ（警察行政）	中沼丈晃	193
地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	増田知也	194
地域政策応用講義Ⅲ（地方財政論）	中沼丈晃	196
地域調査入門	中沼丈晃	198
地域とスポーツ	石井信輝	200
地域と私	鶴坂貴恵	528
地域防犯政策	中沼丈晃	201
地域連携教育活動Ⅰ	吉田佐治子 朝日素明 小山裕樹 林茂樹	530

科目名	担当者	ページ
地域連携教育活動Ⅱ	吉田佐治子	531
	朝日素明	
	小山裕樹	
	林茂樹	
チームビルディング	水野武	532
地誌学	稲田克二	534
知的財産法	関堂幸輔	203
地方財政論	柿本尚志	205
地方自治と政策	増田知也	206
地方自治と法	金谷重樹	207
地方自治法	金谷重樹	208
地方自治論	増田知也	209
中国語Ⅰ	曹櫻	535
中国語Ⅱ	曹櫻	536
地理学Ⅰ	笠原俊則	537
地理学Ⅱ	笠原俊則	538

テ

哲学Ⅰ	池田清	539
哲学Ⅱ	池田清	540

ト

倒産法	萩原佐織	210
道徳教育の研究	小山裕樹	660
道徳教育の研究	小山裕樹	662
独占禁止法	木村秀一	212
独占禁止法Ⅰ	木村秀一	213
特別活動の理論と方法	林茂樹	664

ニ

日本外交史	森康一	214
日本語会話ＦⅠ	藤原京佳	541
日本語会話ＦⅡ	藤原京佳	542
日本語会話Ｒ	藤原京佳	410
日本語総合ＦⅠ	古川由理子	543
日本語総合ＦⅡ	古川由理子	544
日本語総合Ｒ	古川由理子	411
日本語読解ＦⅠ	中岡樹里	545
日本語読解ＦⅡ	中岡樹里	546
日本語読解Ｒ	中岡樹里	412
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	611
日本語能力開発Ⅰ	田中教子	612
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	613
日本語能力開発Ⅰ	細川知佐子	614
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	615
日本語能力開発Ⅰ	田中教子	616
日本語能力開発Ⅰ	澤野加奈	617
日本語能力開発Ⅰ	細川知佐子	618
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	619
日本語能力開発Ⅱ	田中教子	620
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	621
日本語能力開発Ⅱ	細川知佐子	622
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	623
日本語能力開発Ⅱ	田中教子	624
日本語能力開発Ⅱ	澤野加奈	625
日本語能力開発Ⅱ	細川知佐子	626
日本語表現作文ＦⅠ	中岡樹里	547
日本語表現作文ＦⅡ	中岡樹里	548
日本語表現作文Ｒ	中岡樹里	413
日本語文法ＦⅠ	中岡樹里	549
日本語文法ＦⅡ	中岡樹里	550
日本語文法Ｒ	中岡樹里	414
日本史概論	高木純一	551
日本事情ＦⅠ	門脇薫	553
日本事情ＦⅡ	梅野将之	554
日本事情ＲⅠ	門脇薫	415
日本事情ＲⅡ	梅野将之	416
日本女性史	牧田勲	215
日本政治論	和田泰一	216
日本の外交の歴史	森康一	218
日本の人権の歴史	牧田勲	219
日本の政治	和田泰一	220

ハ

発育発達論	岡本香代子	556
犯罪被害者の支援と法的救済	小野晃正	557

ヒ

ビジネスマナー	奥田和子	559
ビジネスマナーⅠ	奥田和子	627
ビジネスマナーⅡ	奥田和子	629

フ

フィットネストレーニングの理論と実際	堀美幸	222
福祉政策論	増田知也	223
物権法	家本真実	224
不動産取引法	古川行男	226
武道論	横山喬之	561
不法行為法	城内明	227
プレゼンテーション論	石井三恵	562
プレ専門演習	小山昇	228
プレ専門演習	金谷重樹	229
プレ専門演習	牛丸與志夫	230
プレ専門演習	糟谷英之	231
プレ専門演習	木村秀一	232
プレ専門演習	牧田勲	233
プレ専門演習	小島俊朗	234
プレ専門演習	河原匡見	235
プレ専門演習	古川行男	236
プレ専門演習	中沼丈晃	237
プレ専門演習	浮田徹	238
プレ専門演習	石井信輝	239
プレ専門演習	島田良一	240
プレ専門演習	家本真実	241

科目名	担当者	ページ
プレ専門演習	城内　明	242
プレ専門演習	小野晃正	243
プレ専門演習	萩原佐織	244
プレ専門演習	大川謙蔵	245
プレ専門演習	松島裕一	246
プレ専門演習	増田知也	247
プレ専門演習	和田泰一	248
プロポーザル・デザイン	北村　浩	564
文学	松尾佳津子	566
文学Ⅰ	松尾佳津子	567

へ

ヘルスエクササイズの理論と実際	岡本香代子	249

ホ

法学概論	金谷重樹	250
法学概論	小山　昇	251
法学基礎演習Ⅰ	小山　昇	252
法学基礎演習Ⅰ	金谷重樹	253
法学基礎演習Ⅰ	牛丸與志夫	254
法学基礎演習Ⅰ	糟谷英之	255
法学基礎演習Ⅰ	牧田　勲	256
法学基礎演習Ⅰ	小島俊朗	257
法学基礎演習Ⅰ	河原匡見	258
法学基礎演習Ⅰ	古川行男	259
法学基礎演習Ⅰ	中沼丈晃	260
法学基礎演習Ⅰ	浮田　徹	261
法学基礎演習Ⅰ	石井信輝	262
法学基礎演習Ⅰ	島田良一	263
法学基礎演習Ⅰ	家本真実	264
法学基礎演習Ⅰ	城内　明	265
法学基礎演習Ⅰ	小野晃正	266
法学基礎演習Ⅰ	萩原佐織	267
法学基礎演習Ⅰ	大川謙蔵	268
法学基礎演習Ⅰ	松島裕一	269
法学基礎演習Ⅰ	増田知也	270
法学基礎演習Ⅰ	和田泰一	271
法学基礎演習Ⅱ	小山　昇	272
法学基礎演習Ⅱ	金谷重樹	273
法学基礎演習Ⅱ	牛丸與志夫	274
法学基礎演習Ⅱ	糟谷英之	275
法学基礎演習Ⅱ	牧田　勲	276
法学基礎演習Ⅱ	小島俊朗	277
法学基礎演習Ⅱ	河原匡見	278
法学基礎演習Ⅱ	古川行男	279
法学基礎演習Ⅱ	中沼丈晃	280
法学基礎演習Ⅱ	浮田　徹	281
法学基礎演習Ⅱ	石井信輝	282
法学基礎演習Ⅱ	島田良一	283
法学基礎演習Ⅱ	家本真実	284
法学基礎演習Ⅱ	城内　明	285
法学基礎演習Ⅱ	小野晃正	286
法学基礎演習Ⅱ	萩原佐織	287
法学基礎演習Ⅱ	大川謙蔵	288
法学基礎演習Ⅱ	松島裕一	289
法学基礎演習Ⅱ	増田知也	290
法学基礎演習Ⅱ	和田泰一	291
法学基礎演習Ⅰ	木村秀一	292
法学基礎演習Ⅱ	木村秀一	293
法思想史	松島裕一	294
法社会学	前田剛志	296
法情報学	谷　次郎	298
法人法概説	古川行男	300
法政キャリア特別講義Ⅰ	牛丸與志夫 石井信輝 大川謙蔵 河原匡見 小山　昇 松島裕一	301
法政キャリア特別講義Ⅱ	木村秀一	302
法政キャリア特別講義Ⅱ	木村秀一	303
法政キャリア特別講義Ⅲ	中塚　賢	304
法政キャリア特別講義Ⅲ	中塚　賢	305
法政キャリア特別講義Ⅳ	大川謙蔵 金谷重樹	306
法政キャリア特別講義Ⅳ	大川謙蔵 金谷重樹	307
法政キャリア特別講義Ⅴ	牛丸與志夫	308
法政キャリア特別講義Ⅴ	牛丸與志夫	309
法政キャリア特別講義Ⅵ	前田剛志 松島裕一	310
法政キャリア特別講義Ⅵ	大仲淳介	312
法政キャリア特別講義Ⅶ	大仲淳介	313
法哲学Ⅰ	松島裕一	314
法哲学Ⅱ	松島裕一	316
法哲学各論	松島裕一	318
法哲学総論	松島裕一	320
法律英語	糟谷英之	322
保険法	牛丸與志夫	323
ボランティアと法律	中沼丈晃	324

マ

マーケティングと歴史	武居奈緒子	568
祭りと地域の法社会史	牧田　勲	325

ミ

身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	569
民事訴訟法	萩原佐織	326
民事訴訟法Ⅰ	萩原佐織	328
民事訴訟法応用講義	萩原佐織	330
民事法概論	大川謙蔵 萩原佐織	332
民事法概論	小山　昇	333
民事保全・執行法	萩原佐織	334

科目名	担当者	ページ
民法応用講義Ⅰ	城内　明	336
民法応用講義Ⅱ	大川　謙蔵	337
民法総則	城内　明	338

モ

ものづくりインターンシップ基礎	奥野　竜平	571
ものづくりインターンシップ基礎	諏訪　晴彦	573
ものづくりインターンシップ実践	奥野　竜平	574
ものづくり海外インターンシップ	諏訪　晴彦	576

ヤ

役立つ金融知力	陸川　富盛	577

ユ

有価証券法	木村　秀一	339
有価証券法Ⅰ	木村　秀一	340

ラ

ライフサイエンスの基礎	西矢　芳昭	579
	青笹　治	
	井尻　貴之	
	居場　嘉教	
	尾山　廣	
	川崎　勝己	
	木村　朋紀	
	中嶋　義隆	
	長田　武	
	西村　仁	
	船越　英資	
	松尾　康光	
	松川　通	
	村田　幸作	

レ

歴史学概論	高木　純一	580

ロ

労働組合法	前田　剛志	341
労働保護法	前田　剛志	342

専　門　科　目

科目名	英米法	科目名（英文）	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれません。しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと考えています。講義では、英文の文献や映画などの映像資料も多用します。
到達目標	本講義では、アメリカ法の特徴を理解し、アメリカの憲法および民事法、陪審制度の全体像を把握していただくことを目標とします。
授業方法と留意点	要点を記したレジュメを中心に授業をおこないます。「英語なんて見たくもない」という方にはお勧めできない授業ですが、アメリカという国や英語に興味がある方には、法という視点からアプローチする楽しさを感じていただけるかと思います。 教科書を使用せず、配布するレジュメを基に講義をおこないますので、単位取得のためには講義に出席のうえ講義内容を理解することが必須だと考えてください。 講義内容は、受講生の皆さんの理解度によっては変更することがあります。
科目学習の効果（資格）	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 訴訟社会、アメリカ？	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	判例法とは	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	アメリカの憲法（1）	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限を	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	アメリカの憲法（2）	アメリカの立法と行政のしくみ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	アメリカの憲法（3）	アメリカの憲法（権利章典）に関する判例を読む	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
7	銃社会アメリカの抱える問題（1）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	銃問題アメリカの抱える問題（2）	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	アメリカの民事訴訟（1）	アメリカの民事裁判手続きに採用されているディスカバリー（証拠開示手続き）について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	アメリカの民事訴訟（2）	クラスアクション（集団代表訴訟）について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	アメリカの民事訴訟（3）	映画 ”Hot Coffee” を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	アメリカにおける市民の司法への参加（1）	映画 ”Hot Coffee” からわかるアメリカの陪審制度	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	アメリカにおける市民の司法への参加（2）	アメリカの民事・刑事陪審制度について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	アメリカの法学教育と法曹	アメリカの法学教育の概要と法律の専門家について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	これまでの講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	国際関係の科目、英語系の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
2			
3			

評価方法 （基準）	講義内で意見を求めたり、課題を提出していただきます。そうした意見や課題、講義での受講姿勢を 30%程度、学期末試験の成績を 70%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。授業中の不要な私語については減点の対象とします。
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部の学生を含む）を歓迎します。授業中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合もあります。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間

科目名	会社法	科目名（英文）	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	会社法の　全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとっては、必須の知識である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則	教科書２ページ～４０ページ
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効	４２ページ～６５ページ
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿	６６ページ～８６ページ
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度	８６ページ～１０７ページ
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権	１０５ページ～１３２ページ
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会	１３３ページ～１５０ページ
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役	１５０ページ～１５５ページ
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係	１５５ページ～１６４ページ
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役	１６４ページ～１８０ページ
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権	１８０ページ～１９２ページ
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等	１９３ページ～２１６ページ
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社	２１７ページ～２２３ページ
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理	２２５ページ～２３６ページ
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転 合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	２３７ページ～２９０ページ
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社	２９１ページ～３１４ページ

関連科目：金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法第４版	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	特になし。

専門科目

科目名	会社法Ⅰ	科目名（英文）	Corporate Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、４種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	会社法の　全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	会社に就職する者にとっては、必須の知識である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則	教科書２ページ～４０ページ
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効	４２ページ～６５ページ
3	株式と株主（１）	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿	６６ページ～８６ページ
4	株式と株主（２）	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度	８６ページ～１０７ページ
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権	１０５ページ～１３２ページ
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会	１３３ページ～１５０ページ
7	取締役・取締役会（１）	総説・取締役	１５０ページ～１５５ページ
8	取締役・取締役会（２）	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係	１５５ページ～１６４ページ
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役	１６４ページ～１８０ページ
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権	１８０ページ～１９２ページ
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等	１９３ページ～２１６ページ
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社	２１７ページ～２２３ページ
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理	２２５ページ～２３６ページ
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転 合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	２３７ページ～２９０ページ
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社	２９１ページ～３１４ページ

関連科目：金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法第４版	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	特になし。

科目名	家族と地域の法社会史	科目名（英文）	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	近年、女性のＭ字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、本講義はこうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。家族を手がかりに、その時代の社会構造や地域について理解してもらえたらと思う。
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状を知ってもらうことが第一の目標である。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてもらいたい。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や関連文献を配付したり、紹介する。民法の親族法・相続法を選択していることが望ましいが、日本史の知識があれば、とくに家族法をとっていなくともよい。
科目学習の効果（資格）	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。
2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートの整理復習
3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートの整理復習
4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートの整理復習
5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートの整理復習
6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートの整理復習
7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートの整理復習
8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートの整理復習
9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートの整理復習
10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートの整理復習
11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートの整理復習
12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートの整理復習
13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートの整理復習
14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートの整理復習
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートの整理復習

関連科目：「近世日本の法文化」、「法と社会」、民法、憲法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績とレポートによる。
学生へのメッセージ	日本史に関心のある諸君の選択を希望する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	環境法	科目名（英文）	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習します。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。 憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を学びます。
到達目標	環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整えます。
授業方法と留意点	講義形式です。発言を求める場合もあります。 法学部３年生後期の科目なので、そこまでの憲法、民法、行政法の理解を前提として講義を行います。
科目学習の効果（資格）	新司法試験の選択科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：特になし 復習・学習：講義ノートふり返り
2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
13	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
14	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り
15	まとめ	環境法・環境行政・環境政策	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく 復習・学習：講義ノートふり返り

関連科目：憲法Ⅰ、憲法Ⅱ、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の小課題(20%)、期末試験(80%)を基本として評価します。詳細は講義初回に配布するプリントを参照すること。
学生へのメッセージ	資料等は適宜配布します。その他詳細については初回に配布するプリントを参照すること。
担当者の研究室等	11号館９階　浮田准教授室
備考	

科目名	企業法務特別講義Ⅰ（金融法実務）	科目名（英文）	Special Lecture on Business Law Ⅰ (Financial Law Practice)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	金融法のうち、特に銀行取引に関して、実務的側面を重視して、講義を行う。 本講義では、まず、銀行の固有業務である受信取引と与信取引を取り上げ、次に、現代型の金融取引を取り上げる。 本講義の目的は、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することである。
到達目標	銀行に就職を希望する学生が自信を持って就職活動を行うことができ、また銀行に就職後、自信を持って業務を行うことができるために、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することである。
授業方法と留意点	必要な資料は、授業中に配布する。
科目学習の効果（資格）	銀行等の金融機関に就職する時に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融法概観	金融法の範囲と基礎概念 金融取引の類型 金融取引に関する特別法 金融規制の目的と近年の動向等	教科書２ページ～１７ページ
2	Ⅰ　伝統的金融取引 受信取引法（１）	預金契約 預金の成立	教科書２１ページ～６０ページ
3	受信取引法（２）	預金の帰属 預金の払戻し	教科書６０ページ～７４ページ
4	受信取引法（３）	預金の相続 預金と時効 複数店預金に対する差押え	教科書７５ページ～９３ページ
5	与信取引法１（１）	銀行の与信業務と根拠法 与信業務にかかる法規制	教科書９４ページ～１０８ページ
6	与信取引法１（２）	与信判断における善管注意義務 与信の相手方 銀行取引約定書	教科書１０８ページ～１３１ページ
7	与信取引法１（３）	与信の具体的態様 保証・損失補償 担保	教科書１３１ページ～１５９ページ
8	与信取引法２（１）	債権管理	教科書１６０ページ～１７８ページ
9	与信取引法２（２）	債権回収	教科書１７８ページ～２１０ページ
10	Ⅱ　現代型金融取引 シンジケート・ローン	シンジケート・ローンの概要 アレンジャーおよびエージェントの役割と責任 シンジケート・ローン契約の特徴	教科書２１２ページ～２６６ページ
11	デリバティブ	デリバティブ取引の概要 デリバティブ取引の債権金額 デリバティブ取引の内部統制問題 デリバティブ取引の説明義務	教科書２６７ページ～３２１ページ
12	資産運用	主な運用商品・運用会社と関連法 投資信託の関連当事者と関連する法律	教科書３２２ページ～３４２ページ
13	社債	公社債の種類と社債発行市場の規模 公社債に関わる主な法律 社債管理者制度と社債権者集会	教科書３４３ページ～３８１ページ
14	LBO・MBO	LBO・MBO 総論 LBO・MBO における主要な証券関連規制 LBO・MBO と銀行・証券会社に対する規制	教科書３８２ページ～４３３ページ
15	証券化	資産の証券化概論 証券化と法律 証券化と金融危機・金融システムの関係	教科書４３４ページ～５０４ページ

関連科目	民法、商法、金融商品取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融法講義	神田秀樹・神作裕之・みずほフィナンシャルグループ	岩波書店
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

評価方法（基準）	期末テストおよび授業態度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	辛抱強く、勉強してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

科目名	企業法務特別講義Ⅱ（貿易実務）	科目名（英文）	Special Lecture on Business Law II (Trading Business)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	貿易取引は、国境を越えて商品が異動する取引であり、輸出取引、輸入取引および海外取引（仲介取引）の３種類がある。我が国の国際取引は、以前は貿易取引が中心であったが、現在は、海外投資や資本参加などにより、外国で合弁会社を設立したり、100パーセントの子会社を設立するように拡大してきた。 本講義では、貿易取引を含む国際取引の法的な枠組み、法律上の問題および貿易実務の基礎的な知識と応用力を教授する。 本講義の目的は、貿易取引を含む国際取引の法的な枠組み、法律上の問題および国際取引実務の基礎的な知識と応用力を修得することである。
到達目標	商社や海外取引の多いメーカーに就職を希望する学生が、自信を持って就職活動を行い、また、それらの会社への就職後、自信のもって業務を行うために、貿易取引を含む国際取引の法的な枠組み、法律上の問題および国際取引実務の基礎的な知識と応用力を修得することである。
授業方法と留意点	できるだけ、実際の契約書を分析していく。必要な資料は、授業中に配布する。 国際売買契約等は、英文で書かれることが多いために、授業中は、英和辞典を携帯すること。
科目学習の効果（資格）	民法、国際取引法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の基礎知識	国際取引の枠組み 国際契約 知的財産訴訟 製造物責任訴訟	教科書３ページ～57ページ
2	国際売買契約（１）	契約書の種類 契約書の形式と構成	教科書５７ページ～６２ページ、２１１ページ～２３０ページ
3	国際売買契約（２）	条項の構成 具体的条項例 引渡条件 支払い条件	教科書２３１ページ～２４１ページ
4	国際売買契約（３）	品質保証 不可抗力条項 契約解除条項 契約解除の効果	教科書２４１ページ～２５２ページ
5	国際販売代理店契約（１）	国際販売代理店契約の意義 具体的条項例 代理店の起用とその機能および関係 販売地域指定と制限	教科書２５３ページ～２６１ページ
6	国際販売代理店契約（２）	競業制限 最低購入義務 在庫および広告 契約解除の効果	教科書２６１ページ～２６６ページ
7	国際運送契約	国際運送契約の意義 船荷証券 傭船契約	教科書２６７ページ～２７７ページ
8	国際ライセンス契約（１）	国際ライセンス契約の意義 製造技術ライセンス契約 技術情報使用権付与 守秘義務	教科書２９９ページ～２８３ページ
9	国際ライセンス契約（２）	コンピュユータ・ソフトウェア・ライセンス契約 使用許諾の範囲 バックアップコピーの許諾条件	教科書２８３ページ～２９７ページ
10	国際共同開発契約	国際共同開発契約の意義、条項の構成 業務の分担 費用の分担 第三者への委託	教科書２９９ページ～３１０ページ
11	国際合弁契約	国際合弁契約の意義 運営管理の方式 譲渡制限条項 撤退条項 準拠法	教科書３１１ページ～３２２ページ
12	国際企業買収契約（１）	国際企業買収契約の意義 資産の特定とその譲渡の意義 資産の引渡し	教科書１４９ページ～176ページ、３２３ページ～３２９ページ
13	国際企業買収契約（２）	売買価格と支払い 負債の承継 Due　Di l igence 競業避止義務	教科書３２９ページ～３３４ページ
14	国際秘密保持契約（１）	国際秘密保持契約の意義 秘密情報の定義 秘密情報に当たらない情報 受領者による秘密保持義務	教科書３３５ページ～３４２ページ
15	国際秘密保持契約（２）	秘密保持義務遵守のための具体的施策期間 秘密情報の返却、破棄 義務違反	教科書３４２ページ～３４６ページ

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	国際取引法と契約実務第3版	牧野和夫・河村寛治・飯田浩司	中央経済社
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	期末テストと授業態度を総合的に評価します。
学生への メッセージ	英語の文章を読みますので、必ず、英和辞典を携帯してください。 辛抱強く、勉強してください。
担当者の 研究室等	11号館9階　牛丸教授室
備考	

科目名	企業法務特別講義Ⅲ（不動産取引実務）	科目名（英文）	Special Lecture on Business Law III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	不動産取引の実務において、様々な法律問題が生じている。特に重要な問題については、訴訟が提起され、裁判所で判決が下されている。 本講義では、判例で問題となった事件をとりあげて、不動産取引の実務に関して重要な法律問題を勉強することにする。
到達目標	宅地建物取引業、マンション販売業や建築業等に就職を希望する学生が自信を持って就職活動を行い、また、就職後、自信を持って業務を行うために、不動産取引の実務に関して重要な法律問題をマスターすることである。
授業方法と留意点	講義形式で行う。練習問題を解いていく。必要な資料は、授業中に配布する。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引業、マンション販売業や建築業等に就職する学生に役に立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	不動産	建築中の建物はいつから不動産となるかなど	授業で学習したことの整理と確認
2	売買契約の締結（1）	不動産取引と成年被後見人の保護など	授業で学習したことの整理と確認
3	売買契約の締結（2）	登記申請権限の付与と基本代理権など	授業で学習したことの整理と確認
4	売買契約の履行・不履行	代金の一部不足、事情変更と解除など	授業で学習したことの整理と確認
5	売買契約による所有権等の移転	賃貸不動産の譲渡と敷金関係の承継など	授業で学習したことの整理と確認
6	対抗要件（1）	登記を要する物権変動の範囲、時効完成後の譲渡と登記など	授業で学習したことの整理と確認
7	対抗要件（2）	背信的悪意者からの転得者、建物表示登記と対抗力など	授業で学習したことの整理と確認
8	登記手続	建物の二重登記、共有関係の公示と更正登記など	授業で学習したことの整理と確認
9	担保責任	土地の面積超過と増額請求の可否など	授業で学習したことの整理と確認
10	二重譲渡当事者の責任	二重譲渡人の不法行為責任など	授業で学習したことの整理と確認
11	買戻し・譲渡担保	買戻特約と譲渡担保など	授業で学習したことの整理と確認
12	不動産取引と専門家	司法書士の注意義務など	授業で学習したことの整理と確認
13	通行権	囲繞地通行権と接道義務など	授業で学習したことの整理と確認
14	マンション	共有部分の意義など	授業で学習したことの整理と確認
15	農地・山林の売買	農地の売買と農地法に基づく許可など	授業で学習したことの整理と確認

関連科目：民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	不動産取引判例百選 第３版	安永　正昭・鎌田　薫・山野目章夫 編	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	期末テストおよび授業中の態度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業中は、ポケット六法を携帯すること。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	行政学	科目名（英文）	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか理解する。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという３段階が必要になる。
科目学習の効果（資格）	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 の復習 『13 デイズ』の視聴
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第１回の続き。	レジュメ p.2 の復習 『13 デイズ』の視聴
3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 の復習
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 の復習
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 の復習
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 の復習
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の復習 レポート課題の作成
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 の復習 行政組織法の整理
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 の復習 行政組織法の整理
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 の復習
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 の復習 新聞記事資料の確認
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 の復習 新聞記事資料の確認
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 の復習 読物資料の確認
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 の復習
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 の復習 新聞記事資料の確認 期末試験の対策

関連科目：「公共政策の基礎」の発展科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	行政救済法Ⅰ	科目名（英文）	Administrative Remedy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。また、財産権については、正当な補償の下、公共の福祉のために剥奪・制限することが認められている。そこで、この授業では、このような行政活動に起因する被害の補填制度について説明する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。２７頁から５２頁まで各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「行政法総論」で学んだことの復習	行政法総論のプリントを通読しておくこと。
2	行政救済制度	国家補償と行政争訟の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政上の損害賠償制度	不法行為責任と債務不履行責任	事前にプリントを読んでおくこと。
4	国家賠償法（1）	国家賠償法第１条の説明その１	事前にプリントを読んでおくこと。
5	国家賠償法（2）	国家賠償法第１条の説明その２	事前にプリントを読んでおくこと。
6	国家賠償法（3）	国家賠償法第２条の説明その１	事前にプリントを読んでおくこと。
7	国家賠償法（4）	国家賠償法第２条の説明その２	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政上の損失補償（1）	特別の犠牲の意味と判断基準	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政不服審査法（1）	行政不服審査法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政不服審査法（2）	不服申立の対象	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政不服審査法（3）	審査手続	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政上の損失補償（2）	特別の犠牲	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政事件訴訟法（1）	行政事件訴訟法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政事件訴訟法（2）	取消訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目：できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は、原則として、○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政と政策	科目名（英文）	Public Administration and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか理解する。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えるという３段階が必要になる。
科目学習の効果（資格）	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 の復習 『13 デイズ』の視聴
2	映画『13 デイズ』に見る政治と行政(2)	第１回の続き。	レジュメ p.2 の復習 『13 デイズ』の視聴
3	1930 年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 の復習
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 の復習
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 の復習
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 の復習
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の復習 レポート課題の作成
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 の復習 行政組織法の整理
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 の復習 行政組織法の整理
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 の復習
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 の復習 新聞記事資料の確認
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 の復習 新聞記事資料の確認
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 の復習 読物資料の確認
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 の復習
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 の復習 新聞記事資料の確認 期末試験の対策

関連科目：「公共政策の基礎」の発展科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	行政法応用講義	科目名（英文）	Advanced Administrative Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	行政法総論と同各論で修得した知識の行政実務への応用力を培うことを目的とした授業を行います。
到達目標	行政書士試験に合格できる応用力を身につけることを到達目標とします。む
授業方法と留意点	行政書士試験の過去問を中心にし、それを判例を使用して深化させます。 各自真剣に取り組んで下さい。
科目学習の効果（資格）	行政書士資格の取得

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法治主義について	法律の留保、営造物管理権	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
2	命令について	法規命令の限界	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
3	行政指導について	行政指導の性質と限界	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
4	行政契約について	行政契約の性質	２年時生に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
5	処分について	処分の意味と性質	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
6	処分について	処分と訴訟の関係	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
7	即時強制について	即時強制の意味と性質	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
8	行政上の強制執行について	行政上の強制執行の特質	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
9	行政上の法律関係について	行政関係への私法の適用	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
10	国家賠償法について（１）	国家賠償法第１条に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
11	国家賠償法について（２）	国家賠償法第２条に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
12	審査請求について	審査手続に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
13	取消訴訟について	取消訴訟に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
14	無効等確認訴訟、当事者訴訟について	無効等確認訴訟、当事者訴訟に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。
15	義務付け訴訟、差し止め訴訟について	義務付け訴訟、差し止め訴訟に関する問題	２年生時に配布した行政法総論及び各論のプリントを読んでおくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験によって評価します。
学生へのメッセージ	授業には必ず遅刻せずに出席して下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	行政法各論	科目名（英文）	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	法治主義ないし法の支配の下においては、すべての行政活動は適法に、しかも国民・住民の権利利益を最大限に尊重して行われなければならないが、この行政、神ならぬ人が行うことから、時として違法な行政が行われることがあり、それを放置することは法治主義ないし法の支配に反する。また、財産権については、正当な補償の下、公共の福祉のために剥奪・制限することが認められている。そこで、この授業では、このような行政活動に起因する被害の補填制度について説明する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。２７頁から５２頁まで各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験を受験する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	「行政法総論」で学んだことの復習	行政法総論のプリントを通読しておくこと。
2	行政救済制度	国家補償と行政争訟の説明	事前にプリントを読んでおくこと。
3	行政上の損害賠償制度	不法行為責任と債務不履行責任	事前にプリントを読んでおくこと。
4	国家賠償法（１）	国家賠償法第１条の説明その１	事前にプリントを読んでおくこと。
5	国家賠償法（２）	国家賠償法第１条の説明その２	事前にプリントを読んでおくこと。
6	国家賠償法（３）	国家賠償法第２条の説明その１	事前にプリントを読んでおくこと。
7	国家賠償法（４）	国家賠償法第２条の説明その２	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政上の損失補償（１）	特別の犠牲の意味と判断基準	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政不服審査法（１）	行政不服審査法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政不服審査法（２）	不服申立の対象	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政不服審査法（３）	審査手続	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政上の損失補償（２）	特別の犠牲	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政事件訴訟法（１）	行政事件訴訟法の全体像	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政事件訴訟法（２）	取消訴訟	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめ	これまでのプリントを通読しておくこと。

関連科目：できるだけ民事訴訟法の基本を理解しておいて下さい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は、原則として、○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政法総論	科目名（英文）	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤にしており、一定の法の柵の中であればその活動は個々人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種資格試験に合格できる力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。１頁から２６頁まで各自プリントアウトして、毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
2	私人の活動と行政主体の活動	法治主義・法の支配	事前にプリントを読んでおくこと。
3	法律の留保 営造物管理権	法治主義の例外	事前にプリントを読んでおくこと。
4	行政法の姿と形	成文法源と不文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
5	行政目的を実現する手法（1）	行政指導	事前にプリントを読んでおくこと。
6	行政目的を実現する手法（2）	処分とその意味・種類	事前にプリントを読んでおくこと。
7	行政目的を実現する手法（3）	処分の効力その１	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政目的を実現する手法（4）	処分の効力その２	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政目的を実現する手法（5）	瑕疵の承継など	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政目的を実現する手法（6）	拘束的計画	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政目的を実現する手法（7）	即時強制と強制調査	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政裁量	行政裁量の種類と司法審査	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政上の義務の違反･不履行に対する措置	制裁と強制執行	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政法関係	行政活動に対する私法の適用	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目：憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は原則として○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	行政法の基礎理論Ⅰ	科目名（英文）	Administrative Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤にしており、一定の法の柵の中であればその活動は個々人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	公務員試験及び行政書士をはじめとする各種資格試験に合格できる力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。１頁から２６頁まで各自プリントアウトして、毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
2	私人の活動と行政主体の活動	法治主義・法の支配	事前にプリントを読んでおくこと。
3	法律の留保 営造物管理権	法治主義の例外	事前にプリントを読んでおくこと。
4	行政法の姿と形	成文法源と不文法源	事前にプリントを読んでおくこと。
5	行政目的を実現する手法（1）	行政指導	事前にプリントを読んでおくこと。
6	行政目的を実現する手法（2）	処分とその意味・種類	事前にプリントを読んでおくこと。
7	行政目的を実現する手法（3）	処分の効力その１	事前にプリントを読んでおくこと。
8	行政目的を実現する手法（4）	処分の効力その２	事前にプリントを読んでおくこと。
9	行政目的を実現する手法（5）	瑕疵の承継など	事前にプリントを読んでおくこと。
10	行政目的を実現する手法（6）	拘束的計画	事前にプリントを読んでおくこと。
11	行政目的を実現する手法（7）	即時強制と強制調査	事前にプリントを読んでおくこと。
12	行政裁量	行政裁量の種類と司法審査	事前にプリントを読んでおくこと。
13	行政上の義務の違反･不履行に対する措置	制裁と強制執行	事前にプリントを読んでおくこと。
14	行政法関係	行政活動に対する私法の適用	事前にプリントを読んでおくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目	憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくこと。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験を行い、その結果によって評価します。内容は原則として○×又は穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	近世日本の法文化	科目名（英文）	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	わが国の近代化は、西欧諸国の大きな影響のもとに進められた。これは法文化においても例外ではなく、わが国は多くの西欧法を継受することで、法の近代化をおしすすめてきたのである。その中で、伝統的な法文化は、一部の例外を除いて捨て去られた。しかし、近代社会が目指したものをよりよく理解するためには、それに先立つ前近代社会の事情を是非とも知っておく必要があるだろう。本講義では、日本の近世社会の種々相を明らかにしながら、そこに現れる諸個人・諸集団の軋轢や調整といった近世の法現象や法文化を紹介する。
到達目標	日本の前近代法のさまざまな特徴を知り、もって近代法や現代法との違いに気が付き、現代の法が過去の反省や止揚の上に成立していることを理解してもらうことが最大の目標である。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連する史料を配付し、参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教材がないので、毎回出席し集中して講義を聞くことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	幕藩体制の概観	近世社会の構造	高校教科書の江戸時代の部分を読んでおくこと、家庭でのノート整理
2	近世の法文化	身分制社会の諸相 法の多元性	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
3	徳川の平和	幕府の支配と民衆	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
4	将軍と大名	近世の主従関係	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
5	江戸の役人世界	近世行政の特質	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
6	藩支配の多様性	お家騒動あれこれ	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
7	近世社会における犯罪の種々相	八百屋お七の悲劇	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
8	近世の犯罪と法①	主殺し・親殺し・子殺し	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
9	近世の犯罪と法②	日本左衛門と鼠小僧	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
10	近世の紛争①	犯罪者の末路	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
11	近世の紛争②	土地と金をめぐる争い(1)	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
12	近世の紛争③	土地と金をめぐる争い(2)	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
13	幕藩体制と公議輿論①	坂本龍馬と舟中八策	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
14	幕藩体制と公議輿論②	大政奉還と五箇条の御誓文	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習
15	近世日本の法と社会	講義のまとめ	講義ノートと当日配布した資料の整理・復習

関連科目：憲法・刑法・民法などの法学科目などすべての歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績による。
学生へのメッセージ	法文化史は、日本史の知識を基礎として、その上に法学的視角から歴史にアプローチしようというものであるから、最低限高校の日本史教科書程度の知識をもっていること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	近代日本政治史	科目名（英文）	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、扱ってきた政治問題などを知っておくことは有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	学生の皆さんが日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策、政党、候補者が望ましいのか考え、意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらい、質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応でき、また社会人として知っておきたい基本的な歴史的知識についても知ることができると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	予習・復習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	戦前日本の政治史①～明治･大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と 55 年体制の崩壊	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した 90 年代の政治史を授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民、日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学など。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>現代日本政治史</td><td>廣澤孝之</td><td>晃洋書房</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>近代日本政治史</td><td>坂野潤治</td><td>岩波書店</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験 80%（一問一答 40%、論述 40%）、リアクションペーパー20%
既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　和田講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	金融商品取引法	科目名（英文）	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	金融商品取引法は、大衆投資家を保護する法律であるとともに、実質的に大企業に対する国家による規制を行うものである。第二次大戦後、アメリカ合衆国の 1933 年証券法および 1934 年証券取引所法を参考にして、導入されたものである。証券市場で株式が取引される大企業を規制するものであり、会社法を補完する重要な商事特別法である。大企業や金融商品取引業者に就職する予定の者は、受講が望ましい。
到達目標	金融商品取引法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	金融商品取引法は、金融商品取引特有のテクニカル・タームが多く、また、条文が長く、難解である。できるだけ解りやすく説明するので、忍耐強く、勉強してください。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。
科目学習の効果（資格）	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み 金融商品取引法はどのようなことを規制しているか 金融商品取引法はどのような範囲に適用されるか	教科書１ページ～２４ページ
2	有価証券の取引方法	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書２５ページ～３９ページ
3	企業内容の開示規制（１）	開示規制の内容 有価証券を発行する際の開示ー発行開示制度	教科書４０ページ～６２ページ
4	企業内容の開示規制（２）	上場会社等が行う定期的な開示ー継続開示制度 財務情報の正確性を確保するための制度 虚偽の情報開示を行った者はどのような責任を負うか	教科書６２ページ～８７ページ
5	金融商品取引業者の規制（１）	金融商品取引業の意義 開業の規制と登録制度 金融機関と金融商品取引業務 金融商品仲介業制度	教科書８８ページ～１０４ページ
6	金融商品取引業者の規制（２）	外務員の規制 金融商品取引業者の誠実公正義務 顧客に対する情報提供に関する規制 特定投資家への適用除外	教科書１０５ページ～１１５ページ
7	企業支配に関する開示制度（１）	公開買付（ＴＯＢ）	教科書１１６ページ～１３３ページ
8	企業支配に関する開示制度（２）	株券委等を大量に保有する者の開示義務とはー５パーセントルール 委任状勧誘規制	教科書１３３ページ～１５２ページ
9	投資信託および集団投資スキーム（１）	投資信託および集団投資スキームの経済的意義 投資信託の仕組みと規制 投資法人の仕組みと規制	教科書１５３ページ～１６１ページ
10	投資信託および集団投資スキーム（２）	投資助言と投資一任 集団投資スキーム持分の規制	教科書１６１ージ～１６４ページ
11	不公正な取引の規制（１）	詐欺的行為を禁止する１５７条 インサイダー取引（内部者取引）の規制	教科書１６５ページ～１８５ページ
12	不公正な取引の規制（２）	相場操縦の規制	教科書１８５ページ～１９４ページ
13	不公正な取引の規制（３）	金融商品取引業者による不公正取引	教科書１９４ページ～２０６ページ
14	法の実現	罰則と課徴金	教科書２０７ページ～２０９ページ
15	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは デリバティブ取引の例 金融商品取引法上のデリバティブ取引の定義とは 市場デリバティブ取引、店頭デリバティブ取引、外国デリバティブ取引とは	教科書２１０ページ～２１７ページ

関連科目：会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学べる金融商品取引法(第３版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：授業参加および態度（４０％）、期末の筆記試験（60%）を総合して行う。

（基準）	
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。ポケット六法は、必ず授業中に携帯してください。金融商品取引法は、法律の条文ばかりではなく、政令・省令・金融商品取引所の規制も重要ですので、忍耐強く勉強してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	金融論	科目名（英文）	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけではなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	金融論で何を学ぶのかを説明する。	
2	金融取引の基礎(1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読む。
3	金融取引の基礎(2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
4	金融取引　金融機関	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
5	日本型金融システム	日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。
6	金融システムの設計(1)	情報の非対称性の問題について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
7	金融システムの設計(2)	スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	練習問題を解いておくこと。
8	金融政策の理論(1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読んでおく。
9	金融政策の理論(2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	練習問題を解いておくこと。
10	金融政策の理論(3)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
11	金融政策運営(1)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。
12	金融政策運営(2)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。
13	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
14	ファイナンスの基礎	デリバティブやオプションの基本的な仕組みについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。

関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	金融論をつかむ	前多康男・鹿野嘉昭・酒井良清	有斐閣
2	現代金融論	塩澤修平	創文社
3			

評価方法（基準）	期末テストのみで評価する。（定期試験 100%）
学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名（英文）	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点から的確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養う。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造（1）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造（2）	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子･高齢化とスポーツ（1）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子･高齢化とスポーツ（2）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認するための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤（1）－諸外国とわが国との比較検討－	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤（2）－諸外国とわが国との比較検討－	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化（1）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化（2）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加姿勢と試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	グローバル社会論	科目名（英文）	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	グローバル化の現状をさまざまな統計資料などによって学び、また現代世界の構造の政治経済的な要因を欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。また必要に応じて、ワークブック形式のレジュメや参考資料を配布するが、しっかり聴講して必要であればノートをとるように心がけてほしい。
科目学習の効果（資格）	国際社会の現況およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	時事問題、特に国際問題に目を向ける習慣をつけてください。（以後 15 回まで継続）
2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
3	グローバル化の経緯（1）	“基層”の形成過程の説明（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。
4	グローバル化の経緯（2）	“基層”の形成過程の説明（2）	配布したレジュメと資料で復習してください。
5	グローバル化の経緯（3）	国際社会の歴史的展開（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。
6	グローバル化の経緯（4）	国際社会の歴史的展開（2）	配布したレジュメと資料で復習してください。
7	戦後のグローバル化の展開（1）	国際分業の拡大・相互依存の浸透	配布したレジュメと資料で復習してください。
8	戦後のグローバル化の展開（2）	南北問題の顕在化と深刻化	配布したレジュメと資料で復習してください。
9	戦後のグローバル化の展開（3）	新自由主義の浸透と反発	配布したレジュメと資料で復習してください。
10	人のグローバル化（1）	人の移動の歴史（1）戦前	配布したレジュメと資料で復習してください。
11	人のグローバル化（2）	人の移動の歴史（2）戦後	配布したレジュメと資料で復習してください。
12	人のグローバル化（3）	移民・難民問題の深刻化	配布したレジュメと資料で復習してください。
13	データでみるグローバル化の現状（1）	各種データによる解説	配布した資料で復習してください。
14	データでみるグローバル化の現状（2）	各種データによる解説	配布した資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	15 回にわたって配布したレジュメと資料を読み直して復習してください。

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	経済刑法	科目名（英文）	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	・経済犯罪とは何かを説明できるようになる。 ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず参照すること。
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにでも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 ・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預合いの罪 ・取締役等の贈収賄罪 ・利益供与の罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不公正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・霊感商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
11	欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
12	補助金と公的資金の不正受給 政官財の癒着と賄賂罪	・補助金適正化法上の犯罪 ・賄賂 ・公職選挙法違反	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
13	脱税	・租税犯罪の意義 ・租税ほ脱犯の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
14	カード犯罪 コンピュータ犯罪	・カードの不正使用 ・スキミング ・不正アクセス	・事前：教科書該当箇所の精読 ・事後：要点をノートに整理
15	情報の刑法的保護	・企業秘密の漏示	・事前：教科書該当箇所の精読

			・偽ブランド商品と知的財産の保護	・事後：要点をノートに整理

関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法からみた企業法務	佐久間　修	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第６版）	三井誠＝曽根威彦＝瀬川晃/編著	有斐閣
2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店（岩波新書）

評価方法 （基準）	・原則として定期試験の得点により成績の評価を行うが、質疑応答の内容も成績に加味することがある。
学生への メッセージ	・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	刑事政策	科目名（英文）	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	刑事政策とは、社会現象としての犯罪をあらゆる角度から実証的に検証し、犯罪防止のための対策、刑罰の内容などについて学ぶ学問である。
到達目標	刑事政策に関する基本的な知識を修得する。 また、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得する。
授業方法と留意点	●授業方法 下記で指定した参考書をもとに作成したレジュメを中心に講義を行う。 ●留意点 講義の進行の都合上、講義内容やその順番を若干入れ替えることもあるかもしれませんので、その点についてはご了承ください。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立ちませんが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には役に立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介。	刑事事件や刑事裁判に関する報道などに関心を払っておいてください
2	伝統的犯罪学について①	犯罪原因論（生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因）について	配布レジュメ・資料を見直すこと
3	伝統的犯罪学について②	犯罪原因論（生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因）について	配布レジュメ・資料を見直すこと
4	近年の犯罪学について①	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメ・資料を見直すこと
5	近年の犯罪学について②	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメ・資料を見直すこと
6	犯罪者処遇について①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメ・資料を見直すこと
7	犯罪者処遇について②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメ・資料を見直すこと
8	少年事件について①	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメ・資料を見直すこと
9	少年事件について②	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメ・資料を見直すこと
10	刑罰について①	刑罰の種類、内容について	配布レジュメ・資料を見直すこと
11	刑罰について②	死刑制度について①	配布レジュメ・資料を見直すこと
12	刑罰について③	死刑制度について②	配布レジュメ・資料を見直すこと
13	施設内処遇について	刑務所、少年院などにおける処遇について	配布レジュメ・資料を見直すこと
14	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメ・資料を見直すこと
15	全体のまとめ	重要論点の再解説	配布レジュメ・資料を見直すこと

関連科目：刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義、刑事法概論、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第２版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	ビギナーズ犯罪学	守山正・小林寿一	成文堂

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	刑事訴訟法	科目名（英文）	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	本講義では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判を報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本講義においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に講義を行う。
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	捜査とは	捜査の概要など	教科書の入手
2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	教科書の該当部分の通読
3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	教科書の該当部分の通読
4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	教科書の該当部分の通読
5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	教科書の該当部分の通読
6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	教科書の該当部分の通読
7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	教科書の該当部分の通読
8	公判のための準備活動	公判準備など	教科書の該当部分の通読
9	公判期日における手続	公判手続の概要など	教科書の該当部分の通読
10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	教科書の該当部分の通読
11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	教科書の該当部分の通読
12	自白法則	自白の証拠能力など	教科書の該当部分の通読
13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	教科書の該当部分の通読
14	裁判	裁判の種類、成立過程など	教科書の該当部分の通読
15	まとめ	重要論点の確認	重要論点を確認

関連科目：刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事手続法（第６版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2	判例教材刑事訴訟法（第５版）	三井誠編	東京大学出版会
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と講義中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となります。問題となっている「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	講義の際、六法は必携です。

科目名	刑事訴訟法Ⅰ	科目名（英文）	Criminal Procedure Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判を報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本講義においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に講義を行う。
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	捜査とは	捜査の概要など	教科書の入手
2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	教科書の該当部分の通読
3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	教科書の該当部分の通読
4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	教科書の該当部分の通読
5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	教科書の該当部分の通読
6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	教科書の該当部分の通読
7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	教科書の該当部分の通読
8	公判のための準備活動	公判準備など	教科書の該当部分の通読
9	公判期日における手続	公判手続の概要など	教科書の該当部分の通読
10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	教科書の該当部分の通読
11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	教科書の該当部分の通読
12	自白法則	自白の証拠能力など	教科書の該当部分の通読
13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	教科書の該当部分の通読
14	裁判	裁判の種類、成立過程など	教科書の該当部分の通読
15	まとめ	重要論点の確認	重要論点を確認

関連科目：刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事手続法（第６版）	三井誠・酒巻匡	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2	判例教材刑事訴訟法（第５版）	三井誠編	東京大学出版会
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と講義中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となります。問題となっている「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	講義の際、六法は必携です。

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	我が国の刑事手続に関する応用的問題について、学説・判例の動向を踏まえながら解説します。
到達目標	我が国の刑事手続に関する専門的知識を有するとともに、そうした知識を活用し、応用的問題に対する解決案を立案できる能力を修得する。
授業方法と留意点	●授業方法 教科書及び配布資料を用いて授業を進めていきます。 ●留意点 本講義は「応用講義」ですので、受講生が刑事訴訟法のみならず刑事法全般について基本的知識を修得していることを前提として講義を進めていきます。したがって、本講義を受講しようとする学生に対しては、刑事訴訟法や刑法における基本概念を理解していることはもちろんのこと、学説や判例についてもある程度通じていることが要求されます。それゆえ、こうしたレベルに達していない学生については、本講義の単位を取得するにあたって相応の努力が必要となることについて強く留意しておいてください。
科目学習の効果（資格）	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明など	初回の講義までに教科書を入手しておいてください
2	捜査に関する一般規範	捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義など	教科書の該当部分の通読
3	職務質問	所持品検査、自動車検問など	教科書の該当部分の通読
4	逮捕・勾留①	事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則、再逮捕・再勾留の禁止、別件逮捕・勾留など	教科書の該当部分の通読
5	逮捕・勾留②	前回の続き	教科書の該当部分の通読
6	被疑者取調べ	身柄不拘束及び身柄拘束中の被疑者の取調べ	教科書の該当部分の通読
7	捜索・押収	捜索・押収に関する諸問題	教科書の該当部分の通読
8	その他の捜査方法	写真・ビデオ撮影、GPS 装置の使用、おとり捜査、コントロールド・デリヴァリーなど	教科書の該当部分の通読
9	公訴提起	起訴状一本主義、予断排除の原則、余事記載など	教科書の該当部分の通読
10	訴因・罰条の変更①	訴因変更の可否・許否・要否など	教科書の該当部分の通読
11	訴因・罰条の変更②	前回の続き	教科書の該当部分の通読
12	証拠の関連性	類似行為の事実の立証、科学的証拠など	教科書の該当部分の通読
13	伝聞法則	非伝聞、伝聞例外など	教科書の該当部分の通読
14	違法収集証拠排除法則	排除法則に関する諸問題	教科書の該当部分の通読
15	まとめ	重要論点の再確認	重要論点を再確認

関連科目：刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事訴訟法	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例教材刑事訴訟法（第５版）	三井誠編	東京大学出版会
2	刑事訴訟法	酒巻匡	有斐閣
3			

評価方法（基準）	定期試験［論述式］(100%)
学生へのメッセージ	上記「関連科目」で示した講義の履修・単位取得の有無は、必ずしも本講義を受講するに当たっての履修条件ではありませんが、上記「授業方法と留意点」のところで述べたような理由から、少なくとも刑事訴訟法、刑法総論については履修・単位取得しておくことを強くお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 9 階島田准教授室
備考	講義の際、六法は必携です。

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらの応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。 ・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法（刑法）、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法（刑事訴訟法）の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。 ・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法学全体の見取り図を得ることを目的とする。
到達目標	１．刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解する。 ２．刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につける。 ３．刑法、刑事手続法、刑事学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを大まかに理解する。
授業方法と留意点	・授業は講義形式で行うが双方向の理解を確保するため、適宜、質疑応答を行うことがある。 必要に応じて紙媒体の資料を交付する。 ・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、平成 27 年版ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）や判例六法（有斐閣）など。
科目学習の効果（資格）	・この科目と、2 回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	刑事法とは何か　?刑法、刑事手続法、刑事学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	事前：教科書の入手 事後：要点をノートに整理
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
6	刑罰論	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
7	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法 ・任意捜査と強制捜査をめぐる諸問題	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
8	刑事手続法②	公訴の提起と公判法 ・起訴状一本主義 ・訴因の変更	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
9	刑事手続法③	証拠法 ・違法収集証拠排除の原則 ・伝聞法則	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
10	刑事手続法④	刑事司法制度改革? ・裁判員制度 ・検察審査会制度 ・法テラス	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
11	刑事学①	刑事学のあらまし ・わが国の犯罪状況	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
12	刑事学②　日本の刑事手続	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
13	刑事学③	刑事政策 ・犯罪者処遇論 ・少年犯罪と法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
14	刑事学④	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理
15	新しい犯罪現象と刑事立法	ストーカー デート DV その他	事前：教科書該当箇所の精読 事後：要点をノートに整理

関連科目：刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門刑事法（第 6 版）	三井誠ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する		
2			

	3			
評価方法 （基準）	・期末試験の成績による。			
学生への メッセージ	・新聞（朝刊や夕刊）の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。 ・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につきません。とにかく手を動かしましょう。 ・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。			

科目名	刑事法概論	科目名（英文）	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	本授業は、いわゆる「刑事法」（刑法・刑事訴訟法・少年法・犯罪者処遇法）について、その基本的な内容を理解することを目標とするものである。具体的内容であるが、どのような行為が「犯罪」として処罰されるのか、刑事手続の内容（犯罪捜査・刑事裁判）とはどのようなものか、刑罰にはどのような種類があるのか、成人の刑事手続と少年の保護手続との違いはどこにあるのか、などといったことについて実際に起きた事件の解説等も交えながら授業を進めていく予定である。
到達目標	「刑事法」を学習していく上での基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書及びそれをもとに作成したレジュメを中心に授業を行う。
科目学習の効果（資格）	法学検定など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	教科書の入手
2	刑法概説①	刑法とはなにか？	レジュメの穴埋め
3	刑法概説②	刑罰の役割と機能について	レジュメの穴埋め
4	刑法概説③	罪刑法定主義と刑法の解釈について	レジュメの穴埋め
5	刑法概説④	「犯罪」とはなにか？	レジュメの穴埋め
6	刑法概説⑤	「犯罪」の成立要件その１：構成要件	レジュメの穴埋め
7	刑法概説⑥	「犯罪」の成立要件その２：違法性	レジュメの穴埋め
8	刑法概説⑦	「犯罪」の成立要件その３：責任	レジュメの穴埋め
9	刑事訴訟法概説①	刑事訴訟法とはなにか？	レジュメの穴埋め
10	刑事訴訟法概説②	捜査について	レジュメの穴埋め
11	刑事訴訟法概説③	公訴提起・公判手続と少年事件について	レジュメの穴埋め
12	刑事訴訟法概説④	日本の刑事手続の特徴について	レジュメの穴埋め
13	刑事政策概説	犯罪者の処遇などについて	レジュメの穴埋め
14	少年法概説	少年事件の手続と非行少年の処遇について	レジュメの穴埋め
15	まとめ	重要論点のおさらい	これまでのレジュメの見直しなど

関連科目	刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績（70%）、小テスト（30%）によって評価する。ただし、受講態度等を考慮することがある。
学生へのメッセージ	この授業は、大学で刑事法を勉強していく上でのいわば「入り口」にあたります。ですから、教員においてはできるだけ平易な解説を心がけるとともに、学生においてももしわからない点などがあれば臆せず質問するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室
備考	六法は必ず持参するようにしてください。

科目名	刑法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	2回生配当の刑法総論において取り扱うことができなかった応用的論点について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	履修者が主体的に刑法総論の学習をすすめ、その結果として、公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけることを到達目的とする。
授業方法と留意点	授業方法 　教科書と配布資料を用いた講義形式を基本とするが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 　毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。
2	因果関係	相当因果関係の危機と危険の現実化	教科書の該当部分の通読
3	不真正不作為犯	作為義務をめぐる近時の判例･学説動向	教科書の該当部分の通読
4	構成要件的故意と事実の錯誤１	方法の錯誤をめぐる近時の判例･学説動向	教科書の該当部分の通読
5	構成要件的故意と事実の錯誤２	早すぎた結果発生をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
6	構成要件的過失１	結果予見義務と回避義務をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
7	構成要件的過失２	管理･監督過失をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
8	正当防衛と過剰防衛	防衛行為をめぐる近時の学説･判例動向	教科書の該当部分の通読
9	緊急避難と過剰避難	緊急避難をめぐる近時の学説･判例動向	教科書の該当部分の通読
10	超法規的違法性阻却事由	被害者の同意・強要をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
11	責任能力	原因において自由な行為とその周辺をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
12	正当化事情の錯誤と禁止の錯誤	責任論をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
13	未遂犯論	実行の着手・不能犯・中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
14	共犯論の諸問題１	承継的共犯と共犯関係からの離脱･共犯の中止犯をめぐる近時の学説･判例動向	教科書の該当部分の通読
15	共犯論の諸問題２	共犯の錯誤および過失の共同正犯をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読

関連科目：刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例集および補助教材について開講時に指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験により評価する。
学生へのメッセージ	刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	2回生後期配当の刑法各論において取り扱うことができなかった応用的論点について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	履修者が主体的に刑法各論の学習をすすめ、その結果として、公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけることを到達目的とする。
授業方法と留意点	授業方法 　教科書と配布資料を用いた講義形式を基本とするが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 　毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を入手しておくこと。
2	普通殺人罪と同意殺人・自殺関与罪の限界	法益関係的錯誤	教科書の該当部分の通読
3	遺棄罪	遺棄罪をめぐる近時の判例・学説動向	教科書の該当部分の通読
4	傷害罪と暴行罪	傷害罪と暴行罪をめぐる近時の判例・学説動向	教科書の該当部分の通読
5	住居・建造物侵入罪	住居・建造物侵入罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
6	性犯罪	性犯罪規定の大改正	教科書の該当部分の通読
7	名誉毀損罪	名誉毀損罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
8	窃盗の罪	窃盗の罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
9	強盗罪	強盗罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
10	詐欺罪	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
13	文書偽造罪	文書偽造罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
14	放火の罪	放火の罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読
15	国家的法益に対する罪	国家的法益に対する罪をめぐる近時の学説・判例動向	教科書の該当部分の通読

関連科目：刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例集および補助教材について開講時に指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験により評価する。
学生へのメッセージ	刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	刑法各論	科目名（英文）	Criminal Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。
到達目標	・保護法益の種類を説明できるようになる。 ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解する。 ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 保護法益論と刑法各則の解釈	・文献紹介 ・刑法典の編成と保護法益 ・「人」の範囲	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	生命・身体に対する罪１	・普通殺人罪 ・同意殺人罪と自殺関与罪 ・普通殺人と同意殺人の区別 ・法益関係的錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	生命・身体に対する罪２	・暴行罪と傷害罪の関係 ・傷害致死罪 ・同時傷害の特例 ・現場助勢罪 ・凶器準備集合・結集罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	生命・身体に対する罪３	・遺棄罪と不保護罪 ・過失傷害の罪 ・自動車運転死傷行為処罰法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	自由に対する罪１	・脅迫罪、強要罪 ・逮捕及び監禁罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	自由に対する罪２	・略取、誘拐及び人身売買の罪 ・強制わいせつ及び強姦罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	生活の平穏に対する罪	・住居侵入等罪 ・秘密を侵す罪 ・信用及び業務に対する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	名誉に対する罪	・名誉毀損罪 ・侮辱罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	財産に対する罪１	・財産犯総論 ・窃盗の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	財産に対する罪２	・強盗の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	財産に対する罪３	・詐欺罪と恐喝罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	財産に対する罪４	・横領罪と背任罪 ・盗品等関与罪 ・器物損壊罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	社会的法益に対する罪１	文書偽造罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	社会的法益に対する罪２	放火の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	国家的法益に対する罪	賄賂の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目：刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論（第２版）	佐久間修	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に判例集その他補助教材を指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験の得点により成績の評価を行う。
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。 ・問題集は開講時に紹介します。

	・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・各論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	刑法各論Ⅰ	科目名（英文）	Applied Criminal Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。
到達目標	・保護法益の種類を説明できるようになる。 ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解する。 ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論Ⅰ・Ⅱ」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 保護法益論と刑法各則の解釈	・文献紹介 ・刑法典の編成と保護法益 ・「人」の範囲	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	生命・身体に対する罪１	・普通殺人罪 ・同意殺人罪と自殺関与罪 ・普通殺人と同意殺人の区別 ・法益関係的錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	生命・身体に対する罪２	・暴行罪と傷害罪の関係 ・傷害致死罪 ・同時傷害の特例 ・現場助勢罪 ・凶器準備集合・結集罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	生命・身体に対する罪３	・遺棄罪と不保護罪 ・過失傷害の罪 ・自動車運転死傷行為処罰法	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	自由に対する罪１	・脅迫罪、強要罪 ・逮捕及び監禁罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	自由に対する罪２	・略取、誘拐及び人身売買の罪 ・強制わいせつ及び強姦罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	生活の平穏に対する罪	・住居侵入等罪 ・秘密を侵す罪 ・信用及び業務に対する罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	名誉に対する罪	・名誉毀損罪 ・侮辱罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	財産に対する罪１	・財産犯総論 ・窃盗の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	財産に対する罪２	・強盗の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	財産に対する罪３	・詐欺罪と恐喝罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	財産に対する罪４	・横領罪と背任罪 ・盗品等関与罪 ・器物損壊罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
13	社会的法益に対する罪１	文書偽造罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	社会的法益に対する罪２	放火の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	国家的法益に対する罪	賄賂の罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目：刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法各論（第２版）	佐久間修	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に判例集その他補助教材を指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験の得点により成績の評価を行う。
学生へのメッセージ	・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題が有用です。 ・問題集は開講時に紹介します。

	・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・各論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、なるべくニュースに接するようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	刑法総論	科目名（英文）	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	・刑法総論は、犯罪成立要件と刑罰論に関する一般原則を探求する学問である。 ・刑法総論では、刑罰の正当化根拠、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、刑法の適用範囲に加えて、主として犯罪全般に共通するその成立要件をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	法学部ディプロマシーに基づき、とくに法学部生必須の以下の知識の修得を目標とする。 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できるようになる。 ・刑罰の正当化根拠について理解する。 ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑罰論 刑法の解釈と罪刑法定主義	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑罰の正当化根拠 ・罪刑法定主義とその派生原則	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	構成要件該当性１ （実行行為と構成要件的結果）	・構成要件の意義 ・構成要件要素 ・実行行為の概念 ・構成要件的結果 ・作為犯と不作為犯 ・真正不作為犯 ・不真正不作為犯の成立要件	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	構成要件該当性２ （因果関係論）	・因果関係の理論 ・条件関係 ・相当因果関係 ・危険の現実化 ・不作為犯の因果関係	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	構成要件該当性３ （構成要件的故意と事実の錯誤）	・主観的構成要件要素の要否 ・構成要件的故意の存否 ・特殊的主観的構成要件要素（目的犯・傾向犯ほか） ・結果的加重犯 ・同一構成要件間の錯誤 ・異なる構成要件間の錯誤 ・客体、方法、因果経過の錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	構成要件該当性４ （過失犯）	・新旧過失論争 ・結果予見義務と結果回避義務 ・過失概念の拡大と縮小 ・信頼の原則 ・管理監督過失	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	違法性１ （正当防衛と過剰防衛）	・違法性の基礎理論 ・可罰的違法性 ・正当業務行為 ・正当防衛 ・過剰防衛	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	違法性２ （緊急避難と過剰避難）	・緊急避難 ・過剰避難	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	違法性３ （超法規的違法性阻却事由）	・被害者の承諾 ・被害者の推定的承諾 ・危険の引受け ・安楽死と尊厳死	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	有責性１ （責任能力）	・有責性の基礎理論 ・責任能力 ・原因において自由な行為 ・実行着手後の責任能力低下	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	有責性２ （責任故意）	・違法性の意識の可能性 ・禁止の錯誤 ・期待可能性 ・誤想（過剰）防衛（避難）	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	未遂犯１ （実行の着手と不能犯）	・予備罪と未遂罪 ・実行の着手 ・不能犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	未遂犯２ （中止未遂）	・中止犯における刑の減免根拠 ・中止行為と中止故意 ・中止未遂における因果関係	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

		・任意性 ・予備行為の中止	
13	共犯１ （共犯の基礎理論）	・正犯と共犯の区別 ・間接正犯 ・実行共同正犯と共謀共同正犯 ・共犯の処罰根拠 ・共犯の従属性 ・教唆犯 ・幇助犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	共犯２ （共犯の諸問題）	・承継的共犯 ・共犯からの離脱と共犯の中止 ・過失の共同正犯 ・過失の競合 ・共犯と正当防衛その他	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	共犯３および罪数論 （身分犯の共犯、罪数の諸問題）	・構成的身分犯 ・加減的身分犯 ・一罪と数罪 ・法条競合 ・包括一罪 ・科刑上一罪 ・併合罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目

刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（第２版）	佐久間　修	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）

・定期試験の得点により成績の評価を行う。

学生へのメッセージ

・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。
・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。
事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	刑法総論Ⅰ	科目名（英文）	Criminal Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	・刑法総論は、犯罪成立要件と刑罰論に関する一般原則を探求する学問である。 ・刑法総論では、刑罰の正当化根拠、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、刑法の適用範囲に加えて、主として犯罪全般に共通するその成立要件をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	法学部ディプロマシーに基づき、とくに法学部生必須の以下の知識の修得を目標とする。 ・刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できるようになる。 ・刑罰の正当化根拠について理解する。 ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けたい。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法」の問題を確実に処理し、刑法を得点源とすることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑罰論 刑法の解釈と罪刑法定主義	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑罰の正当化根拠 ・罪刑法定主義とその派生原則	・教科書の入手 事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
2	構成要件該当性１ （実行行為と構成要件的結果）	・構成要件の意義 ・構成要件要素 ・実行行為の概念 ・構成要件的結果 ・作為犯と不作為犯 ・真正不作為犯 ・不真正不作為犯の成立要件	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
3	構成要件該当性２ （因果関係論）	・因果関係の理論 ・条件関係 ・相当因果関係 ・危険の現実化 ・不作為犯の因果関係	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
4	構成要件該当性３ （構成要件的故意と事実の錯誤）	・主観的構成要件要素の要否 ・構成要件的故意の存否 ・特殊的主観的構成要件要素（目的犯・傾向犯ほか） ・結果的加重犯 ・同一構成要件間の錯誤 ・異なる構成要件間の錯誤 ・客体、方法、因果経過の錯誤	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
5	構成要件該当性４ （過失犯）	・新旧過失論争 ・結果予見義務と結果回避義務 ・過失概念の拡大と縮小 ・信頼の原則 ・管理監督過失	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
6	違法性１ （正当防衛と過剰防衛）	・違法性の基礎理論 ・可罰的違法性 ・正当業務行為 ・正当防衛 ・過剰防衛	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
7	違法性２ （緊急避難と過剰避難）	・緊急避難 ・過剰避難	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
8	違法性３ （超法規的違法性阻却事由）	・被害者の承諾 ・被害者の推定的承諾 ・危険の引受け ・安楽死と尊厳死	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
9	有責性１ （責任能力）	・有責性の基礎理論 ・責任能力 ・原因において自由な行為 ・実行着手後の責任能力低下	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
10	有責性２ （責任故意）	・違法性の意識の可能性 ・禁止の錯誤 ・期待可能性 ・誤想（過剰）防衛（避難）	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
11	未遂犯１ （実行の着手と不能犯）	・予備罪と未遂罪 ・実行の着手 ・不能犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
12	未遂犯２ （中止未遂）	・中止犯における刑の減免根拠 ・中止行為と中止故意 ・中止未遂における因果関係	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

		・任意性 ・予備行為の中止	
13	共犯１ （共犯の基礎理論）	・正犯と共犯の区別 ・間接正犯 ・実行共同正犯と共謀共同正犯 ・共犯の処罰根拠 ・共犯の従属性 ・教唆犯 ・幇助犯	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
14	共犯２ （共犯の諸問題）	・承継的共犯 ・共犯からの離脱と共犯の中止 ・過失の共同正犯 ・過失の競合 ・共犯と正当防衛その他	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習
15	共犯３および罪数論 （身分犯の共犯、罪数の諸問題）	・構成的身分犯 ・加減的身分犯 ・一罪と数罪 ・法条競合 ・包括一罪 ・科刑上一罪 ・併合罪	事前：教科書該当箇所の精読 事後：ノート作成と問題演習

関連科目

刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法総論（第２版）	佐久間　修	成文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
2			
3			

評価方法（基準）

・定期試験の得点により成績の評価を行う。

学生へのメッセージ

・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。
・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。
・問題集は開講時に紹介します。
・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。
・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジしてください。
・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。
事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	現代社会と刑事法	科目名（英文）	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

本講義では、現代社会におけるさまざま社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説します。

到達目標

現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得する。
また、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得する。

授業方法と留意点

●授業方法
　下記で示した参考書をもとに作成したレジュメを中心に講義を行いますが、テーマによってはPowerPointや視聴覚教材を使用することもあります。
　講義の進め方は、各回につき一つのテーマについて解説していオムニバス形式で行う予定です。
●留意点
　社会の耳目を引くような刑事事件・刑事裁判がタイムリーに発生した場合、講義内容やその順番を若干入れ替えることもあるかもしれませんので、その点についてはご了承ください。

科目学習の効果（資格）

資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立ちませんが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には役に立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	刑事事件や刑事裁判に関する報道などに関心を払っておいてください。
2	取調べの可視化について	捜査機関による被疑者取調べの際における録音・録画について	配布レジュメ・資料を見直すこと
3	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメ・資料を見直すこと
4	捜査技法について	GPSを使用した捜査、通信傍受、写真・動画撮影、犯罪者プロファイリングなど現代の科学を用いた捜査技法について	配布レジュメ・資料を見直すこと
5	犯罪被害者について	犯罪被害者をめぐる諸問題などについて	配布レジュメ・資料を見直すこと
6	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメ・資料を見直すこと
7	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメ・資料を見直すこと
8	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
9	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
10	ファミリーバイオレンスについて	児童虐待、DV、高齢者虐待などの概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
11	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
12	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメ・資料を見直すこと
14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメ・資料を見直すこと
15	まとめ	重要論点の再解説	重要論点の確認

関連科目

刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第２版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	ビギナーズ犯罪学	守山正・小林寿一	成文堂

評価方法（基準）

定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。

学生へのメッセージ

現代においては、さまざまな社会問題が発生していますが、その解決方法は必ずしもひとつでありません。刑事法の役割やメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してみてください。

担当者の研究室等

11号館９階　島田准教授室

備考

科目名	憲法Ⅰ（基本的人権）	科目名（英文）	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学びます。 「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	「憲法概論」で学んだ人権の総論的な考え方を各論に反映させて理解しすることを目的とします。
授業方法と留意点	講義形式で行います。詳細は初回配布のプリントに記載してありますので初回は必ず出席するようにしてください。
科目学習の効果（資格）	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・内心の自由	講義概要の説明と精神的自由の基礎となる思想・良心の自由似ついて学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
2	信教の自由	宗教に関する個人の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
3	政教分離	日本国憲法における国家と宗教の関係について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
4	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
5	表現の自由(2)	報道の自由・インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
6	表現の自由(3)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
7	学問の自由	先端科学技術と学問の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
8	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
9	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
10	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
11	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。
15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおくこと 復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる。

関連科目：憲法概論、憲法 II その他あらゆる法律科目。憲法概論とは内容的な連続性もあります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	複数回の課題と平常点、定期試験により評価します。
学生へのメッセージ	憲法概論も履修しておいてください。
担当者の	１１号館９階　浮田准教授室

研究室等	
備考	「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておいてください （参考）2015年度はA評価11名、B評価25名、C評価48名、D評価69名、E評価以下65名でした

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について勉強します。憲法 II の目的は、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めたというだけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解してください。
到達目標	統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習します。基本的な考え方を学び・整えておくことで以降のそれぞれの目的に応じた対応が可能になるようにします。
授業方法と留意点	教科書、配布資料、板書を用いた講義形式で授業を行っていきます。講義中に受講者に質問することもあります。
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
9	平和主義(1)	・憲法９条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
15	まとめ	・まとめ	――――

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	試験・課題・平常点などにより評価します。詳細は初回に配布するプリントを参照のこと。
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	(参考)2016 年度は A 評価 3 人、B 評価 3 人、C 評価 22 人、D 評価 50 人、E 評価以下 59 人でした

科目名	憲法応用講義	科目名（英文）	Advanced Lecture of Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	憲法概論、憲法Ⅰ(基本的人権)、憲法Ⅱ(統治機構)の履修を前提として、憲法のさらなる発展的な理解を得ることを目的とします。 取り扱う領域は基本的人権が中心となります。 日本及び外国の判例を素材として、講義形式での解説、学生による報告を中心に行います。
到達目標	外国の憲法の考え方と比較しつつ日本の憲法理論の理解を深めます。
授業方法と留意点	講義、報告、議論を中心に行います。 少人数を想定しています。履修ガイダンスで確認してください。
科目学習の効果（資格）	科目に憲法が設定されている資格試験に対応する力をつけます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	概要の説明、報告担当の決定など	事後：課題ペーパー
2	人権総論	人権理論の復習と解説	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
3	裁判所による違憲審査について	アメリカ型の違憲審査基準とドイツにおける三段階審査の比較など	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
4	個人の尊厳(1)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
5	個人の尊厳(2)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
6	法の下の平等(1)	法の下の平等に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
7	法の下の平等(2)	差別的取扱いに関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
8	婚姻・家族に関する保護と権利	婚姻の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
9	表現の自由(1)	意見表明の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
10	表現の自由(2)	報道機関の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
11	信教の自由	信教の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
12	職業の自由(1)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
13	職業の自由(2)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
14	財産権(1)	所有権に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー
15	財産権(2)	公用収容に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む 事後：課題ペーパー

関連科目：憲法概論、憲法Ⅰ(基本的人権)、憲法Ⅱ(統治機構)

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の程度、報告後のレポート、課題ペーパーにより評価します。
学生へのメッセージ	内容は難しくなりますが頑張りましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	憲法の基本原理、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法Ｉ(基本的人権)ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	基本的人権・統治機構を理解するために不可欠の土台を作ります。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原理の理解が重要になります。
授業方法と留意点	講義形式です。詳細な進め方は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。
科目学習の効果（資格）	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：テキストの目次を一通り読んでおく。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
2	憲法の基本原理	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
7	憲法 13 条の内容	13 条の二つの側面について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
8	包括的基本権としての１３条	幸福追求権としての 13 条のしくみについて学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
11	法の下の平等(1)	法の下の平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
12	法の下の平等(2)	法の下の平等について、特に日本国憲法 14 条の内容について学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
13	法の下の平等(3)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
14	法の下の平等(4)	法の下の平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく(詳細は初回プリント参照) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う

関連科目	憲法Ｉ、憲法 II と深く関連します。また後期配当の憲法Ｉ(基本的人権)を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2			

	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	試験、課題として出すペーパー(毎回ではありませんが少なくはありません)、平常点などで評価します。詳細は初回の講義で配布されるプリントを参照のこと。
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません(@toruukita) 教科書は後期開講の憲法 I(基本的人権)と共通です (参考) 2016 年度は A 評価 3 人、B 評価 14 人、C 評価 77 人、D 評価 78 人、E 評価以下 54 人

科目名	憲法概論	科目名（英文）	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	この授業では、毎回身近な問題を取り上げ、憲法学の基本的な事項を学習していきます。「憲法学」というと、一見したところ難しそうで、なかなか具体的なイメージが浮かばないかもしれません。しかし、そこで問題とされている事柄は決して私たちの日常生活と無関係なものではありません。この授業を通じて憲法学の基本的な考え方を習得することはもちろんのこと、憲法学に少しでも慣れ親しみ、憲法を身近な存在として受け止められるようになることがこの授業の目的です。
到達目標	憲法学の基本的な語句や概念をしっかり理解し、他者に論理的に説明できるようになること。
授業方法と留意点	講義は、適宜配布するレジュメにしたがって行います（当然のことながら、六法は毎時間持参すること）。
科目学習の効果（資格）	「憲法学」を学習していくうえで必要となる基本的知識を習得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方や成績評価の方法を説明します。また、憲法学に関する参考書や判例集を紹介します。	事前の予習は必要ありませんので、毎回の授業内容を復習するように努めてください（復讐内容の細かな指示は授業中に行います）。
2	憲法を学習する前に	憲法の学習するにあたって必要となる法律学全体の基礎知識を説明します。裁判所の仕組み（大法廷と小法廷）、判例の引用の仕方、六法の引き方と憲法条文の読み方など。	手元の六法で条文を見ながら、日本国憲法の構成を復習すること（条文を丸暗記する必要はありません）
3	憲法とは何か？	いったい憲法とは何だろうか？　なぜ憲法は必要なのだろうか？　このテーマに関連するDVDを視聴して、憲法のない社会を想像し、憲法の重要さについて学習します。立憲主義、人権保障と権力分立など。	立憲主義という考え方を理解したうえで、近年の憲法改正の動きについて自分の見解を述べられるようになること。
4	自由権①　自由とは何か？	日本国憲法はさまざまな自由権を保障しています。まず自由権の種類とその内容を簡単に見ていきます。そのあとで、憲法が保障する「自由」とはどのようなものか、検討してみます。	自由の限界にかんする憲法学説を理解したうえで、「自由」と「わがまま」の相違について自分の見解を述べられるようになること。
5	自由権②　信教の自由	世界にはさまざまな宗教が存在しますが、そもそも宗教とは何でしょうか？また日本ではどのようなことが信教の自由との関連で争われているのでしょうか？　信教の自由の基本的事項を学習します。	憲法 20 条にかんする有名判例を理解したうえで、剣道実技拒否事件について自分の見解を述べられるようになること。
6	自由権③　表現の自由	日本国憲法は第 21 条で、表現の自由を保障してします。しかし、どのような表現でも一様に保障されているのでしょうか？　この問題を名誉毀損やポルノに対する規制を手がかりに学習します。	憲法 21 条にかんする有名判例を理解したうえで、ヘイトスピーチ規制法の必要性について自分の見解を述べられるようになること。
7	社会権　生存権を中心に	社会権と呼ばれる人権のグループのうち、生存権について学習します。憲法 25 条が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」とはどのような生活なのでしょうか？　日本の社会保障制度もあわせて検討します。	憲法 25 条にかんする有名判例を理解したうえで、社会保障制度のあるべき姿について自分の見解を述べられるようになること。
8	法の下の平等①　平等とは何か？	日本国憲法は第 14 条で、すべての国民が平等であることを保障しています。しかし、そもそも平等とは何なのでしょうか？　平等の基本的な意味を学習し、差別の問題について考えてみます。	憲法 14 条の平等の意味（法内容平等と相対的平等）を理解したうえで、「差別」と「区別」の境界線について自分の見解が述べられるようになること。
9	法の下の平等②　平等をめぐる諸問題	前回の続き。人種差別や男女差別、さらに同性愛者に対する差別など、実際の社会で問題になっていることがらを具体的な事件に基づいて学習し、平等についての理解を深めていきます。	憲法 14 条にかんする有名判例を理解したうえで、夫婦別姓制度について自分の見解を述べられるようになること。
10	プライバシー権	新しい人権と呼ばれる人権のグループのうち、プライバシー権を学習します。実際の憲法判例や、最近問題になることの多いネット上のトラブルを素材にして、プライバシーの重要性を検討します。	憲法学におけるプライバシー権の位置づけを理解したうえで、「石に泳ぐ魚」事件について自分の見解を述べられるようになること。
11	子どもの人権	子どもはおとなに比べ、さまざまな制約があります。例えば、中学生や高校生は校則で髪型・服装の自由が制限されていたり、バイクの免許が禁止されていたりします。その理由を考えてみます。	子どもの人権にかんする判例を理解したうえで、校則による丸刈り強制の是非について自分の見解を述べられるようになること。
12	国会・内閣・裁判所	日本の統治機構の基本的な仕組みを学習します。国会・内閣・裁判所のそれぞれの機関の組織や権限など。また権力分立という考え方もあわせて学習します。	統治機構の基本的仕組みを理解したうえで、首相公選制集の可否について自分の見解を述べられるようになること。
13	平和主義	日本国憲法は第９条で「戦争の放棄」を宣言しています。それでは、他国から攻	憲法9条の解釈論上の論点および判例を理解したうえで、集団的自衛権容認の是非について自分の見解

	撃を受けたとき、日本は反撃できないのでしょうか？　そもそも自衛隊は違憲なのでしょうか？　平和の意味を検討します。	を述べられるようになること。
14	天皇制	日本国憲法は第１章で天皇制を定めていますが、日本国憲法における天皇とはそもそもどのような存在なのでしょうか？　近年問題になっている女系天皇についてもあわせて検討します。	現行の天皇制の問題点を理解したうえで、女系天皇の是非について自分の見解を述べられるようになること。
15	まとめと復習	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において憲法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	講義で取り上げた個々の条文にかんする学説・判例をしっかり理解すること（これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください）。

関連科目	憲法Ⅰ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末テスト 70%と提出物 30%によって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	基本的に講義形式で授業を行いますが、毎時間の後半部分では学生みなさんに発言を求めたり、授業の感想や疑問点を書いてもらう予定です。授業中の私語は厳禁ですが、それ以外の発言であれば歓迎しますので、ぜひ積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	公共政策の基礎	科目名（英文）	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	政策とは、解決すべき問題のために考案され用いられる手段のセットといえる。なかでも公共政策は、政府の公権力をもって国民全体のために決定され実施される手段の体系である。この講義では、公共政策を担う政府の役割を市場との対照において把握することからはじめ、公共政策の合理的な形成を理解したうえで、現実には最良の政策案が採用されるケースが稀である理由を探る。
到達目標	合理的な政策の立案過程を学んだうえで、現実の政策が合理的とは必ずしもいえないものになる理由を理解する。自分が政治家や官僚だったら、現実の制約のなかでどのように考え、行動するか考える。
授業方法と留意点	理論を学び、身近な例で確認し、いまの社会問題を使って説明を試みる。このステップを講義中に課題形式で進めていく。
科目学習の効果（資格）	授業は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「政策」という言葉	ドラマ「ザ・ホワイトハウス２」で「政策」という言葉が使われている文脈をつかむ。	「ザ・ホワイトハウス２」の視聴
2	市場のメカニズム	等価交換に基づく市場の仕組みを知る。	レジュメ p.1 の復習
3	政府のメカニズム	市場と対照的な政府の仕組みを知る。	レジュメ p.2 の復習
4	政府による市場メカニズムの採用	最近の教育制度改革を例に使って、政府が競争原理を部分的に採用する意義と方法を理解する。	新聞記事資料の確認
5	システムとしての政府の役割	政府をシステムとしてとらえて、公共政策を国民生活にアウトプットする意義を考える。	レジュメ p.3 の復習
6	公共政策としてのサービスと規制	公共政策の内容を大きく「サービス」と「規制」に分けて整理する。	レジュメ p.4 の復習
7	政策過程の考え方	政府が政策をつくり、実施する過程を段階間の移行として説明する議論を理解する。	レジュメ p.5-6 の復習 レポート課題の作成
8	合理的意思決定と政策過程	政策過程の前提にある合理性について考える。	レジュメ p.7-8 の復習
9	課題設定とその回避	水俣病に対する政府の対応を見て、社会問題の解決が政府の課題とされる場合とされない場合がある理由を探る。	レジュメ p.9-10 の復習 新聞記事資料の確認
10	政策立案とその制約	防衛力整備の検討を例に挙げて、課題を達成する政策案を考案する過程と、最良と思われる政策案が消えていく現実を知る。	レジュメ p.11 の復習 新聞記事資料の確認
11	インクリメンタリズム	現実の政府は現在からの少しの変化だけを視野に入れて公共政策を決定するというモデルを学ぶ。	レジュメ p.12 の復習
12	政策決定の非合理性	高速道路建設の現実を例に使って、合理的とはいえない政策が決定されることになる現実を知る。	レジュメ p.13 の復習
13	組織過程モデル	現実の政府では各省庁に備わる所定の手続が非合理的な政策を生み出すというモデルを学ぶ。	レジュメ p.14 の復習
14	政策決定の消滅	郵政民営化やエコポイントを例に挙げて、政策案があっても政策決定が先送りになったり、行われないことがある現実を知る。	レジュメ p.15 の復習 新聞記事資料の確認
15	ゴミ箱モデル	政策決定を偶然ととらえ、政策が決定に至らない現実を説明するモデルを学ぶ。	レジュメ p.16-17 の復習 期末試験の対策

関連科目：入門の「政治学概論」と発展の「行政学」の間に位置する基本科目である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。
学生へのメッセージ	法学部の授業としては内容も方法も「かわった」ものにする挑戦的な授業にしたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	国際関係史	科目名（英文）	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第２次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	現代世界の構造の歴史的な要因を、第２次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノートすること。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。
2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
3	戦後世界の起点	第２次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
5	米ソ対立の深化と拡大（1）/ 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
6	米ソ対立の深化と拡大（2）/ 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
7	米ソ対立の深化と拡大（3）/ 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
8	米ソ対立の深化と拡大（4）/ アジアの“熱戦”〈前編〉	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
9	米ソ対立の深化と拡大（5）/ アジアの“熱戦”〈後編〉	前回に引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第２次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
12	（第１次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第１次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布した資料で復習してください。
13	新（第２次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	15 回にわたって配布したレジュメと資料を読み直して復習してください。

関連科目	政治学および国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験（60%）とレポート（40%）の成績によって評価する。
学生へのメッセージ	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	国際関係論	科目名（英文）	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を，本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動態様を中心に解説していく。そうして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう《国際関係を見る眼》を養うような講義にしたい。
到達目標	国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解するとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回ワークブック形式のレジュメを配布するので、聴講しながら、それを完成させて理解を深めていく。また、より詳細な解説については各自の判断でノート。
科目学習の効果（資格）	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く‘眼’を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認調査	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけましょう。
2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料で復習してください。
3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）	行動主体〈アクター〉とは？　国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。
5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）	配布したレジュメと資料で復習してください。
6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
7	行動主体の力の行使に関する概説（1）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
8	行動主体の力の行使に関する概説（2）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
9	行動主体の力の行使に関する概説（3）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
10	行動主体の力の行使に関する概説（4）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
11	行動主体の力の行使に関する詳説（1）　経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
12	行動主体の力の行使に関する詳説（2）　経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
13	行動主体の力の行使に関する詳説（3）　外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
14	行動主体の力の行使に関する詳説（4）　外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料で復習してください。
15	総括	講義のまとめ・期末試験の説明	15 回の講義で配布したレジュメと資料を読み直して復習してください。

関連科目：政治・国際関係に関連する科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績によって評価する（なお、定期試験を必ず受験することが単位取得の最低条件である）。
学生へのメッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まってきています。とりわけ、2016 年に起きた、イギリスのＥＵからの離脱の決定やアメリカの新大統領の登場は、世界が歴史的にみて大きな転換点にさしかかっていることを示しているといえ、目の離せない状況をもたらしています。ぜひ国際関係を見る眼をしっかり養っていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	国際私法Ⅰ	科目名（英文）	Private International Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所の法を適用することにより解決しようとする法律です。「牴触法」とも呼ばれ、民法のような「実質法」とは次元が異なる法であるために、講義では、特に、その構造と理論の理解に力点を置きます。
到達目標	「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義しますが、重要事項をまとめた資料を配付して、それを使って進めます。国際私法の基本的知識の確認と復習のため、授業時間の最後（２０分程度）に、重要事項の「確認問題」を５回程度実施します。
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第１章を読む 重要事項の確認
2	国際私法の法源①	国際私法に関係する国内法と国際法	重要事項の確認
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	重要事項の確認
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学説	教科書第３章を読む 重要事項及び確認問題の再確認
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	重要事項の確認
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第２章Ⅰ・Ⅱを読む 重要事項の確認
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題の再確認
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第２章Ⅲを読む 重要事項の確認
9	連結点の確定②	「属人法」の観念とは	教科書第４章Ⅰを読む 重要事項の確認
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題の再確認
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	重要事項の確認
12	準拠法の特定①	「反致」とは、その構造上の位置づけ	教科書第２章Ⅳを読む 重要事項の確認
13	準拠法の特定②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題の再確認
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第２章Ⅴを読む 重要事項の確認
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習 すべての重要事項・配付資料・確認問題の確認

関連科目：国際私法各論、国際取引法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第７版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「牴触法」の考え方を知って下さい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅰ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際私法Ⅱ	科目名（英文）	Private International Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際私法総論で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「牴触法」上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違いそして区別して考えるべきなのかを知ることを目的とします。
到達目標	単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討することを通して、「国際私法の構造」及びその具体的な問題点を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	民法を始めとして関係する外国の私法にも言及して講義を行います。授業時間の最後（２０分程度）に、理解度の確認と復習のため、５回程度、重要事項の「確認問題」を実施します。六法は必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民法など民事法の知識を確認できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第４章Ⅱを読む 重要事項の確認
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	重要事項の確認
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	重要事項の確認
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題の再確認
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	重要事項の確認
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	重要事項の確認
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	重要事項の確認
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第４章Ⅲ・Ⅳを読む 重要事項及び確認問題の再確認
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第５章Ⅰを読む 重要事項の確認
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題の復習 重要事項の確認
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第５章Ⅱを読む 重要事項の確認
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	重要事項の確認
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第５章Ⅲを読む 確認問題の復習 重要事項の確認
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第５章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵを読む 重要事項の確認
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第６章を読む すべての重要事項・配付資料・ 確認問題の再確認

関連科目：国際私法総論、国際取引法、民法総則、物権法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第７版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。なお、「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えます。授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く)。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、基本的な知識を再確認しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅱ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際私法各論	科目名（英文）	Private International Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	国際私法総論で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「牴触法」上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違いそして区別して考えるべきなのかを知ることを目的とします。
到達目標	単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討することを通して、「国際私法の構造」及びその具体的な問題点を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	民法を始めとして関係する外国の私法にも言及して講義を行います。授業時間の最後（２０分程度）に、理解度の確認と復習のため、５回程度、重要事項の「確認問題」を実施します。六法は必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民法など民事法の知識を確認できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	教科書第４章Ⅱを読む 重要事項の確認
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	重要事項の確認
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	重要事項の確認
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題の再確認
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	重要事項の確認
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	重要事項の確認
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	重要事項の確認
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第４章Ⅲ・Ⅳを読む 重要事項及び確認問題の再確認
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第５章Ⅰを読む 重要事項の確認
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題の復習 重要事項の確認
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第５章Ⅱを読む 重要事項の確認
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	重要事項の確認
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第５章Ⅲを読む 確認問題の復習 重要事項の確認
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第５章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵを読む 重要事項の確認
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第６章を読む すべての重要事項・配付資料・確認問題の再確認

関連科目：国際私法総論、国際取引法、民法総則、物権法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第７版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。なお、「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えます。授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、基本的な知識を再確認しておいてください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅱ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際私法総論	科目名（英文）	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所の法を適用することにより解決しようとする法律です。「牴触法」とも呼ばれ、民法のような「実質法」とは次元が異なる法であるために、講義では、特に、その構造と理論の理解に力点を置きます。
到達目標	「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義しますが、重要事項をまとめた資料を配付して、それを使って進めます。国際私法の基本的知識の確認と復習のため、授業時間の最後（２０分程度）に、重要事項の「確認問題」を５回程度実施します。
科目学習の効果（資格）	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第１章を読む 重要事項の確認
2	国際私法の法源①	国際私法に関係する国内法と国際法	重要事項の確認
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	重要事項の確認
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学説	教科書第３章を読む 重要事項及び確認問題の再確認
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	重要事項の確認
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第２章Ⅰ・Ⅱを読む 重要事項の確認
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題の再確認
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第２章Ⅲを読む 重要事項の確認
9	連結点の確定②	「属人法」の観念とは	教科書第４章Ⅰを読む 重要事項の確認
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題の再確認
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	重要事項の確認
12	準拠法の特定①	「反致」とは、その構造上の位置づけ	教科書第２章Ⅳを読む 重要事項の確認
13	準拠法の特定②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題の再確認
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第２章Ⅴを読む 重要事項の確認
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習 すべての重要事項・配付資料・確認問題の確認

関連科目	国際私法各論、国際取引法、民法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法入門(第７版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験は、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受験した場合に限り点数化して成績評価に加えますが、授業時間中に提出しなかった場合は評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「牴触法」の考え方を知って下さい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際私法Ⅰ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際社会と法	科目名（英文）	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	国際社会の成立・発展に基づいて形成されてきた国際法は、国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら、国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書および配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	社会と法	社会と社会規範の関係および法規範と他の社会規範の相違について説明する。	第１回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際社会の成立と国際法	国際法の基盤となる国際社会の成立とそこに発生する国際法について論じる。	第２回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際法の歴史	伝統的国際法から現代国際法へと国際法の歴史的変化を概観する。	第３回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	国際法における国家とは何か	一般的な国家としての要件と国際法上の国家としての要件を検討する。	第４回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	国際社会と国際組織	国際社会の発展と国際組織の成立および国際組織の定義を概説をする。	第５回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	国際連合	国際連合の成立過程と構造について概観する。	第６回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	国際社会と個人	国際法上の個人の地位および外国人の法的地位を考察する。	第７回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	国際法の法源	条約、慣習法、法の一般原則など法源の類型を概説する。	第８回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	領域と領土紛争	国家領域の範囲および領域紛争について検討する。	第９回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	海洋法の制度	領海制度をはじめとする海洋法上の制度について概観する。	第 10 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	宇宙法	月その他の天体および宇宙空間に関連する宇宙法の基本概念を概説する。	第 11 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	国際人権保障制度	国際人権規約を中心に国際人権保障制度について概観する。	第 12 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	国際人道法	武力紛争時に適用される国際法の規範である国際人道法について紹介する。	第 13 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際法	松井芳郎その他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ハンディ条約集	松井芳郎その他	東信堂
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として最終評価点に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際人権法	科目名（英文）	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現在の国際法は国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、主として国際人権法分野のルールを、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら説明する。国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際人権法の基礎的知識を習得することによって人権問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権法とは何か	国際人権法とは何か、国際法における国際人権法の位置づけを考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際人権法の歴史的発展	特に１９４８年の世界人権宣言を出発点とする第二次世界大戦後から現在までの国際人権法の歴史的発展を概観する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際人権規約	国際人権規約の内容を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	人権条約の国際的実施（1）－　報告制度	国際人権規約その他の人権条約における報告制度について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	人権条約の国際的実施（2）－　個人通報制度	国際人権規約その他の人権条約における個人通報制度について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	人権条約の国内的実施（1）－　国内裁判	人権条約によって締約国が条約の定める権利を実現するための措置、特に各国の国内裁判に焦点を当てて検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	人権条約の国内的実施（2）－　国内人権機関など	人権条約の国内実施をその任務とする独立した国内人権機関の役割について検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	第８回講義までの総括と確認テスト	前半の講義内容の復習と確認のための小テストを行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	武力紛争における人権の保護	国際人権法と武力紛争における人権の保護を目的とする国際人道法の関係を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国際人道法の基本原則	戦闘員と文民の区別原則など国際人道法の根底にある基本原則を概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	ハーグ法及びジュネーブ法	ジュネーブ諸条約及び追加議定書などを基礎に戦闘手段及び方法の規制、武力紛争犠牲者の保護に関する基本原則を概観する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	国際人道法の履行確保	国際人道法の規則を遵守させ、その履行を確保するための手段をジュネーブ諸条約及び追加議定書を基本に検討する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	赤十字国際委員会の役割（ICRC）	国際人道法の普及および履行において赤十字国際委員会の果たす役割について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ブリッジブック国際人権法	芹田健太郎その他	信山社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ハンディ条約集	松井芳郎その他	東信堂
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として最終評価点に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際組織法	科目名（英文）	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	国際社会の成立・発展に基づいて形成されてきた国際法は、国際社会の構造変化とともにその内容を変化・発展させてきている。講義では、とりわけ国内法と国際法の相違点に注目しながら、国際社会における法的ルールである国際法とは何かを考えることを目的とする。
到達目標	国際組織法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際社会の成立	近代国際社会の成立に伴い国家間のルールとしての国際法が発展することを説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	国際社会の発展と国際組織の登場	国際社会の発展と国際組織の登場	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	国際組織の基本類型と NGO	どのような国際組織が存在するかまたそれ以外の NGO とは何かについて説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	国連の成立過程	国際連合がどのような状況で成立したかを説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	国連の基本的組織構造と目的	国際連合全般の基本的な構造とその目的及び機能について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	第 6 回講義までの総括と確認テスト	前半の講義の復習と確認の小テストを行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	安全保障体制の基本的な分類	勢力均衡方式と国連の予定する集団安全保障体制の比較を行う。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	武力行使禁止原則の確立	国連の平和的紛争解決の前提としての武力行使禁止原則について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	国連による紛争の平和的解決	国連憲章第 6 章に基づく平和的紛争解決手続きについて説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国連による強制行動	国連憲章第 7 章に基づく制裁措置について概説する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	国連の軍事的措置	国連憲章第 42 条措置の概説	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	自衛権	国連の軍事的措置と国連憲章第 51 条の自衛権の関係について考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	PKO について	国連の平和維持活動について説明する。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際法	松井芳郎その他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ハンディ条約集	松井芳郎その他	東信堂
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として最終評価点に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際取引法	科目名（英文）	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	国際取引に適用される法についてその一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引で適用される法の範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力点を置きます。
到達目標	国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関係する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールの理解を目標とします。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、５回程度、授業時間の最後（２０分程度）に重要事項の「確認問題」を行います。
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章を読む 原則として、事後の学習を重視
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、 「牴触法」と「渉外実質法」、 統一私法	重要事項の確認
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第２章を読む 重要事項の確認
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１・２節を読む 重要事項の確認
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造、 「ハーグ統一売買法」	重要事項の確認
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、 「インコタームズ」の概要	重要事項の確認
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項の再確認
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、 ハーグルール	教科書第３章第３節を読む 重要事項の確認
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、 船荷証券、 国際航空運送	重要事項の確認
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第３章第４節を読む 重要事項の再確認
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	重要事項の確認
12	国際代金決済	代金決済の方式、 荷為替信用状	教科書第３章第５節を読む 重要事項の確認
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第４章を読む 重要事項の再確認
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第５章を読む 重要事項の確認
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、 外国判決の承認・執行、 国際商事仲裁	教科書第６章を読む すべての確認問題・重要事項の確認

関連科目：国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えます。実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際取引法Ｉ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際取引法Ⅰ	科目名（英文）	International Trade Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際取引に適用される法についてその一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引で適用される法の範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力点を置きます。
到達目標	国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関係する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールの理解を目標とします。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視した講義をします。理解度の確認と復習のため、５回程度、授業時間の最後（２０分程度）に重要事項の「確認問題」を行います。
科目学習の効果（資格）	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第１章を読む 原則として、事後の学習を重視
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、 「牴触法」と「渉外実質法」、 統一私法	重要事項の確認
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第２章を読む 重要事項の確認
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第３章第１・２節を読む 重要事項の確認
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造、 「ハーグ統一売買法」	重要事項の確認
6	国際物品売買③	「ウイーン統一売買法」、 「インコタームズ」の概要	重要事項の確認
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項の再確認
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、 ハーグルール	教科書第３章第３節を読む 重要事項の確認
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、 船荷証券、 国際航空運送	重要事項の確認
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第３章第４節を読む 重要事項の再確認
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	重要事項の確認
12	国際代金決済	代金決済の方式、 荷為替信用状	教科書第３章第５節を読む 重要事項の確認
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第４章を読む 重要事項の再確認
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第５章を読む 重要事項の確認
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、 外国判決の承認・執行、 国際商事仲裁	教科書第６章を読む すべての確認問題・重要事項の確認

関連科目：国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際取引法（第４版）	佐野寛	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価し、定期試験では、「確認問題」を基礎とした応用の問題を出題します。「確認問題」は、定期試験を受けた場合に限り点数化して成績評価に加えます。実施時の授業時間内に提出されなかったものはその評価の対象とはしません（やむを得ない場合を除く）。
学生へのメッセージ	国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。
担当者の研究室等	11 号館９階　小山教授室
備考	２０１４年度以前入学生科目名　『国際取引法Ⅰ』 事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	国際法の基礎理論	科目名（英文）	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現代の国際社会は急速にその構造を変化させてきている。国際社会のルールとしての国際法は、またその影響を大きく受けることになる。講義では、この点を念頭に置きながら、国際法の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	国際法の基礎的知識を習得することによって国際問題を国際法的視点から考える能力を身につける。
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。講義ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。ＮＧＯなどに関連する職業によっては必要となる場合がある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国家領域と国際化領域	国家の領土、領海、領空及び南極大陸などをはじめとする国際化領域について概説する。	第１回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
3	海洋法（1）	海洋秩序形成と国連海洋法条約の成立過程を歴史的に概観する。	第２回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
4	海洋法（2）	個別的に領海、公海、排他的経済水域、大陸棚、深海底などの制度を概観する。	第３回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
5	空及び宇宙に関する法	領空主権及び月やその他の天体の地位や衛星の規制などを概観する。	第４回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
6	空間に関する国際法の総括と小テスト	空間に関する国際法の総括と確認の小テストを行う。	第５回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
7	国際組織序説	国際社会における国際組織の発展の歴史を概観する。	第６回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
8	国連の成立	国連の成立過程及び国連憲章の概要を説明する。	第７回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
9	国連の構造	国連の主要機関及び専門機関の概説をする。	第８回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
10	外国人の法的地位	国籍の問題と外国人の国際法上の地位について考える。	第９回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
11	国際的人権保障序説	人権の国際的な保障の歴史的な展開を概観する。	第 10 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
12	国際人権規約	国際人権規約の内容について概観する	第 11 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
13	人権条約の実施措置	国際的な実施措置について概説する。	第 12 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
14	国際人道法序論	武力紛争時における人権について考える。	第 13 回目の講義で指示した課題をすること。次週までに今回配布したレジメを完成すること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。

関連科目：国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際法	松井芳郎その他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ハンディ条約集	松井芳郎その他	東信堂
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（出席ではない）、課題の提出（３回）及び学期末テストなどをもとに総合的に評価する。 なお提出された課題は、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝２０点、B＝１０点、C＝５点）として最終評価点に加算される。
学生へのメッセージ	できる限り積極的に授業に参加して質問を見つける努力が求められる。現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	国際ボランティア論	科目名（英文）	Studies in International Volunteers
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	本講義では国際ボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国際NGO、NPO、JICAボランティア青年海外協力隊や民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国際的社会常識と知識を深める。
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	ビデオ・スライドを多様してビジュアルに国際ボランティアの現状を知る。各講義の最後15～20分間は、質疑応答の時間とする。
科目学習の効果（資格）	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	＿＿＿＿＿
2	（起-１）ボランティア	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	前回の復習と、次回への展開
3	（起-2）国際理解	なぜ貧困に悩まされているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
4	（起-3）国際協力	国際協力とは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
5	（承-１）貧困の現状把握	貧困で悩んでいる国々の現状を知る	前回の復習と、次回への展開
6	（承-２）国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	前回の復習と、次回への展開
7	（転-１）国際ボランティア・NGOボランティア	国際ボランティア・NGOボランティアとは何かを知る	前回の復習と、次回への展開
8	（転-2）国際ボランティア（青年海外協力隊）	国際ボランティア（青年海外協力隊）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
9	（転-3）国際ボランティア（国連ボランティア）	国際ボランティア（国連ボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
10	（転-4）国際ボランティア（NGOボランティア）	国際ボランティア（NGOボランティア）になるにはどうしたら良いのかを知る	前回の復習と、次回への展開
11	（結-１）国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	前回の復習と、次回への展開
12	（結-2）自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	前回の復習と、次回への展開
13	（結-3）更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	前回の復習と、次回への展開
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	前回の復習と、次回への展開
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	＿＿＿＿＿

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際協力国際交流ハンドブック　基礎から実践へ	浅野英一	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	記述式小テストや小レポートにより総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	７号館５階　浅野研究室
備考	

科目名	債権各論	科目名（英文）	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	講義形式で行います。レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。また、テキストで適宜、復習を行ってください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	債権法、特に契約法の全体を確認していく。	民事法概論、民法総則の復習をしておくこと。
2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
5	契約の効力②	第４回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。

関連科目：債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法④債権各論	小川・城内	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験で評価する予定です。詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権総論	科目名（英文）	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。
その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。
さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。

到達目標

本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができるのだろうかという点を見ていく。
これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。

授業方法と留意点

講義形式で行います。
レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。
六法は必ず持参してください。

科目学習の効果（資格）

各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分の復習。
2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。
3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
4	債権の効力②	債務不履行の類型とその成立要件	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
6	責任財産の保全①	債権者代位権	3 者関係と制度の意義を整理すること。
7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。
8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。
9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。
10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を復習すること。
11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。
12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。
13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。
14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。
15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を復習しておくこと。

関連科目

契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法③債権各論	小川・福田	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

学期末試験で評価を行います。詳細については初回の講義において説明します。
講義中の不要な私語については減点の対象とします。

学生へのメッセージ

法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　大川講師室

備考

科目名	債権法Ⅰ	科目名（英文）	Law of Obligations Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。 具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	講義形式で行います。レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。また、テキストで適宜、復習を行ってください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	債権法、特に契約法の全体を確認していく。	民事法概論、民法総則の復習をしておくこと。
2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
5	契約の効力②	第４回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。
15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	教科書の関連する部分を確認しておくこと。

関連科目：債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法④債権各論	小川・城内	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験で評価する予定です。詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	債権法Ⅱ	科目名（英文）	Law of Obligations II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。 その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。 さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	本講義では、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意（契約）により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されることができるのだろうかという点を見ていく。 これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理できるための基本的知識の獲得を目指している。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行う予定です。 六法は必ず持参してください。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出題される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分の復習。
2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。
3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
4	債権の効力②	債務不履行の類型とその成立要件	債務不履行については教科書等で特に復習をすること。
5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
6	責任財産の保全①	債権者代位権	3 者関係と制度の意義を整理すること。
7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。
8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。
9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。
10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を復習すること。
11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。
12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。
13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。
14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。
15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を復習しておくこと。

関連科目：契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ロードマップ民法③債権各論	小川・福田	一学舎
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験で評価を行います。詳細については初回の講義において説明します。 講義中の不要な私語については減点の対象とします。
学生へのメッセージ	法律学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	財政学	科目名（英文）	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本　尚志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現在の日本は、財政システムにかかわる重大な課題に直面しています。少子高齢化、膨大な国債残高、格差の拡大、行政システムの非効率性等です。さらに近年の不況は税収の減少をもたらし、歳入と歳出のバランスにおいて、いっそう厳しい状況となりました。現在はやや景気の回復傾向がみられ、税収も少し増加してはいますが、決して十分ではありません。この授業では、財政問題全体をやさしく、かつ鳥瞰的に解説することによって、財政の現在と将来を展望します。
到達目標	財政の基本的な知識を修得することにより、直面する財政問題を理解できるようになる。
授業方法と留意点	毎回、講義の初めに、前回の授業内容を復習したうえで授業に入って行きます。その際、受講生から質問のあった事項や印象深い感想などを織り交ぜて説明していきます。正確に理解し、今後の知識として役立ててもらいたいと思います。
科目学習の効果（資格）	公務員試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	新聞や経済誌の財政に関する記事を読むようにしてください。
2	財政と経済	市場経済と市場の失敗、政府の役割について解説します。	教科書の第１章を読んでおくこと。
3	今日の日本の財政	日本経済のあゆみと財政、歳入と歳出、国と地方などについて整理します。	教科書の第２章を読んでおくこと。
4	財政をめぐる現代的課題	政府支出や公的金融のほか、三位一体の改革、地方分権についても解説します。	１、２章の内容で関心のある点について抜き出しておくこと。
5	公共財	公共財とは何か、そしてその供給に対する「ただ乗り問題」についても考えます。	教科書の第３章を読んでおくこと。
6	地方公共財	「足による投票」とは何か、また負の外部性についての理論を紹介します。	３章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
7	財政と年金	財政と社会保障の関係から年金問題について解説します。	教科書の第４章を読んでおくこと。
8	財政と医療	財政と社会保障の関係から医療問題について解説します。	４章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
9	政府行動の指針（１）	公共投資の費用と便益や不平等の問題を考えます。	教科書の第５章を読んでおくこと。
10	政府行動の指針（２）	公共投資についての理論的な見方を学びます。	５章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
11	租税の経済への影響（１）	租税の現状について整理します。	教科書の第６章を読んでおくこと。
12	租税の経済への影響（２）	誰が課税分を負担するのか、所得分配との関係はどうなるのかなどについて考えます。	６章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
13	租税の効率性と公平性	効率と公平の基準について整理し、最適課税の問題について考えます。	教科書の第７章を読み、７章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
14	公債と財政政策	財政赤字と財政政策という今日的課題について解説します。	教科書の第８章を読み、８章の内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
15	講義のまとめ	授業全体のまとめ。	今まで学んだ中でもっとも関心のある点について意見、感想を書いて提出する。

関連科目：地方財政論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日経文庫「経済学入門シリーズ　財政学入門」	入谷純	日本経済新聞出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%
学生へのメッセージ	財政に関して初めて学習する人も、ある程度の知識と考え方を身につけることができるように考えています。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	裁判制度特別講義	科目名（英文）	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	2009 年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20 歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることになります。しかし、制度導入から 6 年目にあたる現在でも、裁判員になると裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないという方も多いと思います。そこで、この授業では、裁判員制度を学ぶことに重点をおきながら、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度と比較しつつ、広く司法制度について学んでいただきたいと思います。
到達目標	裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えていただくことができる知識を得ていただくことを目指します。
授業方法と留意点	この授業では、単に座って講義を受けるという形式ではなく、受講者の皆さんにも主体的に行動することによって裁判員制度を学んでいただくことになります。具体的には、まず、日本の裁判員制度や他国の市民の司法への参加制度を学んでいただいたうえで、受講者の皆さんで議論をしていただき、裁判における評議のあり方について考えていただきます。さらに、12 月初旬の土曜日に家本ゼミの学生がおこなう模擬裁判において裁判員の立場で審理を聞き、評議をおこなって被告人が有罪か無罪かを判断していただきます。 毎回の授業が、12 月の模擬裁判における審理のための備えとなりますので、1 度でも欠席すれば単位は取得できないものと考えてください。 講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。
科目学習の効果（資格）	裁判員制度、日本や他国の司法制度についてより深く知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	この講義の概要、講義予定、および受講確認	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは（1）	裁判員制度および刑事司法制度の概要	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	裁判員制度とは（2）	裁判員制度創設の経緯と制度の内容	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	裁判員制度とは（3）	裁判員制度の内容と実施状況	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	刑事裁判手続（1）	刑事裁判における原則、公判手続の流れ	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	刑事裁判手続（2）	刑事事件の捜査	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	刑事裁判手続（3）	刑事事件の手続きにおける問題点	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	外国の市民の司法参加制度（1）	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	外国の市民の司法参加制度（2）	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	評議のためのウォームアップ（1）	評議とはどのようなものか	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	評議のためのウォームアップ（2）	仮の事件を題材にした評議をおこなう	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	模擬裁判での裁判員体験	模擬裁判において審理を聞き、裁判員として評議をおこなう	模擬裁判に備えて、前回・前々回の講義で学んだ評議の注意点などを見直しておくこと。
13	裁判員の刑事裁判へのかかわりについて	模擬裁判での審理の体験から、裁判員の裁判へのかかわり方について考える	今回の講義前に、模擬裁判で審理を聞いてみて感じたことや反省すべき点などを整理して、講義内での議論に備えておくこと。
14	裁判員制度のあり方	裁判員制度はどうあるべきかを考える	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	おわりに	講義のまとめ	これまでの講義の疑問や不明点を整理したうえで今回の講義に臨むこと。

関連科目：刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 2 3
評価方法 （基準）	授業での議論の内容（25%）と模擬裁判における取組み（25%）、および学期末のレポート課題（50%）をおもに評価の基準とします。遅刻および欠席は、1度でも、単位の取得が著しく困難となりますのでご注意ください。また、初回の講義で受講の意思確認をおこないますので、初回に無断で欠席された場合には、以後の受講を認めないこととします。
学生への メッセージ	裁判員制度について興味がある、または模擬裁判で裁判員を体験してみたいと考える方で、積極的に授業に参加する意思があり、そしてそれを実行できる方にのみ、受講していただきたいと思います。 かなり少人数、おそらくゼミと同程度かそれより少数での講義になることが予想されますので、その点、ご留意ください。 なお、本講義の履修にあたっては事前申請が必要となります。教務課からのお知らせにしたがって手続きをおこなったうえで履修してください。
担当者の 研究室等	11号館9階　家本准教授室
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：20時間

科目名	実定法特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅰの講義では、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	法学検定試験や行政書士試験などの問題演習を通じて、憲法・民法・行政法の基礎知識を習得すること。具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目標とする。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標を考えておくこと。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などを確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身分的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政に関する法は、様々な名称と内容を持った多くの法律があります。そうした行政法を学びます。最初は、行政法の全体像や基本原理を学習します（行政法総論）。	行政法総論と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政主体が「どのような」活動をするのかという視点を学習します（行政作用法）。	行政作用法と呼ばれている部分を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政法の中でも特に重要な行政救済法について学習します。	行政救済法、特に行政事件訴訟法を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	その他の実定法の基本を確認しておくこと。復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者（松島）に相談してください。

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一.前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅱの講義では、同Ⅰに引き続いて、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	法学検定試験や行政書士試験などの問題演習を通じて、憲法・民法・行政法の基礎知識を習得すること。 具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目標とする。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めていきたいと思います。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思います。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思います。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思っています。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	問題演習を通じて、行政法総論を学習します。	行政法総論で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	問題演習を通じて、行政作用法を学習します。	行政作用法で扱われる内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	問題演習を通じて、行政救済法を学習します。	行政事件訴訟法、行政不服審査法の内容、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目：直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストおよび期末試験の点数によって、総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習･復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者（松島）に相談してください。

科目名	市民社会論	科目名（英文）	Civil Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	「市民社会」は、「国家」とも「市場」とも異なる新しい公共性の担い手として、特に 1989 年の東欧の民主化以降注目を集めている。 この講義では、「民主主義」との関わりで欧米あるいは日本の「市民社会」・「市民社会論」の歴史的系譜について整理した上で、事例として東欧の民主化の過程をとりあげたい。 今後の社会を担う一個の市民として、「市民社会」のありかたについて考えることを目標とする。
到達目標	西欧の政治思想についての基礎的な知識を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果（資格）	日本の社会を考える上で必要となる歴史的視点や思想・理論を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞等で、市民社会・民主主義について書かれている記事を積極的に読んでおく
2	市民社会とは何か	「市民」と「市民社会」について	政治理論に関する参考文献を読んでおく
3	市民社会論の歴史的系譜	市民社会論の歴史的系譜について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
4	西欧における市民社会論の展開（1）	古代ギリシャの市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
5	西欧における市民社会論の展開（2）	近代ブルジョア的市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
6	西欧における市民社会論の展開（3）	近代ブルジョア的市民社会論に対する批判論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
7	西欧における市民社会論の展開（4）	近代止揚の市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
8	西欧における市民社会論の展開（5）	現代の市民社会論について	市民社会論に関する参考文献を読んでおく
9	日本的「市民社会」論	日本の思想家による「市民社会」のとらえ方について	「日本的社会」とはどういうものか、考えておく
10	事例研究：ポーランドの民主化運動（1）	ポーランドの社会主義と自主管理労組「連帯」の活動について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
11	ポーランドの民主化運動（2）	東欧の民主化の先導役としてのポーランドが辿った過程について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
12	チェコスロヴァキアの民主化運動（1）	チェコスロヴァキアの社会主義と 1968 年の「プラハの春」について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
13	チェコスロヴァキアの民主化運動（2）	チェコスロヴァキアの社会主義と市民社会の関わりについて	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
14	チェコスロヴァキアの民主化運動（3）	1989 年のビロード革命について	東欧の民主化に関する参考文献を読んでおくこと
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目：政治学、世界の政治と社会

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	市民社会論	吉田傑俊	大月書店
2	近代市民社会の成立	成瀬治	東京大学出版会
3	社会主義の 20 世紀（第 3 巻）	伊東孝之・南塚信吾	日本放送出版協会

評価方法（基準）	期末の試験（論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらう予定です）の結果によって評価を行います。 持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。 ただし評価に出席点は加えません。

科目名	社会調査実習	科目名（英文）	Field Survey of Town
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	2009 年度まで「まちを調べる」という科目名であったこの講義では、その名のとおり、大学近辺の寝屋川市や交野市のまちに出向いて、地域や小学校の活動に参加し、観察や聞きとりによる調査を行う。本年度は、交野市の自治会と、寝屋川市の小学校に伺い、ボランティアや教員と一緒に活動を行い、世話役の方や校長先生への聞きとりを行う。
到達目標	自治会と小学校の現場で活動し、聞き取りを行うことで、地域や学校での当たり前の暮らしと学習が、どのような人の思いと努力で成り立っているか実感できるようにする。
授業方法と留意点	この講義は次の２点で他の科目と大きく異なる。(1)大学の外に出向いて調査をする、(2)自治会や小学校の日常の活動に入る。ですので、欠席や遅刻はできません。
科目学習の効果（資格）	市役所職員や学校教諭の「現場」感覚がわかり、採用試験に向けた動機づけにつながるとともに、採用試験での論作文や面接などに必要な知見が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【1 日目】自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
2	自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
3	【2 日目】自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
4	自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
5	【3 日目】小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
6	小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
7	【4 日目】活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
8	活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
9	――――	――――	――――
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――

関連科目	「社会調査の方法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前説明から活動参加、聞き取り調査、まとめまでの全過程への参加が必須。活動参加の熱心さ、聞き取り調査の真剣さ、まとめの出来で評価する。
学生へのメッセージ	この講義は学外での活動を中心とするので、通常の講義日程では進行しません。日程や場所などについての詳細は、履修ガイダンス時に説明します。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室

備考	

科目名	社会保障法	科目名（英文）	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	社会保障法は、現代の国民の生活に欠かすことができない法分野であるとともに、企業や国家にとっても重要な意味をもつ法分野でもあります。現在の日本のおかれている状況を理解し、社会のあり方を考えるための一つの手段として、社会保障法を概観したいと考えています。
到達目標	社会保障の基本的な内容を理解することを目標とします。また、社会保障制度の現代的な課題が自らに関係することを実感してもらい、国の政策などに興味をもってもらいたいと考えています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	社会保険労務士の資格取得のための必須科目であり、公務員試験の一般教養などでの出題も考えられます。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会保障とは何か	・社会保障の定義、体系 ・社会保障の歴史	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	社会保障の理論と課題	・社会保障の法理論 ・社会保障の課題	社会保障の法的性質などを理解するともに、課題についても認識してください。
3	年金①	・公的年金制度の総論	公的年金の意義や仕組み、沿革などを概観します。
4	年金②	・国民年金 ・国民年金の当事者 ・国民年金の給付の種類	公的年金の基本である国民年金について、その内容を理解してください。
5	年金③	・厚生年金 ・共済年金 ・任意加入の年金	国民年金以外の公的年金について概観してみましょう。
6	社会手当	・社会手当の意義 ・社会手当の種類 ・社会手当の法的性格	社会手当といわれるものがどのようなものであり、どういった種類があるかを理解してください。
7	医療保障①	・医療保障の概要、体系 ・医療保険給付の内容	健康保険を典型とする医療保障の内容について理解してください。
8	医療保障②	・高齢者医療の仕組み ・医療保障法の課題	高齢者医療の仕組みと医療保障制度が抱える課題を理解してください。
9	労働保険①	・労災保険の内容 ・業務災害等の認定 ・労災保険給付の内容	労働保険の中の労災保険について概観してみましょう。
10	労働保険②	・雇用保険の意義 ・雇用保険給付の内容	労災保険と並んで、労働保険の中心である雇用保険について理解してください。
11	社会福祉①	・社会福祉の意義 ・社会福祉の体系 ・社会福祉の基本原則	社会福祉といわれるものがなぜ存在するのか、その意義を認識してください。
12	社会福祉②	・高齢者福祉 ・介護保険	高齢者福祉の中心となる介護保険について理解してください。
13	社会福祉③	・児童福祉 ・障害者福祉	児童や障害者に対する社会福祉のあり方を理解してください。
14	公的扶助	・公的扶助の意義 ・生活保護法の内容	最後のセーフティネットと呼ばれる生活保護についての理解を深めてください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておいてください。

関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	社会保障は、どこか遠くのものではなく、自分たち自身に密接に関連するものであることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	１１号館５階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味を持ったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業の中で取り上げたいと思います。また、講義中に、適宜指名して質問を行う可能性がありますが、どのような回答をしてもらっても構いませんので、積極的にご回答ください。

科目名	住民協働論	科目名（英文）	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPO などが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	地域活動に関心を持ち、協働の担い手としての知識と能力を身につけること。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	教科書の序章、第 4 章を読んでおく。
2	協働と地域公共人材(1)	協働型社会についての理論を学ぶ。	教科書の第 1 章を読んでおく。
3	協働と地域公共人材(2)	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	教科書の第 2 章を読んでおく。
4	協働と地域公共人材(3)	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	教科書の第 3 章を読んでおく。
5	協働の担い手としての子どもたち(1)	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。	教科書の第 5 章を読んでおく。
6	協働の担い手としての子どもたち(2)	熊本県氷川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	教科書の第 6 章を読んでおく。
7	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	教科書の第 7 章を読んでおく。
8	NPO と協働(1)	兵庫県芦屋市を事例に、NPO が人材育成に果たす役割について考察する。	教科書の第 8 章を読んでおく。
9	NPO と協働(2)	愛知県田原市を事例に、NPO が人材育成に果たす役割について考察する。	教科書の第 9 章を読んでおく。
10	ソーシャルビジネス	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。	教科書の第 10 章を読んでおく。
11	住民運動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。	教科書の第 11 章を読んでおく。
12	市民活動	広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	教科書の第 12 章を読んでおく。
13	市民と議会	北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	教科書の第 13 章を読んでおく。
14	地域リーダーの育成	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。	教科書の第 14 章を読んでおく。
15	協働と地域公共人材の展望	授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	教科書の終章を読んでおく。

関連科目：「地方自治論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域公共人材をつくる：まちづくりを担う人たち	今川晃・梅原豊	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	協働の前提として、住民が自治の主体としての自覚を持つことが必要です。自治意識をもった住民をどのようにして育てるのかを考えていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	少年法	科目名（英文）	Juvenile Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、現代社会におけるさまざま社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説します。
到達目標	現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得する。 また、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得する。
授業方法と留意点	●授業方法 　下記で示した参考書をもとに作成したレジュメを中心に講義を行いますが、テーマによってはPowerPointや視聴覚教材を使用することもあります。 　講義の進め方は、各回につき一つのテーマについて解説していオムニバス形式で行う予定です。 ●留意点 　社会の耳目を引くような刑事事件・刑事裁判がタイムリーに発生した場合、講義内容やその順番を若干入れ替えることもあるかもしれませんので、その点についてはご了承ください。
科目学習の効果（資格）	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立ちませんが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人には役に立つと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	刑事事件や刑事裁判に関する報道などに関心を払っておいてください。
2	取調べの可視化について	捜査機関による被疑者取調べの際における録音・録画について	配布レジュメ・資料を見直すこと
3	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメ・資料を見直すこと
4	捜査技法について	GPSを使用した捜査、通信傍受、写真・動画撮影、犯罪者プロファイリングなど現代の科学を用いた捜査技法について	配布レジュメ・資料を見直すこと
5	犯罪被害者について	犯罪被害者をめぐる諸問題などについて	配布レジュメ・資料を見直すこと
6	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメ・資料を見直すこと
7	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメ・資料を見直すこと
8	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
9	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
10	ファミリーバイオレンスについて	児童虐待、DV、高齢者虐待などの概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
11	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
12	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメ・資料を見直すこと
13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメ・資料を見直すこと
14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメ・資料を見直すこと
15	まとめ	重要論点の再解説	重要論点の確認

関連科目：刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑事政策	川出敏裕・金光旭	成文堂
2	ビギナーズ刑事政策（第２版）	守山正・安部哲夫	成文堂
3	ビギナーズ犯罪学	守山正・小林寿一	成文堂

評価方法（基準）	定期試験の成績(80%)と授業中に随時行う予定である小テストの成績(20%)で評価する。
学生へのメッセージ	現代においては、さまざまな社会問題が発生していますが、その解決方法は必ずしもひとつでありません。刑事法の役割やメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してみてください。
担当者の研究室等	11号館９階　島田准教授室
備考	

科目名	消費者と法	科目名（英文）	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につける。
授業方法と留意点	講義形式で行います。具体的な事例をどう解決するか、という点を中心に授業を進める予定です。
科目学習の効果（資格）	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	授業時に指示する
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	授業時に指示する
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し	授業時に指示する
4	消費者契約法(3)	不当約款規制(1)	授業時に指示する
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)・消費者団体訴訟	授業時に指示する
6	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	授業時に指示する
7	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売・通信販売	授業時に指示する
8	特定商取引に関する法律(3)	特定継続的役務提供・連鎖販売取引・業務提供誘引販売取引	授業時に指示する
9	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	授業時に指示する
10	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	授業時に指示する
11	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	授業時に指示する
12	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	授業時に指示する
13	商品安全と法(4)	食の安全と法(1) －食品添加物は有害か？　リスク評価の意義と限界－	授業時に指示する
14	商品安全と法(5)	食の安全と法(2) －食のグローバル化と食の安全－	授業時に指示する
15	商品安全と法(6)	食の安全と法(3) －食の安全・安心と表示規制－	授業時に指示する

関連科目	民事法関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%。ただし、授業妨害行為（私語・携帯電話の使用・騒々しい途中入退室等）に対しては、減点措置を講じ、度重なる場合は単位不授与とする。ヒソヒソ話も禁止。厳格に対処するので注意すること。
学生へのメッセージ	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	商法応用講義	科目名（英文）	Advanced Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	ロースクールや研究者になるために大学院への進学を希望する学生や国家公務員の試験に合格することを目指す学生に対して、商法、特に会社法について、高度の知識と応用力を付けるために、重要な法律上の問題を順次、講義する。 本講義の目的は、ロースクールや法科大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することである。
到達目標	ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することである。
授業方法と留意点	授業では、練習問題を解き、解答について分析する。
科目学習の効果（資格）	ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会社法総論	会社の社団法人性、会社の種類と特質、投下資本の回収、会社のなす寄附、会社債権者の保護、株主有限責任の原則 法人格否認の法理、 株主平等原則、 少数派株主の権利確保、 会社法上の訴えなど	授業で学習したことの整理と確認
2	会社の設立	株式会社の設立手続の特徴、会社の定款、発起人組合と設立中の会社、開業準備行為、財産引受の無効と会社の追認の可否など	授業で学習したことの整理と確認
3	株式（1）	株式の本質、単元株制度、株券発行前の株式譲渡の効力、譲渡制限株式の譲渡、契約による株式の譲渡制限 、種類株式、自己株式取得の要件など	授業で学習したことの整理と確認
4	株式（2）	株券不所持制度、株券の発行・不発行、株券発行の時期、株券喪失登録制度、株式の名義書換え、名義書換え未了株式譲受人の地位など	授業で学習したことの整理と確認
5	株主総会	株主総会・取締役会・代表取締役・執行役、株主総会の招集権、株主提案権、 書面投票制度・電磁的方法による議決権行使など	授業で学習したことの整理と確認
6	取締役（1）	株主総会と取締役会との権限の関係、取締役会決議の瑕疵、代表取締役と取締役会との権限の関係、代表取締役の職務執行の適正確保など	授業で学習したことの整理と確認
7	取締役（2）	取締役の善管注意義務、取締役の競業避止義務、取締役の利益相反、取締役の報酬、　取締役の権利義務者・一時取締役・取締役の職務代行者・補欠取締役など	授業で学習したことの整理と確認
8	監査役	監査役による監査と取締役会による監査、内部統制システムと監査役、会計参与・監査役・会計監査人の異同など	授業で学習したことの整理と確認
9	計算	資本金・株式・会社財産の関係、剰余金の分配に関する規制、現物配当、法定準備金、剰余金の配当等と会社債権者の保護 違法配当の効果など	授業で学習したことの整理と確認
10	資金調達（1）	資金調達における株主の保護、資本金の額の増加の方法、株式会社設立時の株式発行と設立後の新株発行の差異、新株の第三者割当など	授業で学習したことの整理と確認
11	資金調達（2）	公示義務違反、差止違反の株式発行の効力、新株発行の不存在と不存在確認の訴え、新株予約権、株式と社債の異同、社債権者の保護など	授業で学習したことの整理と確認
12	企業再編（1）	持株会社（完全親子会社）、企業買収防衛策、合併比率の不公正、会社分割と会社債権者の保護など	授業で学習したことの整理と確認
13	企業再編（2）	特別支配株主の株式等売渡請求、組織再編における価格決定申立てによる公正な価格、株式の相互保有、親子会社、一人会社など	授業で学習したことの整理と確認
14	資本金の額の減少・解散	資本金の額の減少、資本金額減少無効の訴え、会社の解散・清算、解散命令と解散判決	授業で学習したことの整理と確認
15	持分会社	持分会社の社員の責任と地位、合名会社の投資資本の回収方法、持分会社および株式会社における出資の確保など	授業で学習したことの整理と確認

関連科目	会社法
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>演習ノート会社法　［第７版］</td><td>奥島孝康・烏山恭一</td><td>法学書院</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>期末テストおよび授業の学習態度を総合して評価する。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>予習を十分にすること。授業中、ポケット六法を携帯すること。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>１１号館９階　牛丸教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	商法総論	科目名（英文）	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。

商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。

到達目標

商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することを目指す。

授業方法と留意点

授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。

科目学習の効果（資格）

商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人	教科書２ページ～２３ページ
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力	教科書２６ページ～３２ページ
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果	教科書３２ページ～３４ページ
4	商業登記（１）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力	教科書３５ページ～４２ページ
5	商業登記（２）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力	教科書　４３ページ～４５ページ
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	教科書４６ページ～６２ページ
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任、商業帳簿の総説	教科書　６３ページ～８５ページ
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了	教科書８６ページ～１０５ページ
9	商行為（１）	絶対的商行為、営業的商行為（１）	教科書１０８ページ～１１５ページ
10	商行為（２）	営業的商行為（２）、付属的商行為	教科書１１５ページ～１１７ページ
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	教科書１１７ページ～１４１ページ
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了	教科書１４２ページ～１４６ページ
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋	教科書１６０ページ～１６８ページ
14	運送営業（１）	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送	教科書１６９ページ～１８１ページ
15	運送営業（２）	貨物引換証、乗車券の性質	教科書１８１ページから１８９ページ

関連科目

民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則商行為法（第３版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。

学生へのメッセージ

商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　牛丸教授室

備考

科目名	商法総論Ⅰ	科目名（英文）	Commercial Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。 商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。
到達目標	商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することを目指す。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。
科目学習の効果（資格）	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人	教科書２ページ～２３ページ
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力	教科書２６ページ～３２ページ
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果	教科書３２ページ～３４ページ
4	商業登記（１）	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力	教科書３５ページ～４２ページ
5	商業登記（２）	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力	教科書　４３ページ～４５ページ
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	教科書４６ページ～６２ページ
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の賃貸借・経営委任、商業帳簿の総説	教科書　６３ページ～８５ページ
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了	教科書８６ページ～１０５ページ
9	商行為（１）	絶対的商行為、営業的商行為（１）	教科書１０８ページ～１１５ページ
10	商行為（２）	営業的商行為（２）、付属的商行為	教科書１１５ページ～１１７ページ
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	教科書１１７ページ～１４１ページ
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了	教科書１４２ページ～１４６ページ
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋	教科書１６０ページ～１６８ページ
14	運送営業（１）	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送	教科書１６９ページ～１８１ページ
15	運送営業（２）	貨物引換証、乗車券の性質	教科書１８１ページから１８９ページ

関連科目	民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー商法総則商行為法（第３版）	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	親族法	科目名（英文）	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民法典の第４編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から検討を行う。親族関係は、戸籍制度とも密接に関係し、現在の日本において避けては通ることのできないものであり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるのかの把握も行う。
到達目標	身近な分野であるので、民法に規定されている基礎的な法的知識を自分のものするとともに、家族について考える契機とする。
授業方法と留意点	レジュメに沿いつつ講義形式で行う。具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など	これまで学習した民法を全体的に確認しておくこと
2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	実体法と手続法の違いを復習しておくこと
3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	どのような場合は婚姻できないのか
4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	婚姻すると同様な法的効果が発生するのか
5	夫婦財産制　日常家事債務	夫婦間の財産関係	夫婦と他人の違い
6	離婚	離婚制度	離婚とはどのようなものか
7	協議離婚、裁判離婚、調停離婚	離婚するには	離婚によって生ずる問題とは
8	離婚に伴う財産関係	財産分与	財産の清算など
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	子の福祉の重要性
10	実親子関係	実親子、嫡出制度	法的に親子関係を形成する意義を検討すること
11	親子関係	認知、準正	法的な親子関係の成立とは、生物学的なものとどう違うのかを整理すること
12	養子関係	養子制度	養子縁組の意義
13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	高齢者社会の到来と成年後見制度
14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	扶養について考える
15	全体の復習	全体を復習する	わからない点を確認する

関連科目	民法に関連する講義全般。 特に相続法とは大きな関連を有する。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的に定期試験で評価する。授業中に小テストを行うこともある。
学生へのメッセージ	身近な法律であるだけに、正確な知識を持つことが重要です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　　古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序、内容を変更することがある。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	渡辺　一志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	スポーツ・運動に伴う身体の変化と適応について医学・運動生理学の基礎を学ぶ。また、スポーツと健康管理および安全管理について述べ、健康の維持・増進、さらには明るく活動的な生活の実現に必要な内容を理解することを目的とする。
到達目標	運動による健康の維持・増進およびスポーツ実践を通じて明るく豊かな生活を営むことのできる指導・支援・助言のできるスポーツプログラマーとしての、医学・運動生理学的知識と実践法を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	講義および実験演習形式で授業を進める。なお、DVD や VTR などを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツプログラマーに必要な基礎的な医学・運動生理学の理解

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ医学１	身体管理とコンディショニングの支援	テキスト P165-186
2	スポーツ医学２	安全と有効なスポーツ指導	資料
3	スポーツ医学３	リハビリテーションや、治療法としてのスポーツの活用	テキスト P. 157-164
4	健康管理１	レクリエーションスポーツと競技選手のメディカルチェック	資料
5	健康管理２	栄養と休養	テキスト P. 79-88
6	健康管理３	発育発達期の身体的特徴	テキスト P. 130-136
7	安全管理１	スポーツにおける安全確保の知識（ウォーミングアップ、クーリングダウン）	テキスト P. 89-99
8	安全管理２	内因性疾患における対策	資料
9	安全管理（救急処置）1	貧血と運動	資料
10	安全管理（救急処置）2	RICE 処置	資料
11	安全管理（救命処置）1	熱中症の病型と発生機序	資料
12	安全管理（救命処置）2	熱中症に対する予防と対処法	資料
13	安全管理（救命処置）3	呼吸循環系の基礎と運動適応	資料
14	安全管理（救命救急）4	AED を用いた心肺蘇生法の実際	資料
15	まとめ	授業全体のまとめ	――――

関連科目：スポーツ医学の基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験、小テスト、レポート、受講態度等を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ教育学	科目名（英文）	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動が新聞に大きく取り上げられられることも多い。本講義では、スポーツの与える功罪について考え、スポーツ人として必要な基礎知識を学習する。
到達目標	①　スポーツに関わる道徳問題が理解できる。 ②　スポーツがもたらす教育効果が理解できる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。 教科書は使用しないが、適宜授業資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎教育（1）	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。
2	基礎教育（2）	自己アピール プロファイル	自己紹介文を作成する。
3	スポーツと教育（1）	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し
4	スポーツと教育（2）	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し
5	スポーツと教育（3）	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し
6	スポーツと教育（4）	体罰問題について考える（1）。	配布プリントの読み返し
7	スポーツと教育（5）	体罰問題について考える（2）。	配布プリントの読み返し
8	スポーツと教育（6）	スポーツ特待生について考える。	配布プリントの読み返し
9	障がい者とスポーツ（1）	障がい者スポーツについて考える（1）。	配布プリントの読み返し
10	障がい者とスポーツ（2）	障がい者スポーツについて考える（2）。	配布プリントの読み返し
11	障がい者とスポーツ（3）	障がい者スポーツについて考える（3）。	配布プリントの読み返し
12	スポーツの功罪（1）	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し
13	スポーツの功罪（2）	スポーツ障害について考える。	配布プリントの読み返し
14	生涯スポーツ（1）	ニュースポーツなど生涯スポーツについて学ぶ。	配布プリントの読み返し
15	生涯スポーツ（2）	将来自分の生活にスポーツをどう取り入れるか考える。	配布プリントの読み返し

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa 、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート、小テスト、プレゼン、平常点を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツ社会学	科目名（英文）	Sports Sociology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会学的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点から的確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養う。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	スポーツに関する社会学的な知識を身につけることが可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツ社会学とは	スポーツ社会学という概念の整理。
2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造（1）	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造（2）	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子･高齢化とスポーツ（1）	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子･高齢化とスポーツ（2）	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認するための試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤（1）－諸外国とわが国との比較検討－	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤（2）－諸外国とわが国との比較検討－	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化（1）	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化（2）	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

関連科目	地域とスポーツ等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加姿勢と試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	スポーツ政策論	科目名（英文）	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ（振興）政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。
到達目標	スポーツ（振興）政策が担う社会的役割に関する知見を獲得する。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織、団体	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
5	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（1）	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義、歴史的変遷	スポーツの社会的意義を整理する。
6	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（2）	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
7	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（3）	わが国におけるスポーツ振興施策、健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
8	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（4）	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
9	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（5）	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
10	スポーツ活動の促進とスポーツ政策（6）、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認試験の実施	前５回の講義と今回とを関連づけて整理する。
11	競技力の向上とスポーツ政策（1）	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
12	競技力の向上とスポーツ政策（2）	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認のための臨時試験を行う	これまでの講義を体系立てて復習する

関連科目：スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	スポーツと法律	科目名（英文）	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連の判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	一見無関係に思われる法とスポーツ活動との様々な接点を理解することができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと法（1）	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についての復習。
2	スポーツと法（2）	スポーツ法の概念、特性およびその対象	前回の講義と関連づけてまとめる。
3	スポーツと法（3）	スポーツ基本法の制定	関連資料に目を通すこと。
4	スポーツと法（4）	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
5	スポーツに親しむ権利（1）	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
6	スポーツに親しむ権利（2）	スポーツ権論	前回の講義と関連づけてまとめる。
7	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ（生涯スポーツ）の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認試験の実施	これまでの講義を体系的にまとめること。
9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー	関連資料に目を通すこと。
11	スポーツ事故と法的責任（1）	スポーツ事故と法(民事責任、刑事責任)	民法、刑法の関連条項の整理。
12	スポーツ事故と法的責任（2）	危険の引き受けと引き受けた危険	危険の引き受けと引き受けた危険との相違点をまとめる。
13	スポーツ事故と法的責任（3）	スポーツと学校事故	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ事故と法的責任（4）	フランスにけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	講義全体を体系的に整理する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	スポーツの歴史	科目名（英文）	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレーヤーなどについてを学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは２０２０年東京で開催されることが決まり、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につける。
到達目標	オリンピックの歴史を飾ってきたメダリストや出来事について学習し、オリンピックの変遷を理解する。 スポーツ用具の進化とスポーツ新技術とルールとのかかわりを理解する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。第１回目のガイダンスは、授業方針、目的、評価方法など詳細を説明するので欠席しないように。
科目学習の効果（資格）	スポーツの歴史を理解し、オリンピックを中心としたスポーツ文化を学ぶことによって、社会人として必要な幅広い教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス スポーツの歴史とは	授業の目的、方針、内容、評価方法などを詳しく説明する。 スポーツの歴史を学ぶｊことの意味、重要性を学習する。	シラバスをよく読み、配布された資料を熟読する。
2	オリンピックの歴史（1）	古代オリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
3	オリンピックの歴史（2）	古代オリンピックから近代オリンピックへの変遷	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
4	オリンピックの歴史（3）	近代オリンピック創生期 近代オリンピックの発案者 日本のオリンピックへの参加	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
5	オリンピックの歴史（4）	第２次世界大戦までのオリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
6	オリンピックの歴史（5）	第２次世界大戦後から現代	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
7	オリンピックの歴史（6）	日本人のオリンピックメダリストについて（1）	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
8	オリンピックの歴史（7）	日本人のオリンピックメダリストについて（2）	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
9	オリンピックの歴史（8）	日本がオリンピックに果たした役割	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
10	サッカーの歴史（1）	サッカーの起源からラグビーへの分岐点	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を熟読する。
11	サッカーの歴史（2）	日本がサッカーで世界レベルになっていく過程について	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を熟読する。
12	柔道の歴史	日本発祥の世界的スポーツについて	インターネットで柔道について調べる。 配布された資料を熟読する。
13	スポーツ用具の変遷	スポーツ用具の材料や形状の変遷について	インターネットでにスポーツ用具ついて調べる。 配布された資料を熟読する。
14	スポーツルールの変遷	様々なスポーツでのルールの変遷について	インターネットでスポーツルールについて調べる。 配布された資料を熟読する。
15	スポーツ新技術	スポーツ新技術がもたらした革命	インターネットでスポーツ新技術について調べる。 配布された資料を熟読する。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰａ、Ⅰｂ、 Ⅱａ 、Ⅱｂ、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、レポート、平常点を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツビジネス	科目名（英文）	Sports Business
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。 なお、講義の流れは、民法の流れに沿っているため、民法総則・契約法・不法行為法などとリンクして行う予定である。
到達目標	スポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討する。
授業方法と留意点	資料などを用いて検討する。 民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行う。
科目学習の効果（資格）	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人の予習・復習
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人の予習・復習
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理の予習・復習
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理の予習・復習
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為の予習・復習
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為の予習・復習
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体的な復習をすること。

関連科目：経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを行う予定。 それと期末テストを合わせ、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。 そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	スポーツビジネスと法	科目名（英文）	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、法律問題も当然に生じる。 この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。 なお、講義の流れは、民法の流れに沿っているため、民法総則・契約法・不法行為法などとリンクして行う予定である。
到達目標	スポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討する。
授業方法と留意点	資料などを用いて検討する。 民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行う。
科目学習の効果（資格）	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法の予習・復習
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人の予習・復習
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人の予習・復習
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理の予習・復習
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理の予習・復習
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約法の予習・復習
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為の予習・復習
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為の予習・復習
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体的な復習をすること。

関連科目	経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テストを行う予定。 それと期末テストを合わせ、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。 そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	スポーツプログラミング	科目名（英文）	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	岡本　香代子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	健康な身体であるためには、体力を維持・増進させることが大切であり、運動・スポーツを行うことは身体の生理的機能を向上させるのに役立つ。授業では、運動・スポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学ぶ。
到達目標	対象者に合わせたスポーツプログラムの作成と実践指導ができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントやプリントを用いた講義と、対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	フィットネスプログラムの基本的方法	スポーツプログラミング概論、運動処方概論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
2	子どものフィットネスプログラム①	子どもを対象とした運動処方論（生活・遊び）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
3	子どものフィットネスプログラム②	子どもを対象とした運動処方論（体力・スポーツ）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
4	子どものフィットネスプログラム③	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
5	子どものフィットネスプログラム④	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
6	壮年（中年）のフィットネスプログラム①	壮年（中年）を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
7	壮年（中年）のフィットネスプログラム②	壮年（中年）を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
8	高齢者のフィットネスプログラム①	高齢者を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
9	高齢者のフィットネスプログラム②	高齢者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
10	女性のフィットネスプログラム①	女性を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
11	女性のフィットネスプログラム②	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
12	女性のフィットネスプログラム③	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
13	障害者のフィットネスプログラム①	障害者を対象とした運動処方論（運動の意義）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
14	障害者のフィットネスプログラム②	障害者を対象とした運動処方論（運動実施上の配慮・プログラムの特色）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
15	障害者のフィットネスプログラム③	障害者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。

関連科目	発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実践

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（50%）、技能点（20%）、レポート点（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	対象者に応じた運動・スポーツ指導について学び、実践に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ文化論	科目名（英文）	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬　泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	スポーツを文化の領域と捉らえ歴史的、経済的にあらゆる側面から講義を進めてゆく。特権階級の人々に親しまれたスポーツをもっと身近に感じスポーツの取り巻く問題と新たなスポーツ文化を発掘していこうとすることがスポーツ文化論である。
到達目標	スポーツを身体運動だけにとらわれずに、知的学問としてとらえ文化的行動の基礎を築けるように学ぶ。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツを楽しむためによりスポーツを理解することが出来る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	――――――
2	文化の中のスポーツ（1）	スポーツ文化を学ぶ	課題資料配布
3	文化の中のスポーツ（2）	スポーツ文化を学ぶ	課題資料配布
4	文化の中のスポーツ（3）	スポーツ文化を学ぶ	レポート提出
5	スポーツと社会（1）	スポーツマンシップ	課題資料配布
6	スポーツと社会（2）	日本人の大型化	レポート提出
7	国民性とスポーツ(1)	民族によるスポーツの考え方（欧米）	課題資料配布
8	国民性とスポーツ（2）	民族によるスポーツの考え方（アジア）	課題資料配布
9	女性のスポーツ	女性アスリートの歴史	課題資料配布
10	スポーツとマーケティング（1）	子供とスポーツ	課題資料配布
11	スポーツとマーケティング（2）	学校体育とスポーツ	レポート提出
12	スポーツとビジネス（1）	スポーツとオリンピック	課題資料配布
13	スポーツとビジネス（2）	商業主義とスポーツ	課題資料配布
14	スポーツ文化論総括	文化論　まとめ	課題資料配布
15	スポーツ文化論総括	発表	グループ発表

関連科目：スポーツ指導者入門

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポート・グループ発表などをし、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	講義は聞くだけでなく、自分の問題として捉らえ、自分に置き換えて考えることが重要である。教科書は特に使用しないが、新聞など関連記事には目を通したほうが良い。また、インターネットによる情報収集も新鮮な情報が得られる。
担当者の研究室等	総合体育館１階　河瀬研究室
備考	

科目名	スポーツマネジメント	科目名（英文）	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得する。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジントという言葉の整理。
2	マネジメントの本質（1）	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定	関連資料に目を通す。
3	マネジメントの本質（2）	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前２回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
6	全体戦略の設定	ミッション・ヴィジョン・ドメイン	関連資料に目を通す。
7	スポーツとマネジメント（1）	人事マネジメント、GM の役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
8	スポーツとマネジメント（2）	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
9	スポーツとマネジメント（3）、これまでの講義のまとめ	顧客管理、および習熟度確認のための試験	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
10	スポーツ事業の展開（1）	スポーツ事業の計画・運営・評価（総論、スポーツ教室の実施・運営）	関連資料に目を通す。
11	スポーツ事業の展開（2）	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
12	スポーツ事業の展開（3）	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前２回の講義を関連づけてまとめる。
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営（1）	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営（2）	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認のための臨時試験の実施	講義全体の体系化とその理解。

関連科目：スポーツと法律等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加姿勢と試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	政治学概論	科目名（英文）	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組を関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	週１～２回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につける。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義２回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。
科目学習の効果（資格）	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。	講義で勧めるニュース番組を通して見てみる。
2	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（1）	近年、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く。
3	日本の内閣はなぜ長続きしなかった？（2）	近年、内閣が約１年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く。
4	安保法制、どう考える？（1）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く。
5	安保法制、どう考える？（2）	2015 年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く。
6	消費税を上げるのに賛成？（1）	2014 年４月に 8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
7	消費税を上げるのに賛成？（2）	2014 年４月に 8%に上り、10%への増税も予定されている消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く。
8	尖閣諸島・竹島にこだわる？（1）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
9	尖閣諸島・竹島にこだわる？（2）	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く。
10	日本は TPP に参加すべきだと思う？（1）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
11	日本は TPP に参加すべきだと思う？（2）	原則、関税を撤廃する TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く。
12	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？（1）	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件を取り上げ、現場での対応の問題を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。
13	いじめ、体罰、児童虐待はなぜ起こる？（2）	身近な日常で起きている肉体的・精神的暴力の問題を扱う。学校、部活、家庭でどのような暴力があるか、具体的な事件	配布した新聞記事を読む。いじめ、体罰、児童虐待にどう対応したらよいか、自分の意見を整理して書く。

			を取り上げ、現場での対応の問題を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？（1）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。
	15	大阪都構想をどう見る？（2）	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く。

関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、前期の「政治と政策」を受講しておくことを勧める。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐって中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、教育は、家庭を持ち子どもを育てることになるすべての大人に共通の問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	政治過程論	科目名（英文）	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、18 歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。 この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使、選挙、政党、マスメディア、議会など政策決定過程についての基本的な知識を与えることを目的にしています。また皆さんが最近のニュースをよりよく理解できるように、毎週政治的な時事問題について紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが現代国家の政策決定過程についての基本的な知識を獲得できるとともに、そのプロセスに積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのか考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらい、質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応できるように政治や政治学の基本的な知識を提供し、また話題になっている政治的な時事問題を毎週ピックアップして話します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～政治過程とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	権力の行使①～権力とは何か？	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
3	権力の行使②～正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
4	世論	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズムについて講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
5	マスメディア①～マスメディア理論の歴史	今までマスメディアはどのように考えられてきたのか、その理論の歴史について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
6	マスメディア②～現代のマスメディア	現代マスメディアの機能と役割、その重要性について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
7	日本の議会と選挙制度	衆議院と参議院、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
8	政党	政党の機能と役割、日本のさまざまな政党について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
9	圧力団体	圧力団体の機能と役割について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
10	内閣①～政治システムと内閣	政治システムの基本的な特徴と内閣制度一般について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
11	内閣②～日本の内閣と行政改革	日本の内閣の特徴と橋本内閣で行われた行政改革について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
12	政治家と官僚制	政治家の資質やリーダー論、日本の官僚制の特徴について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
13	アメリカの政治過程	アメリカの大統領制や議会のしくみ、圧力団体などについて講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
14	グローバリゼーション	移民排斥や右翼の台頭などを念頭に置きながら、現在のグローバリゼーションとその影響について講義します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民、政治経済など。大学の政治学、日本政治論など。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>政治過程論</td><td>伊藤光利・田中愛治・真淵勝</td><td>有斐閣アルマ</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>政治学</td><td>川出良枝・谷口将紀編</td><td>東京大学出版会</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験 80%（一問一答 40%、論述 40%）、リアクションペーパー20%
既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　和田講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	政治史	科目名（英文）	Political History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、扱ってきた政治問題などを知っておくことは有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	学生の皆さんが日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策、政党、候補者が望ましいのか考え、意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらい、質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応でき、また社会人として知っておきたい基本的な歴史的知識についても知ることができると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	予習・復習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	戦前日本の政治史①～明治･大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禅譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった 80 年代の自民党政治について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と 55 年体制の崩壊	55 年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した 90 年代の政治史を授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民、日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学など。
教科書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 現代日本政治史 / 廣澤孝之 / 晃洋書房 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 近代日本政治史 / 坂野潤治 / 岩波書店 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	定期試験 80%（一問一答 40%、論述 40%）、リアクションペーパー20% 既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

科目名	政治と政策	科目名（英文）	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	この授業では、政治と政策についての基礎知識を学ぶ。毎回、政治と政策に関わる身近な話題を取り上げ、主要な論点について説明をした上で、グループディスカッションを行う。
到達目標	政治と政策に関する主要な課題や論点について、基礎的な知識を踏まえた上で、自分の意見を述べることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	政治と政策についての報道を理解し、自分の意見を形成するための土台となる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	権力とは何か？	権力・支配の概念と政治的リーダーシップについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
2	社会はどうあるべきか？	主権理論と自由主義、社会主義等の政治思想について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
3	首相と大統領は何が違うのか？	権力分立と、議院内閣制・大統領制の相違について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
4	誰もが納得する決定は可能か？	古代ギリシャのデモクラシーと近代のリベラル・デモクラシーの誕生、現代の民主主義に関する考え方を学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
5	国家とは何か？	近代国家とは何か、また行政国家化現象について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
6	国会議員の仕事は何か？	議会の起源と発展、日本の議会政治について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
7	なぜたくさんの政党があるのか？	政党の機能と類型、日本の政党制について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
8	誰が政治を動かすのか？	圧力団体が果たす機能と、圧力政治の問題点について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
9	選挙に行く意味は何か？	選挙制度の類型と、各国の選挙制度について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
10	投票率はなぜ下がるのか？	投票行動に関する理論と、無党派層の増大について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
11	なぜ政治に興味が湧かないのか？	政治的意見・政治的態度・政治的価値観の違いを整理し、政治的無関心の問題について考察する。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
12	政治と政策は何が違うのか？	政治過程と政策過程の違いと、コーポラティズム、政策サイクルについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
13	現代社会はどんな社会なのか？	大衆社会における政治と、現代社会の権力構造について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
14	マスコミは真実を伝えているか？	世論とマスコミが政治において果たす役割について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
15	集団的自衛権は必要か？	近代国際社会の誕生と、安全保障の枠組みについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える

関連科目：「政治学概論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治学・行政学の基礎知識	堀江湛	一藝社
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	政治ニュースの読み解き方が分かるように、政治と政策に関わる基礎の部分を解説します。授業と並行して、新聞・ニュースなどに触れてみてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	西洋女性史	科目名（英文）	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位の歴史について概説します。古代から現代までの重要な人物（その生涯、及び権力との関連）や事件・事項をとりあげます。具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用しながら講義します。
到達目標	西洋の古代から現代までの重要人物や出来事を通して、各時代の社会における女性の地位について学ぶことにより、西洋史の知識を深める。
授業方法と留意点	毎回 1-2 枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ･レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業全体の目的 西洋社会における女性像の原点	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
2	古代ローマ社会における女性の地位	古代ギリシアのポリス、アテネの市民女性。古代ローマ皇帝の妻たち。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
3	中世･封建社会における女性	12 世紀、フランス王妃その後イングランド王妃となったアリエノール･ダキテーヌを通して、中世封建制度を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
4	１５世紀のジャンヌ･ダルク裁判（フランス）	百年戦争の末期に登場･活躍したジャンヌ・ダルク。処刑裁判を中心に、考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
5	１６世紀宗教改革と女性（イギリス）	ヘンリー８世とアン・ブーリン：離婚問題とローマ教会との決別。アンとの再婚、そしてアンの処刑。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
6	１７世紀の魔女裁判	なぜ女性が魔女に仕立て上げられたのか？ドイツ･フランスなどの魔女裁判を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
7	１８世紀啓蒙主義と女性（フランス）	サロン文化とポンパドゥール夫人。啓蒙時代におけるサロンの役割。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
8	フランス革命と女性（１）	フランス革命における女性たち。フランス革命の概要、王妃マリー・アントワネット	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
9	フランス革命と女性（２）	グージュ　（女性の権利宣言）、 スタール夫人	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
10	フランス民法典―近代市民法と家父長制	民法典起草の意図。 フランス民法典のなかの女性･近代的家父長制の特徴を考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
11	19 世紀フランス社会と女性（１）	19 世紀のブルジョア女性の活動・主婦の誕生について、フランスを中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
12	19 世紀フランス社会と女性（２）	19 世紀の労働者（女性を中心に）・衛生問題について、フランスを中心に考察する。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
13	１９世紀近代家族の成立と専業主婦の誕生ーモデルとしてのヴィクトリア女王（イギリス）	ヴィクトリア女王時代の女性像を考察する。理想的な女性イメージの形成にヴィクトリアの果たした役割。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
14	１９世紀末～20 世紀初頭フェミニズムの第１の波（欧米全体）／２０世紀後半フェミニズムの第２の波	第１波：参政権をめぐる運動。他―女性の服装の変化（ココ・シャネル）／第２波：ウーマン・リブ運動―女性解放の進展。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。
15	２１世紀グローバル社会での女性問題	世界で繰り返される女性に対する暴力（内戦や戦争時の性暴力等）。	レジュメの指示にしたがって予習・復習しておくこと。

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋の裁判の歴史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験８０％、平常点（授業内の提出物、学習態度など）２０％によって総合的に評価します。（詳細は初回の授業で説明します）
学生へのメッセージ	楽しく教養を深めるのに役立つ授業です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）

備考	

科目名	西洋政治思想史	科目名（英文）	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞きするとき、自由や平等、正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、多くの政治思想家たちが発明し、その言葉が意味する内容をさまざまに推敲してくるなかでようやく現在のかたちにまでなった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」、と知ってもらうべく解説するのが目的です。
到達目標	学生の皆さんが著名な政治思想家や政治的概念についての基本的な知識を獲得できるとともに、そうした知識に基づいて法律の条文や政治家の演説をより深く理解できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに資料についての意見を書いてもらいます。また受けつけた質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治思想の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応できるように政治思想家や政治的概念の基本的な知識を提供します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の治思想家たちの概略について授業します。	予習・復習：政治思想の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	プラトン	『国家』の内容を中心に、正義の概念について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
3	アリストテレス	『二コマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
7	ロック	『統治論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
9	カント	『啓蒙とは何か』『永遠平和のために』『実践理性批判』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
11	バーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
12	ロールズ	『正議論』を中心に、自由や正義について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、授業中に紹介した政治思想家の著作を読む。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民など。大学の倫理学、哲学など。

<table>
<tr><td>教科書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td>政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―</td><td>仲正昌樹編</td><td>法律文化社</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr>
<tr><td>1</td><td>現代政治理論</td><td>飯島昇藏・佐藤正志・太田義器編</td><td>おうふう</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>定期試験 50%（一問一答 25%、論述 25%）、レポート 30%、リアクションペーパー20%
既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 10 階　和田講師室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td></td></tr>
</table>

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名（英文）	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	西洋社会における法と裁判の歴史につき、主に刑事裁判の歴史を概説します。古代ギリシアから戦後まで、裁判制度と著名な裁判をとりあげて論じます。できるだけＤＶＤによる映像を授業に取り入れ、具体的なイメージがわくようにします。専門科目としての刑法や刑事訴訟法の基礎となります。また、裁判に関する基礎知識として役立ててもらいたいと思います。
到達目標	古代ギリシアから戦後まで、西洋社会における裁判制度と著名な裁判に関わる基礎知識を修得する。
授業方法と留意点	毎回 1-2 枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ･レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会科・高校公民・高校地歴）に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	序論ー日本と西洋の裁判の比較	授業内容の概説、裁判や権利に関する制度の相違、歴史的な変化についての概要	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
2	古代ゲルマンの裁判―裁判集会型法発見モデル（１）	自由人成人男性による裁判集会。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
3	古代ゲルマンの裁判―裁判集会型法発見(２)	水審・火審・決闘などの神判の利用。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
4	中・近世の裁判（１）	教会裁判所、職業裁判官による裁判。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
5	中・近世の裁判（２）	刑事裁判の変化・糾問主義の成立・拷問・魔女裁判。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
6	中・近世の裁判（３）	18 世紀の冤罪事件・カラス事件。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
7	イングランドにおける裁判	ノルマン征服後、陪審制は国土支配の道具として導入。起訴陪審・判決陪審。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
8	フランス革命と裁判（１）	フランス革命期における裁判制度改革。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
9	フランス革命と裁判（２）	フランス革命期に導入された陪審制の特徴とその変化。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
10	１９世紀の裁判（１）フランス	多様な法律職　／　小説の中で描かれる裁判や法律家たち	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
11	１９世紀の裁判（２）フランス	ドレフェス事件―19 世紀末のフランスで起こった軍部による組織的な冤罪事件。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
12	１９世紀の裁判（３）ドイツ	陪審制から参審制の移行について（19 世紀のドイツを中心)。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
13	２０世紀の裁判（１）白バラ事件	ナチスへの抵抗として大学内でビラを配布した学生たちを裁いた民族裁判所。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
14	２０世紀の裁判（２）ニュルンベルク裁判、他	戦後国際裁判として知られる裁判。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。
15	２１世紀への展望ー復習とまとめ	授業内容のまとめと復習をする。国民が裁判に参加する制度の国際比較	レジュメの指示にしたがって予習・復習をしておくこと。

関連科目：西洋の人権の歴史、西洋女性史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 80%、授業内の提出物など 20%によって総合的に評価します（詳細は初回の講義で説明します)。授業中の私語については、厳しく対処します。
学生へのメッセージ	歴史科目が苦手だったという人もふるって履修してください。わからない点は、気軽に質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	西洋の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小宮山　直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	日本は、明治維新ののち近代化をなしとげるために西洋社会から多くの文化を取り入れました。授業では、西洋社会がはぐくんだ法文化の歴史的基礎について、法と社会の関係に重点をおいて説明します。焦点をあてるのは、西洋における人権保障のありかたとその歴史的変化です。とくに１６世紀以降を中心とします。
到達目標	西洋社会が現代のわたしたちに伝える重要な文化について、特に西洋における人権の歴史についての基本知識の修得を目標とします。
授業方法と留意点	毎回 1-2 枚程度のプリントを配布し、映像資料も活用する予定です。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ･レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、２回分のテーマを１回にまとめることもあります。
科目学習の効果（資格）	教職科目（中学社会・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養（SPI 対策）としても有益です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに―近代日本における西洋文化の受容	明治政府・近代化・お雇い外国人	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
2	古代ローマの市民と奴隷の法（権利）の違い（紀元前１世紀～紀元後３世紀）	奴隷と市民の法（＝権利）について。古代ローマ法（市民法・万民法・勅法）の特徴。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
3	ユースティーニアーヌス法典が生まれて復活するまで（６世紀～１２世紀）	ユースティーニアーヌス法典（ローマ法大全）の成立。ローマ法学の復活・ボローニア大学法学部の成立・ローマ法の継受。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
4	中世ヨーロッパ社会の市民と農民（１２～１５世紀）	身分制社会の基本原理としての「不平等」・特権としての「自由」。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
5	自然法思想の成立（１７世紀）	近世自然法、グロティウス、社会契約論（ロック）	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
6	人権宣言とフランス革命（１７８９年）	フランス革命（1789 年）・人権宣言・近代市民社会。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
7	ナポレオンと近代市民法―フランス民法典（１８０４年）	フランス民法典の成立過程とその特徴。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
8	19 世紀フランスの社会と法（１）	1804 年成立の民法典の特徴と普及。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
9	19 世紀フランスの社会と法（２）	19 世紀フランスの市民社会、選挙権をめぐる動きについて。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
10	法典論争（１８１４年）と歴史法学派	1814 年にサヴィニーとティボーの法典論争。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
11	ドイツ民法典（１８９６年）の成立	ドイツ民法典の成立過程、パンデクテン法学。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
12	20 世紀前半―フランス・ドイツの社会と法（１）	現代型憲法としてのワイマール憲法の特徴、社会権。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
13	20 世紀前半―フランス・ドイツの社会と法（２）	戦間期における人権の抑圧―ホロコースト、占領下のフランス。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
14	20 世紀後半――女性の権利をもとめて―女性解放運動（フェミニズム）の高まり（１９６０年代）	女性解放運動の２回の波。第１の波（１９世紀末～２０世紀初頭)、第２の波（１９６０年代以降)。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。
15	授業のまとめと復習―グローバル社会における人権保障	人権保障の課題。	レジュメの指示にしたがって予習・復習をおこなっておくこと。

関連科目	西洋の裁判の歴史、西洋女性史

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験９０％、授業内の提出物など１０％によって総合的に評価します。（詳細は初回の講義で説明します）授業中の私語については、厳しく対処します。
学生へのメッセージ	高校での世界史しか勉強しなかった人にもかわりやすい授業をします。気軽に質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	世界の政治	科目名（英文）	World Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目：国際政治関係の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	期末の試験（論述式。5問出題して2問を選択してもらう予定です）の結果によって評価を行います。 持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。 ただし評価に出席点は加えません。

科目名	世界の政治と社会	科目名（英文）	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。 前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。 歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果（資格）	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容･成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける
2	冷戦時代の国際関係（1）	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係（2）	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係（3）	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係（4）	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（1）	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ（2）	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国･北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目：国際政治関係の科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ･S･ナイ・ジュニア（田中明彦訳）	有斐閣

評価方法（基準）	期末の試験（論述式。5 問出題して 2 問を選択してもらう予定です）の結果によって評価を行います。 持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。 ただし評価に出席点は加えません。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、３年次の「専門演習Ⅱ（通年)」及び４年次の「卒業研究（通年)」においてその理解に必要な基礎知識の再確認を主眼とします。「国際私法」の講義は３年次の開講ですので、この演習では、２年次までに履修する授業科目を中心に、関連知識を整理することが目的となります。
到達目標	国際私法の理解に必要な知識として、特に、民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法の基本的な知識の理解を目標とします。
授業方法と留意点	国際私法に関連する基礎的知識を体系的に整理し、「それらの問題点は何か」「何が重要な事項なのか」といったことを資料として配付し、問答形式で行うこととします。なお、理解度の確認のための課題レポートの提出を最後に求めます。参照に必要なため、ポケット六法などを持参すること！
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１.「専門演習Ⅰ」の進め方、３年次「専門演習Ⅱ」、「卒業研究」との関係などの説明 ２．財産法・家族法(戸籍法を含む)の順序で、国際私法に関連する重要事項を検討 ３．国際私法の概略の説明と総括 １については、１回程度 ２については、１３回程度 ３については、１回程度を使って行う。
関連科目	民法総則、物権法、担保物権法、債権法、親族法、相続法など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	「課題レポートの理解度」を中心として、「質問に対する発言状況」も加えて総合的に評価します。
学生へのメッセージ	民法の体系を考えながら、民法関係全般の基礎知識を再確認しましょう。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅰは、専門演習の入り口です。そこで、この専門演習Ⅰでは、本格的に行政法上の事例を学び研究する３年次での専門演習へ向け、初歩的な行政法上の事例を取り上げます。 法的思考の中でも、行政法的な思考を培うことを目標とします。
到達目標	行政法に関する基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	授業は各自が、自ら選択したテーマについて、その研究結果を発表し、全員で討論する方法をとります。 積極的に発言していただくことを期待しています。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に報告してもらいます。 ２．報告の内容に対して、全員で討論を行います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習での積極性を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	必ず、毎回、出席すること。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。
到達目標	商法全般の知識を習得する。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。出席と受講態度を総合して、判定する。
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	専門演習Ⅱ（３年ゼミ）では、会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に沿って授業をすることにします。ビジネスパーソンとしてコンプライアンス能力を養うのを目的とし、具体的にはビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識の修得を目標とします。 本演習は専門演習の準備段階として、２年生にも取り組みやすい法分野の判例を選んで学習してもらいます。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識を修得する。
授業方法と留意点	２～３人のグループに分けて、各グループに判例研究をしてもらい、その結果を発表してもらいます。発表日の欠席は厳禁です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	２年生でもとっつきやすい民法、労働法、刑法などの法分野から判例を選んでもらいます。もちろん、３年でやる会社法・有価証券法・独禁法の判例でもかまいません。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容も評価する。なお、六法を必ず持って来ること。
学生へのメッセージ	趣味：映画鑑賞（好きな映画「野獣教師（主演：トム・ベレンジャー)」理想の教師像を描いた作品。「教授と呼ばれた男（主演：ベン・ギャザラ)」腰抜け教授には、この男の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。）
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	日本法史に関心をもち、またその基礎的な知識を身につけることを目標とする。日本の伝統的な法文化を知り、またそれが西欧法継受によって捨て去られることの意味を考えさせる。
到達目標	日本の法史に関心を持ってもらい、それにかかわる基本的知識を身に着けさせる。
授業方法と留意点	【授業内容】 「日本法の歴史」
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	学生諸君と相談の上、裁判史なり刑事法史なりといったテーマを設定して、そのテーマにそって、その時代の法文化を考えることにしたい。分担を決めるので、担当者は十分な準備が必要である。
関連科目	近世日本の法文化・日本の人権の歴史・家族と地域の歴史・日本女性史・祭りと地域の法社会史
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行わない。出席を重視するが、プレゼンテーションの回数や内容も評価の対象とする。
学生へのメッセージ	楽しく学び、ほどほどに息を抜きましょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	歴史が好きで、意欲的に取り組むことのできる学生に選択してもらいたい。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	このゼミでは、租税法の基礎的な知識を習得するとともに、税の世界の考え方に触れることができます。また、租税法は経済活動と密接に関係しており、租税について学ぶことは社会経済の動きを考えることにもつながります。 　社会人となれば何らかの形で経済活動に参画するため、租税と関連しないわけにはいきません。租税法は、皆さんが社会人となった場合にも有益な学問であり、いわゆる実学の代表格といえます。
到達目標	①租税法の原則、基本的考え方が概略分かるようになること。 ②判例等の読み方に慣れること。 ③個人の確定申告書の作成ができるようになること。
授業方法と留意点	配付資料に基づき、問題点等について議論していきますので、自分の考えを積極的に発言してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	租税法を学びながら、現在の社会経済との関わりについて考えていきます。 この演習は、専門演習Ⅱへの導入という位置づけですので、判例研究を行えるように租税法の基礎を学びます。また、社会人体験ゲームの結果を基に、所得税の仕組みや税額の計算方法を学び、最後には個人の確定申告書を作成します。
関連科目	国税通則法及び所得税法等の各税法、財政学、憲法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点により評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰ　は、将来かかわることになる租税の世界に慣れて頂くことを主眼としています。皆さんは、消費税以外に馴染みがないかもしれませんが、所得税などについても比較的理解しやすい内容としていますので心配はいりません。一足先に社会人になったとお考えください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。
到達目標	国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	ゼミ形式。毎回欠かさず出席すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3 年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。演習での勉学姿勢、および提出物の内容などにより評価します。
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするゼミである。民事法は財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。典型的裁判例、法ことわざを素材とすることにより民事法の基礎的知識を確実に習得することを目標とする。
到達目標	２年生時は民法の基礎的な知識の復習を主とし、３年生時以降に自主的な学習をするための準備期間としての性格が大きい。
授業方法と留意点	民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）及び権利の実現に関する法（手続法）の基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は財産と家族という日常的で現実的なことを扱う法であり、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	基本的に２年生時は講義をするが、様子をみた上で判例プラクティスⅠ、Ⅱ、Ⅲ、判例百選から選んだ判例を検討する。 宅建等の資格試験にも有益なように、主に不動産及び債権の実現という現実的な問題について検討する。法律の学習には抽象的命題（条文、学説・判例）の具体例を知ることと紛争がどの命題に関する問題なのか二つの側面～「具体化と抽象化」、平たく言えば「例えば～、」と「要するに～、」～がある。論理の展開にはこの二つの側面（具体化と抽象化）を意識することが必要である。各ゼミ生は、このことに留意して与えられた題材に取り組むことが重要である。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	与えられた題材に対する取り組み、授業中の態度、出席状況によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	積極的に議論すること

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第一段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	地域の現場に出る勇気を持つ。他の地域を見て、人の話を聞いて、自分の住む地域の特徴に気づくよう日々努める。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査が最大の特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動や聞き取り、読書で得られた知見のまとめへの熱意で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。
到達目標	問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけます。
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	参加の程度とその都度の成果により評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	「専門演習Ⅰ」は、3年次の「専門演習Ⅱ」と、４年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を２年半かけて深く学ぶための準備を行うためにある。したがって、この準備を完了することが専門演習Ⅰの目的である。
到達目標	スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけること。
授業方法と留意点	講義は演習形式である。具体的には、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション等を設定し、毎回の授業を展開するので、能動的に学習することが望まれる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・方法と内容：スポーツに関係する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	刑事手続に関する十分な知識を修得する。
授業方法と留意点	受講生による報告を中心とする。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個別報告の内容、全体討議における発言・態度等を総合的に評価して判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解するということ、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけではなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思います。 3年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習Ⅰはその準備期間という位置付けでもあります。
到達目標	議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	毎回、2-3人1グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。 報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたく思います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていきたいと思います。皆さんが気楽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえるように話す、という練習をしていただきたいと思います。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思いますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11号館9階　家本准教授室
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：20時間

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	「民法判例を読む ― 基本判例を素材として　―」
到達目標	本演習では、判例の読み方を学びます。最終的には、自力で判例を読み解き、関連判例・文献を整理して、自力で判例研究ができるまでの実力をつけることが目標となります。 なお、本ゼミでは、3 年次に、他大学（近畿大学・立命館大学・京都女子大学）との合同ゼミ（法律討論会）を行います。この討論会を勝ち抜く実力の養成も副次的な目標となります。
授業方法と留意点	報告は、2～3 人のチームで行います。受講者には、チームの中での協調性、および、議論に参加する積極性が求められます。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	民法判例を読む　－基本判例を素材として－ 事前事後学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習に臨む姿勢、報告内容等を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむをえず欠席する場合は、メール等で必ず連絡するように。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	・専門演習Ⅰでは、3回生以降のゼミを進めていく上での基礎的な力を養う。 ・本演習では、原則として刑法及び刑事学の争点について、報告者の報告をもとに演習参加者全員で議論・討論する。 ・また、参加者と相談の上、刑事法の事例問題（公務員試験、司法試験、法科大学院入試）を解く回も必要に応じて設けたい。
到達目標	・公務員試験で出題される刑法の問題は、刑罰法規の解釈をめぐって争われる論点と、それに対する判例や通説の考え方を正確に理解できているかのみを試しているだけで実は極めて易しい。問題演習を通じて確実に解けるようにする。 ・ロースクールをはじめとする大学院受験を希望する者には答案作成の指導も行う。
授業方法と留意点	・演習方式（問題演習、報告と議論） ・刑事法が好きな人や、公務員（地方・国家公務員行政職、裁判所事務官、検察事務官、労働基準監督官、刑務官、警察官、消防官など）になろうとする者、あるいは、大学院進学予定者で、刑法の勉強が不可避な者の参加を歓迎する。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	・刑法総論、刑法各論および刑事学に関連したテーマを選び、または、刑法の問題演習を通じ、３年ゼミに向けての基礎を固める。
関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志ほか	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社

評価方法（基準）	・原則として、報告の質（自ら主体的に学習や調査をしたか）および議論への参加度（他者を配慮しつつ主体的に議論に参加したか）をもとに成績評価を行う。
学生へのメッセージ	・各種公務員試験、大学院入試を志す学生は、漫然と文献を読むだけではなく、必ずペンをもって何度も過去問を初めとした演習問題に挑み続けること。合格するための最短経路はこれ以外にありません。
担当者の研究室等	11号館10階　小野准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	専門演習Ⅰでは、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。これから 2 年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けてもらいたいと思います。また、これから 2 年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことを目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2，3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待している。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 　発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2．コミュニケーション技能重視型： ３人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの 2 年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で最低限、民法の制度については詳細に把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	本演習では、ティベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込む。そのために、判例の入手方法、読み方、理解に必要な法律知識の獲得、それの報告をできるため技術等を身につけることを目標としている。
授業方法と留意点	２年次の予定としては、①個人による社会問題の報告（→報告方法・改善点を把握）、②グループによるディベート（集団での活動方法・説得的なものとはいかなるものであるのかを把握）、③グループでの判例報告、としている。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。 そのため、新ゼミ生の獲得もゼミ生自身でガイダンス等において説明をおこない、主体的に動いてもらうことを考えています。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えています。

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅰの目的は、「法哲学」という学問分野に親しんでもらうことです。はじめに教員が法哲学にかんするさまざまな具体的問題を提示しますので、ゼミ生にはそのなかから自分の好きな課題を選んで報告を行ってもらいます。専門演習Ⅰの終了時に、全員で話し合って次年度以降の共通テーマをひとつ決定する予定です。
到達目標	報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、報告やグループ討論の仕方を習得すること。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなで討論を行います。必要に応じて教員（松島）が学生の発表内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	具体的にはクローン技術は規制すべきか、自己決定はどこまで可能か、社会保障制度は本当に必要か、動物実験は是か非かなどの問題群に２人１組で取り組んでもらいます。報告の準備（資料収集やレジュメ作成など）はゼミの時間以外に行ってもらいますので、そのつもりでこのゼミにこのゼミに臨んでください。
関連科目	直接的には法思想史、法哲学総論、法哲学各論に関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、演習中の報告内容や発言回数、グループ討論への参加度などを総合的に判断して評価します。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館９階　松島講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	平成の大合併についての文献を講読した上で、「合併後のまちづくり」に着目し、グループで事例研究を行う。グループごとに事例を一つ選び、調査を行った上で、研究成果を報告する。
到達目標	地方自治分野において、事例研究を行うための知識と技能を身につける。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 文献講読 教科書を分担してレジュメにまとめ、概要と疑問点を発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 事例としては、奈良県葛城市、三重県紀北町、熊本県氷川町などが候補となる。 3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、現地調査、インタビュー調査によって結論を導く 4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）」
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	平成の大合併と財政効率：市町村の適正規模は存在するか？（仮題）	増田知也	金壽堂出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	到達目標の達成度 60%　、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	平成の大合併が地域にもたらしたものは何だったのか、ということを考えていきます。フィールドにも積極的に入っていきたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	専門演習Ⅰ	科目名（英文）	Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	次年度以降の専門演習に備えるべく、政治学の文献についての読み書き能力や論理的思考力、論理的表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治的テーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような能動的学修の場を提供します。 学問や仕事に対する知識・感情・意思を失わないような大人になるべく、ともに頑張っていきましょう。
到達目標	政治学に関する書物、新聞記事、評論などを読んで、あるいは自分が興味がある政治的テーマについて、その内容を理解し、要点をまとめ、他者に対して明確に発表することができる。 有意義な大学生活を送るべく、友人を見つけることができる。
授業方法と留意点	講義や発表形式で行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	初めに発表の仕方や資料・文献の見つけ方についてガイダンスをします。また学生の皆さんに自分が興味を持っていて発表したい政治的テーマやそれに関する文献について自由に決めてもらいます。次年度の専門演習に向けて読解能力や論理的思考力、論理的表現力を高めることが大きな目的ですので、政治学に関わる新書や総合雑誌レベルの資料について発表してもらうのが望ましいです。 毎回学生の皆さんに政治的テーマやそれに関する文献についてレジュメかパワーポイントで発表してもらい、皆さんで自由に議論をしていく予定です。 政治的テーマについてですが、それが政治と関係すると言えるのならば、映画や小説のような芸術作品や、心理学や経済学のような他の学問の領域と絡めても構いません。 政治的テーマが定まっていてもまだしっかりとした発表が難しい場合は、その政治的テーマに関する資料や文献を輪読する場合もあります。 ただし皆さんの希望もあるでしょうから、どのような内容にするかは皆さんと相談して決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業での発表と参加態度で評価します。
学生へのメッセージ	有意義な大学生活を送るには、まず助け合える友人を作ることが大事です。ぜひ積極的に大学のいろんな勉強会やイベントに参加するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	卒業研究論文の作成に向けて、３年次の専門演習Ⅱは、「国際私法の構造」を理解するために、判例を使った検討を中心として各自あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確実なものとするために、前期は、国際私法の構造についての設題を検討します。３年次終了時には卒業研究論文のテーマの提出も求めます。
到達目標	国際私法総論の理論構造と、各論の主な準拠法及びその連結政策についての理解を目標とします。
授業方法と留意点	「国際私法の構造」についての設題に答えるという形で進め、その後、「国際私法の諸問題」について判例研究をします。双方向性を重視して、討論を主体とする形式で行い、判例報告では、レジュメの作成を求めます。 なお、年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポートと卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期 １．「国際私法の構造」について、重要であると考えられる事柄を設題にして検討する。 ２．重要であると考えられる国際私法事件の判例の解説。 後期 １．構造の理解を前提として、国際私法の諸問題について判例を使って具体的な研究をする。提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を直接読んで検討し、レジュメを作成して報告することを求め、その後、その報告を材料として全員で討議・検討する。なお、関連する各国実質法については、必要な範囲で適宜講義する。 ２．年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポート及び卒業研究論文テーマの提出を義務づける。
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法、民法、商法、民事訴訟法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際私法判例百選(第２版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	授業で紹介します		
2			
3			

評価方法（基準）	「報告レジュメ」、「報告内容」及び「課題レポート」を総合して評価します。
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成など日本語の正確な知識が必要になりますので、日本語を意識し、文章力を磨いて下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	卒業研究論文の作成に向けて、３年次の専門演習Ⅱは、「行政法の構造」を理解するために、判例を使った検討を中心として各自あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確実なものとするために、判例報告に入る前に、行政法の構造について簡単な知識の確認も行い、３年次終了時には卒業研究論文のテーマを確定して提出を求めます。
到達目標	行政法総論の理論構造と、各論としての国家賠償法及び行政争訟法についての理解を目標とします。
授業方法と留意点	「行政法の構造」についての問題に答えるという形で進め、その後、「行政法の諸問題」について判例研究をします。双方向性を重視して、討論を主体とする形式で行い、判例報告では、レジュメの作成を求めます。 なお、年度の終わりには、行政法の理解度を評価するための課題レポートと卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期 １．「行政法の構造」について、重要であると考えられる事柄を問題形式にして検討する。 ２．重要であると考えられる行政事件の判例の解説。 後期 １．構造の理解を前提として、行政法の諸問題について判例を使って具体的な研究をする。提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を直接読んで検討し、レジュメを作成して報告することを求め、その後、その報告を材料として全員で討議・検討する。なお、関連する法令については、必要な範囲で適宜講義する。 ２．年度の終わりには、行政法の理解度を評価するための課題レポート、及び卒業研究論文テーマの提出を義務づける。
関連科目	憲法、民法、刑法、民事訴訟法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告レジュメ、報告内容及び課題レポートを総合して評価します。
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成など日本語の正確な知識が必要になりますので、日本語を意識し、文章力を磨いて下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、公務員採用試験や各種の資格試験対策についても指導する。
到達目標	商法について、全般的な知識を習得する。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業のテーマ：商法に関する重要な法律問題の研究 方法：判例・学説の研究 事前、事後学習課題：割り当てられたテーマにつき十分に研究すること
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席率、演習への参加態度を総合的に判断して行う。
学生へのメッセージ	授業には出席し、積極的に議論に加わってください.
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習 II では、卒業研究の準備として、現代国際社会が抱える様々な問題を、各自がこれまで学んだ国際法の基本的知識などを基礎に国際法の視点からより専門的に考えることを主な目的とする。演習での討論を通じて各自が卒業論文のテーマの決定を行うことを最終的な目標とする。あわせて就職活動に関連する情報交換も行う予定である。
到達目標	卒論作成へ向けて卒業論文のテーマの決定を行うことを最終的な目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選択したテーマに従った報告、討論を中心に進める。 加えて後期には卒業論文作成の方法など卒業研究の準備を始めることにする。 日常的に英語力の養成も心がけたい。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	特に前期は、各自の選択したテーマに従った報告、討論を中心に進める。 後期には卒業論文作成の方法など卒業研究の準備を始めることにする。 日常的に英語力の養成も心がけたい。 日常的な活動を通じて教員及びゼミ生の交流を深めると共に、コンパやゼミ研修旅行などを計画することによってさらにゼミの結束を強めたい。 （1）今年度のゼミの内容・方針を確認する。 （2）～（29）　各人の卒論テーマ確定のための検討を行う。 （30）各人の卒論テーマの発表
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	各自の報告義務の履行、演習での討論への参加程度及び演習への貢献度などを考慮して総合的に評価する。
学生へのメッセージ	演習は、専門的な知識を他の学生との討論を通じかつ教員の個人的な指導を受けながら身につける絶好の機会であると同時に、他の学生とも定期的に交流を深めることのできる数少ない機会でもあることを認識する必要がある。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に沿って授業をすることにします。ビジネスパーソンとしてコンプライアンス能力を養うのを目的とし、具体的にはビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識の修得を目標とします。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験３級に合格できる法知識を修得する。
授業方法と留意点	会社法・有価証券法・独禁法の重要判例を判例百選等からピックアップし、割当てて研究してもらい、発表する方式にします。レジメ等を配付して発表するのも、パワポで作成したスライドを使用するのも自由です。発表日に欠席するのは厳禁です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	会社法・有価証券法・独禁法の重要判例を判例百選等から選んでもらい、各グループの研究結果を発表してもらう。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席は必須。発表の内容も評価する。なお、六法を必ず持って来ること。
学生へのメッセージ	趣味：映画鑑賞（好きな映画「野獣教師（主演：トム・ベレンジャー)」理想の教師像を描いた作品。「教授と呼ばれた男（主演：ベン・ギャザラ)」腰抜け教授には、この男の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。）
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	日本の法文化や法の変動について関心をもち、主体的に調べ、議論を通じてその理解を深めることを目標とする。過去の法だけでなく、現在の法をも視野に入れて取り組むことにしたい。また、法や紛争の背後にある経済的・社会的・思想的対立関係についても眼を向けたい。その意味では、このゼミは法社会学、法社会史の性格をもっており、法や社会に対して問題意識にあふれた諸君の選択を期待している。
到達目標	将来卒論をまとめるのに必要な基礎的知識や、情報を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自が関心をもったテーマについて報告してもらう。将来の卒業研究につながる基礎作業ともいえるゼミであり、文献調べ、資料収集、テーマに関わる研究上の論点整理などが必要となる。報告者の問題意識を高めるためにも、他の参加者が質問したり、批判することが重要であり、積極的な参加を期待する。学生諸君にとって文章を書く機会が多いとはいえないので、本ゼミではとくに作文指導に力を入れることとする。原稿用紙の使い方から始めて、主語－述語の一致など、基本的なところから指導する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期・後期とも、翌年度の卒業研究論文執筆を視野に入れて、各自が興味をもつテーマについて調べ、プレゼンテーションし、討論を行うことにしたい。
関連科目	卒論作成に関わる全ての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席重視であるが、プレゼンテーションの回数や内容を評価に加える。
学生へのメッセージ	少年老い易く学成り難し　一寸の光陰軽んずべからず 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	租税法の学習を通じて、現実の社会経済と租税法との関連について理解を深めていきます。社会人になった場合、どの職場でも要求されることは、何事にも自主的、積極的に取り組み、自分で考え工夫していくことです。ゼミの題材は租税法の分野ですが、それを一つの教材として、各人が問題意識を持って考えてもらいたいと思います。また、ゼミは知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力をつける場でもあります。自分の考えを整理して相手に正確に伝える能力も社会に出ると大事です。是非いろいろな意味で有意義なゼミにしてください。
到達目標	①租税法における種々の重要問題について、自分の見解を持ち表現できるようになること。 ②租税法の基本的な考え方を理解すること。 ③判例の読み方に習熟し、卒業研究において活用できるようになること。
授業方法と留意点	配付資料等をもとに租税法の基礎的な理論や個別税法の仕組み、問題点等について研究していきます。基本的に、報告者が担当テーマの発表を行い、それに基づいて討論していきます。卒業研究のための準備にもつながりますので、必ず出席してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例や裁決事例を素材にして、問題の本質を探り、検討します。方法としては、毎回担当者を決めて発表してもらい、各事例ごとの法解釈や事実認定上のポイントにつき解説します。重要な税法である所得税法、相続税法、法人税法、消費税法等について議論しながら考えていきます。
関連科目	所得税法、相続税法、法人税法及び消費税法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点により評価します。特に、議論への積極的な参加や課題発表を重視します。
学生へのメッセージ	ゼミは、社会で出てから要求される資質を向上させるのに絶好の機会を提供すると思いますので、ゼミを重要視してください。自由に発言できる雰囲気のゼミにしましょう。出席することが重要です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実に生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになる。また、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになる。
授業方法と留意点	ゼミ形式。毎回欠かさず出席すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思います。前期は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおき、後期は、日々動きの激しい国際情勢を把握するトレーニングに重点をおきたいと思います。そのためには、配布した資料の予習、課題についての調査（＝情報収集)、そして演習での報告およびそこで問題となった点の復習や再調査が求められます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	平常点（演習での勉学姿勢）および提出物の内容などにより評価します。
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2 年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	不動産登記、担保物権、民事執行等について復習及び研究をすることにより不動産取引、金融についての知識を確実なものとする。実社会においても必要な知識を深めるだけでなく、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎を得るようにする。
到達目標	民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達する。
授業方法と留意点	【授業内容】 裁判例、文献を検討して、その中で，各自が関心を引く題材，課題を探し出し，レポートの作成等を通じて，卒業研究に繋がる準備を進める。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	基礎的文献、判例プラクティス、判例百選から選んだ題材について、検討、討論を重ねる。それによって、法学思考に磨きをかける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加の態度、報告内容によって、評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この４つの力をバランスよく養っていきたい。
到達目標	地域の現場に継続的に通う意志を持つ。地域の間でどのような共通点、相違点があるか気づくように努める。
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査が最大の特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動や聞き取り、読書で得られた知見のまとめへの熱意で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	本演習は報告と討論を中心に行います。報告者は、報告の下準備として様々な文献を「読む」という作業、論点をまとめて報告レジュメを「書く」という作業、そして報告の場面では議論の中で「話す」という作業を行います。それ以外の参加者は、報告者が素材とするテーマについてあらかじめ「読む」という作業、議論の中で「話す」という作業を行います。このような作業を通じ、憲法に対する理解は、これまでよりもさらに深いところに到達できると考えています。そして、それをもとにして、各人が作成する卒業研究のテーマを決定し、論文として完成させることを最終的な目的としています。
到達目標	卒業研究に対応できる力を身につけます。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業研究論文の作成の前段階として、憲法全般についての理解を深めます。 ある一定の大きなテーマを置いてその上で報告を行ってもらいます。 その後に、各受講者の卒業論文の構想について報告・討論を行います。題材の絞り込みとテーマ設定、論文の構想づくりまでを３年次で終了し、可能な限り早期に執筆を開始できるよう準備を整えていくことが目標となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	憲法に関連するテーマを採り上げ、報告、議論を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告をもとにして評価します。
学生へのメッセージ	何かしようと自ら考える、話してみる、実際に行動してみる、といったことを、勉強面だけではなくコンパ、旅行、その他ゼミの様々な側面で実践してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。
到達目標	次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養う。
授業方法と留意点	授業の方法は演習形式。 専門演習演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 各自が能動的に取り組むことが必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域（主に、法学・政治学・法政策学）から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	刑事手続をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。
到達目標	刑事手続に関する十分な知識を修得する。
授業方法と留意点	受講生による報告を中心とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、受講生が各自関心のあるテーマについて報告を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個別報告の内容、全体討議における発言・態度等を総合的に評価して判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思っています。 後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。
到達目標	議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	前期はおもに、2-3 人を 1 グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。 後期は、模擬裁判をおこなうことを考えていますので、その準備と実施がおもな活動となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1 人につき、2-3 回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも 1 度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2 度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。 後期は 4 年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることになります。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢（80%）、課題・提出物（20%）を評価の対象とします。
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：65 時間

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	【民法総合演習】 本演習では，受講生の法的問題解決能力の向上を目的として，現実に，今，社会で問題となっている，民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。 夏期休暇中に、他大学（近畿大学・立命館大学ほか）との合同ゼミ（法律討論会）も予定しています(全員参加)。
到達目標	民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にする。
授業方法と留意点	報告は2～3名のチームで行います。報告者チームには、互いに協力し、関連文献・判例をふまえた報告を行うことが求められます。 本演習は，民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履修が必要です。 なお、ゼミは毎回の出席が前提であり、無断欠席は許されません。やむを得ず欠席する場合は、メール等で必ず連絡してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	民法総合演習 事前事後学習課題については適宜指示します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	報告，レポートおよび平常点（授業に臨む姿勢など）を総合評価します。
学生へのメッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び，議論し，思いっきり遊んで，良いゼミをつくっていきましょう。
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	・専門演習Ⅱでは、4回生で作成する卒業論文の執筆を進めていく上で、論文の書き方をも視野に入れ、刑事法の基礎的な力を養う。 ・本演習では、原則として刑法及び刑事学の争点について、報告者の報告をもとに演習参加者全員で議論・討論する。また、参加者と相談の上、事例問題を解く回も必要に応じて設けたい。
到達目標	・公務員試験で出題される刑法の問題は、刑罰法規の解釈をめぐって争われる論点と、それに対する判例や通説の考え方を正確に理解できているかのみを試しているだけで、実は極めて易しいので、これを確実に解けるようにする。 ・本演習を通じて、確実に公務員試験刑法の問題を解く能力を身につける。 ・ロースクールをはじめとする大学院受験を希望する者には答案作成の指導も行う。
授業方法と留意点	・演習方式（問題演習、報告と議論） ・刑事法が好きな人や、公務員（地方・国家公務員行政職、裁判所事務官、検察事務官、刑務官、警察官、消防官など）になろうとする者、あるいは、大学院進学予定者で、刑法の勉強が不可避な者の参加を歓迎する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・刑法（刑法総論および刑法各論）や刑事学に関連したテーマを選択し、参加者全員で議論するほか、随時、公務員試験で出題される刑法の問題を解く。 ・卒業論文作成に向けての基礎を固める。 報告にあたり、入手が容易な判例集として、以下のものをさしあたり挙げる。 ・山口厚＝佐伯仁志編「刑法判例百選Ⅰ総論（第７版)」、『同Ⅱ各論（第７版)」（有斐閣・2014年） ・成瀬幸典＝安田拓人＝島田聡一郎編『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』、『同Ⅱ各論』（信山社・2010～2012年） その他の教材（体系書、基本書、コンメンタールなど）については、開講時に説明を加える。
関連科目	刑事法概論、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、経済刑法、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、少年法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各自の研究テーマに応じて開講時に指示する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	各自の研究テーマに応じて開講時に指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	・原則として報告の質と議論への参加度をもとに成績評価を行う。 評価方法 　演習である以上、出席とゼミへの参加態度を総合的に考慮して評価します。 　無断欠席が多い場合、単位を与えないことがあります。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしいるか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生へのメッセージ	・各種公務員試験、大学院入試を志す学生は漫然と文献を読むだけではなく、必ずペンをもって何度も過去問を初めとした演習問題に挑み続けること。合格するための最短経路はこれ以外にありません。
担当者の研究室等	11号館10階　小野准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。
到達目標	前期は、2年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨く。 後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思うテーマを見つけられるよう、それぞれ興味がある部分について最近の判例・学説の動向を整理し、研究の方向性を探っていく。
授業方法と留意点	【授業内容】 3年次は、2年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の２つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 　発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の２点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2．コミュニケーション技能重視型： ３人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	3年次の専門演習は、2年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達の輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　萩原准教授室
備考	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	3年次には、2年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身につことを目標としている。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得ることが目標である。
授業方法と留意点	3年次の予定としては、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。 また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。 そのため、新ゼミ生の獲得もゼミ生自身でガイダンス等において説明をおこない、主体的に動いてもらうことを考えています。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えています。

科目名	専門演習Ⅱ	科目名（英文）	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅱの目的は、前年度に選んだ共通テーマへの理解を深めるとともに、次年度の卒業研究を見据えて各自の個別テーマを決定することです。前期は専門文献をみんなで輪読し、共通テーマにかんする専門知識の共有を目指します。後期は共通テーマから各ゼミ生がさらに個別のテーマを絞り込み、資料の下調べとプレ報告をしてもらいます。
到達目標	次年度の卒業論文を見据えて、自分が納得できる卒業論文のテーマを決定し、執筆に必要となる資料を収集すること
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなで討論を行います。必要に応じて教員（松島）が学生の発表内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は共通テーマにかんする専門文献を輪読します。各担当者には該当箇所を正確に要約したレジュメの提出を求めます。 後期は各ゼミ生の卒業論文の構想を個別に報告してもらいます。卒業論文の一部となりうるような報告原稿の作成が必要となります。 参考までに過去の専門演習Ⅱの共通テーマを以下に掲載しておきます。 「犯罪と刑罰の諸問題」(1期生・2013年度)、「平等概念の再検討」(1期生・2014年度)、「正義の境界線」(2期生・2015年度)
関連科目	直接的には法思想史、法哲学総論、法哲学各論に関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、演習中の報告内容や発言回数、グループ討論への参加度などを総合的に判断して評価します。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	さまざまな機会を利用して、かなりの量のレポートを課す予定です。自分の言葉で文章をつづることはなかなか骨の折れる作業ですが、必ず次年度の卒業研究に役に立ちますので、頑張って取り組んでほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館9階　松島講師室
備考	

科目名	相続法	科目名（英文）	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民法第５編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提としての財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。
到達目標	日常生活で良く起こる相続に関し民法ではどのような条文になっているのか、遺言はどのように作らなければ有効とは言えないのかといった点につき正確な知識の習得と、具体的な遺産分割の計算方法を練習する。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行うが、具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。また、親族法の理解が前提となるので、その知識の確認をしておくこと。
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続法の概略	相続法とは	教科書第７章を読む 重要事項の確認
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	教科書第８章を読む 重要事項の確認
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	重要事項の確認
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	重要事項の確認
5	相続の効力①	相続の一般的効果	教科書第９章を読む 重要事項の確認
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	重要事項の確認
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理、遺産分割	重要事項の確認
8	相続の承認・放棄①	単純承認、限定承認	教科書第１０章を読む 重要事項の確認
9	相続の承認・放棄②	相続放棄	重要事項の確認
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	教科書第１１章・第１２章を読む 重要事項の確認
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	教科書第１３章を読む 重要事項の確認
12	遺言②	遺言の効力	重要事項の確認
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	重要事項の確認
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	教科書第１４章を読む 重要事項の確認
15	全体の復習	相続全般を振り返る	すべての重要事項の再確認

関連科目：親族法、民事法概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法７　親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的に定期試験の結果により評価する。授業中に小テストを行うこともある。
学生へのメッセージ	相続法の理解を通して、「相続」がもつ意義を再確認してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することがある

科目名	租税法Ⅰ	科目名（英文）	Tax Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法Ⅰでは、税法の総論に関する事項と個人に関係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。
到達目標	①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。 ②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。
授業方法と留意点	講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	教科書の第１章を読んでおいてください
2	租税法序論	税法の法源、租税実体法と租税手続法	教科書の第１章を読んでおいてください
3	租税法の原則	租税法律主義、租税公平主義	教科書の第２章を読んでおいてください
4	租税法の解釈と適用	租税法解釈のあり方	教科書の第２章を読んでおいてください
5	納税義務の確定等	納税義務の成立･確定、更正の期間制限、附帯税	教科書の第７章を読んでおいてください
6	所得税法（１）	所得税の特色、納税義務者	教科書の第５章を読んでおいてください
7	所得税法（２）	包括所得概念、担税力に応じた負担	教科書の第５章を読んでおいてください
8	所得税法（３）	所得計算の概要	教科書の第５章を読んでおいてください
9	所得税法（４）	所得の帰属、権利確定主義	教科書の第５章を読んでおいてください
10	所得税法（５）	所得の種類（利子、配当、退職、給与）	教科書の第５章を読んでおいてください
11	所得税法（６）	所得の種類（事業、不動産、山林、雑）	教科書の第５章を読んでおいてください
12	所得税法（７）	所得の種類（譲渡、一時）	教科書の第５章を読んでおいてください
13	所得税法（８）	所得控除と税額控除	教科書の第５章を読んでおいてください
14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	教科書の第７章を読んでおいてください
15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配付資料を復習しておいてください

関連科目：憲法、民法、商法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図解所得税	小野 賢二　編	大蔵財務協会
2	図解国税通則法	黒坂　佐藤 謙一　編著	大蔵財務協会
3	租税法	金子宏	弘文堂

評価方法（基準）	定期試験の結果で評価します。なお、中間に理解度テストを実施し、評価に反映させることがあります。
学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	租税法Ⅱ	科目名（英文）	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

現代社会では、国民は法律（租税法)に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。

租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。

到達目標

①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。
②相続税法及び法人税法の概要が理解できるようになること。

授業方法と留意点

講義方式によります。聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。

科目学習の効果（資格）

税理士試験や国税専門官を目ざす人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	相続税法と民法（相続編）との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第５編（相続）に目を通しておいてください。
2	相続税法（１）	相続税の意義、課税方式,相続税の納税義務者	教科書の第５章Ⅱの該当箇所を学習してください。
3	相続税法（２）	相続財産の範囲	同上
4	相続税法（３）	債務控除	同上
5	相続税法（４）	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	同上
6	相続税法（５）	贈与税の意義	同上
7	相続税法（６）	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	同上
8	相続税法（７）	相続税、贈与税の申告・納付	同上
9	相続税法（８）	財産の評価	同上
10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者,法人税の計算（企業会計と課税所得）	教科書の第５章Ⅲの該当箇所を学習してください。
11	法人税法（１）	法人税法 22 条と別段の定め	同上
12	法人税法（２）	同上（続き）	同上
13	法人税法（３）	同族会社	同上
14	法人税法（４）	国際課税	同上
15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配付資料を復習しておいてください

関連科目

民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	租税法	金子宏	弘文堂
2	図解相続税・贈与税	梶山 清児　編	大蔵財務協会
3	図解法人税	影山 武　編	大蔵財務協会

評価方法（基準）

期末試験の結果で評価します。なお、中間に理解度テストを実施し、評価に反映させることがあります。

学生へのメッセージ

授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。教科書は初歩的な説明にとどまりますので授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Ⅰを取らなかった場合でも理解できる内容です。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小島教授室

備考

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国際私法を中心として国際取引法、国籍法についての諸問題を各自で具体化して、それを論文として完成させることを目的とします。卒業研究は、３年次終了時に提出したテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考えるテーマを見いだすことは妨げません。就職後に必要な知識に関係するテーマに変更することも可能です。
到達目標	国際私法、国籍法、国際取引法から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において基本的な水準に達していることを目標とします。
授業方法と留意点	文献資料の蒐集や論文作成についての注意点を当初に行い、その後はテーマごとの指導として時間を指定した個別指導になります。そのために、各自の年間計画の提出を求めることもあります。なお、学年末に、学部の「卒業研究発表会」が予定されていますので、それを意識して研究して下さい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．３年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始める。検討の結果によっては、そのテーマの変更も可能であるが、明確な変更理由を示すこと。 ２．決定したテーマについて、必要な文献や判例をまず調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求める。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも１０月下旬までに提出のこと。 ３．検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成へと導く。下書きの完成時期は、１２月中旬とする。 ４．論文提出期間に入った１月の段階で最終稿を提出してもらって最後の推敲を求め、それを確認した後、捺印して教務課への提出を許可する。
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	特に、指定しない。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程を重視して総合的に評価する。
学生へのメッセージ	就活と卒業研究を両立するために、年間計画を立ててください。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	専門演習で修得した知識を基礎にして、自らが選んだ行政法上の論点についての判例を集め、それらを分析して、卒業論文を完成してもらいます。
到達目標	特定の行政法分野に関する知識を深め、具体的紛争への応用能力を培う。
授業方法と留意点	【授業内容】 行政法の講義で学んだことと演習を通じて得た知識の集大成として、自ら選んだ行政法上の論点に関する論文を作成してもらいます。 【授業方法と留意点】　個別指導を行います。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	１．　６月末までに論文作成に必要な資料の収集を終えます。 ２．　８月末までに資料の読み込みと分析を終えます。 ３．　１０月末までに原稿の素案を作成します。 ４．　１２月末までに論文を完成させます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒論の内容はもとより、取り組んだ姿勢も重視します。
学生へのメッセージ	とにかく、学業の集大成として頑張って下さい。 積極的に取り組んで下さい。ゼミの討論では積極的に発言して下さい。 また、コンパもやります。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、卒業論文の作成を目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマを推薦し、また必要な文献を紹介する。 　卒業論文の作成は、テーマにそって学説・判例を収集し、自説をまとめていくということになる。卒業論文の完成のための研究により、法律学の応用力を身につけることを目的としている。
到達目標	卒論を完成する。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業論文の指導を行う。卒業論文のテーマは、学生ごとに異なっているので、個別的な指導を行っていく。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	資料の収集、資料の読み込み、研究成果のまとめ、卒業論文の下書きおよび卒業論文の完成という順番で、指導していく。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	演習への参加態度、研究発表の内容等を総合的に判断して行う。
学生へのメッセージ	卒論の作成は、計画を立てて、地道に行ってください。 演習では、学生が能動的に研究し、積極的に議論に加わることを望む。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究では、3 年次の専門演習で決定したテーマをもとに卒業論文を作成するため、基本的には個別的指導を行う。
到達目標	各人の設定したテーマで卒業論文を完成させること。 卒業論文に見合った形式で論文を作成する。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒業論文の進展具合の定期的な点検及び各学生との個別的な卒業論文作成指導による。 専門演習終了時点でテーマの設定がなされていない学生は、早期のテーマ設定が望まれる。 国際法という専門柄から外国文献の翻訳・論評も卒論として認めることにする。 もちろん英文による卒論作成も可能である。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	とりわけ前期においては論文作成のための基礎的な知識を講義する機会も持つことになるが、基本的には卒論作成に関して個別指導を行う。 （1）～(15)　各回個々の卒研生の論文作成状況に応じて個別指導を行う。 同時に就活のサポートも行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的には完成された卒業論文の内容によって評価する。 （1）適正な形式で作成されているかどうかが最低限の要件である。 （2）その分野での基本的な知識を十分に示されているかどうかも重要である。 （3）自分の見解が論旨に沿って十分表明されているかどうかが高評価を与えられる要素である。
学生へのメッセージ	卒業研究は、専門的な知識を他の学生との討論を通じかつ教員の個人的な指導を受けながら身につける絶好の機会であると同時に、研究成果を卒論という形で残すことのできる貴重な機会である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	会社法・有価証券法・独禁法の判例研究のいずれかについて、学生の希望に従って授業をすることにします。
到達目標	会社法・有価証券法・独禁法の一定水準に達している論文を作成する。
授業方法と留意点	【授業内容】 卒論の作成。おおまかにいうと、テーマ選択と報告・文献検索収集方法の指導・構成および文章作法の指導・卒論下書作成の順序で行う。過去の卒論テーマを挙げると、株式会社の特色について・インサイダー取引・従業員持株制度について・株式払込の仮装について・商法からみたイトマン事件・法人格否認の法理の最近の展開・企業の社会的責任論とコーポレート・ガバナンス論・手形理論と権利外観理論・経済力の集中規制について・規制緩和と独占禁止法。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	テーマは各学生に選択してもらう。授業方法を参照のこと。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	法律学の論文として、テーマ、構成、文章、引用文献、引用方法等が適切であるか、一定水準に達しているか等の基準により評価する。
学生へのメッセージ	ゼミは友人を作る絶好の場なので、授業に出るだけでなく、ゼミ生同士の交流を深めてほしい。そのため、ゼミ生が希望すれば、コンパやゼミ旅行を行う。学生時代の思い出作りのためにも、大いに学生生活を楽しんでほしい。そのためには、仲の良い友達とグループで入ゼミするとなおよい。主な就職先：富山化学（後に武田薬品に転職）、大和ハウス、リヒト、エイブル、セブンイレブン、マクドナルド、レオパレス２１、大阪府警、学校法人常翔学園職員、海上保安庁、消防署など
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究論文作成のためのアドヴァイスを行う。問題意識の醸成、研究テーマの絞り込み、資料や文献の検索の仕方、論文の構成や文章の表現技法などを指導する。よい論文を完成すべく、着実な努力を求める。
到達目標	卒業論文を完成させること。
授業方法と留意点	各自研究テーマが異なるので、それぞれのテーマに沿った資料や文献を見つけ出し、その概要を報告してもらう。夏休み明けに論文の表題や、章構成、論旨、結論など、「論文の計画書」を提出させ、それをチェックする。合格した者はそれに沿って執筆をはじめ、中途もしくは完成後に何度かチェック、添削して最終提出論文を完成させる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	各自の研究テーマに沿って、基本文献を捜し、読み、報告する。多くの文献を読み込むことが必要であり、その基礎があってはじめて論文作成が可能となる。
関連科目	論文にかかわるすべての科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文の出来具合で判断する。
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期ではあるが、卒論に手を抜くと卒業できなくなってしまう。一層の奮励努力が必要。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	資料を丹念に読み、手を抜くことなくまじめに取り組むことが望まれる。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税が絡んだテーマならなんでも結構ですので幅広く考えてください。
到達目標	「はじめに」のところで問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行いますが、就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。また、どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。
関連科目	租税法全般
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	卒業論文の内容を審査して評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。努力の形跡がないものはそれ相応の評価となります。
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。 文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していきたいと思います。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。
到達目標	各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出する。
授業方法と留意点	前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には各自の草稿を基に、演習参加者全体での集団指導を中心に進めていきたいと考えています。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一歩一歩頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約１０ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階（提出課題）を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	最終的に提出された論文（卒業研究）の内容に基づいて評価します。
学生へのメッセージ	4 年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する（書き始める）ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張りましょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	各自が選択決定した研究テーマについての参考文献並びに資料の収集方法を指導する。
到達目標	質の高い卒業研究論文の作成が目標である。
授業方法と留意点	卒業研究論文の作成過程において、ゼミ形式で中間発表、討論を行うことにより、論文作成の進行を図る。なお、卒業研究のテーマの決定には、社会的、法律な関心をもっていなければならないことに留意すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	選択決定した研究テーマについて、ゼミ形式で中間発表、討論を行う。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	主に完成した論文の内容を審査して評価する。
学生へのメッセージ	実社会においても、テーマの設定、資料の収集・分析・報告は必須のことである。卒業研究論文の提出はそのための準備でもある。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	1 年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。
到達目標	ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする。地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聞く。現場での知見を蓄積する。他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にする。
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聞き取り調査、定期報告と議論を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の４つである。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	研究時限の全出席を前提とする。書籍・記事からの情報収集、参与観察と聞き取り調査、定期報告と議論の記録と、卒業論文とで評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。
到達目標	問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけます。
授業方法と留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	完成した卒業論文の内容について評価します。なお作成過程における平常点も加味します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	１１号館９階　浮田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現するための一助とする。
到達目標	自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字で的確に表現することができる。同時に、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養う。
授業方法と留意点	各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業ｓ研究の完成に必要なる資料を収集し、整理する。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。
関連科目	専門演習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究の内容を重視するが、それまでの取り組みも考慮し評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	刑事手続（少年法を含む）をめぐる諸問題に関する卒業論文を作成する。
到達目標	法学部生として、卒業研究という名にふさわしい内容・レベルの論文を完成させる。
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の出来によって評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にしていただきたいと思います。 卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどういう制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るというかたちでより深く法の世界を探求していただきたいと思います。
到達目標	卒業研究でおこなう議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考える力を養っていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、書面の添削などの指導をおこないます。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	前期中はおもに、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。最終的には 2-3 人で 1 つのテーマを担当していただき、調査結果を卒業論文としてまとめていただくこととします。 後期は 3 年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げていただきます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	おもに、模擬裁判に対する取り組みと、卒業論文の審査結果を評価します。また、卒業研究に対して取り組む姿勢も評価の対象とします。
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。
到達目標	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。
授業方法と留意点	研究テーマは、3 年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで指導する。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE 等で、最低週 1 回の連絡を欠かさないように。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	論文の内容により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	指導は予約制で行う。メール等で早め早めに予約をとるように。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多用な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成を最終目的とする。
到達目標	法学士を得るのにふさわしい研究水準の論文を完成させることを到達目標とする。
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を行う。
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社

評価方法（基準）	①問題提起を適切にしいるか。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか。 ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか。 ⑤文献の引用方法が適切であるか。 以上をもとに卒業論文の成績評価を行う。
学生へのメッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。 学生の手に届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。
到達目標	初めての論文執筆となるため、最初は論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方について指導し、重ねて、それに対応するWordの各機能の使い方を習得することを目的とする。 その後は、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	【授業内容】 前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Wordの機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は、下記２つを支柱とする；１つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。 後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。また、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定である。また、今後は、3 年生に対し卒業論文とはどのようなものか、また卒業研究は何をどのように行うべきなのかを、同じ学生目線で教示する場として、3 年生の専門演習ＩＩ内での報告会なども考えている。4 年生にとっても、自分の研究を客観的に見ることのできる貴重な体験となることと信じる。進捗状況としては、おおよそ 12 月末までに、一通り執筆を終えた段階で、提出してもらい、1 月は校正を中心とする。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業研究への取り組み方、ならびに提出された論文の審査により評価します。
学生へのメッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がます。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	2年次・3年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告（レジュメや発表方法など）を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが、本演習の目標である。
授業方法と留意点	4年次の予定としては、各自で卒業論文を作成することである。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか（中間報告）、それを文章化するに当たり、以下に読み手（この場合は教員）を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文の内容およびその取り組みから判断いたします。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。

科目名	卒業研究	科目名（英文）	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	前年度に決定した個別テーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないとは思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦労の連続かもしれません。教員（松島）がしっかりサポートしますので、自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。
到達目標	自分なりに満足できる卒業論文を各ゼミ生が仕上げること、そしてゼミ生全員の卒業論文を収めたオリジナルの論文集を作成すること。
授業方法と留意点	個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。
関連科目	直接的には法思想史、法哲学Ⅰ、法哲学Ⅱに関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	卒業論文によって評価します。その際、論文の質はもちろんですが、そこに至るまでの努力も評価の対象にします。悔いの残らない卒業論文を書き上げてください。
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！　教員（松島）も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。
担当者の研究室等	11 号 9 階　松島講師室
備考	

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名（英文）	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツに対する疑問や悩みに対して適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動愛好者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。
到達目標	体力測定の方法と評価の原理を知り実習を行うことにより、個人の身体のサイズや行動体力を把握する能力を身につける。 またスポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義と実習を行う。 実習時には授業内容に適した服装とすることが望ましい。
科目学習の効果（資格）	日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要説明	
2	体力測定（1）	体組成について	テキスト　ｐ．１０７－１０８
3	体力測定（2）	体組成の測定と評価	課題　測定結果の集計と評価
4	体力測定（3）	体力測定の意義と方法	テキスト　ｐ．１０８－１１０ 配布プリント
5	体力測定（4）	体力測定の実践	課題　測定結果の評価
6	体力測定（5）	測定結果の処理	テキスト　ｐ．１１１－１１６
7	体力測定（6）	測定結果を基にした体力評価	テキスト　ｐ．１１７－１２３
8	スポーツ相談（1）	スポーツ相談の概念、領域・範囲	テキスト　ｐ．１７１－１７５
9	スポーツ相談（2）	スポーツ相談に必要な資料収集と記録方法、企画と運営 スポーツカルテの作成	テキスト　ｐ．１７６－１７８
10	スポーツ相談（3）	スポーツ相談の技術 基本的考え方と進め方	テキスト　ｐ．１７９－１８１
11	スポーツ相談（4）	スポーツ相談で利用される技術や技法 メンタルトレーニングの具体的技法	テキスト　ｐ．１８２－１８６
12	スポーツ相談（5）	スポーツ相談の実習 東大式エゴグラム	テキスト　ｐ．１８６－１９２ 課題　エゴグラムの評価
13	スポーツ相談（6）	スポーツ相談の実習 メンタルトレーニング（1）	実習内容の確認
14	スポーツ相談（7）	スポーツ相談の実習 メンタルトレーニング（2）	実習内容の確認
15	まとめ	講義の総括を行う	

関連科目：ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツプログラミング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得は実習技能、課題提出、小テストおよび平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 実技　５０％、提出物　３０％、小テスト　２０％
学生へのメッセージ	個人でもグループでも指導できるよう実習を交えながら行います。 いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	担保物権法	科目名（英文）	Real Security
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。

到達目標

不動産取引につき一通りの知識を習得する。担保とはなにか、どのような場面でどのような役割を果たしているのか､注意すべき事柄はなにかを理解する。

授業方法と留意点

不動産取引についての理解は仕事をする上で、また自宅を購入する際などにも必要な事柄である。担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民事法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、登記・民事執行についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討する方法で行う。

科目学習の効果（資格）

理解が進めば財産法全体に興味が持て、民法に関しての応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては必須の領域である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・不動産取引についての基礎知識	・授業の進め方、受講上の注意 ・小六法の活用方法、 ・実際の競売物件をスマホなどで見ながら勉強する	小六法を持参すること。 裁判所の競売情報を見て何が重要事項なのかを確認する
2	登記簿の見方	・登記簿の記載内容 ・スマホなどで登記簿の見本を見ながら学ぶ	登記簿を見ると何がわかるのか
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	対抗要件制度の把握
4	通行権	・通行権とは何か	囲繞地通行権に理解
5	農地の売買、山林の売買	・一般宅地の売買と異なる点はあるのか	農地法の把握
6	金銭債権の権利実現（金銭執行の概略）、担保の意義・必要性	担保の果たしている役割・担保の必要性	担保について理解する
7	担保法概論	・担保法の全体像	担保物権の全体像の把握　　小六法・教科書を持参すること
8	抵当権の設定	・抵当権に関する概念の把握	用語を理解する
9	抵当権の実行と物上代位	・実行手続きの概要 ・物上代位とはなにか	実行手続きの理解
10	抵当目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	担保権者の持つ価値権と設定者の使用収益権の関係
11	法定地上権 特殊な抵当権（共同抵当、根抵当）	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	法定地上権とは何かの理解 共同抵当、根抵当の理解
12	質権	・質権の意義、効力など	質権についての理解
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類 ・留置権とはどのようなものか	先取特権と留置権についての理解
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保の意義・必要性 ・譲渡担保について	民法の条文にない担保権の種類の学習 譲渡担保の果たしている役割の学習
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、不動産取引、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 質問があれば応じる。

関連科目

民法総則、物権法、債権総論、民事執行法、破産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法３　担保物権	平野裕之ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

基本的に定期試験によって評価する。授業中に小テストを行うこともある。

学生へのメッセージ

不動産取引の全体像を把握すること、取引社会において重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは社会生活を営む上で必須である。他方、不動産取引、担保物権は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一で、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　古川教授室

備考

物権法を学習しておくことが望ましい。学生の理解度、授業の進行によっては順序、内容を変更することもある。

科目名	地域政策応用講義Ⅰ（警察行政）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的

本講義では、警察行政のなかでも生活安全と呼ばれる分野を扱う。警察組織において、刑事が、起きた事件の捜査をし、犯人を検挙するのに対して、生活安全は、事件を未然に防ぐことに力点を置く部門である。それゆえに、市民の意識への働きかけが必要であり、施策や事業は、地域などのボランティア団体の協力を得て進めていかなければならない。組織内で完結しないので、思いどおりにいかないのが基本で、どの手段で犯罪が減ったかという効果も見えにくい。そうした施策や事業の意義や課題は、現場で見て、一緒に活動してみないとわからない。本講義はその機会を提供するものである。

到達目標

活動現場に出て、自分から積極的に動く、聴く力を身につける。「こうしたらよいのではないか」という工夫を考え、できることはすぐに実践したり、そうでないことは周りと議論し、企画したりする力を養う。慌ただしい日々のなかで多くの人に防犯を意識してもらうことの難しさを実感する。

授業方法と留意点

4月から翌年1月までの間で、活動の現場を体験しながら地域防犯について学ぶ。スケジュールが通常の講義日程にはよらず、学外での活動が伴うので、そのことをよく理解して履修すること。

科目学習の効果（資格）

現職の公務員や警察官とともに活動し、仕事の目標や方法、課題を学ぶ機会になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	青パト	青色防犯パトロール（青色回転灯を装備した自動車によるパトロール）の誕生経緯を学ぶ。	配布資料の復習。
2	青パト	青パトに実際に参加する。	配布資料の予習。振り返りシートの作成。
3	青パト	青パトの長所と短所、工夫と注意点を整理する。	配布資料の予習。振り返りシートの完成。
4	ジョグパト	ジョギングやランニングを兼ねたパトロールが登場した背景と各地での実践を知る。	配布資料の予習・復習。
5	ジョグパト	ジョグパトに実際に参加する。	振り返りシートの作成。
6	啓発・キャンペーン	各地での啓発・キャンペーンについて分類をする。	配布資料の予習・復習。
7	啓発・キャンペーン	啓発・キャンペーンに実際に参加する。	配布資料の予習。振り返りシートの作成。
8	啓発・キャンペーン	啓発・キャンペーンの意義と難しさ、工夫の仕方について考える。	配布資料の予習。振り返りシートの作成。
9	地域安全マップ	子どもの安全確保を念頭に考案された地域安全マップについて学ぶ。	配布資料の予習・復習。
10	地域安全マップ	地域安全マップの作成を実際に行う。	配布資料の予習。地域安全マップの作成。
11	地域安全マップ	地域安全マップの作成を実際に行う。	地域安全マップの完成。
12	特殊詐欺対策	特殊詐欺の手口と対策について知る。	配布資料の予習・復習。
13	特殊詐欺対策	特殊詐欺対策を教える講習会に実際に参加する。	配布資料の予習。振り返りシートの作成。
14	特殊詐欺対策	特殊詐欺に対する今後の対策について議論する。	配布資料の予習。振り返りシートの完成。
15	防犯施策・事業の意義と課題	市民に働きかけ、ボランティアの協力を得て進める防犯施策・事業の意義と課題を議論する。	配布資料の予習。全体振り返りシートの作成。

関連科目

地域防犯の基礎は、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」で学ぶ。本格的な説明は、「地域防犯政策」で聴くことができる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

活動体験への参加とその積極さの程度、企画ワークショップへの参加とその積極さの程度、振り返りシートの出来具合を総合して評価を行う。

学生へのメッセージ

犯罪被害にあった人の多くは「まさか私が」と言います。それだけ、普段、防犯について個人に訴え、実際に行動をしてもらうのは難しいということです。加えて、地域でのパトロールには、できているときは、効果を実感しにくいという難しさがあります。そうした難しさを実感し、続けるための工夫を一緒に考えてほしいと思います。

担当者の研究室等

11号館9階 中沼准教授室

備考

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	この授業では、地方自治の現場における様々な事例から、地域政策を実践的に学ぶ。「住民自治」をキーワードに、住民を主体とした地域政策のあり方を考察する。
到達目標	住民を主体とした地域政策の意義を理解し、住民の目線から地域政策を分析できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	地方公務員として直面する様々な課題を知り、住民目線に立って業務に当たることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	私たちと地域政策	地域政策を取り巻く現状を概観し、住民を主体とした地域政策の必要性を学ぶ。	教科書の序章を読んでおく
2	自治基本条例	京都府福知山市における自治基本条例づくりの事例から、地方自治におけるルールのあり方について考察する。	教科書の第 1 章を読んでおく
3	地域公共人材	京都府舞鶴市における地域公共人材育成の事例から、地方自治における人材育成について考察する。	教科書の第 1 章を読んでおく
4	迷惑施設問題	奈良県葛城市における焼却場建設の事例から、迷惑施設問題が発生するメカニズムを学ぶ。	教科書の第 2 章を読んでおく
5	自治体広報	焼却場建設に関する広報の比較から、問題提起型広報の必要性について学ぶ。	教科書の第 2 章を読んでおく
6	地域紛争	広島県福山市鞆の浦の事例から、地域紛争の現状と問題点について学ぶ。	教科書の第 3 章を読んでおく
7	地方自治と国際社会	広島県福山市鞆の浦の事例から、地方自治と国際社会の関係性について考察する。	教科書の第 3 章を読んでおく
8	政策形成過程	大阪府高槻市における森林保全政策の事例から、政策形成過程と問題発見の必要性について考察する。	教科書の第 4 章を読んでおく
9	自治体組織	自治体組織と NPO の協働の事例から、自治体組織の特質と改革の方向性について考察する。	教科書の第 5 章を読んでおく
10	地域自治組織	東京都中野区の地域自治組織の事例から、地域活動活性化のための条件について考察する。	教科書の第 6 章を読んでおく
11	地縁組織と NPO	京都府京都市における地域連携の事例から、地縁組織・NPO が地域政策に果たす役割について学ぶ。	教科書の第 7 章を読んでおく
12	地域と大学	京都府京都市における地域連携の事例から、地域と大学の良好な関係づくりの意義について学ぶ。	教科書の第 7 章を読んでおく
13	指定管理者制度	大分県日田市における公民館運営の事例から、自治体における業務の委託・指定管理について学ぶ。	教科書の第 8 章を読んでおく
14	行政相談	三重県四日市市の防犯活動の事例から、行政相談が果たす役割について考察する。	教科書の第 9 章を読んでおく
15	住民自治と地域政策	授業全体を振り返りつつ、改めて住民を主体とした地域政策の意義について考察する。	教科書の終章を読んでおく

関連科目：「地方自治論」「住民協働論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	事例を通して実践的に学べる授業です。関連科目の中でも、とりわけ「地方自治論」の知識が前提となります。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室

備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	地域政策応用講義Ⅲ（地方財政論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p.1-2 の復習
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p.3 の復習 決算カードの確認
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p.4 の復習 決算カードの確認
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p.5-6 の復習
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和40年代後半から昭和50年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p.6-7 の復習 行政投資関連資料の確認
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p.7-8 の復習 レポート課題の作成
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和 61 年頃から平成 7 年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p.8 の復習 地方交付税・公債関連資料の確認
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p.9 の復習 新聞記事資料の確認
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p.10 の復習 健全化比率関連資料の確認
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p.11-12 の復習 新聞記事資料の確認
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p.13-14 の復習 新聞記事資料の確認
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p.15-16 の復習 新聞記事資料の確認
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p.17-18 の復習 新聞記事資料の確認
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p.19-20 の復習 新聞記事資料の確認

関連科目：「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）：平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積）と期末試験の点数の合計によって評価する。

学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場にしたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	地域調査入門	科目名（英文）	Introduction of Regional Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	2009 年度まで「まちを調べる」という科目名であったこの講義では、その名のとおり、大学近辺の寝屋川市や交野市のまちに出向いて、地域や小学校の活動に参加し、観察や聞きとりによる調査を行う。本年度は、交野市の自治会と、寝屋川市の小学校に伺い、ボランティアや教員と一緒に活動を行い、世話役の方や校長先生への聞きとりを行う。
到達目標	自治会と小学校の現場で活動し、聞き取りを行うことで、地域や学校での当たり前の暮らしと学習が、どのような人の思いと努力で成り立っているか実感できるようにする。
授業方法と留意点	この講義は次の２点で他の科目と大きく異なる。(1)大学の外に出向いて調査をする、(2)自治会や小学校の日常の活動に入る。ですので、欠席や遅刻はできません。
科目学習の効果（資格）	市役所職員や学校教諭の「現場」感覚がわかり、採用試験に向けた動機づけにつながるとともに、採用試験での論作文や面接などに必要な知見が得られる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	【1 日目】自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
2	自治会とは何か？地域において小学校はどのような役割を果たしている？	調査に伺う自治会や学校の日常や特徴を説明する。同時に、自分の地元での自治会や小学校について話し合う。	地元の自治会の掲示板を見たり、保護者に自治会の役員経験を尋ねる。通った小学校での地域とのつながりを思い出す。
3	【2 日目】自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
4	自治会活動に参加してみる。	交野市の自治会で資源回収活動、防犯パトロール活動に参加する。自治会の世話役の方から、地域活動のねらいや工夫、効果、充実感などを聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
5	【3 日目】小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
6	小学校の教育現場に参加してみる。	寝屋川市の小学校で、夏休みの学習教室や親子料理教室、プール教室に参加する。校長先生から、児童の日常への気配り、夏休みの教室のねらい、地域とのつながりの意味などについて聞き取りする。	聞き取りでの質問項目を考えてくる。
7	【4 日目】活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
8	活動参加と聞き取りの結果をまとめる。	自治会と小学校での活動参加と聞き取りの結果をまとめる。特に、世話役の方や校長先生の考えや気配り、気遣いについて話し合う。	聞き取りの結果を整理してくる。自治会の世話役の方と小学校の校長先生へのお礼と感想の手紙を書く。
9	――――	――――	――――
10	――――	――――	――――
11	――――	――――	――――
12	――――	――――	――――
13	――――	――――	――――
14	――――	――――	――――
15	――――	――――	――――

関連科目：「社会調査の方法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前説明から活動参加、聞き取り調査、まとめまでの全過程への参加が必須。活動参加の熱心さ、聞き取り調査の真剣さ、まとめの出来で評価する。
学生へのメッセージ	この講義は学外での活動を中心とするので、通常の講義日程では進行しません。日程や場所などについての詳細は、履修ガイダンス時に説明します。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室

備考	

科目名	地域とスポーツ	科目名（英文）	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。
到達目標	地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得する。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興（1）	地域にけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興（2）	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興（3）	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割	前２回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点（1）	わが国の特徴である学校スポーツおよび企業スポーツ	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点（2）	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点（3）	地域スポーツクラブの役割（総合型地域スポーツクラブの機能と役割）	わが国と諸外国との相違点・類似点を見出す。
8	地域スポーツの振興拠点（4）、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前 3 回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ（1）	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ（2）	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ（3）	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前２回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

関連科目：スポーツ政策論等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業に参加する姿勢、および試験の成績を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	地域防犯政策	科目名（英文）	Regional Security Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まえれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990 年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくりを」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。

到達目標

犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。自治体（特に市町村）が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。

授業方法と留意点

個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で、あるいは受講生同士で話し合って考えることが大事になる。

科目学習の効果（資格）

公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	犯罪対策の２つの考え方	「犯人を捕まえる」という考え方と「犯罪を起こさせない」という考え方とを比較する。	配布レジュメ・資料の復習
2	犯罪統計の読み方	認知件数、検挙件数、検挙人員からはじまる基礎用語を理解し、犯罪統計をいかに読むか考える。	配布レジュメ・資料の予習・復習
3	犯罪認知件数の推移	戦後からの認知件数の推移を社会の変化に照らしてみる。	配布レジュメ・資料の予習・復習
4	1990 年代後半の犯罪急増の背景	規制緩和、高速移動、国際化、情報化といった「改革」と犯罪急増との関係を探る。	配布レジュメ・資料の予習・復習
5	検挙から抑止へ	警察が検挙に加えて抑止にも力を入れ始めた経緯を整理する。	配布レジュメ・資料の予習・復習
6	警察と自治体との関係	警察が自治体に協力を求めた理由と、自治体側の反応について知る。	配布レジュメ・資料の予習・復習
7	防犯ボランティアの登場	新しく登場した防犯ボランティアと従来の防犯委員などとの違いを見出す。	配布レジュメ・資料の予習・復習
8	防犯カメラへの注目	防犯を超えて捜査・検挙に大きな変化をもたらした防犯カメラの普及過程を追う。	配布レジュメ・資料の予習・復習
9	広報・情報発信の充実	警察が犯罪発生情報をメールや SNS で積極的に市民に発信するようになった理由を探る。	配布レジュメ・資料の予習・復習
10	街頭犯罪対策の進展	ひったくりなどの街頭犯罪を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料の予習・復習
11	侵入盗対策の進展	空き巣などの侵入盗を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料の予習・復習
12	子どもの安全確保の拡充	「地域防犯＝子どもの安全確保」というイメージがあるほどに、子どもの安全が強調されるようになった経緯をたどる。	配布レジュメ・資料の予習・復習
13	性犯罪対策の要請	性犯罪に対する警察の対応が大きく変わった背景と、現在の対応と課題を知る。	配布レジュメ・資料の予習・復習
14	特殊詐欺という新たな問題	電話で持ちかけ、ATM でお金を奪うという特殊詐欺に地域でどう対抗するか議論する。	配布レジュメ・資料の予習・復習
15	まちづくりの基礎としての防犯	防犯活動の浸透が、犯罪の抑止を超えてまちづくりの基礎となっている意味を考える。	配布レジュメ・資料の予習・復習

関連科目

本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。防犯活動の現場に出て学ぶ講義として、地域政策応用講義Ⅰ（警察行政）がある。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

講義時に課すペーパーの累積点と、定期試験の点数の合計で評価を行う。

学生への

「学」（がく）というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員（公務員）や警察官

メッセージ	志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼准教授室
備考	

科目名	知的財産法	科目名（英文）	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関堂　幸輔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	知的財産は，2002 年の小泉首相（当時）による「知財立国宣言」以来，わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており，ますますその重要性が増しつつあります。本講義では，知的財産法（知的所有権法）の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し，その一方で，最新の事例等の問題を紹介しつつ，高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と，いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から，将来の知的財産法制の在り方についても検討していくことを目標とします。
到達目標	「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し，それらが将来どのように運用されるべきであるか，自ら考察できるようにすることを到達目標とします。受講生に最低限求められるのは，単に法律や制度を「覚える」ことではなく，法律の「解釈・運用」を「考察・検討」し，時に「疑う」ものだと気づくことです。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし，適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお，本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが，本学部のカリキュラムはそれを強いていますので，やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果（資格）	最先端かつ重要な特別法の分野に接することで，より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	詳細なガイダンス	授業の内容，方法その他について詳細に説明します。	—
2	情報の意義･性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が，情報本来の性質にどう関わってくるのか，法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：当該回の内容の復習
3	知的財産のいろいろ	特許権，実用新案権，意匠権，商標権，著作権などの対象として身近な例を取り上げ，それぞれ概要を理解します。	事後：当該回の内容の復習
4	技術的アイディアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：当該回の内容の復習
5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：当該回の内容の復習
6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ（逆に及ばない）範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：当該回の内容の復習
7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示･標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：当該回の内容の復習
8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」，そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：当該回の内容の復習
9	著作権の内容（1）	著作権や著作隣接権の具体的内容を把握します。	事後：当該回の内容の復習
10	著作権の内容（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
11	著作権の制限（1）	著作権等の存続期間（時間的制限）および「私的使用目的複製」「引用」など，著作権が制限される場合を理解し，そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：当該回の内容の復習
12	著作権の制限（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
13	最新の事例・問題（1）	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ，検討します。	事後：当該回の内容の復習
14	最新の事例・問題（2）	同上。	事後：当該回の内容の復習
15	試験、その他	試験により成績評価をします。試験についての詳細は授業にて説明します。	—

関連科目	民法（特に財産法），経済法，行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	最終回に行う試験 100％で評価します。
学生へのメッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には，いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が 5 年後，10 年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて，積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	担当者は各回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら，社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社

	会科学においては，周囲のあらゆることが学びのきっかけであり，またそれが絶ゆることはなく，すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要なのですから。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい。

科目名	地方財政論	科目名（英文）	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本　尚志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	この授業では、国と地方の財政関係や地方財政システムが抱える問題を勉強し、その改革のあり方を考えることとします。地方財政の制度や現状をわかりやすく解説し、問題解決の糸口を見出すことを目指します。
到達目標	国と地方の関係から、わが国の財政システムについて理解し、少子高齢化や地方再生について財政の果たすべき役割を考察できるようになる。
授業方法と留意点	毎回、講義の初めに前回の授業内容を簡単に復習したうえで授業に入って行きます。その際、受講生からの質問や関心がある点などを確認し、それに関する説明も加えながら進めていきます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明します。	新聞や経済誌などの地方財政に関する記事を読むようにしてください。
2	地方財政の実態	財政とは何かについて踏まえ、膨張する地方財政と国のコントロール、さらに地方財政の課題について解説します。	教科書の第１章を読んでおくこと。
3	国と地方の機能分担	財政の役割について整理し、地方分権の意義を考えます。	教科書の第２章を読んでおくこと。
4	制度としての地方財政	地方財政制度や財政運営について解説します。	教科書の第３章を読んでおくこと。
5	地方公共支出の経済学	地方公共支出について経済学的な考え方から解説します。	教科書の第４章を読んでおくこと。
6	地方団体の行財政改革	地方行財政運営と公共サービスのあり方について考えます。	教科書の第５章を読み、５章までの内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
7	広域行政と狭域行政	行政区域の問題について、市町村制の歴史や平成の大合併、また行政圏域としての見方などを紹介します。	教科書の第６章を読んでおくこと。
8	地方税の体系と原則	国税と地方税を比較し、地方税体系や原則について解説します。	教科書の第７章を読んでおくこと。
9	地方税の改革	さまざまな地方税についての改革、およびそれに伴う地方分権の問題を考えます。	教科書の第８章を読んでおくこと。
10	国庫支出金と地方財政	地方に対する国の関与について理解を深めます。	教科書の第９章を読んでおくこと。
11	地方交付金と財政調整	ここでも地方への国の関与の状況を理解します。	教科書の第１０章を読み、６～１０章までの内容で関心のある点を抜き出しておくこと。
12	地方債の発行と国の関与	地方債発行における国の関与を考えます。	教科書の第１１章を読んでおくこと。
13	地域づくりと地方団体の役割	地方経済の実態、地方産業振興策、地域格差問題などを解説します。	教科書の第１２章を読んでおくこと。
14	少子高齢社会と地方財政	少子高齢社会における医療・介護問題を取り上げます。	教科書の第１３章を読んでおくこと。
15	地方公営企業と第３セクター	地方公営企業の経営状況や第３セクターの経営破たんについて考えます。この授業の最後として、全体のまとめを行います。	教科書の第１４章を読み、今まで学んだ中でもっとも関心のある点の意見、感想を提出。

関連科目：財政学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方財政[新版]	林宜嗣	有斐閣ブックス
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%。
学生へのメッセージ	昨今、地方分権や地方財政に関する報道が多く、皆さんが耳にされる言葉も多いことと思います。それらに関する知識を整理して、将来役に立つように考えています。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	地方自治と政策	科目名（英文）	Local Government and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この講義では、地方自治についての基礎を学ぶ。中央の政治・行政に比べて、地方の政治・行政が大手メディアに取り上げられる機会は少ない。しかし、「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治・行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	地方自治について基礎的な知識を持ち、主要な課題に対して自分の意見を述べることができるようになること。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を学べる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	日本国憲法第 92 条～第 95 条、地方自治法に目を通すこと
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	レジュメの予習・復習を行うこと
3	地方自治の国際比較	諸外国の地方自治制度との比較を通じて、日本の地方自治制度の特色を学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
4	首長と地方議会	二元代表制と、首長・議会の役割について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
5	地方公務員制度	地方公務員制度の概要と、自治体組織について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
6	地方財政	地方財政の現状と課題について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
7	自治会・町内会	自治会・町内会の歴史と課題について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
8	NPO と新しい公共	新しい公共という言葉を切り口に、NPO が果たす役割について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
9	地方分権改革	集権と分権の概念と、分権改革について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
10	市町村合併と適正規模	平成の大合併を題材に、自治体の適正規模について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
11	都道府県制度と道州制構想	道州制を題材に、都道府県が抱える課題について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
12	都市制度と都構想	都構想を題材に、都市制度のあり方について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
13	自治体広報	問題提起型広報を中心に、自治体広報の意義と課題を学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと

関連科目	「住民協働論」「地方財政論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治を問いなおす	今川晃	法律文化社
2	地域公共人材をつくる	今川晃・梅原豊	法律文化社
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	地方自治は、政治・行政の中でも最も身近に関わってくるものです。中央の政治・行政との対比をしながら授業を受けてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	地方自治と法	科目名（英文）	Local Government Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	地方自治法と地方公務員法を中心に、地方自治がどのような法に基づき、どのように運営されているのかについて、具体的事例を挙げながら、平易に解説します。地方公務員の受験者は受験勉強として講義を受けてください。また、地方公務員を受験しない学生も地方行政と関わりのない生活は存在しないことから、法学部の学生であれば、原則として、受講してください。
到達目標	公務員試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を希望する学生は、必ず受講してください。この講義の内容は、公務員試験における教養問題としても出題されます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意味	地方自治の法的意味を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
2	地方公共団体の種類	普通地方公共団体と特別地方公共団体を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
3	地方公共団体の事務	国と地方公共団体の役割分担を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
4	地方議会	地方議会の意義と構成を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
5	地方議会の権限その１	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
6	地方議会の権限その２	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
7	執行機関	執行機関の意義と構成を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
8	長の権限	長の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
9	地方公務員法その１	地方公務員制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
10	地方公務員法その２	地方公務員の権利義務を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
11	長と議会の関係	長と議会の関係を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
12	住民の権利その１	直接請求制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
13	住民の権利その２	住民監査請求と住民訴訟を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
14	情報公開制度と個人情報保護制度	地方公共団体における情報公開制度と個人情報保護制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまで学んだことを復習しておくこと。

関連科目：憲法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験をし、それによって評価します。試験の内容は原則として○×方式か、穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語は絶対しないこと。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	地方自治法	科目名（英文）	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	地方自治法と地方公務員法を中心に、地方自治がどのような法に基づき、どのように運営されているのかについて、具体的事例を挙げながら、平易に解説します。地方公務員の受験者は受験勉強として講義を受けてください。また、地方公務員を受験しない学生も地方行政と関わりのない生活は存在しないことから、法学部の学生であれば、原則として、受講してください。
到達目標	公務員試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	プリントを用意します。プリントは教材フォルダにあります。各自でプリントアウトし、毎回必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を希望する学生は、必ず受講してください。この講義の内容は、公務員試験における教養問題としても出題されます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意味	地方自治の法的意味を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
2	地方公共団体の種類	普通地方公共団体と特別地方公共団体を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
3	地方公共団体の事務	国と地方公共団体の役割分担を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
4	地方議会	地方議会の意義と構成を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
5	地方議会の権限その１	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
6	地方議会の権限その２	地方議会の権限を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
7	執行機関	執行機関の意義と構成を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
8	長の権限	長の権限を理解する。	事前に、プリントの空欄を埋めて、予習しておくこと。
9	地方公務員法その１	地方公務員制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
10	地方公務員法その２	地方公務員の権利義務を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
11	長と議会の関係	長と議会の関係を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
12	住民の権利その１	直接請求制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
13	住民の権利その２	住民監査請求と住民訴訟を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
14	情報公開制度と個人情報保護制度	地方公共団体における情報公開制度と個人情報保護制度を理解する。	事前に、プリントで予習しておくこと。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	これまで学んだことを復習しておくこと。

関連科目：憲法、行政法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末に試験をし、それによって評価します。試験の内容は原則として○×方式か、穴埋め方式です。
学生へのメッセージ	とにかく私語は絶対しないこと。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	地方自治論	科目名（英文）	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	この講義では、地方自治についての基礎を学ぶ。中央の政治・行政に比べて、地方の政治・行政が大手メディアに取り上げられる機会は少ない。しかし、「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治・行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	地方自治について基礎的な知識を持ち、主要な課題に対して自分の意見を述べることができるようになること。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	地方公務員を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を学べる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	日本国憲法第 92 条～第 95 条、地方自治法に目を通すこと
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	レジュメの予習・復習を行うこと
3	地方自治の国際比較	諸外国の地方自治制度との比較を通じて、日本の地方自治制度の特色を学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
4	首長と地方議会	二元代表制と、首長・議会の役割について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
5	地方公務員制度	地方公務員制度の概要と、自治体組織について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
6	地方財政	地方財政の現状と課題について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
7	自治会・町内会	自治会・町内会の歴史と課題について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
8	NPO と新しい公共	新しい公共という言葉を切り口に、NPO が果たす役割について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
9	地方分権改革	集権と分権の概念と、分権改革について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
10	市町村合併と適正規模	平成の大合併を題材に、自治体の適正規模について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
11	都道府県制度と道州制構想	道州制を題材に、都道府県が抱える課題について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
12	都市制度と都構想	都構想を題材に、都市制度のあり方について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと
13	自治体広報	問題提起型広報を中心に、自治体広報の意義と課題を学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	レジュメの予習・復習を行うこと
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	レジュメの予習・復習を行うこと

関連科目：「住民協働論」「地方財政論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地方自治を問いなおす	今川晃	法律文化社
2	地域公共人材をつくる	今川晃・梅原豊	法律文化社
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	地方自治は、政治・行政の中でも最も身近に関わってくるものです。中央の政治・行政との対比をしながら授業を受けてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	倒産法	科目名（英文）	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切な対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際的で、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法の中心である破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民事法全体についての理解が確実にもなる。
到達目標	倒産法というと自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思うが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることだし、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。その際、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解しておくことは、経済的に自立した大人となるための基礎知識として必要なのではないかと思う。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため質疑応答を行う。そのため、受講人数次第で、座席指定（座席の選択は自由）を行う場合がある。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、ファイナンシャルプランナー（FP）の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律（民法、民事訴訟法、民事保全・執行法）との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類（再建型と清算型）	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行（民事保全執行法）と包括執行（倒産法）との違い ・平常時は早い者勝ちの世界、倒産時は債権者平等の世界 ・再建型（民事再生・会社更生）と清算型（破産・特別清算）	教科書　P. 1～11
2	・破産手続の流れ	・法人の破産手続で配当がある事案 ・個人の破産手続で、破産管財人がついたうえで異時廃止となる事案	教科書　P. 13～23 前回講義における配布資料の復習
3	・再生手続の流れ	・通常再生手続で自主再生する事案（収益弁済型） ・通常再生手続でスポンサー型で再生する事案（スポンサー型） ・個人再生手続の事案（個人再生）	教科書　P. 24～39 前回講義における配布資料の復習
4	・開始決定の効果	・破産手続および再生手続の申立て ・手続開始決定の効果	教科書　P. 42～57 前回講義における配布資料の復習
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	教科書　P. 58～73 前回講義における配布資料の復習
6	・契約関係の処理（売買・取戻権）	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	教科書　P. 74～89 前回講義における配布資料の復習
7	・契約関係の処理（賃貸借・請負・リース契約）	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	教科書　P. 90～106 前回講義における配布資料の復習
8	・否認権	・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	教科書　P. 107～120 前回講義までに配布した全ての配布資料の復習
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義（民法における相殺との比較） ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	教科書　P. 134～148 前回講義における配布資料の復習
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合）	教科書　P. 149～168 前回講義における配布資料の復習
11	・債権の優先順位	・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続）	教科書　P. 186～203 前回講義における配布資料の復習
12	・配当と破産手続の終了	・配当 ・破産手続の終了	教科書　P. 204～216 前回講義における配布資料の復習
13	・再生計画、履行	・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続	教科書　P. 217～234 前回講義における配布資料の復習
14	・個人債務者の倒産手続 ・免責	・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生	教科書　P. 235～251 前回講義における配布資料の復習
15	・倒産法における諸問題 ・まとめ＆復習	・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等	・該当範囲の復習 ・当該講義において配布した全資料の復習

			・講義全体のまとめと復習	

関連科目	民事保全・執行法、民事訴訟法、担保物権法、債権法、契約法、知的財産法、商法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一・野村剛司	日本評論社
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	倒産法　判例百選〔第5版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣
2			
3			

評価方法（基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生へのメッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。
担当者の研究室等	11号館9階　萩原准教授室
備考	

科目名	独占禁止法	科目名（英文）	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	経済社会の基本秩序を維持することを目的とする経済法の中心をなすものは、独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）である。独占禁止法は、私的独占、不当な取引制限及び不公正な取引方法を禁止することが主たる目的であり、現代の国民生活を営むうえで独占禁止法を理解することはきわめて重要である。
到達目標	経済法の中心となる独占禁止法の基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済法･独占禁止法とは何か 独占禁止法の目的	自由競争の促進と独禁法	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	独占禁止法の基礎概念(1)	事業者	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	独占禁止法の基礎概念(2)	一定の取引分野(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	独占禁止法の基礎概念(3)	一定の取引分野(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	独占禁止法の基礎概念(4)	競争の実質的制限(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	独占禁止法の基礎概念(5)	競争の実質的制限(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	独占禁止法の基礎概念(6)	公共の利益	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	私的独占の禁止(1)	私的独占とは何か	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	私的独占の禁止(2)	私的独占に関する主要判例(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	私的独占の禁止(3)	私的独占に関する主要判例(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	私的独占の禁止(4)	私的独占に関する主要判例(3)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	私的独占の禁止(5)	私的独占に関する主要判例(4)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	経済力集中規制（１）	持株会社の規制･金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制・役員兼任の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	経済力集中規制（２）	合併・営業譲受等の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	経済力集中規制（３）	独占的状態の規制	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：経済学、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	独占禁止法講義〈第３版〉	久保 成史・田中 裕明著	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、期末の試験によって評価する。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	独占禁止法Ⅰ	科目名（英文）	Anti-trust Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経済社会の基本秩序を維持することを目的とする経済法の中心をなすものは、独占禁止法（私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）である。独占禁止法は、私的独占、不当な取引制限及び不公正な取引方法を禁止することが主たる目的であり、現代の国民生活を営むうえで独占禁止法を理解することはきわめて重要である。
到達目標	経済法の中心となる独占禁止法の基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	経済法･独占禁止法とは何か 独占禁止法の目的	自由競争の促進と独禁法	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	独占禁止法の基礎概念(1)	事業者	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	独占禁止法の基礎概念(2)	一定の取引分野(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	独占禁止法の基礎概念(3)	一定の取引分野(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	独占禁止法の基礎概念(4)	競争の実質的制限(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	独占禁止法の基礎概念(5)	競争の実質的制限(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	独占禁止法の基礎概念(6)	公共の利益	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	私的独占の禁止(1)	私的独占とは何か	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	私的独占の禁止(2)	私的独占に関する主要判例(1)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	私的独占の禁止(3)	私的独占に関する主要判例(2)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	私的独占の禁止(4)	私的独占に関する主要判例(3)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	私的独占の禁止(5)	私的独占に関する主要判例(4)	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	経済力集中規制（１）	持株会社の規制･金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制・役員兼任の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	経済力集中規制（２）	合併・営業譲受等の制限	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	経済力集中規制（３）	独占的状態の規制	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：経済学、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	独占禁止法講義〈第３版〉	久保 成史・田中 裕明著	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、期末の試験によって評価する。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	日本外交史	科目名（英文）	Japan Diplomatic History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることのできる能力を持つことを目標とする。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果（資格）	現代の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	高校の日本史を復習しておくこと。
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けてノートをまとめておく

関連科目：政治学、世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会
3			

評価方法（基準）	期末の試験（論述式。5問出題して2問を選択してもらう予定です）の結果によって評価を行います。 持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。 ただし評価に出席点は加えません。

科目名	日本女性史	科目名（英文）	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといってよい。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法など、女性の差別的扱いを克服しようとする動きがあり、社会のあらゆる場面での平等が求められている現在、日本における女性差別の根源がどういうところにあり、それが現代にも大きな影を落としている様を知ることは重要であり、喫緊の課題であるといえる。現代の法を理解する上でも女性史に触れるべきである。
授業方法と留意点	講義形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や絵画資料、関連文献を配付したり、紹介する。
科目学習の効果（資格）	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう
2	中世の女性	中世社会と女性の地位	鎌倉・室町時代の予習、講義ノートの整理復習
3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	戦国時代の予習、講義ノートの整理復習
4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノートの整理復習
5	近世の女性①	儒教と女性	江戸時代儒教の予習、講義ノートの整理復習
6	近世の女性②	武家の女性	講義ノートの整理復習
7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノートの整理復習
8	近世の女性④	町人社会の女性	江戸町人についての予習、講義ノートの整理復習
9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノートの整理復習
10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノートの整理復習
11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノートの整理復習
12	近世の女性⑧	天保改革と女性	天保改革についての予習、講義ノートの整理復習
13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノートの整理復習
14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノートの整理復習
15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノートの整理復習

関連科目：「近世日本の法文化」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	基本的には定期試験の成績による。ただし、レポートを課す可能性もある。その時はレポート点を１～２割、定期試験を９～８割の配分で判定する。
学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	日本政治論	科目名（英文）	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治についての基本的な知識を与えることを目的にしています。政治学の区分で言うところの政治体制論、政治過程論、日本政治史、国際政治、地方自治の内容について、日本の政治を概観していきます。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、毎週政治的な時事問題について紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが日本の政治についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのか考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらい、質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応できるように政治や政治学の基本的な知識を提供し、また話題になっている政治的な時事問題を毎週ピックアップして話します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～現代日本の政治課題	イントロダクションとして、講義の内容と近年の日本の政治の動向について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	日本国憲法の成立過程	改憲するための国民投票が実施される可能性もあるため、映像資料を見ながら、日本の政治の根幹である日本国憲法の成立過程について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
3	デモクラシーとは何か？	デモクラシーの条件とは何かについて、中学・高校で教わってきた事柄より詳細に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
4	マスメディアと世論	マスメディアの役割と機能について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
5	日本の選挙制度のしくみと政党	日本の選挙制度における中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への転換とそのさまざまな特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
6	日本の内閣のしくみと行政改革、官僚制	内閣の諸機関のしくみや今世紀の行政改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
7	日本の政治体制①～55 年体制の成立と自民党の派閥政治の特徴	55 年体制の特徴と 55 年体制期の自民党の支配体制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
8	日本の政治体制②～政治改革と 55 年体制の崩壊	90 年前後に政治改革が叫ばれた原因やその結果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
9	国際政治の基本的な考え方～アイデアリズムとリアリズム	国際政治を考える上で必要不可欠な二つの観点について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
10	日本外交の変遷①～冷戦期の日本外交	冷戦期の日本外交の姿勢を、新日米安保条約や沖縄問題を参照しながら授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
11	日本外交の変遷②～冷戦終結以降の日本外交	冷戦終結後の日本外交の姿勢を、湾岸戦争や PKO 協力法、イラク戦争を中心に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
12	日本外交の変遷③～安倍内閣における日本外交の転換	安倍内閣の集団的自衛権の行使容認の閣議決定について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
13	地方自治①～地方自治の本旨と地方自治体の政治のしくみ	地方自治体の基本的な役割としくみについて授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
14	地方自治②～地方分権改革とは何だったか？	今世紀になってからの地方分権改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民、日本史、世界史など。大学の憲法、国際政治など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクセス日本政治論	平野浩・河野勝編	日本経済評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社
2	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
3			

評価方法 （基準）	定期試験 80%（一問一答 40%、論述 40%）、リアクションペーパー20% 既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

科目名	日本の外交の歴史	科目名（英文）	Diplomatic History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	森　康一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることのできる能力を持つことを目標とする。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、プリントと板書により授業を進める。
科目学習の効果（資格）	現代の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について	講義の内容全体について	高校の日本史を復習しておくこと。
2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
3	明治維新	明治維新期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	日本外交史に関する参考文献の該当箇所を読んでおく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けてノートをまとめておく

関連科目：政治学、世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会
3			

評価方法（基準）	期末の試験（論述式。5問出題して2問を選択してもらう予定です）の結果によって評価を行います。 持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れないようにしてください。 ただし評価に出席点は加えません。

科目名	日本の人権の歴史	科目名（英文）	History of Human Rights in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	前近代社会は身分制社会であり、近代法は封建的身分や差別からの解放を重要な目標として誕生した。本講義は、近代に先立つ身分制社会とはどういうものなのかを明らかにして、逆に近代という時代の意味を理解してもらおうというものである。近世社会に生きた様々な人々の抑圧や差別、差別を克服する戦い、そういうものを学び取ってほしい。
到達目標	日本における差別の起源や歴史、差別の実態を知り、その非人間性を十分理解してもらい、基本的人権の重要性を認識してもらうことが目標である。
授業方法と留意点	講義および板書による説明が中心である。適宜関連史料を配付し、参考文献を指示するので、毎回出席して講義を聞くことが望まれる。いうまでもなく、ふだんよりの自主的な勉強が大切である。
科目学習の効果（資格）	本講義は、教職課程履修者にとっては重要科目。また、公務員試験や各種試験にも繋がっている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、予習しておくこと
2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史の予習と、講義ノート・配布資料の復習
3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	太閤政権の予習と、講義ノート・配布資料の復習
4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・配布資料の復習
5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・配布資料の復習
6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・配布資料の復習
7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・配布資料の復習
8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・配布資料の復習
9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・配布資料の復習
10	解放令の成立	近代社会と被差別	明治維新の予習、講義ノート・配布資料の復習
11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・配布資料の復習
12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・配布資料の復習
13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	大正デモクラシーの予習、講義ノート・配布資料の復習
14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・配布資料の復習
15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・配布資料の復習

関連科目：憲法・刑法など公法系の法学科目と歴史系諸科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績による。
学生へのメッセージ	高校時代に日本史を選択していることが必要。本講義は、社会科学入門の意味を持つ。歴史学だけでなく政治学・社会学・経済学などを同時に勉強することが望まれる。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　牧田教授室
備考	

科目名	日本の政治	科目名（英文）	Government and History in Postwar Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、皆さんは政治参加することによって自分自身の生活をより善いものに作りかえることができます。しかし逆に、政治参加しないことによってより悪いものになってしまう可能性も否定できません。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治についての基本的な知識を与えることを目的にしています。政治学の区分で言うところの政治体制論、政治過程論、日本政治史、国際政治、地方自治の内容について、日本の政治を概観していきます。また皆さんが最近のニュースを理解できるように、毎週政治的な時事問題について紹介し、解説します。
到達目標	学生の皆さんが日本の政治についての基本的な知識を獲得できるとともに、政治に積極的に参加しようという感情を育み、自分自身でいかなる政策、政党、候補者がよいのか考えて意思決定できるようになります。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回レジュメや資料を配布します。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらい、質問についてはその次の週に時間の許す範囲で答えます。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が一般常識として問われる場合があります。それらにも対応できるように政治や政治学の基本的な知識を提供し、また話題になっている政治的な時事問題を毎週ピックアップして話します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～現代日本の政治課題	イントロダクションとして、講義の内容と近年の日本の政治の動向について授業します。	予習・復習：政治・政治参加の必要性を理解し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める。
2	日本国憲法の成立過程	改憲するための国民投票が実施される可能性もあるため、映像資料を見ながら、日本の政治の根幹である日本国憲法の成立過程について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
3	デモクラシーとは何か？	デモクラシーの条件とは何かについて、中学・高校で教わってきた事柄より詳細に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
4	マスメディアと世論	マスメディアの役割と機能について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
5	日本の選挙制度のしくみと政党	日本の選挙制度における中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への転換とそのさまざまな特徴について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
6	日本の内閣のしくみと行政改革、官僚制	内閣の諸機関のしくみや今世紀の行政改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
7	日本の政治体制①～55 年体制の成立と自民党の派閥政治の特徴	55 年体制の特徴と 55 年体制期の自民党の支配体制について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
8	日本の政治体制②～政治改革と 55 年体制の崩壊	90 年前後に政治改革が叫ばれた原因やその結果について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
9	国際政治の基本的な考え方～アイデアリズムとリアリズム	国際政治を考える上で必要不可欠な二つの観点について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
10	日本外交の変遷①～冷戦期の日本外交	冷戦期の日本外交の姿勢を、新日米安保条約や沖縄問題を参照しながら授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
11	日本外交の変遷②～冷戦終結以降の日本外交	冷戦終結後の日本外交の姿勢を、湾岸戦争や PKO 協力法、イラク戦争を中心に授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
12	日本外交の変遷③～安倍内閣における日本外交の転換	安倍内閣の集団的自衛権の行使容認の閣議決定について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
13	地方自治①～地方自治の本旨と地方自治体の政治のしくみ	地方自治体の基本的な役割としくみについて授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
14	地方自治②～地方分権改革とは何だったか？	今世紀になってからの地方分権改革について授業します。	予習：教科書の該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する。 復習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読する。
15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授業します。	予習・復習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく。

関連科目	中学・高校の社会、公民、日本史、世界史など。大学の憲法、国際政治など。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	アクセス日本政治論	平野浩・河野勝編	日本経済評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	政治思想の知恵―マキャベリからサンデルまで―	仲正昌樹編	法律文化社
2	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
3			

評価方法 （基準）	定期試験 80%（一問一答 40%、論述 40%）、リアクションペーパー20% 既定の出席日数に足りない学生は試験を受けても単位をあげられないので、きちんと出席してください。
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。
担当者の 研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	現代社会において運動は生活の一部であり、より良い運動習慣を身につけることは健康で質の高い生活を送るために欠かせないことである。 正しいトレーニング方法を知り、実践することでより健康な生活ができるよう学んでいく。
到達目標	フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを正しく実践出来る身体能力を獲得できるよう基礎体力の向上を目指す。 また身につけた技術を指導するための能力を身に着けることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 実技に際しては運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果（資格）	日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 運動と健康	テキスト　ｐ．３－５
2	身体組成	機能解剖学的身体組成の基礎知識	配布プリントの確認
3	全身持久力（講義）	フィットネストレーニングとは 全身持久力とは	テキスト　ｐ．９－１４
4	全身持久力（実技）	全身持久力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
5	筋力と筋持久力（講義）	筋力・筋持久力とは	テキスト　ｐ．１４－２０
6	筋力と筋持久力（実技）	筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
7	柔軟性（講義）	柔軟運動とは	テキスト　ｐ．２１－２２
8	柔軟性（実技）	柔軟運動の実践	実践トレーニングの確認
9	調整力（講義）	調整力とは	テキスト　ｐ．２３－２５
10	調整力（実技）	調整力トレーニングの実践	実践トレーニングの確認
11	マシーントレーニング（講義）	マシーンの特性（１）	テキスト　ｐ．２６－２９
12	マシーントレーニング（講義）	マシーンの特性（２）	テキスト　ｐ．２９－３２
13	マシーントレーニング（実技）	マシーントレーニング実習（１）	実践トレーニングの確認
14	マシーントレーニング（実技）	マシーントレーニング実習（２）	実践トレーニングの確認
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目：ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツプログラミング、体力測定とスポーツ相談

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	単位取得条件は、技能および平常態度、知的理解度などを総合して判断する。 実技　５０％、提出物　３０％、小テスト　２０％
学生へのメッセージ	正しい理論と方法を身に着けることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。 基本理論を身につけ、それらを正しく指導できるよう実践していきましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	福祉政策論	科目名（英文）	Social Protection Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	少子高齢化や格差社会が大きな問題となる中、福祉政策はますます重要性を増している。この授業では、福祉に関わる基礎知識と課題について学ぶ。教科書の内容を前提として、グループ・ディスカッションを交えながら授業を展開する。福祉政策の意義と、福祉の視点から見た政治・行政について理解を深めてほしい。
到達目標	福祉政策に関する基礎的な知識を身につけ、主要な論点について自分の意見を述べることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
科目学習の効果（資格）	福祉関係の職業を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。	教科書の序章を読んでおく
2	福祉への社会的対応	福祉の定義を確認しつつ、福祉のための制度と思想について学ぶ。	教科書の第 1 章を読んでおく
3	福祉ニードと供給システム	福祉におけるニード概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。	教科書の第 2 章を読んでおく
4	福祉の計画と評価	福祉分野における計画行政の歴史と、計画の立案・評価の方法について学ぶ。	教科書の第 3 章を読んでおく
5	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策について検討する。	教科書の第 4 章を読んでおく
6	福祉政策の近代史	国家が関与する福祉政策について、その興りと近代における発展について学ぶ。	教科書の第 5 章を読んでおく
7	福祉政策の現代史	戦後の福祉政策について、福祉国家化とその見直しを中心に学ぶ。	教科書の第 6 章を読んでおく
8	日本の福祉制度	日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。	教科書の第 7 章を読んでおく
9	労働・住宅・教育政策	労働・住宅・教育分野における福祉政策について学ぶ。	教科書の第 8 章を読んでおく
10	所得の保障	社会保険・社会手当・公的扶助からなる所得保障制度について学ぶ。	教科書の第 9 章を読んでおく
11	健康・医療・介護の保障	健康づくりの取り組みと、医療保障、介護保険などの仕組みと意義を学ぶ。	教科書の第 10 章を読んでおく
12	福祉サービスの保障	専門職による個別的な福祉サービスの必要性と、制度改革について学ぶ。	教科書の第 11 章を読んでおく
13	福祉制度の費用と財政	日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。	教科書の第 12 章を読んでおく
14	社会福祉政策概念の検討	社会福祉政策について概念整理を行い、その意義について考察する。	教科書の終章を読んでおく
15	福祉政策と地域	全体を振り返りつつ、住民自治の視点から福祉政策を位置づける。	全体の復習をする

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
学生へのメッセージ	参考書に上げた、湯浅誠さんの『反貧困』はぜひ読んでください。自己責任論の問題点と、福祉政策の必要性がよく分かります。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	物権法	科目名（英文）	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。 本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	本講義では、担保物権を除く物権法の基礎をしっかり理解し、全体像を把握していただくことを目標とします。
授業方法と留意点	講義形式で行います。毎回、レジュメを配布し、それに沿って六法や教科書を参照します。六法は必ず持参してください。 講義にやってきてただ着席しているだけでは、本講義の単位を取得することはできませんので、ご自分でしっかりノートをとることを強くお勧めします。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となることがあります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 物権法概説	講義のガイダンス 物権法の全体像（物権とは何か、民法における物権法の位置づけ）	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	物権変動（1）	物権変動の基本的理論	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	物権変動（2）	不動産の物権変動における公示と登記制度	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	物権変動（3）	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	物権変動（4）	不動産の物権変動における「取消しと登記」	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	物権変動（5）	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	物権変動（6）	登記の効力	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	物権変動（7）	動産の物権変動における公示と即時取得	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	所有権（1）	所有権の基本的理論、所有権の取得	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	所有権（2）	所有権に基づく物権的請求権	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	所有権（3）	共同所有	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	所有権（4）	建物の区分所有	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	用益物権（1）	地上権、永小作権	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	用益物権（2） おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	今回の講義内容に関するレジュメ（前回講義終了時に配布）を読んでおくこと。 全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。

関連科目	債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。
教科書	

<table>
<tr><td></td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td>民法の基礎 2－物権</td><td>佐久間毅</td><td>有斐閣</td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>参考書</td><td>
<table>
<tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr>
<tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>評価方法
（基準）</td><td>学期末試験の結果と、講義中の小テストを評価の対象とします（学期末試験 90%、小テスト 10%）。講義中の不要な私語など、講義の妨害にあたる行為については減点の対象とします。私語を含む受講態度があまりにひどい場合には、単位の取得を認めないことを講義中に申し渡すことがあります。</td></tr>
<tr><td>学生への
メッセージ</td><td>授業中は不要な私語は慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。
講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合もあります。</td></tr>
<tr><td>担当者の
研究室等</td><td>11 号館 9 階　家本准教授室</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>事前・事後学習の総時間数の目安：22 時間</td></tr>
</table>

科目名	不動産取引法	科目名（英文）	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあっては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。

到達目標

不動産取引につき一通りの知識を習得する。担保とはなにか、どのような場面でどのような役割を果たしているのか､注意すべき事柄はなにかを理解する。

授業方法と留意点

不動産取引についての理解は仕事をする上で、また自宅を購入する際などにも必要な事柄である。担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民事法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、登記・民事執行についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討する方法で行う。

科目学習の効果（資格）

理解が進めば財産法全体に興味が持て、民法に関しての応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては必須の領域である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・不動産取引についての基礎知識	・授業の進め方、受講上の注意 ・小六法の活用方法、 ・実際の競売物件をスマホなどで見ながら勉強する	小六法を持参すること。 裁判所の競売情報を見て何が重要事項なのかを確認する
2	登記簿の見方	・登記簿の記載内容 ・スマホなどで登記簿の見本を見ながら学ぶ	登記簿を見ると何がわかるのか
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	対抗要件制度の把握
4	通行権	・通行権とは何か	囲繞地通行権に理解
5	農地の売買、山林の売買	・一般宅地の売買と異なる点はあるのか	農地法の把握
6	金銭債権の権利実現（金銭執行の概略）、担保の意義・必要性	担保の果たしている役割・担保の必要性	担保について理解する
7	担保法概論	・担保法の全体像	担保物権の全体像の把握　　小六法・教科書を持参すること
8	抵当権の設定	・抵当権に関する概念の把握	用語を理解する
9	抵当権の実行と物上代位	・実行手続きの概要 ・物上代位とはなにか	実行手続きの理解
10	抵当目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	担保権者の持つ価値権と設定者の使用収益権の関係
11	法定地上権 特殊な抵当権（共同抵当、根抵当）	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	法定地上権とは何かの理解 共同抵当、根抵当の理解
12	質権	・質権の意義、効力など	質権についての理解
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類 ・留置権とはどのようなものか	先取特権と留置権についての理解
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保の意義・必要性 ・譲渡担保について	民法の条文にない担保権の種類の学習 譲渡担保の果たしている役割の学習
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、不動産取引、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 質問があれば応じる。

関連科目

民法総則、物権法、債権総論、民事執行法、破産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法３　担保物権	平野裕之ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

基本的に定期試験によって評価する。授業中に小テストを行うこともある。

学生へのメッセージ

不動産取引の全体像を把握すること、取引社会において重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは社会生活を営む上で必須である。他方、不動産取引、担保物権は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一で、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　古川教授室

備考

物権法を学習しておくことが望ましい。学生の理解度、授業の進行によっては順序、内容を変更することもある。

科目名	不法行為法	科目名（英文）	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	不法行為法は、709 条というたった 1 条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	現代社会における不法行為法の意義について理解することを到達目標とします。
授業方法と留意点	授業時に配布するレジュメにより講義します。
科目学習の効果（資格）	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	テキスト 14 章
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原理・不法行為法の目的と機能	テキスト 14 章
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	テキスト 15 章
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	テキスト 15 章
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	テキスト 16 章
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録（人格権と財産権）	テキスト 16 章
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性（違法性阻却事由）	テキスト 16 章
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係／賠償範囲の因果関係／金銭評価の区別・成立上の因果関係（事実的因果関係）	テキスト 17 章
9	因果関係(2)	事実的因果関係の立証（高度の蓋然性／疫学的因果関係論の位置付け）・賠償範囲の因果関係（大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説）	テキスト 17 章
10	共同不法行為	719 条 1 項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1 項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	テキスト 19 章
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	テキスト 18 章・20 章
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	テキスト 18 章
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	テキスト 18 章
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用（素因減額）・消滅時効と除斥期間	テキスト 18 章
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	テキスト 19 章・20 章

関連科目	民法総則、債権法など民法科目全般。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	学期末試験の成績により評価します。 ただし、私語等の授業妨害行為があった場合には、相応の減点をし、場合によっては単位不授与としますので注意してください。
学生へのメッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	プレ専門演習は、２年次後期以降の「専門演習Ⅰ」、「専門演習Ⅱ」に直接繋がるものではありませんが、それらに関連する知識の理解及び確認が主眼となります。３年次の専門演習Ⅱでは、「国際私法」を研究のテーマとしますが、２年次では、それに関連する法律知識、特に、民法の基礎知識を対象とし、前期のプ「レ専門演習」では、身近な「親族法」を「戸籍法」の視点から概観します。
到達目標	「親族法」と「戸籍法」についての基本的な知識の理解を目標とします。
授業方法と留意点	配付資料を使って問答形式で「戸籍法」及び「親族法」についての基本的な知識を理解することにします。条文の意味をどのように捉えるのか、積極的な発言を求めます。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	１．プレ専門演習の進め方 ２．「家族法」、「親族法」、「旧親族法」とは何か ３．「親族関係及び氏」と「戸籍」について 　１、２については、それぞれ１回程度 　３については、１３回程度を使って行う。
関連科目	民法総則、親族法、相続法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	「課題レポートの理解度」及び「授業での発言状況」を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	親族法における「戸籍」が持つ意義を考えてみましょう。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	１．　憲法、民法及び刑法のキーワードの意味を復習し、これから学ぶ専門科目の理解に資することを目的とします。 ２．　説明する能力とコミュニケーション能力を培うことを目的とします。 ３．　判例を読む力を培うことを目的とします。
到達目標	これから学ぶ専門科目の基礎知識を確実に身につけることが最も主要な到達目標です。
授業方法と留意点	各自に発表してもらい、皆で討論します。 必ず事前準備をして下さい。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	たとえば基本的人権の公共の福祉による制約、法律行為あるいは犯罪の成立要件などについて各自に発表してもらいます。 課題については事前に与えますから必ず準備して下さい。 また、発表者のみならず、全員が発表者のつもりで、事前学習して下さい。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表の内容のみならず、ゼミ学習への取り組み態度も評価の対象とします。
学生へのメッセージ	毎回、必ず出席して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　金谷教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、４年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。会社法の中から、適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。
到達目標	会社法を中心にして、商法全般の知識を習得する。
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として定期試験は行いません。出席と受講態度を総合して、判定する。
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	プレ専門演習は、２年次の「専門演習Ⅰ」で国際法という専門分野を深く勉強する前に、幅広く国際社会に目を向けてもらうことが目的です。
到達目標	新聞、インターネットなどのメディアやテキストを通じて国際問題について考え、国際法の基礎知識を身につけることが到達目標です。
授業方法と留意点	授業方法は、新聞、インターネットなどのメディアやテキストを通じて国際問題を考え議論すること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	毎回新聞、インターネットなどを通じて設定されるテーマに関して情報収集した上で各自の発表や全体での議論をします。国際法の基礎知識を得るために教員が講義することもあります。さらに教員及びゼミ生の交流を深めるためにコンパやゼミ研修旅行など学外活動なども計画することもあります。 また卒業後の就職を含めた将来の展望について考えます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、報告内容で評価する。 基本的に理由がなく授業を５回以上欠席したものは単位の取得はできない。 20 分以上授業に遅れたものは理由がない限り遅刻とする。遅刻２回で欠席１回とカウントする。
学生へのメッセージ	自主的かつ積極的なゼミ参加を希望します。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	定期試験は行わないので出席は必須です。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	会社法、有価証券法、独禁法、労働法、民法等の分野から学生の希望も勘案して判例を学習します。
到達目標	ビジネス実務法務検定３級に合格できるレベル。もっとも授業に出席してるだけでは合格しない。学生の努力が第１条件です。
授業方法と留意点	各学生（または学生グループ）の希望に従い判例一件を選択させ、判例の事実関係、争点、判旨。論理構成、判例の位置づけ、学説等につき調べた結果を報告してもらいます。 ・指導方法：報告者と学生同士で質疑応答や議論をさせ、誤りや間違った方向に議論が進んだ場合には適宜注意を与え、正しい議論展開に導きます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	２年生でもとっつきやすい民法、労働法、刑法などの法分野から判例を選び、報告してことから始め、その後若干レベルの高い判例に進んでいきます。もちろん、３年でやる会社法・有価証券法・独禁法の判例も対象にします。
関連科目	民法全般、商法・会社法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	課題報告とともに出席を重視します。遅刻・欠席に対してはレポートを課します。
学生へのメッセージ	趣味：映画鑑賞（好きな映画「野獣教師（主演：トム・ベレンジャー)」理想の教師像を描いた作品。「教授と呼ばれた男（主演：ベン・ギャザラ)」腰抜け教授には、この男の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。）
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習への導入として、日本法史に関わる基礎知識を身につけるとともに、さまざまな問題について調べるためのノウハウを提供します。
到達目標	日本法史に関わる基礎知識ををもつとともに、広く社会問題についてその歴史的淵源を探り、問題解決の糸口を見つけられるようになることを期待しております。
授業方法と留意点	ゼミの主役は学生諸君です。学生諸君が自ら調べ、まとめ、プレゼンテーションできるようにアドヴァイスしたり、足らないところを補足したり、誤りを修正したりします。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	このゼミでは、日本法史に関わる様々なテーマを一通り説明したのち、学生諸君により深く自ら調べ、報告してもらおうと思っています。報告者は、文献、インターネット、新聞記事、雑誌論文など、関係資料にあたり、それについて噛み砕いて説明してください。それを材料に討論ができればと思います。報告者は、予習が大切。
関連科目	近世日本の法文化、日本の人権の歴史、日本女性史、祭りと地域の法社会史、その他あらゆる科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席と授業への取り組みのまじめさで判定します。
学生へのメッセージ	知的好奇心をもってほしい。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習の導入教育ですので、税の世界に馴染んで頂く内容としています。私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。
到達目標	①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること。 ②租税法の基本的考え方に慣れること。
授業方法と留意点	様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	講義、課題発表、ビデオ鑑賞、判例解説、社会人体験ゲーム等により、様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えるとともに、租税法の概要が理解できるようにします。毎回のテーマについて事前学習し、積極的に発言出来るよう心掛けてください。
関連科目	所得税法、消費税法などの租税法、財政学、憲法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミでの積極的発言や発表内容など、ゼミへの貢献度で評価します。
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	2 年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、プレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。
到達目標	専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方そして１５名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることがｔ目標です。
授業方法と留意点	学生による報告が主体の演習形式で行います。主にグループごとに特定のテーマについて、学習・調査し、それを授業の中で報告してもらいます。報告された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点（出席状況や勉学に対する姿勢）によって評価します。
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き（時事問題）に関心がある人に向いているゼミです。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習のプレであるから、民法の基本的な事項一般について理解することを目的とする。
到達目標	民法全般について学び、民法とはどのようなものかを知る。
授業方法と留意点	基本的には講義するが、学生からの発言を大いに待っている。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	繰り返しになるが、民法全般（総則、物権、債権、親族、相続）について一通りの知識を習得する。 民法は全体の構造を知れば部分が理解できるし、部分がわかれば全体像も見えてくるので、まず全体を知ることが重要である。 そのためには予習復習は大切である。
関連科目	民法概説、民法の各専門科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席と授業中の発表、態度により評価する
学生へのメッセージ	自分から学ぶ姿勢が何より大事である
担当者の研究室等	１１号館１０階　古川教授室
備考	一度は模擬裁判をやろうと考えている

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。
到達目標	「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につける。「人それぞれ」で済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようにする。
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらえるように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを４回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。
関連科目	専門演習、卒業研究。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。議論に対する熱意で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので 15 回で一つの区切りとなるような内容となります。
到達目標	とにかく、議論における発言を身につけてもらいます。
授業方法と留意点	出席は前提です。議論の中での発言が必須です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。 文献は事前に渡すことになりますので読んできてもらいます。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を前提として参加の程度によります。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	「プレ専門演習」は、2年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、および４年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、２年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。
到達目標	スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけること。
授業方法と留意点	スポーツの諸問題について資料や判例をもとに検討を加え、レポートを作成し、そのプレゼンテーションを行うとともに、取り上げられたテーマについてディスカッションすることが授業の中心である。したがって、事前準備を十分に行ったうえで参加することが留意点となる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・授業テーマ：「スポーツ活動にかかわる諸問題を資料や判例から検討する」 ・方法と内容：演習形式。スポーツに関係する判例の検討、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・授業の都度指示する課題に対する予習と復習
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度、プレゼンテーションの内容、ディスカッションでの発言等）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	新聞やインターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法についての理解を深めていく。
到達目標	刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンをする力を養う。
授業方法と留意点	受講生による報告を中心とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、毎回担当者を決め、レジュメやPowerPointを使って各々興味のあるテーマについて報告をしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになるかと思うが、なにしろ半期15コマしかないので、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定。
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	個別報告の内容、全体討議における発言・態度等を総合的に評価して判断する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階　島田准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもありますが、そもそも１つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含むそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということも往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふうに他の人に受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。 そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見をある程度固めたうえで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直したりすることの重要性に気付いていただきたく思っています。
到達目標	ご自分の意見を形成してそれをより的確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力をつけていただくことを目標とします。
授業方法と留意点	教員からの講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら調査し考えるといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが作業したり活動したりする時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要が出てきます。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかり感じていただくことにしたいと考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容（70%）、課題・提出物（30%）を評価の対象としますので、出席は必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。
学生へのメッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただくきっかけにしていただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	民法・消費者法に関わる身近な事例について議論します。 ゼミでは、民法の基本を学ぶと同時に、法を学ぶ上で重要となる、説得力のある議論の立て方についても、実践的に指導します。
到達目標	民法の基本を理解する。 議論の基礎を習得する。
授業方法と留意点	討論形式で行います。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初回授業時に指示します。
関連科目	民法・消費者法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業態度を総合評価します。 なお、無断欠席・遅刻には厳しく対応します。注意して下さい。
学生へのメッセージ	民法の基礎を、実践の場で確かなものにするチャンスです。 人前で話すのが苦手、という人も大丈夫。現在の学力も問いません。 積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	・指導方針 1　このプレ専門演習は，2 年次後期の「専門演習Ⅰ」、3 年次の「専門演習Ⅱ」、そして 4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。 2　そこで、本演習では 1 年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち，参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例（判例）や学説を調べて報告してもらいます。 3　もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。 4　また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。
到達目標	・公務員試験で出題される刑法の問題は、刑罰法規の解釈をめぐって争われる論点と、それに対する判例や通説の考え方を正確に理解できているかのみを試しているだけで実は極めて易しい。 学生が主体的に問題を演習する時間を割き、刑法上の論点を確実にマスターし、公務員試験に対するアレルギーを取り除くことを目標の一つとする。 ・ロースクールをはじめとする大学院受験を希望する者には答案作成の指導も行う。
授業方法と留意点	・指導方法 　この演習は，講義のように受身の姿勢で受講するのではなく，学生自らが答案を作成し、あるいは、研究テーマを設定し、選択したテーマに関して報告してもらいます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	・ゼミ内容 　この演習では，刑法（罪刑法定主義、刑法総論〈全犯罪共通の成立要件の検討〉，刑法各論〈各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論〉)、および、刑事学・犯罪学（犯罪原因論，受刑者と出所者の処遇問題，死刑を含めた刑罰の有効性と正当性，犯罪被害者救済策）を主な検討対象とします。 ・授業内容 　刑事法に関する事例問題（論述式）の答案作成方法 　刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法（リーガル・リサーチ） 　個別テーマの報告 ・授業時間以外での活動 　学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

評価方法（基準）	評価方法 　演習である以上、出席とゼミへの参加態度を総合的に考慮して評価します。 　無断欠席が多い場合、単位を与えないことがあります。 以下の点をとくに重視します。 ①発表時に問題提起を適切にしいるか（発表姿勢)。 ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（主体的学習)。 ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（論理性)。
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小野准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	当該民事法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2 年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。
到達目標	プレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民事法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。専門演習の出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けてもらいたいと思います。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3 名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発表するプレゼンテーションスキルや、研究内容に関して討論するディスカッション・コミュニケーションスキルを磨くことを目標とする。
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2, 3 人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1 学期内に、各グループとも、2, 3 回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じることを期待している。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合って発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の 2 つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものを用いて行う： １．資料作成技能重視型： 　発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の 2 点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3 人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1 審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。 そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。
到達目標	本演習では、ティベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後に一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込む事を考えている。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。
授業方法と留意点	２年前期の予定としては、①個人による社会問題の報告（→報告方法・改善点を把握）、②グループによるディベート（集団での活動方法・説得的なものとはいかなるものであるのかを把握）、③法律制度をグループで議論することを予定している。 ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。 自分で自分を評価する能力が必要とされる。 その自己評価書自体から教員が評価を行う。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	学生主体のゼミを目指しています。

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	プレ専門演習の目的は、「法哲学」という学問分野に親しんでもらうことです。初回のゼミの際に、法哲学にまつわるさまざまな具体的問題を提示しますので、ゼミ生にはそのなかから自分の好きな課題を選んで報告を行ってもらいます。それらの報告を通じて、法哲学の基礎的な考え方を身に着けることがこのゼミのもくｔ系である。
到達目標	報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、報告やグループ討論の仕方を習得すること。
授業方法と留意点	毎回担当者を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなで討論を行います。必要に応じて教員（松島）が学生の発表内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	具体的にはクローン技術は規制すべきか、自己決定はどこまで可能か、社会保障制度は本当に必要か、動物実験は是か非かなどの問題群に２人１組で取り組んでもらいます。報告の準備（資料収集やレジュメ作成など）はゼミの時間以外に行ってもらいますので、そのつもりでこのゼミにこのゼミに臨んでください。
関連科目	直接的には法思想史、法哲学総論（法哲学Ⅰ）、法哲学各論（法哲学Ⅱ）に関連しますが、広く憲法や民法などの実定法学の学習の一助にもなると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、演習中の報告内容や発言回数、グループ討論への参加度などを総合的に判断して評価します。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。
学生へのメッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。
担当者の研究室等	11号館９階　松島講師室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4～5 人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。
到達目標	社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができる。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。 社会問題について、その背景と現状を明らかにする。 2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。 その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。 3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。 複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。 4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	到達目標の達成度 60% 、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	夏休みに開催される、「全国大学政策フォーラム in 登別」での入賞を目標にします。まずは、政策立案の楽しさを体験してみてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

科目名	プレ専門演習	科目名（英文）	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	次年度以降の専門演習に備えるべく、社会科学の文献についての読み書き能力や論理的思考力、論理的表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている社会科学のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような能動的学修の場を提供します。 学問や仕事に対する知識・感情・意思を失わないような大人になるべく、ともに頑張っていきましょう。
到達目標	社会科学に関する書物、新聞記事、評論などを読んで、あるいは自分が興味がある社会科学のテーマについて、その内容を理解し、要点をまとめ、他者に対して明確に発表することができる。 有意義な大学生活を送るべく、友人を見つけることができる。
授業方法と留意点	講義や発表形式で行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	初めに発表の仕方や資料・文献の見つけ方についてガイダンスをします。また学生の皆さんに自分が興味を持っていて発表したい社会科学のテーマやそれに関する文献について自由に決めてもらいます。次年度の専門演習に向けて読解能力や論理的思考力、論理的表現力を高めることが大きな目的ですので、社会科学に関わる新書や総合雑誌レベルの資料について発表してもらうのが望ましいです。 毎回学生の皆さんに社会科学のテーマやそれに関する文献についてレジュメかパワーポイントで発表してもらい、皆さんで自由に議論をしていく予定です。 社会科学のテーマについてですが、それが社会科学と関係すると言えるのならば、映画や小説のような芸術作品や、心理学や文学のような他の学問の領域と絡めても構いません。 社会科学のテーマが定まっていてもまだしっかりとした発表が難しい場合は、その社会科学のテーマに関する資料や文献を輪読する場合もあります。 ただし皆さんの希望もあるでしょうから、どのような内容にするかは皆さんと相談して決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	授業での発表と参加態度で評価します。
学生へのメッセージ	有意義な大学生活を送るには、まず助け合える友人を作ることが大事です。ぜひ積極的に大学のいろんな勉強会やイベントに参加するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名（英文）	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岡本　香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を確認し実践を通して学ぶ。ウオーミングアップの意義や効果を含め、エアロビック運動を中心に行い、スポーツ指導の実際に活かす。また、レクリエーション・スポーツについても実践し楽しさを実感する。
到達目標	ヘルスエクササイズのプログラム作成と実践指導ができるようになる。
授業方法と留意点	実技を中心に行うが、実践を通して理論について確認する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体操・ストレッチング①	動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
2	体操・ストレッチング②	筋コンディショニング、バランストレーニング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
3	ウオーキング・ジョギング①	効率の良い歩き方・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
4	ウオーキング・ジョギング②	歩行・走行測定	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
5	水泳・水中運動①	ウオーキングエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
6	水泳・水中運動②	ウオーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
7	エアロビックダンス①	基本姿勢・ステップ動作	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
8	エアロビックダンス②	プログラム構成・実践指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
9	軽スポーツ①	ドッヂビー	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
10	軽スポーツ②	フライングディスク	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
11	軽スポーツ③	なわとび・ダブルダッチ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
12	運動ゲーム①	ボール遊び	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
13	運動ゲーム②	ドッチボール	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
14	運動ゲーム③	キックベースボール	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。
15	運動ゲーム④	サッカー	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについても、常にノートにまとめておくこと。

関連科目	スポーツトレーニングの基礎、発育発達論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（50%）、技能点（20%）、レポート点（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	運動する楽しさを実感し、また他人に伝える方法を学ぼう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	これから、４年間、法について学ぶに当たって、基本的な知識を習得することを目的に、基本科目の基本を講義します。
到達目標	これから学ぶ様々な法について、基本的な知識を習得すること。
授業方法と留意点	教材としてプリントを用意します。必ず、毎回持参して下さい。 プリントは、教材フォルダにあります、各自、プリントアウトして下さい。
科目学習の効果（資格）	これから学ぶ様々な法を理解するための基本知識となります。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法の意味と役割について	特にありません。
2	法の姿・形と種類	成文法と不文法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
3	日本国憲法	日本国憲法の概要を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
4	民法その１	法律行為などの民法のキーワードを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
5	民法その２	物権や債権などの民法のキーワードを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
6	民法その３	損害賠償などの具体的な事例を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
7	刑法その１	犯罪の成立要件について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
8	刑法その２	刑の種類や共犯など刑法の基本を学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
9	刑事訴訟法その１	捜査の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
10	刑事訴訟法その２	刑事裁判の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
11	民事訴訟法	民事裁判の基本的な流れを学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
12	法令の読み方その１	条・項・号の意味や、本則や附則について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
13	法令の読み方その２	及び、並びに、又は、若しくはといった用語の使用方法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
14	法の解釈について	様々な法の解釈の方法について学習します。	プリントを読み、事前学習して下さい。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめます。	すべてのプリントを読み、事前学習して下さい。

関連科目：法に関するすべての科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	前期末に定期試験を行います。定期試験の結果で評価します。
学生へのメッセージ	授業へは必ず出席し、遅刻しないで下さい。 また、私語は厳禁です。
担当者の研究室等	11 号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	法学概論	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	基礎法及び実定法の一般を概観し、法学部生として知るべき基本的な法律知識の習得を目的とします。広範囲の法律分野を対象としますので、その基礎となる考え方に重きを置いた講義となります。
到達目標	法律を確実に理解するために「必須である基本的知識」の習得を目標とします。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、問答形式も随所に取り入れます。発言を重視しますから、自ずと出席が大切となります。数回、授業時間の終わり２０分程度を使って「確認問題」を実施しますから、特に注意すること！
科目学習の効果（資格）	法学部生として当然知っておくべき法律の知識が学べます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	全体の概略	法学概論の射程と学習方法	基本的には事後の復習を重視します
2	法とは何か	法の定義、法と社会の関係	今回学んだことの確認
3	法と社会規範	社会規範の諸形態 法と道徳、法と強制	今回学んだことの確認
4	法の目的・理念	法が目指す理念とは	今回学んだことの確認
5	権利と義務　その１	法的関係と事実関係	今回学んだことの確認
6	権利と義務　その２	権利の種類	前回と合わせて学んだことの確認
7	法源と法の体系　その１	法源の意味とは	今回学んだことの確認
8	法源と法の体系　その２	制定法の種類	今回学んだことの確認
9	法源と法の体系　その３	不文法、慣習法 法源としての判例	３回を合わせて学んだことの確認
10	法の適用と解釈　その１	法の適用とは	今回学んだことの確認
11	法の適用と解釈　その２	法解釈の態度とは	今回学んだことの確認
12	法の適用と解釈　その３	法解釈の方法と種類	３回を合わせて学んだことの確認
13	法と裁判　その１	具体的事件への法の適用 裁判による紛争解決	今回学んだことの確認
14	法と裁判　その２	刑事事件と民事事件 裁判制度 裁判員裁判	前回と合わせて学んだことの確認
15	まとめ	総括と再確認	この授業を通して学んだことの再確認

関連科目：憲法概論、刑事法概論、民事法概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット六法（平成２９年版）	山下友信ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び授業中に行った「確認問題」(40%)を合わせて評価します。
学生へのメッセージ	「概論」といっても易しい授業ではありません。１５回すべての授業はつながっていますから、授業を聞くことを、まず、重視してください。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰは、主として, （1）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。 　法学基礎演習Ⅰでは、学部全体で実施している図書館の利用方法、文献の利用の仕方、研究倫理教育、環境教育などの他、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」を主なテーマとして検討します。
到達目標	法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び「法律用語」を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	「法律と言葉」の理解については問題を設定し、それを問答形式で進めます。双方向性を重視しますから、積極的な発言を求めます。この演習の成績評価とする課題レポートを最後に課します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．学部共通の図書館利用指導など ２．フレッシュマンズ・スタディガイドを使った指導 ３．研究倫理及び環境についての教育 ４．ＩＴを使った法令・判例の入手方法の指導 ５．六法の使い方、読み方の指導 ６．法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討 　２・３・４については、各１回程度 　５・６については、１０回程度を使って行う。
関連科目	法学部で開講されている授業科目
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視するとともに、「討論参加」と「発言状況」及び「課題レポート」を総合して評価します。
学生へのメッセージ	ゼミで出会う人は、今後、皆さんにとって大切な友人となるかもしれません。まずは、挨拶と声をかけることから始めて下さい。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	１．これから４年間、大学生活を送り、法を学んでいく上で必要な事項について説明します。 ２．法の基礎について平易に説明します。 ３．２年生から本格的に法を学ぶための基礎を培います。
到達目標	法学についての基本的知識を修得する。
授業方法と留意点	１．ニュースを素材にして、その内容を法的に考えてみます。 ２．各自に、最近のニュースを取り上げ、その内容を発表してもらいます。 ３．ニュースの内容を法的に捉えるよう、努力してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に発表してもらいます。 ２．必ず、日々にニュースに接し、発表する内容を考えておいて下さい。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、報告内容及び討論への積極性を重視し、平常点により評価します。
学生へのメッセージ	とにかく、毎回、必ず出席して下さい。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 新聞で報道されている法律の問題を題材にして、法律学の紹介を行っていきます。
到達目標	大学で法学教育を学ぶために必要な基礎的な知識を習得します。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 FIrst Year Study Gude　を用いて、大学で学ぶための最小限の知識を習得します。 新聞の記事などを読んで、様々な法律学の入門的な知識を習得します。 演習中に勉強したことを復習して、さらに、興味があることについては、図書館等を利用して、自主的に勉強してください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	演習には必ず､､出席してください。 演習中は、ポケット六法を携帯してください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	授業やさまざまな講習会を通じて大学生活を送る上で必要な知識やスキルを身につけること。
到達目標	自立した大学生として２年次以降の学生生活を健全に送ることのできる基礎力を身に着けること。
授業方法と留意点	授業方法は、『初年次教育ガイド』をもとに大学生活のガイダンスを行う。 法学部の学生としてふさわしい基礎学習能力をさまざまなメディアを通じて身につける。 特に新聞記事を利用した学習を行う。 ゼミ生相互の交流を図るための懇談会やスポーツ活動などの試みを行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：大学生活のガイダンスと専門教育への導入 方法:『初年次教育ガイド』をもとに大学生活のガイダンスを行う。 図書館利用や情報処理講習で基本的な学習スキルを身につける。 学習課題：『初年次教育ガイド』を事前・事後に予習・復習すること。学んだことをすぐに実践すること。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初年次教育ガイド		摂南大学
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、報告内容で評価する。 基本的に理由がなく授業を５回以上欠席したものは単位の取得はできない。 20 分以上授業に遅れたものは理由がない限り遅刻とする。遅刻２回で欠席１回とカウントする。
学生へのメッセージ	自主的かつ積極的なゼミ参加を希望します。
担当者の研究室等	１１号館１０階　糟谷教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	まず、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	大学の授業や学生生活について必要な知識やノウハウを身につける。講義ノートのとり方、レポートの書き方、図書館利用指導、パソコン指導など。
関連科目	特定の科目というより、社会への関心が大事。新聞を読み、ニュースに接すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	知らないことは若さの特権です。いずれそれが恥となり、自らにとって不利な事態を招く可能性もあります。貪欲に学び、経験し、そして息抜きをしましょう。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（1）法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。
到達目標	①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回必ず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、図書館利用指導などの共通プログラムがあります。また、当ゼミ独自では､「社会でおきていることに関心を持とう」というテーマで世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。
関連科目	憲法
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点によります。また、レポートの提出や課題発表によっても評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　小島教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ｉ	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ｉ・ＩＩの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようにする。また、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れる。
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねＩでは、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項につい学びます。
到達目標	大学生として生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身につけること。友人を作ること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	自分の意見の発表力をつけることを重視する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	私が担当する本演習では、どのような勉強をするうえでも基礎となる力を「感じる」ことを目的とする。その力は、集中して物事を考えることである。「感じる」とするのは、90 分×15 週では養うことには及ばず、みずから養う部分を感じてもらうためである。
到達目標	自分の得意な部分、苦手な部分を感じられるようにする。
授業方法と留意点	いくつかの種類のことをそれぞれ時間を決めて取り組む。たとえば、クロスワード、数字トレーニング、中学校入試問題、発想力トレーニング、ラジオニュース聴き取り、絵記憶伝達ゲームなどを行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	内容は法律・政策に限らない。スピード感と集中力を重視して展開する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、結果で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の度合い、取り組みをもとに評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習 I	科目名（英文）	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	これから法学部で４年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。
到達目標	様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら調査し考えるといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが作業したり活動したりする時間のほうが、割合としては多くなります。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	時事問題や最近話題になった法的問題、報道された判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（75%）、提出された課題（25%）を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　家本准教授室
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：20 時間

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	受講生が選択したテーマにつき、1 年をかけグループ単位で調査・研究を行う。研究成果は、中間報告会・最終報告会でゼミ員に報告してもらうほか、優秀なものについては、ライブラリー・ニュースレター等への掲載により公表を予定している。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。 研究テーマについて、調査・発表するにあたっての作法を身につける。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのテーマは、初回授業時に決定します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的

法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。
（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと
（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること
（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

（１）ガイダンスでは、
①図書館の利用方法
②六法や法学参考文献の利用のしかた
③法学専門講義の履修についての心構え
④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）
⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。

（２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。
たとえば、
①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める
②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する
③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する
④ディベートをおこなう
⑤裁判所見学など学外研修を実施する
などです。
みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。

（３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。
たとえば、
①公務員試験対策
②税理士や裁判所職員などの法律専門職
③就職への心構え
④大学院進学
⑤海外留学
など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。

以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。

到達目標

・この科目の到達目標は、法学上の諸問題について、自ら主体的に調べ、他者にわかりやすく報告できる能力を磨くことです。

授業方法と留意点

・演習は、積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。
・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。
・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。

授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題

プレゼンテーションやディベートなどを行う予定でいますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。

関連科目

専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

・積極的な発言を何よりも重視して評価します。
・ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。
・レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。

学生へのメッセージ

・法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。
　学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。
・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思いますが、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々分からないことや不安なことがあるかと思いますので、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後 4 年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドヴァイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の度合い、取り組みをもとに評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思いますが、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを提出してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います。
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。
到達目標	多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになる。
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。 2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。 3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。 4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	到達目標の達成度 60% 、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	図書館の利用方法やレポートの書き方、発表の仕方など大学生活を送るにあたって必要なガイダンスを行います。またどのような学問を勉強しようとも、どのような進路に進もうとも必要になってくる読み書き能力や論理的思考力、論理的表現力の基礎を身につけることが目的です。学問や仕事に対する知識・感情・意思を失わないような大人になるべく、ともに頑張っていきましょう。
到達目標	易しい書物、新聞記事、評論などを読んで、その内容を理解し、要点をまとめ、他者に対して明確に発表することができる。 有意義な大学生活を送るべく、友人を見つけることができる。
授業方法と留意点	講義や発表形式で行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	易しい書物、新聞記事、評論などを読んで、何が書かれているのか、その内容を簡単に発表してもらいます。基礎演習Ⅰでは文章を読んで理解し、発表することが大きな目的ですので、法学や政治学に関係ないものでも構いません。 一人で読むには難しい本、他の人に薦めたい本を全員で少しずつ読んでみるのもよいですし、個人で自分が好きな本を発表してもよいでしょう。どのような内容にするかは皆さんと相談して決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での発表と参加態度で評価します。
学生へのメッセージ	有意義な大学生活を送るには、まず助け合える友人を作ることが大事です。ぜひ積極的に大学のいろんな勉強会やイベントに参加するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅱは、 　前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに （1）２年次以降の法学部での勉学のためのガイダンスを行うこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めること、（3）その他、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。 　法学基礎演習Ⅱでは、学部全体で実施している学習支援センター・裁判所などの見学の他、社会で議論される問題を題材として、賛成反対に分かれて討論することが中心となります。
到達目標	「最近起こった社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	問題を提示して賛成・反対（自分の意見とは関係なく）に分かれて討論する、という形式で行います。それぞれの立場をとる理由を事前に考えておくこと。最後に、課題レポートの提出を求めます。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．学部共通の裁判所見学（刑事裁判の傍聴）、学習支援センターの体験学習、常翔歴史館の見学(予定) ２．討論する問題の提示と提示された問題についての討論 　１については、３回程度 　２については、提示とやり方の説明を加えて１２回程度
関連科目	法学部で開講されている授業科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	必要な資料を配付します。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、討論での「参加状況」と「発言の明確性」及び最後に提示する「課題レポート」を総合して評価します。
学生へのメッセージ	設定する問題に対して賛成・反対のどちらの立場でも理由付けができるように、日頃から社会問題に関心を持ってください。新聞やテレビもチェックを忘れないで下さい！
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	１．日々のニュースを素材に、人々の活動を法的に捉えることができるよう基本練習をします。 ２．裁判を傍聴するなどして、法が現実に適用される場を経験し、法と私たちの生活が非常に密接な関係にあることを学びます。 ３．２年生から本格的に法を学び理解するための基礎を培います。
到達目標	法に関する基本的知識を習得する。
授業方法と留意点	１．ニュースを素材にして、その内容を法的に考えてみます。 ２．各自に、最近のニュースを取り上げ、その内容を発表してもらいます。 ３．ニュースの内容を法的に捉えるよう、努力してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	１．毎回、２人から３人程度に発表してもらいます。 ２．必ず、日々のニュースに接し、発表する内容を考えておいてください。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席、報告内容及び討論への積極性を重視し、平常点により評価します。
学生へのメッセージ	必ず、毎回、出席して下さい。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館９階　金谷教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	大学で法学教育を受けるために必要な基礎的な知識を習得します。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	法学の基礎を習得します。 特に、２年以降に学ぶ法律学の基礎になる民法を中心にして、判例の読み方とか、試験の答案の書き方などを勉強します。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、議論に加わるようにしてください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館９階　牛丸教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	授業やさまざまな講習会などを通じて大学生活を送る上で必要な知識やスキルを身につけること。
到達目標	自立した大学生として２年次以降の学生生活を健全に送ることのできる基礎力を身に着けること。
授業方法と留意点	授業方法は、『初年次教育ガイド』をもとに大学生活のガイダンスを行う。 法学部の学生としてふさわしい基礎学習能力をさまざまなメディアを通じて身につける。 特に新聞記事を利用した学習を行う。 ゼミ生相互の交流を図るための懇談会やスポーツ活動などの試みを行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：２年次以降の専門教育へ対応するための基礎力を養うこと。 内容・方法： （１）情報処理のスキルを生かし、収集した情報をもとに議論をする。 （２）裁判傍聴などを通じて法学への関心をさらに深める。 （３）映画鑑賞などを通して様々な問題への関心を深める。 学習課題：報告テーマの設定とその準備のため授業時間だけではなく、事前・事後の学習が前提となる。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、報告内容で評価する。 基本的に理由がなく授業を５回以上欠席したものは単位の取得はできない。 20 分以上授業に遅れたものは理由がない限り遅刻とする。遅刻２回で欠席１回とカウントする。
学生へのメッセージ	自主的かつ積極的なゼミ参加を希望します。
担当者の研究室等	１１号館１０階　糟谷教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。
到達目標	本格的な法学部の学びの導入として、易しい法学入門の文章に親しみ、法学に関心を持ってもらいたいと考えています。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	主として新聞記事を使い、現在の社会問題について考える。記事を読んで、その問題性について議論し、またレポートなどにまとめる。大阪地方裁判所で刑事裁判の傍聴もおこなう。
関連科目	法学関連科目、社会科学全般
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	大学生活にも慣れてきた頃です。誘惑にまけず、夢に向かって努力しましょう。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　牧田教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島　俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。
到達目標	①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学４年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回必ず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	裁判所見学などの法学部共通プログラムのほか、憲法制定の沿革や法令解釈の仕方などを学びます。また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいのかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。
関連科目	憲法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点によります。また、レポートの提出や発表も評価します。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　小島教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原　匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようにする。また、２年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れる。
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	詳細は、第１回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えていきます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　河原教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。
到達目標	授業の目的欄に記載し通り、法学部学生として身につけておかなければならない基本的な姿勢を習得することです。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	Ⅰと同じく自分の意見の発表力を高めることを内容としますが、様子を見て、条文等を音読したうえ、内容を確認することを行います。これによって文章の理解能力を高めます。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　古川教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	私が担当する本演習では、複数人でどのような研究をするのにも基礎となる力を「感じて」もらうことを目的とする。その力とは単純に「しゃべる」力である。また、「感じて」もらうとするのは、90 分×15 週ではその力を養うには及ばず、みずから養うべき力を感じてもらいたいからである。
到達目標	おしゃべりな学生には人の話を引き出せるように、静かな学生は話題を広げるきっかけをつかめるようになってほしい。
授業方法と留意点	早口言葉から始める。ついで、パーティーゲームを用いて、お互いの心を読みながら自分の声を発して、自分の利益となるように発言するようにする。
授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題	内容は法律・政策に限らない。会話と楽しむことを重視して展開する。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	すべての回の出席を前提とし、各回の演習の取り組み姿勢、結果で評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　中沼准教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田　徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の度合い、取り組みをもとに評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　浮田准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習（決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う） 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田　良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。 （１）ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。 （３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。 以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。
到達目標	法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	例年、Power point を用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　島田准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本　真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	これから法学部で４年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたっても必須であり、役立つことです。 したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。
到達目標	様々な方法を使って、自分で物事を理解し、それを他の人に伝えることができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	教員からの講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら調査し考えるといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが作業したり活動したりする時間のほうが、圧倒的に多くなります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、１つのことをより掘り下げて理解することに重きを置くことを考えています。 ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。
関連科目	法学基礎演習Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容（75%）、提出された課題（25%）を評価の対象としますので、出席はすべての回について必須です。無断遅刻・欠席は即、単位が取れなくなるものとお考えください。
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。
担当者の研究室等	11号館９階　家本准教授室
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	受講生が選択したテーマにつき、1 年をかけグループ単位で調査・研究を行う。研究成果は、中間報告会・最終報告会でゼミ員に報告してもらうほか、優秀なものについては、ライブラリー・ニュースレター等への掲載により公表を予定している。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。 研究テーマについて、調査・報告するにあたっての作法を身につける。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	ゼミのテーマは、初回授業時に決定します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	１１号館１０階　城内准教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的

法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として３つあります。
（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと
（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること
（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

（１）ガイダンスでは、
①図書館の利用方法
②六法や法学参考文献の利用のしかた
③法学専門講義の履修についての心構え
④パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）
⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。

（２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。
たとえば、
①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める
②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する
③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する
④ディベートをおこなう
⑤裁判所見学など学外研修を実施する
などです。
みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。

（３）学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。
たとえば、
①公務員試験対策
②税理士や裁判所職員などの法律専門職
③就職への心構え
④大学院進学
⑤海外留学
など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。

以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後４年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。

到達目標

・この科目の到達目標は、法学上の諸問題について、自ら主体的に調べ、他者にわかりやすく報告できる能力を磨くことです。

授業方法と留意点

・演習は、積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。
・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。
・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。

授業テーマ・内容･方法･事前、事後学習課題

プレゼンテーションやディベートなどを行う予定でいますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。

関連科目

専門科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	※開講時に指示する		
2			
3			

評価方法（基準）

・積極的な発言を何よりも重視して評価します。
・ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。
・レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。

学生へのメッセージ

・法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。
・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。
・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱでは「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが目標となります。具体的には法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマート SPI の講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張りましょう。
関連科目	法学部のすべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。
到達目標	前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。 また、４年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。
関連科目	法学部開講科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加の度合い、取り組みをもとに評価します。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、（1）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（2）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（3）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。
到達目標	法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身に着けることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱでは「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが目標となります。具体的には法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	後期は本格的なレポートの書き方やプレゼンの仕方（レジュメやパワーポイントの作り方など）を、みんなで身につけていきます。大きな課題をいくつか出すので（例えば、裁判所見学にかんする 2000 字程度のレポートなど)、みんなで協力しながら頑張りましょう。
関連科目	法学部のすべての科目
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。
到達目標	文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができる。
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせて授業を進行する。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。 2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。 3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。 4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート 60%　、実習課題 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	提出物についてはコメントを付した上で返却する。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田　泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP6◎,DP7◎,DP8◎,DP9◎,DP10◎		

授業概要・目的	次年度以降のゼミに備えるべく、さらなる読み書き能力や論理的思考力、論理的表現力の基礎を身につけることが目的です。 学問や仕事に対する知識・感情・意思を失わないような大人になるべく、ともに頑張っていきましょう。
到達目標	一般の書物、新聞記事、評論などを読んで、その内容を理解し、要点をまとめ、他者に対して明確に発表することができる。 有意義な大学生活を送るべく、友人を見つけることができる。
授業方法と留意点	講義や発表形式で行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	一般の書物、新聞記事、評論などを読んで、何が書かれているのか、その内容を簡単に発表してもらいます。基礎演習Ⅱでは新聞記事の社説よりは長く難しい文章を読んで理解し、発表することが大きな目的ですので、新書や総合雑誌レベルの資料について発表してもらうのが望ましいです。 ただし皆さんの希望もあるでしょうから、どのような内容にするかは皆さんと相談して決めていきたいと思います。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業での発表と参加態度で評価します。
学生へのメッセージ	有意義な大学生活を送るには、まず助け合える友人を作ることが大事です。ぜひ積極的に大学のいろんな勉強会やイベントに参加するようにしてください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　和田講師室
備考	

科目名	法学基礎演習Ⅰ	科目名（英文）	Primary Seminar Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）;図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方）、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、;新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	課題発表を課すとともに出席を重視し、平常点により評価します。さらに欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	趣味：映画鑑賞（好きな映画「野獣教師（主演：トム・ベレンジャー)」理想の教師像を描いた作品。「教授と呼ばれた男（主演：ベン・ギャザラ)」腰抜け教授には、この男の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。）
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として３つあります。（１）法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、（２）法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、（３）有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。
到達目標	法学部生として学ぶべき基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	（１）;図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方（とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。 （２）法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の４年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、;新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。
関連科目	
教科書	
参考書	
評価方法（基準）	課題発表を課するとともに、出席を重視し、平常点により評価します。さらに欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。
学生へのメッセージ	趣味：映画鑑賞（好きな映画「野獣教師（主演：トム・ベレンジャー)」理想の教師像を描いた作品。「教授と呼ばれた男（主演：ベン・ギャザラ)」腰抜け教授には、この男の爪の垢を煎じて飲ませてやりたい。）
担当者の研究室等	１１号館１０階　木村教授室
備考	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

科目名	法思想史	科目名（英文）	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から 19 世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見ていきます（20 世紀以降の新しい法思想は法哲学 II で扱います）。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性――いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア――を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	法思想史の基本事項を暗記することももちろん重要ですが、むしろそうした知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。過去の哲学者たちの見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点を持って講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【復習ワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要をを学習します。	【復習ワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデメイア、対話篇の時代区分、善のイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【復習ワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊的正義、分配的正義と匡正的正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【復習ワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、キケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【復習ワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイネー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【復習ワード】 12 世紀ルネサンス、ボローニャ大学、註釈学派(glossatores)、註解学派(commetatores)、学説彙纂、標準注釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【復習ワード】 ルネサンス（再生）、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派（ビトリアとスアレス）
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホッブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【復習ワード】 ピューリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲惨さ、ホッブズの自然法（特に第１～第３の自然法の内容）
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムの法思想も簡単に紹介します。	【復習ワード】 ロックの自然法、固有権（プロパティ）、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の精神』における権力分立の思想も解説します。	【復習ワード】 『不平等起源論』、一般意志（特にその問題点）、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響力、モンテスキューの権力分立論
12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明した	【復習ワード】

		うえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心的に取り上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判
13	近代ドイツの法思想②	19 世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【復習ワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学
14	近代ドイツの法思想③	20 世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【復習ワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粋法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目	直接的には法哲学総論、同各論、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	定期試験の成績 70%と提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。
学生への メッセージ	この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	受講者が極端に少ない場合（目安としては 20 名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法社会学	科目名（英文）	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	実定法の学習が進み、条文の細かな知識が増えるにつれ、法律学や現実の社会に対するさまざまな疑問が出てくるのではないでしょうか？　例えば、実社会は法律の条文どおりに動いているのだろうかとか、世の中のどれくらいの紛争が裁判所に持ち込まれているのだろうか等々。 この授業では、実定法の学習だけでは見えてこないような社会と法のかかわりについて、さまざまな統計データや理論を用いて検討を加えていくことで、法社会学の基本的事項を学習していきます。
到達目標	経験的社会科学の方法を用いて明らかにされる、現実社会で法が実際にどのように作動しているかを認識することが基本的な目標になります。その上で、法とその他の社会現象との関係、現実にある法とあるべき法との間をどのように埋めていくかといった問題を自分自身で考えることができるようになることが到達目標になります。
授業方法と留意点	講義は、適宜配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	可能なかぎり、実定法科目の理解を促進するような授業を行う予定です。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法社会学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法社会学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法社会学の基本的な参考文献を紹介します。	事前の予習は必要ありませんので、毎回の授業内容を復習するように努めてください。
2	法専門職①　裁判官	各国の法曹制度を比較しながら、日本の法曹の特色を説明していきます。まず最初に裁判官を取り上げ、彼らのおかれている状況を検討します。また、司法行政の実態については詳しく考察する予定です。	授業を聞いて、裁判官に対する印象は変わりましたか？　感想をまとめておいてください。
3	法専門職②　弁護士	前回の続き。日本の弁護士について考察します。はたして弁護士は市民にとって身近な存在なのでしょうか？　さらに司法書士、弁理士、行政書士などの職業を取り上げ、その職務内容をあわせて説明します。	授業を聞いて、弁護士に対する印象は変わりましたか？　感想をまとめておいてください。
4	刑事事件と法①　日本の犯罪の現状	連日のように凶悪犯罪が報道され、日本の安全神話が崩壊しつつあります。しかし、本当に日本は犯罪の多い危険な社会なのでしょうか？また昔に比べ、本当に犯罪は凶悪化しているのでしょうか？	授業内容に関心を持った学生は、授業中に紹介した本を読み、その感想を書いてください。
5	刑事事件と法②　日本の刑事司法の現状	警察による捜査活動、検察官による起訴判断、裁判における量刑などを手がかりに、日本の刑事司法の現状とその問題点を学習します（法専門職としての検察官についてはこの回に解説します）。	刑事訴訟法で学習したことと比較しながら、刑事司法の問題点を考えてみてください。
6	刑事事件と法③ 刑事弁護活動	刑事司法過程において、被疑者・被告人のために活動する弁護士が実際にどのようなことを行ってるかを学習します。	テレビでも映画でも書籍でも良いので、自分なりの弁護士像をイメージしておいてください。
7	民事紛争と法①　訴訟の要因	世の中のすべての紛争が裁判所に持ち込まれるわけではありません。いったい、人々はどのような場合に訴訟を検討し始め、逆にどのような場合に訴訟を回避しようとするのでしょうか？	友達や恋人とけんかしたとき、皆さんはどのように解決していますか？
8	民事紛争と法②　紛争処理	交通事故などのトラブルを素材にして、紛争発生から紛争解決までのプロセスを学習します。またこの回の授業の中で、ADR（代替的紛争処理）についても解説します。	皆さんが交通事故の被害者や加害者になった場合、どのように振る舞いますか？
9	民事紛争と法③　現代型訴訟	公害訴訟や空港騒音訴訟に代表される「現代型訴訟」と呼ばれる訴訟の特徴について学習し、それらの訴訟が社会に与えたインパクトについて検討します。	通常の民事訴訟と現代型訴訟が何が異なるのか、説明できるようになること。
10	前半の授業のまとめ	前半の授業のまとめとして、法律家や裁判の社会的機能やその限界について考察してみます（もし皆さんの方で詳しく知りたいトピックがあれば、そのテーマに基づいて講義を行う予定です）。	第２回から第９回までの授業で、分かりにくかったところをピックアップしておいてください。
11	法社会学の理論家たち	この回の授業では少し目先を変えて、法社会学の開拓者たちを紹介します。ウェーバー、エールリッヒ、パウンドらの問題意識を理解することで、法社会学という学問分野の成り立ちを学習します。また、最も重要な社会学者の一人であるニクラス・ルーマンを取り上げ、彼が構築したシステム理論の概要を解説し、彼の目から見た近代法システムの特色を学習します。	図書館でウェーバーやエールリッヒ、ルーマンの入門書や著作を手にとってみてください。
12	日本社会と法	日本人は権利や義務の意識が希薄なのだろうか。あるいは、日本人は和を尊ぶ	比較的安価なので、ぜひ一度、川島武宜「日本人の法意識」を読んでみてください。

			国民なので訴訟が嫌いなのだろうか。こうした日本の法文化に関する諸問題を、川島武宜の著作を手がかりに学習します。	
	13	男女雇用機会均等法	日本社会における法を個別法を通じて検討します。	六法などで男女雇用機会均等法を軽く眺めておいてください。
	14	離婚と法	離婚は、法律が規律する中でも最も感情が表れる分野の１つといえます。そこには、社会の変化や人々の意識の変化が現れているといえます。	関連する家族法の分野を眺めておいてください。
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において法が果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください。

関連科目	憲法・民法・刑法の基本的知識があることが望ましいです。また隣接科目として、法哲学や法思想史など受講していただくとより理解が深まると思います。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績７０％と毎回の提出物３０％によって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	授業では具体的な事例を用いてできる限り分かりやすく説明するつもりですが、他方で、やや抽象的な理論も取り上げる予定です。授業で理解できないところが出てきたら、遠慮なく質問に来ていたければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

科目名	法情報学	科目名（英文）	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷　次郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	授業概要：「法情報学」について、リテラシー的なアプローチから学ぶ。具体的には、法律にかかわる情報（法情報）の検索、収集、活用等（リーガル・リサーチ）の方法である。 授業目的：民主主義の下では、法情報に自由にアクセスでき、これを活用できることが重要である。講義と演習を通じて、これらを体験する。
到達目標	・到達目標：企業人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を育成する。
授業方法と留意点	演習形式（コンピューター使用）を主とし、適宜講義も行う。
科目学習の効果（資格）	とりわけ、法律を取り扱う職業（専門職はもちろんのこと、民間企業の法務担当や自治体職員等も含む）に就職する際には役立つであろう。 また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットを使用した法情報の収集に関する基礎的知識が習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法情報学の概要と本講義の内容について。	特になし。
2	リーガル・リサーチの方法（1）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶ。	教科書第Ⅰ部（2～47 ページ）に簡単に目を通しておく。
3	リーガル・リサーチの方法（2）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅰ部に簡単に目を通すとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる。
4	法令を調べる（1）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶ。	教科書第Ⅱ部１～２（50～99 ページ）に簡単に目を通しておく。
5	法令を調べる（2）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅱ部３～７（100～144 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる。
6	判例を調べる（1）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶ。	教科書第Ⅲ部１～２（146～207 ページ）に簡単に目を通しておく。
7	判例を調べる（2）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅲ部３～４（208～239 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる。
8	判例を調べる（3）	判例調査の方法についてさらに詳しく学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅲ部に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる。
9	中間テスト（レポート作成）	これまでの授業で扱った内容に基づく簡単な調査を行い、授業時間中にレポートを作成する。	これまでの授業内容をおさらいしておく。
10	文献を調べる（1）	文献調査の基礎知識を学ぶ	教科書第Ⅳ部１（242～290 ページ）に簡単に目を通してくる。
11	文献を調べる（2）	文献調査の具体的な内容を学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第Ⅳ部２～５（291～377 ページ）に簡単に目を通しておくとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる。
12	リーガルリサーチの実際（1）	担当教員が実際に扱った事件を題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておく。
13	リーガルリサーチの実際（2）	担当教員が実際に扱った事件を題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておく。
14	リーガルリサーチの実際（3）	担当教員が実際に扱った事件を題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておく。
15	まとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直すとともに、期末レポートの説明を行う。	これまでの授業内容をおさらいしておく。

関連科目：情報倫理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リーガル・リサーチ 第５版	いしかわまりこ他	日本評論社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	法情報の調べ方入門　法の森のみちしるべ	ロー・ライブラリアン研究会編	日本図書館協会
2			
3			

評価方法（基準）	期末レポート 65%、中間レポート(1 回)35%により評価し、授業参加度を加味する。
学生へのメッセージ	今日の情報化社会において、法学部でも、法情報（法に関する情報）の知識は不可欠となっています。また、法情報についての知識は、他の学問を学ぶ際にも非常に有益な情報を含んでいます。関心をもって積極的に受講して頂きたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	授業時間外での質問は下記メールを使用すること

	jiro アットマーク tani-j-law.jp（アットマークには@を入れる）

科目名	法人法概説	科目名（英文）	Corporation Law Outilined
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　行男
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	平成１８年法律改正後の法人に関する事項一般及び会社法の基礎につき学習する。
到達目標	実生活や仕事で実際に役立つ知識や考え方を習得する。
授業方法と留意点	講義をするが、十分な理解のためには予習と復習が不可欠である。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法人とは何か・法人制度	基礎概念を知る
2	旧社団法人と旧財団法人	平成１８年の制度改正前の民法上の法人	法改正前の法人制度を知る
3	一般社団法人と一般財団法人	新制度における社団法人と財団法人	社団とは、財団とは
4	旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人	旧制度と新制度の違い	どのように代わったのかを学ぶ
5	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	権利能力が無いとはどのおゆなことかを学ぶ
6	会社	旧制度の会社の種類など	法改正前の会社について知る。
7	新会社法	会社法の基本的なしくみⅠ	基本的な知識を学ぶ
8	会社法の基本的なしくみ	会社法の基本的なしくみⅡ	基本的な知識を学ぶ
9	会社の機関	期間について学習する	基本的な知識を学ぶ
10	株主総会と株主の権利	株主とはどのようなものか	基本的な知識を学ぶ
11	取締役の地位と責任	会社における取締役の地位、責任	取締役とはどのようなものかを学ぶ
12	株式と社債	会社の株式とは、社債とは	二つの特色、違いを知る
13	会社の資本	資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか	資本について学ぶ
14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	持分会社について学ぶ
15	まとめ	学生諸君からの質問を期待している。	質問したいことを準備してくる

関連科目：民法、会社法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プライマリー会社法	藤田勝利，北村雅史	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験と授業中に行う小テストの結果による。
学生へのメッセージ	自分から問題意識を持って参加することが大切である。
担当者の研究室等	１１号館１０階　古川教授室
備考	学生の理解度、授業の進行速度により、授業の順序や内容を変更することもある。 社団法人、財団法人については教科書は特に指定しない。図書館などで何冊か読み比べ、自分が気に入ったものを選ことを勧める。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅰ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫.石井　信輝.大川　謙蔵.河原　匡見.小山昇.松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○,DP7◎		

授業概要・目的	本講義は、将来のキャリア形成を視野に入れ、法学部生のキャリアとして身につけておかなければならないことを習得するために開設されている専門科目である「法政キャリア特別講義」の全体像と、２年生以降に各自が選択することになる４つのコースについて、総合的に案内することを目的とします。自分のキャリア形成にあった勉強をするにはどのようなことを意識して実践しなくてはならないのかを熟考する授業となります。
到達目標	法学部で開講している専門科目、教養科目を中心として、どのような計画でどのような知識を習得していくべきなのか、自分自身で考えられるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	複数の担当者が講義形式で行うのを原則とし、公務員試験や一般企業の就職試験問題を体験することも併せて行います。自らのキャリアデザインを確実にするためにも、すべての授業に出ること、１５回の授業すべてが重要な評価対象です。なお、課題レポートは、第１５回の「授業時間」に提示するので注意して下さい。
科目学習の効果（資格）	法学部生が目指す法科大学院試験、国家・地方公務員試験、就職試験（ＳＰＩ試験）、そして法律関係の資格試験などの基礎的知識を知ることができます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	総合ガイダンス	法政キャリア特別講義（1年次から３年次）の全体と４コース制の概要	授業で知ったことの整理と確認
2	企業法務コースの紹介と特別講義①	企業法務コースとは①	授業で知ったことの整理と確認
3	企業法務コースの紹介と特別講義②	企業法務コースとは②	授業で知ったことの整理と確認
4	企業法務コースの紹介と特別講義③	企業法務コースとは③	授業で知ったことの整理と再確認
5	企業法務コースの紹介と特別講義④	企業法務コースとは④	授業での実践練習の復習
6	一般企業就職対策の実際①	就職試験の体験）	授業での実践練習の復習
7	地域政策コースの紹介と特別講義①	地域政策コースとは①	授業での実践練習の復習
8	地域政策コースの紹介と特別講義②	地域政策コースとは②	授業で知ったことの整理と確認
9	地域政策コースの紹介と特別講義③	地域政策コースとは③	授業で知ったことの整理と再確認
10	地方公務員試験対策の実際	公務員試験の体験	授業での実践練習の復習
11	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義①	スポーツ法政策コースとは①	授業での実践練習の復習
12	スポーツ法政策コースの紹介と特別講義②	スポーツ法政策コースとは②	授業で知ったことの整理と確認
13	法律学特修コースの紹介と特別講義①	法律学特修コースとは①	授業で知ったことの整理と確認
14	法律学特修コースの紹介と特別講義②	法律学特修コースとは②	授業で知ったことの整理と再確認
15	総括と課題レポート	まとめ 法政キャリア特別講義の活用と進路決定についての提言、 課題レポートの提示	１５回の授業で知ったことのすべての再確認

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅱ～Ⅶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第１５回の授業で提示する「課題レポート」および授業で実践した就職試験の「体験問題」の成績結果を総合して評価します。
学生へのメッセージ	自分の希望する将来が、確実に実現できるようになるためにはどうすればいいのか、考えましょう。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　　牛丸教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	ビジネス法務への入門講義である。現代のビジネスパーソンにはコンプライアンス（法令遵守）が厳しく要求されている。企業はその要求に応えられる人材を求めている。そこで、企業に就職を希望する学生が入社後役立つようなビジネスに関わる種々の法律知識を総合的に教授する。その範囲を絞るのはむつかしいが、初心者向けの参考になるのがビジネス実務法務検定試験３級の出題範囲であり、その範囲に合わせて授業を行うこととする。この試験はビジネス法務を体系的・効率的に学ぶことができるように工夫されているからである（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。
到達目標	ビジネス法務についての基本的知識を理解する。
授業方法と留意点	民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法を履修済みか将来履修を予定している学生の受講を求める。 本講義はビジネス実務法務検定試験３級取得に役立つような内容になっているが、その資格取得のための授業ではないので、同試験に合格するためには、授業以外での十分な学習が必要であることに留意してほしい。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級の問題に対処する基礎となる初歩的知識を養うことができる。ちなみに、同試験に合格すれば「ビジネス法務リーダー」の称号があたえらる。また、この検定を推奨したり、採用や社内評価の参考にする企業が増えているといわれる（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。HP をみれば、この試験に関わる有名大企業がずらりと並んでいる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の重要性とビジネス実務法務検定試験３級取得の意義	コンプライアンスの重要性とビジネス法務に関わる法律の概要	特になし
2	ビジネスに関係する法律の基礎	近代私法の基本原則・権利とは何か	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
3	取引・権利義務の主体	自然人・法人・会社・会社の種類	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
4	会社（法人）取引の法律	取引による債権債務・ビジネス文書の作成と管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
5	取引の決済方法１	手形	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
6	取引の決済方法２	小切手・電子記録債権法	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
7	取引によらない債権債務１	事務管理・不当利得	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
8	取引によらない債権債務２	不法行為	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
9	会社（法人）の財産管理	財産の取得と法律・知的財産権	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
10	債権の管理・回収１	債権管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
11	債権の管理・回収２	債権の担保・緊急時の債権回収	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
12	会社（企業）活動に対する法規制１	独占禁止法・製造物責任法・消費者法など	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
13	会社（企業）活動に対する法規制２	ビジネスに関連する犯罪	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
14	会社（法人）と従業員の雇用関係等に関する法律	雇用関係と法律・男女雇用機会均等法・派遣と法律	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
15	授業の総括・重要ポイントのまとめ	授業の理解の程度を確認し、全体総括を行う・とくに間違えやすい重要ポイントの復習	これまでの授業内容を体系立てて復習する

関連科目：民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の態度、理解度、期末の試験などを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定３級合格を目指すためには、本講義だけでは不十分です。専門的な法律科目の講義をまじめに受講し、十分な自習時間を取る必要があることを、くれぐれも忘れないように！
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	ビジネス実務法務検定には１級・２級もあり、２級を取得すれば「ビジネス法務エキスパート」、１級を取得すれば「ビジネス法務エグゼクティブ」の称号が与えられ、３級も含めて、それらの称号は名刺に記載できるといわれている。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的

ビジネス法務への入門講義である。現代のビジネスパーソンにはコンプライアンス（法令遵守）が厳しく要求されている。企業はその要求に応えられる人材を求めている。そこで、企業に就職を希望する学生が入社後役立つようなビジネスに関わる種々の法律知識を総合的に教授する。その範囲を絞るのはむつかしいが、初心者向けの参考になるのがビジネス実務法務検定試験３級の出題範囲であり、その範囲に合わせて授業を行うこととする。この試験はビジネス法務を体系的・効率的に学ぶことができるように工夫されているからである（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。

到達目標

ビジネス法務についての基本的知識を理解する。

授業方法と留意点

民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法を履修済みか将来履修を予定している学生の受講を求める。
本講義はビジネス実務法務検定試験３級取得に役立つような内容になっているが、その資格取得のための授業ではないので、同試験に合格するためには、授業以外での十分な学習が必要であることに留意してほしい。

科目学習の効果（資格）

ビジネス実務法務検定試験３級の問題に対処する基礎となる初歩的知識を養うことができる。ちなみに、同試験に合格すれば「ビジネス法務リーダー」の称号があたえらる。また、この検定を推奨したり、採用や社内評価の参考にする企業が増えているといわれる（東京商工会議所試験情報 HP 参照）。HP をみれば、この試験に関わる有名大企業がずらりと並んでいる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の重要性とビジネス実務法務検定試験３級取得の意義	コンプライアンスの重要性とビジネス法務に関わる法律の概要	特になし
2	ビジネスに関係する法律の基礎	近代私法の基本原則・権利とは何か	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
3	取引・権利義務の主体	自然人・法人・会社・会社の種類	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
4	会社（法人）取引の法律	取引による債権債務・ビジネス文書の作成と管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
5	取引の決済方法１	手形	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
6	取引の決済方法２	小切手・電子記録債権法	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
7	取引によらない債権債務１	事務管理・不当利得	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
8	取引によらない債権債務２	不法行為	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
9	会社（法人）の財産管理	財産の取得と法律・知的財産権	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
10	債権の管理・回収１	債権管理	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
11	債権の管理・回収２	債権の担保・緊急時の債権回収	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
12	会社（企業）活動に対する法規制１	独占禁止法・製造物責任法・消費者法など	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
13	会社（企業）活動に対する法規制２	ビジネスに関連する犯罪	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
14	会社（法人）と従業員の雇用関係等に関する法律	雇用関係と法律・男女雇用機会均等法・派遣と法律	授業内容を復習し、基本事項を頭にたたき込むこと
15	授業の総括・重要ポイントのまとめ	授業の理解の程度を確認し、全体総括を行う・とくに間違えやすい重要ポイントの復習	これまでの授業内容を体系立てて復習する

関連科目

民法・商法・会社法・労働法・独禁法・知的財産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

授業中の態度、理解度、期末の試験などを総合的に判断して評価する。

学生へのメッセージ

ビジネス実務法務検定３級合格を目指すためには、本講義だけでは不十分です。専門的な法律科目の講義をまじめに受講し、十分な自習時間を取る必要があることを、くれぐれも忘れないように！

担当者の研究室等

11 号館 10 階　木村教授室

備考

ビジネス実務法務検定には１級・２級もあり、２級を取得すれば「ビジネス法務エキスパート」、１級を取得すれば「ビジネス法務エグゼクティブ」の称号が与えられ、３級も含めて、それらの称号は名刺に記載できるといわれている。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚　賢
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	日商簿記３級程度の簿記力習得を目安とするが、今後、社会人として活躍するための基礎としての知識獲得に重点を置く。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果（資格）	日商簿記３級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施
4	期中の手続と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施
13	決算の手続き１	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施
14	決算の手続き２	費用・収益の繰延など	復習課題の実施
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習

関連科目：会社法を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式日商簿記検定問題集３級三訂版	渡辺 正直他	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

（１）講義科目は定期試験を実施する。
（２）定期試験に加えて小テスト、授業参加度（積極性，呼応情態）等も評価対象とする。
（３）各評価項目の割合を明記する。
　定期試験の結果（60%）、小テスト（20%）、授業参加度（20%）による。

学生へのメッセージ：簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。

担当者の研究室等：１１号館６階（経営学部事務室）
質問等は講義終了後か、下記メールアドレスまでお送りください。

備考：ken_nakatsuka@cpta-ken.com

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中塚　賢
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	日商簿記３級程度の簿記力習得を目安とするが、今後、社会人として活躍するための基礎としての知識獲得に重点を置く。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記ではどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果（資格）	日商簿記３級合格程度の知識を獲得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施
4	期中の手続と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施
13	決算の手続き１	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施
14	決算の手続き２	費用・収益の繰延など	復習課題の実施
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習

関連科目：会社法を履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	最新段階式日商簿記検定問題集３級三訂版	渡辺 正直他	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

（１）講義科目は定期試験を実施する。
（２）定期試験に加えて小テスト、授業参加度（積極性，呼応情態）等も評価対象とする。
（３）各評価項目の割合を明記する。
　定期試験の結果（60%）、小テスト（20%）、授業参加度（20%）による。

学生へのメッセージ：簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。

担当者の研究室等：１１号館６階（経営学部事務室）
質問等は講義終了後か、下記メールアドレスまでお送りください。

備考：ken_nakatsuka@cpta-ken.com

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵.金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は宅建（宅地建物取引士資格試験）に出題される分野を扱い、その合格を目指すための基礎的な知識を学習するためのものです。宅地や建物などの取引を行う際に、重要事項の説明を行うなど、不動産の取引を行う会社などでは必置とされます。試験は、宅地建物取引業に関する実用的な知識を有するかどうかを判定することに基準が置かれています。 試験の内容は大きく分けて、権利関係に関する分野、宅建業法に関する分野、法令上の制限に関する分野、鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。 本講義は15回しかないことから、細かな点に入りきれません。それゆえ、個人での勉強が不可欠になることにご理解ください。
到達目標	宅地建物取引士の資格試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	講義は授業中に配付するテキストやプリントに基づいて実施します。 基本的には過去問題を講義中に解答してもらい、その解答方法の講義・解説を行う予定です。 ただし、場合に応じて変更もありますので、その際には指示をします。その点につきご了承ください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引士資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 権利関係（1）	民法総則の内容①	授業時に指示する。
2	権利関係（2）	民法総則の内容② 物権総論の内容	授業時に指示する。
3	権利関係（3）	担保物権の内容	授業時に指示する。
4	権利関係（4）	債権総論の内容	授業時に指示する。
5	権利関係（5）	債権各論の内容	授業時に指示する。
6	権利関係（6）	家族法の内容	授業時に指示する。
7	権利関係（7）	借地借家法・不動産登記法の内容	授業時に指示する。
8	権利関係（8）	区分所有法の内容 権利関係に関する復習	授業時に指示する。
9	宅建業法（1）	宅地建物取引業等 業務に関する規制	授業時に指示する。
10	宅建業法（2）	業者としての制限内容 報酬・特定住宅瑕疵担保履行法など	授業時に指示する。
11	法令上の制限（1）	都市計画法など	授業時に指示する。
12	法令上の制限（2）	建築基準法など	授業時に指示する。
13	法令上の制限（3）	その他の法令上の制限	授業時に指示する。
14	鑑定・需給・取引実務・税など（1）	鑑定・地公法など	授業時に指示する。
15	鑑定・需給・取引実務・税など（2）	税に関する内容	授業時に指示する。

関連科目：民法全般、行政法、税法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、提出物、各講義での取り組み（小テストなど）から評価します。 変更もあり得ますので、詳細は初回の講義において指摘します。 無断欠席・遅刻、授業中の私語等は、そもそも単位不認定と理解してください。
学生へのメッセージ	宅建試験は講義で扱う法律科目が中心となります。それ以外にも、講義では直接扱わないような分野も出題されますが、必要とされる部分を中心に勉強を行うことで、合格できる試験です。 もちろん、予習・復習など、自己の努力が必要であることに変わりはありません。
担当者の研究室等	11号館9階　金谷教授室 11号館9階　大川講師室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵.金谷　重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	本講義は宅建（宅地建物取引士資格試験）に出題される分野を扱い、その合格を目指すための基礎的な知識を学習するためのものです。宅地や建物などの取引を行う際に、重要事項の説明を行うなど、不動産の取引を行う会社などでは必置とされます。試験は、宅地建物取引業に関する実用的な知識を有するかどうかを判定することに基準が置かれています。 試験の内容は大きく分けて、権利関係に関する分野、宅建業法に関する分野、法令上の制限に関する分野、鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。 本講義は15回しかないことから、細かな点に入りきれません。それゆえ、個人での勉強が不可欠になることにご理解ください。
到達目標	宅地建物取引士の資格試験に合格する力を培う。
授業方法と留意点	講義は授業中に配付するテキストやプリントに基づいて実施します。 基本的には過去問題を講義中に解答してもらい、その解答方法の講義・解説を行う予定です。 ただし、場合に応じて変更もありますので、その際には指示をします。その点につきご了承ください。
科目学習の効果（資格）	宅地建物取引士資格試験

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 権利関係（1）	民法総則の内容①	授業時に指示する。
2	権利関係（2）	民法総則の内容② 物権総論の内容	授業時に指示する。
3	権利関係（3）	担保物権の内容	授業時に指示する。
4	権利関係（4）	債権総論の内容	授業時に指示する。
5	権利関係（5）	債権各論の内容	授業時に指示する。
6	権利関係（6）	家族法の内容	授業時に指示する。
7	権利関係（7）	借地借家法・不動産登記法の内容	授業時に指示する。
8	権利関係（8）	区分所有法の内容 権利関係に関する復習	授業時に指示する。
9	宅建業法（1）	宅地建物取引業等 業務に関する規制	授業時に指示する。
10	宅建業法（2）	業者としての制限内容 報酬・特定住宅瑕疵担保履行法など	授業時に指示する。
11	法令上の制限（1）	都市計画法など	授業時に指示する。
12	法令上の制限（2）	建築基準法など	授業時に指示する。
13	法令上の制限（3）	その他の法令上の制限	授業時に指示する。
14	鑑定・需給・取引実務・税など（1）	鑑定・地公法など	授業時に指示する。
15	鑑定・需給・取引実務・税など（2）	税に関する内容	授業時に指示する。

関連科目：民法全般、行政法、税法など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験、提出物、各講義での取り組み（小テストなど）から評価します。 変更もあり得ますので、詳細は初回の講義において指摘します。 無断欠席・遅刻、授業中の私語等は、そもそも単位不認定と理解してください。
学生へのメッセージ	宅建試験は講義で扱う法律科目が中心となります。それ以外にも、講義では直接扱わないような分野も出題されますが、必要とされる部分を中心に勉強を行うことで、合格できる試験です。 もちろん、予習・復習など、自己の努力が必要であることに変わりはありません。
担当者の研究室等	11号館9階　金谷教授室 11号館9階　大川講師室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅴ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存立の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験の２級に合格する実力をつける。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の２級の合格を目指しているので、教科書に従って行う授業と毎回の復習テストによって行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格により、就職活動が有利になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の実務	ビジネス実務法務とは、企業を取り巻くリスクとビジネス実務法務、企業活動とコンプライアンス・企業倫理	教科書２ページ～２４ページ
2	取引を行う主体（１）	株式会社のしくみ	教科書２５ページ～９１ページ
3	取引を行う主体（２）	株式会社の運営	教科書９２ページ～１２８ページ
4	会社取引の法務（１）	ビジネスに関する法律関係	教科書１２０ページ～１７０ページ
5	会社取引の法務（２） 会社財産の管理･活用と法律（１）	損害賠償に関する法律関係 流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律	教科書１７１ページ～１９９ページ
6	会社財産の管理･活用と法律（２）	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理	教科書２００ページ～２４７ページ
7	債権の管理と回収（１）	債権の担保	教科書２５０ページ～２７８ページ
8	債権の管理と回収（２）	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続	教科書２７９ージ～３３８ページ
9	企業活動に関する法規制（１）	経済関連法規	教科書３３９ページ～３７２ページ
10	企業活動に関する法規制（２）	消費者保護関連の規制	教科書３７３ページ～４１８ページ
11	企業活動に関する法規制（３）	情報化社会にかかわる法律	教科書４１３ページ～４２７ページ
12	企業活動に関する法規制（４） 会社と従業員の関係	事業関連規制 労働組合と使用者との関係、社会保険等	教科書４２８ページ～４８２ページ
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法手続、その他の紛争の解決方法	教科書４８４ページ～５２４ページ
14	国際法務（渉外法務）	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTO と国際通商問題	教科書５２６ページ～５８１ページ
15	模擬テスト	これまでの授業を総括するために、総まとめのためのテストを実施する。	教科書全体

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務法務検定試験２級公式テキスト 2017 年度版	東京商工会議所編	東京商工会議所検定センター
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第１５回目の授業で実施するテストを６０％とし、授業中に実施する小テストを４０％とします。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。 学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅴ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅴ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存立の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	ビジネス実務法務検定試験の２級に合格する実力をつける。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の２級の合格を目指しているので、教科書に従って行う授業と毎回の復習テストによって行う。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格により、就職活動が有利になる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネス法務の実務	ビジネス実務法務とは、企業を取り巻くリスクとビジネス実務法務、企業活動とコンプライアンス・企業倫理	教科書２ページ～２４ページ
2	取引を行う主体（１）	株式会社のしくみ	教科書２５ページ～９１ページ
3	取引を行う主体（２）	株式会社の運営	教科書９２ページ～１２８ページ
4	会社取引の法務（１）	ビジネスに関する法律関係	教科書１２０ページ～１７０ページ
5	会社取引の法務（２） 会社財産の管理･活用と法律（１）	損害賠償に関する法律関係 流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律	教科書１７１ページ～１９９ページ
6	会社財産の管理･活用と法律（２）	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理	教科書２００ページ～２４７ページ
7	債権の管理と回収（１）	債権の担保	教科書２５０ページ～２７８ページ
8	債権の管理と回収（２）	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続	教科書２７９ージ～３３８ページ
9	企業活動に関する法規制（１）	経済関連法規	教科書３３９ページ～３７２ページ
10	企業活動に関する法規制（２）	消費者保護関連の規制	教科書３７３ページ～４１８ページ
11	企業活動に関する法規制（３）	情報化社会にかかわる法律	教科書４１３ページ～４２７ページ
12	企業活動に関する法規制（４） 会社と従業員の関係	事業関連規制 労働組合と使用者との関係、社会保険等	教科書４２８ページ～４８２ページ
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法手続、その他の紛争の解決方法	教科書４８４ページ～５２４ページ
14	国際法務（渉外法務）	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTO と国際通商問題	教科書５２６ページ～５８１ページ
15	模擬テスト	これまでの授業を総括するために、総まとめのためのテストを実施する。	教科書全体

関連科目	法政キャリア特別講義Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務法務検定試験２級公式テキスト 2017 年度版	東京商工会議所編	東京商工会議所検定センター
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第１５回目の授業で実施するテストを６０％とし、授業中に実施する小テストを４０％とします。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の２級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。 学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	法政キャリア特別講義VI	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志.松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この法政キャリア特別講義 VI の講義では、法政キャリア特別講義 II～V と同様に公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた実践的な知識の習得を目的にしています。直前期にあたることになりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要となる高度に専門的な法的知識を習得すること。
授業方法と留意点	講義は、論点についての解説講義及び問題演習を中心に行う予定です。関連する事項については、適宜レジュメを配布します。また、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思います。したがって、自学自習で補っていく必要があり、かなりの程度の予習復習を求めることになります。また、授業内容も受講生の要望や問題の重要性、授業の進展などに応じて臨機応変に変更する予定です。
科目学習の効果（資格）	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解（精神的自由との比較）	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法１７７条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、４１５条・４１６条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を覚えてくること。 復習課題として、プリントを配布する予定です。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を復習しておくこと。

関連科目	直接的には、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	授業中に実施する確認テストの点数などによって、総合的に評価します（期末試験は実施しません）。毎回の出席が前提ですので、無断欠席が一定回数を超えた場合、単位取得を認めません。
学生への メッセージ	この講義では、法政キャリア特別講義 II～V（松島・前田担当分）と連続した形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	法政キャリア特別講義 VI（松島・前田担当分）は特別履修とし、定員の上限を 15 名程度にします。履修生の選抜に当たっては、事前に選抜テストを実施します。授業内容、履修方法、選抜テストなどについて分からない点がある学生は、法学部事務室および担当教員（松島）に遠慮なく質問してください。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅵ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics Ⅵ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。このような小論文を書くには、いろいろな能力が必要になります。この講義では、この能力に重点をおき、小論文を通して、どういう文章が読み手を納得させることができる文章かを検討します。
到達目標	小論文の基礎的な知識を理解し、読み手を納得させる文章を書くための基礎学力を身につけることを目指します。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付しますので、配付したプリントは必ず持参してください。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法律学と説得力のある文章　小論文と作文など	原則として事後学習を重視する
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力１	論理的にものごとを考え判断する能力とは	授業中に指示する
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力２	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	授業中に指示する
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力３	他人が述べたことの真意を判断する能力とは	授業中に指示する
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力４	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	授業中に指示する
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力５	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	授業中に指示する
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力６	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	授業中に指示する
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力７	統計学の基礎知識とは	確認問題をする
9	法的知識に基づいた文章と日本語１	日本文の特徴、文の単位、日本語の語順など	授業中に指示する
10	法的知識に基づいた文章と日本語２	文の役割と文の接続、日本文と主観的表現、語調の統一など	確認問題をする
11	法的知識に基づいた文章の書き方１	課題の求めているものは何かなど	授業中に指示する
12	法的知識に基づいた文章の書き方２	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	授業中に指示する
13	法的知識に基づいた文章の書き方３	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	授業中に指示する
14	法的知識に基づいた文章の書き方４	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的字数の少ない文章の作成など	授業中に指示する
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	前回に作成した小論文を再考する

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅶ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に作成する小論文で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	法政キャリア特別講義Ⅶ	科目名（英文）	Special Classes for Law and Politics VII
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲　淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	読み手を納得させる文章に関する知識を一層深めることを目指します。
授業方法と留意点	授業は講義方式と演習方式を併用します。プリントを配付します。配付したプリントは必ず持参して下さい。
科目学習の効果（資格）	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法的思考が読み取れる文章とは？（その１）	課題の解釈と出題の意図など	原則として事後学習を重視する。
2	法的思考が読み取れる文章とは？（その２）	三段落構成の各段落の役割と書き方など	授業中に指示する。
3	法的思考が読み取れる文章とは？（その３）	四段落構成の各段落の役割と書き方など	授業中に指示する。
4	法的思考が読み取れる文章とは？（その４）	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	授業中に指示する。
5	法的思考が読み取れる文章の内容１	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	授業中に指示する。
6	法的思考が読み取れる文章の内容２	「情報化」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
7	法的思考が読み取れる文章の内容３	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第６回提出の小論文を再考する。
8	法的思考が読み取れる文章の内容４	「国際化」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
9	法的思考が読み取れる文章の内容５	「防災対策」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第８回提出の小論文を再考する。
10	法的思考が読み取れる文章の内容６	「防災対策」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
11	法的思考が読み取れる文章の内容７	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第 10 回提出の小論文を再考する。
12	法的思考が読み取れる文章の内容８	「地方分権」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
13	法的思考が読み取れる文章の内容９	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認	第 12 回提出の小論文を再考する。
14	法的思考が読み取れる文章の内容１０	「少年犯罪」を課題とする小論文の作成	授業中に指示する。
15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ	第 14 回提出の小論文を再考する。

関連科目：法政キャリア特別講義Ⅵ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中に作成する小論文で評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。また授業中に生じた疑問は必ず質問してください。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	法哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy of Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに――そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに――批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	まずは現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが、この講義の目標です。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？　例えば、人間には自殺する自由があるでしょうか？	リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいでしょうか？例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？またそれは本当に有効なのでしょうか？	「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？　必要だとすればそれはなぜでしょうか？	死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？　義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	国際援助に対するロールズやポッゲらの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるでしょうか？	人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？　許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦し、周辺国に多くの被害をもたらしまし	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられる

		た。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	ようになること。
13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるでしょうか？	フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること。
14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと（講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください）。

関連科目

直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験の成績 70%と提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。

学生へのメッセージ

この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

受講者が極端に少ない場合（目安としては 20 名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy of Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ――「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」――にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	法哲学の基本事項を暗記することも重要ですが、むしろそうした知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。学者の見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点をもって、この講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【復習ワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論①　西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【復習ワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論②　ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【復習ワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③　リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【復習ワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④　共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【復習ワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤　現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、 バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることで、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【復習ワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論①　ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【復習ワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論②　ドゥウォーキンの法理論	この回ではドゥウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【復習ワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③　ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法律学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピク論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【復習ワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④　日本の法解釈論争	これまで学習した英米とドイツの解釈理論と照らし合わせながら、戦後日本の	【復習ワード】 来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての

		法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」
12	法の一般理論①　自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想史的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【復習ワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス
13	法の一般理論②　法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【復習ワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容
14	法の一般理論③　法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【復習ワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験の成績 70%と提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。

学生へのメッセージ

この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

受講者が極端に少ない場合（目安としては 20 名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法哲学各論	科目名（英文）	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ――「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論（法価値論）」――にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法（法律学）のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	法哲学の基本事項を暗記することも重要ですが、むしろそうした知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることがこの講義の目標です。学者の見解がすべて正しいわけではありません。批判的視点をもって、この講義に臨んでほしいと思います。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	事前の予習は特に必要ありません。各回ごとに【復習ワード】を 10 個ほど掲げるので、その概念（あるいはその人物）を正確に説明できるようになるまで、しっかり復習に努めてください。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいに着目して、英米と大陸（ドイツ）における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【復習ワード】 基礎法学、レヒト（Recht）、正義論（法価値論）、法学方法論、法の一般理論（法概念論）、法哲学（Rechtsphilosophie）、法理学（Jurisprudence）、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論①　西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」（dikaiosyne, iustitia, justice）がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想史的背景を確認します。	【復習ワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正的正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論②　ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア（原初状態・正と善の区別など）を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【復習ワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミンルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③　リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム（自由至上主義）を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【復習ワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生的秩序
6	正義論④　共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【復習ワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤　現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、 バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることで、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【復習ワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム（の諸派）、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論①　ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【復習ワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論②　ドゥウォーキンの法理論	この回ではドゥウォーキンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件（hard case）においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか？考えてみましょう。	【復習ワード】 権利論（Taking Rights Seriously）、ルールと原理、法の帝国（Law's Empire）、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③　ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリーレらの法律学的ヘルメノイティク、フィーヴェクのトピク論、アレクシーの法的議論の理論を学習します。	【復習ワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ
11	法学方法論④　日本の法解釈論争	これまで学習した英米とドイツの解釈理論と照らし合わせながら、戦後日本の	【復習ワード】 来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての

		法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法律学における「客観性」についても考えてみます。	法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」
12	法の一般理論①　自然法論	20 世紀にいたるまでの自然法論の思想史的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【復習ワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス
13	法の一般理論②　法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【復習ワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容
14	法の一般理論③　法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【復習ワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかり把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。

関連科目

直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験の成績 70%と提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。

学生へのメッセージ

この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。

担当者の研究室等

11 号館 9 階　松島講師室

備考

受講者が極端に少ない場合（目安としては 20 名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法哲学総論	科目名（英文）	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島　裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに――そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに――批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	まずは現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが、この講義の目標です。
授業方法と留意点	講義は、毎時間授業中に配布するレジュメにしたがって行います。
科目学習の効果（資格）	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文（未修者コース）の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること。
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？　例えば、人間には自殺する自由があるでしょうか？	リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること。
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいでしょうか？例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	パターリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること。
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐって賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？またそれは本当に有効なのでしょうか？	「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること。
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？　必要だとすればそれはなぜでしょうか？	死刑に対するベッカリーアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること。
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょうか？	苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること。
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるでしょうか？　義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	国際援助に対するロールズやポッゲらの考え方を理解したうえで、日本の ODA の在り方について自分の見解を述べられるようになること。
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるでしょうか？	人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること。
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？　許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること。
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦し、周辺国に多くの被害をもたらしまし	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられる

		た。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	ようになること。
13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるでしょうか？	フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること。
14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと（講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください）。

関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験の成績 70%と提出物 30%によって総合的に評価します（定期試験は必ず受験してください）。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートや報告などで評価します。なお、授業中の私語およびスマホ操作については、単位不認定を含め、厳しく対処します。一定時間経過後の理由なき遅刻については平常点から減点します。
学生へのメッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　松島講師室
備考	受講者が極端に少ない場合（目安としては 20 名以下の場合）、ゼミ形式の講義とします。その場合は授業の進め方を大きく変更するので、そのつもりで講義に臨んでください。

科目名	法律英語	科目名（英文）	Legal English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP8○		

授業概要・目的	英語文献の輪読を通じて、英語法律文書の読解力を向上させること。さらに視覚・聴覚を通じて英語を理解し、国際法をはじめとする法的知識や国際社会の特性なども理解できる能力を身につけることを目標とする。
到達目標	基本的な英文の法律文書を読解する能力を身につけること。英文の法律文書を読むことによって国際法をはじめとする様々な法的基礎知識を習得すること。さらに視覚・聴覚を通じた英語理解力を増進すること。
授業方法と留意点	配布プリントを基本に、主として口頭による講義方式をとるが、ビデオ、インターネットなども随時利用する。学習ノートをしっかり取っておくこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。最近のパラリーガルや NGO 職員の資質を養成することに役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義のガイダンス 今年度のテーマ「移民・難民」	講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	難民とは何か？	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
3	難民と国際法	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
4	現在の難民問題	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
5	難民と移民	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
6	日本と移民・難民問題	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
7	移民・難民問題に対する国際社会の対応	テキストを輪読し、説明を加える。加えて講義で触れられた関連問題をインターネットで調べる。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
8	前半の総括と確認テスト	前半の復習と中間テストを行う。	第７回までに作成したノートを復習しておくこと。
9	映画の中の法律英語(1)	英語映像を通じて難民問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
10	映画の中の法律英語(2)	映画「グラン・トリノ」を素材に映像を通じて難民問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
11	映画の中の法律英語(3)	映画「グラン・トリノ」を素材に映像を通じて難民問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
12	映画の中の法律英語(4)	映画「グラン・トリノ」を素材に映像を通じて難民問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
13	映画の中の法律英語(5)	映画「グラン・トリノ」を素材に映像を通じて難民問題を考える。	前回の講義で指示した課題を行ってくること。次週までに今回作成したノートを完成すること。
14	映画の中の法律英語(6)	映画「グラン・トリノ」を素材に映像を通じて難民問題を考える。	今まで作成したノートを復習し、テストの準備をすること。
15	学期のまとめ	本学期の講義内容の総括と期末テストを行う	これまでに作成した全ノートの復習とテストの準備しておくこと

関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法、国際関係論、国際平和論、国際協力論、国際ボランティア論など国際社会とかかわりのある科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	こちらでプリントを用意する		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義への参加程度（提出される学習ノートの内容で評価される）、中間テスト（４０点）及び学期末テスト（３０点）をもとに総合的に評価する。なお提出された学習ノートは、内容によって３段階評価され、最終的に課題評価点（A＝30点、B＝１５点、C＝５点）として中間テスト(40 点)期末テスト（３０点)の点数に加算される。
学生へのメッセージ	単に講義に出席するだけでなく、できる限り積極的に授業に参加し質問する（考える）努力が求められる。 現在社会で求められるのは問題点を見つけ、それに対する解決策を見つける能力である。 英語力はそう簡単に身につけることはできない日常的かつ継続的な学習が必要である。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷教授室
備考	

科目名	保険法	科目名（英文）	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸　與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を１つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実に需要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	保険法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することを目指す。
授業方法と留意点	保険契約の契約書、約款、最近の判例、および新聞で報道されている事件を紹介しながら、生きた保険法の講義を行いたい。
科目学習の効果（資格）	保険会社に就職する者にとり、必須の講義である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	保険システム	保険システムの目的と機能、保険法	教科書２ページ～２８ページ
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制	２９ページ～４８ページ
3	損害保険契約総論（１）	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴	５０ページ～５８ページ
4	損害保険契約総論（２）	保険契約の成立、告知義務	５９ページ～６９ページ
5	損害保険契約総論（３）	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料	７０ページ～７５ページ
6	損害保険契約総論（４）	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険	７６ページ～１００ページ
7	損害保険契約総論（５）	損害保険契約の成立の効果	１０１ページ～１１９ページ
8	損害保険契約総論（６）	損害保険の給付	１２０ページ～１４５ページ
9	損害保険契約総論（７）	損害保険契約の終了	１４６ページ～１５６ページ
10	損害保険契約総論（８）	損害保険契約の処分	１５７ページ～１６１ページ
11	損害保険契約総論（９）	保険担保	１６２ページ～１７１ページ
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険	１７４ページ～２２１ページ
13	生命保険契約（１）	総説、生命保険契約の成立	２２４ページ～２４２ページ
14	生命保険契約（２）	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押え	２４３ページ～２６６ページ
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題	２６８ページ～２８３ページ

関連科目	民法、商法総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	レクチャー新保険法	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の授業態度、期末の筆記試験を総合して行う。
学生へのメッセージ	授業に出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。保険法の専門用語が多くありますので、用語の定義を重視してください。
担当者の研究室等	11 号館 9 階　牛丸教授室
備考	

科目名	ボランティアと法律	科目名（英文）	Volunteers and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	本講義では、法律と密接に関わるボランティア活動、ボランティアが関わる現場の法律問題、ボランティア活動の盛り上がりが背景にある立法、ボランティア活動に期待する立法について、実務家と担当者が対談する。その後、履修学生と意見交換を行う。
到達目標	ボランティア活動が「お手伝い」とは限らず、公共の目的を実現するうえで不可欠な固有の役割があることを理解する。その役割を担ううえで、法律を正しく理解する、法律問題に備える、立法を促す、という自立的な行動が必要になる点を考える。行政がボランティア活動を促すためにどのような施策・事業を行っているか知る。対談を聴いて、意見や疑問を言葉にし、意見交換を行う能力を養う。
授業方法と留意点	本講義は、１回連続２コマで行うので、そのことを理解したうえで履修すること。１コマ目は実務家と担当者との対談を聴き、２コマ目は学生との意見交換を行う。両方に出席することが求められる。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の課題式論文や面接、集団討論に役立つ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ボランティアと法律との関わり(1)	民生委員、保護司、人権擁護委員、行政相談委員など、行政委嘱の無報酬の各種委員の役割を知る。	配布資料の復習。
2	ボランティアと法律との関わり(2)	教育や福祉、防犯や防災など、ボランティアによって支えられている現場の広がりを知る。	配布資料の復習。
3	学校教育の現場の法律問題(1)	学校での事故や体罰、いじめなどの法律問題について、弁護士と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
4	学校教育の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、弁護士と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
5	自然学校の安全管理(1)	子どもに自然体験の機会を提供する自然学校での安全管理について、自然学校経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
6	自然学校の安全管理(2)	上記の対談を聴いたうえで、自然学校経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
7	高齢者福祉の現場の法律問題(1)	老人ホームや老人保健施設などでの法律問題について、社会福祉法人経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
8	高齢者福祉の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、社会福祉法人経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
9	民生委員の役割(1)	地域で高齢者や障害者、ひとり親家庭の状況を把握し、支援を行う民生員と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
10	民生委員の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、民生委員と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
11	保護司の役割(1)	犯罪を犯した者や非行のある少年の改善更生を助ける保護司と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
12	保護司の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、保護司と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
13	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(1)	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちを支援している実務家と担当者との対談を聴く。	配布資料の予習。
14	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(2)	上記の対談を聴いたうえで、実務家と意見交換をする。	振り返りシートの作成。
15	ボランティア固有の役割とは何か？	これまでの対談・意見交換を振り返って、ボランティアの固有の役割を考える。	これまでの振り返りシートの見直し。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実務家との意見交換での発言内容、振り返りシートの出来、期末試験の結果を総合して評価する。
学生へのメッセージ	現場で活躍する実務家の話をじっくり聴き、意見交換ができる機会を多く提供します。意欲的にボランティア活動をしている学生に履修してほしいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 9 階 中沼准教授室
備考	

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名（英文）	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田　勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼（岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など）や、近年になって新規に始められたイヴェント（各地のよさこいソーラン祭など）が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。

到達目標

祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかをまず理解してほしい。その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時のよすがとしてもらいたいと思う。

授業方法と留意点

講義形式であるが、随時資料を提供して、理解の一助としたい。自ら各地の祭りに出かけ、その問題性を発見することも望まれる。

科目学習の効果（資格）

旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員には実践的に必要な教養。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	祭りとは	祭り・祭礼・イヴェントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。
2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートの整理復習
3	近世社会と祭礼（1）	城下町祭礼の出現	講義ノートの整理復習
4	近世社会と祭礼（2）	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートの整理復習
5	近世社会と祭礼（3）	祭りと騒乱	講義ノートの整理復習
6	近代社会と祭り（1）	伝統と変革の相克	講義ノートの整理復習
7	近代社会と祭り（2）	祭りと天皇制	講義ノートの整理復習
8	伝統の祭りと現代（1）	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートの整理復習
9	伝統の祭りと現代（2）	祭りとジェンダー	講義ノートの整理復習
10	伝統の祭りと現代（3）	暴走族と祭り	講義ノートの整理復習
11	伝統の祭りと現代（4）	文化財の保存と観光化	講義ノートの整理復習
12	地域おこしとイヴェント（1）	地方自治体と地域おこし	講義ノートの整理復習
13	地域おこしとイヴェント（2）	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートの整理復習
14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートの整理復習
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートの整理復習

関連科目

日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験の成績とレポートによる。

学生へのメッセージ

京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷里の祭りなどをとおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　牧田教授室

備考

科目名	民事訴訟法	科目名（英文）	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的

民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。

到達目標

まずは、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を学ぶ。

その後に、民事訴訟法においては、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することを目的とする。

授業方法と留意点

講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。

科目学習の効果（資格）

・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。
・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	教科書　P. 55～76
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	教科書　P. 5～54 前回講義における配布資料の復習
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	教科書　P. 311～332 前回講義における配布資料の復習
6	・管轄（審理・判決はどの裁判所でするのか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	教科書　P. 109～126 前回講義における配布資料の復習
7	・訴えの種類（どんな訴えが起こせるか？）	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	教科書　P. 77～108 前回講義における配布資料の復習
8	・当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	教科書　P. 127～140 前回講義までに配布した全資料の復習
9	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	教科書　P. 217～240　（222～228〈訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く） 前回講義における配布資料の復習
10	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか？ ・争点および証拠の整理	教科書　P. 179～214　（204～209〈相殺の抗弁〉は除く） 前回講義における配布資料の復習
11	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	教科書　P. 241～257　（257～文書提出命令、証明責任等は除く） 前回講義における配布資料の復習
12	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	教科書　P. 283～310 前回講義における配布資料の復習
13	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	教科書　P. 330～332 前回講義における配布資料の復習
14	・少額訴訟	・少額訴訟の要件と特則 ・少額訴訟債権執行	教科書　P. 333～338 前回講義における配布資料の復習
15	・まとめ＆復習	・講義全体のまとめと復習	教科書　P. 335～368 当該講義において配布した全資料の復習

関連科目

民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法Ⅱ、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法入門〔第３版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	民事訴訟法　判例百選〔第５版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室			
備考				

科目名	民事訴訟法Ⅰ	科目名（英文）	Civil Procedure Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	まずは、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を学ぶ。 その後に、民事訴訟法においては、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することを目的とする。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律（憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法）との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	教科書　P. 55～76
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち（裁判官、弁護士） ・紛争処理の方策（ADR、調停、仲裁）	教科書　P. 5～54 前回講義における配布資料の復習
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	配布資料 前回講義における配布資料の復習
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	教科書　P. 311～332 前回講義における配布資料の復習
6	・管轄（審理・判決はどの裁判所でするのか？）	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	教科書　P. 109～126 前回講義における配布資料の復習
7	・訴えの種類（どんな訴えが起こせるか？）	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	教科書　P. 77～108 前回講義における配布資料の復習
8	・当事者（訴える人、訴えられる人とは？）	・誰が当事者になれるか？（権利能力、当事者能力） ・誰が当事者になるのが正しいか？（当事者適格、選定当事者）	教科書　P. 127～140 前回講義までに配布した全資料の復習
9	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	教科書　P. 217～240　（222～228〈訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く） 前回講義における配布資料の復習
10	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか？ ・争点および証拠の整理	教科書　P. 179～214　（204～209〈相殺の抗弁〉は除く） 前回講義における配布資料の復習
11	・事実認定と証拠	・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類	教科書　P. 241～257　（257～文書提出命令、証明責任等は除く） 前回講義における配布資料の復習
12	・判決の成立と効力	・既判力 ・執行力 ・形成力	教科書　P. 283～310 前回講義における配布資料の復習
13	・再審	・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続	教科書　P. 330～332 前回講義における配布資料の復習
14	・少額訴訟	・少額訴訟の要件と特則 ・少額訴訟債権執行	教科書　P. 333～338 前回講義における配布資料の復習
15	・まとめ＆復習	・講義全体のまとめと復習	教科書　P. 335～368 当該講義において配布した全資料の復習

関連科目：民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法Ⅱ、倒産法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法入門〔第３版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	民事訴訟法　判例百選〔第５版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階　萩原准教授室			
備考				

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名（英文）	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的

民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。

到達目標

前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者（原告・被告）がともに単数（1 人）であることを前提としていたが、民事訴訟法応用講義では、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めて欲しい。

また、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争（家事審判・調停・人事訴訟）など、前期の民事訴訟法では触れられなかった興味深いテーマにつき掘り下げ、それぞれの手続が、どのような機能と役割を担っているのか、実際の事案に即して考察することを目標とする。

授業方法と留意点

講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、座席指定を行い（座席の選択は自由）、質疑応答を行う。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。

科目学習の効果（資格）

・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。
・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	配布資料の復習
2	・民事裁判権の限界	・裁判権免除 ・国際裁判管轄	教科書　P. 119～126 配布資料の復習
3	・複数当事者　～共同訴訟が認められる場合とは？～	・共同訴訟は、どういう場合に認められるのか？ ・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・同時審判申出訴訟	教科書　P. 140～154 講義における配布資料の復習
4	・複数当事者　～第三者の訴訟参加～	・他人の訴訟に割り込む方法 ・補助参加 ・独立当事者参加	教科書　P. 154～168 講義における配布資料の復習
5	・複数当事者　～訴訟承継～	・訴訟が承継されるときとは？ ・当事者が亡くなったら訴訟はどうなるのか？ ・係争物の譲渡　～参加承継・引受承継～ ・第三者の訴訟引込み ・任意的当事者変更	教科書　P. 168～178 講義における配布資料の復習
6	・訴訟審理の進め方	・相殺の抗弁 ・当事者は期日に欠席してもいいのか？	教科書　P. 204～209、214～216 講義における配布資料の復習
7	・訴訟の終了	・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	教科書　P. 222～227 講義における配布資料の復習
8	・前回までの講義内容のまとめ＆復習	・前回までの講義内容についてのまとめと復習、ならびに質疑応答	前回講義までの内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 前回講義までに配布した全資料の復習
9	・証拠　～文書提出命令～	・文書提出命令	教科書　P. 257～264 講義における配布資料の復習
10	・証拠　～立証の困難を克服するために～ ・証拠　～証明がつかないときはどうなるのか？～	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か？ ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	教科書　P. 264～282 講義における配布資料の復習
11	・判決　～既判力～	・訴訟物による限界（既判力の客観的範囲） ・基準時による厳戒（既判力の時的限界） ・既判力の及ぶ人の範囲（既判力の主観的範囲）	教科書　P. 293～305 講義における配布資料の復習
12	・上訴と再審	・特別の不服申立て ・控訴/上告/抗告 ・再審	教科書　P. 311～332 講義における配布資料の復習
13	・督促手続	・督促手続のメリット ・督促手続の経過 ・オンライン督促手続	教科書　P. 338～342 講義における配布資料の復習
14	・家庭紛争と裁判	・家庭紛争の解決方法 ・家事審判と家事調停 ・人事訴訟	教科書　P. 343～377 講義における配布資料の復習
15	・当該講義における全内容についてのまとめと復習	当該講義における全内容についての、まとめ、復習、そして質疑応答	当該講義における全内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 当該講義において配布した全資料の復習

関連科目

民法全般、民事訴訟法Ⅰ、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	民事裁判入門〔第３版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事訴訟法　判例百選〔第５版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　萩原准教授室
備考	

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤＥＩ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川　謙蔵.萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題等を規律するものの総称が民事法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握することを目的としている。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する事も予定。 法律科目であるため、六法が必携です。
科目学習の効果（資格）	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法（民法、民事訴訟法、破産法等）が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	法学部がどのよなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民事法とは	民事法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを意識してみて下さい。
3	法律内容と民法	民事法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに考えてみて下さい。
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか？これを、法的に考えてみてください。
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを考えること。
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を意識しておくこと。
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならないことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を全体的に意識してみること。
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定。	人の死後に起こりうる問題等を意識しておくこと。
15	全体の復習	民事法の構造の再確認	全体の復習をしておくこと。

関連科目：憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事法入門	野村豊弘	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、定期試験の成績による。
学生へのメッセージ	民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。
担当者の研究室等	11号館9階　大川講師室
備考	近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	民事法概論	科目名（英文）	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4○,DP5○		

授業概要・目的	日常生活自体に関わる民法や商法といった法律や、それに関しての裁判に適用される民事訴訟法、家事事件手続法などを総称して「民事法」と呼びますが、その概略を学ぶことがこの講義の目的です。様々な「民事法」に関する法令の中から、基本的な体系を理解するために必要な分野を選んで講義します。
到達目標	民事法の体系とその基本的知識の習得を目標とします。
授業方法と留意点	講義を中心としますが、確実な理解のために質問を交えてそれに答えることを求めます。また、５回程度、授業時間の終わりの２０分程度を使って「確認問題」を実施しますので、注意すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活において必要となる基本的な法律の知識を得られます。また、法律関連の資格試験や専門科目のある公務員試験において、その法律科目につながる基礎理論を学べます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「民事法」の意義	民事法とは 民事法の概略	事後に復習することを重視します
2	私法の基本原理	近代法の基本原理 民法の基本原理	今回学んだことの確認
3	財産と法①	「法律行為」とは 法律行為の主体	今回学んだことの確認
4	財産と法②	物権法定主義 用益物権、担保物権 「根担保」	今回学んだことの確認
5	財産と法③	債権とは	今回学んだことの確認
6	財産と法④	契約の基本原則 典型契約 消費者契約、特定商取引法	今回学んだことの確認
7	財産と法⑤	法定債権 不法行為法	「財産と法」をまとめて復習
8	団体と法	商事法の体系 商行為、会社法	今回学んだことの確認
9	家族と法①	親族とは 戸籍制度	今回学んだことの確認
10	家族と法②	婚姻関係と法	今回学んだことの確認
11	家族と法③	親子関係と法	今回学んだことの確認
12	家族と法④	法定相続 遺言	「家族と法」をまとめて復習
13	国際社会と法	「渉外的私法関係」とそれに関わる法律とは	今回学んだことの確認
14	民事事件と裁判	民事訴訟 人事訴訟と家事事件手続法	今回学んだことの確認
15	まとめ	「民事法」のまとめと再確認	この授業を通して学んだことの再確認

関連科目	法学概論のほか、刑事法概論、憲法概論も関連します。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ポケット六法（平成２９年版）	山下友信ほか	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜、紹介します。		
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(60%)及び「確認問題」(40%)で評価します。
学生へのメッセージ	民法を始め、具体的な条文を使っての講義となりますので、「六法」は必ず持参すること。
担当者の研究室等	１１号館９階　小山教授室
備考	事前・事後学習に要する総時間数の目安：２０時間

科目名	民事保全・執行法	科目名（英文）	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原　佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的になされるのかを理解しておくことは、転ばぬ先の杖として、経済的に自立した大人になるために必要な知識であると考える。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要個所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。講義内容に応じ、パワーポイントを用いた講義形式で行う場合もある。双方向の講義を目標としているため、質疑応答を行う。そのため、人数次第で座席指定を（座席の選択は自由）行う場合がある。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。
科目学習の効果（資格）	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員（事務官・書記官）、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	①　ガイダンス ②　民事執行法の概観	①　授業方法・評価方法等の説明 ②　他の法分野との関係 ③　判決手続と執行手続 ④　民事執行の種類と沿革等	教科書　P. 1～11
2	強制執行総論 1. ①　序説 ②　債務名義	①　強制執行の意義と種類 ②　債務名義の種類	教科書　P. 12～25 前回講義における配布資料の復習
3	強制執行総論 2. ・請求異議の訴え	・請求異議の訴えの意義 ・請求異議事由 ・執行停止等の仮の処分	教科書　P. 26～37 前回講義における配布資料の復習
4	強制執行総論 3. ・執行文	・執行文の意義 ・執行文の付与等に関する異議の申立て ・条件成就執行文と承継執行文	教科書　P. 38～53 前回講義における配布資料の復習
5	強制執行総論 4. ①　執行機関 ②　強制執行開始要件 ③　強制執行の停止	①　執行機関の意義と担当職務 ②　強制執行開始要件の意義と種類 ③　強制執行停止の意義と具体例	教科書　P. 54～63 前回講義における配布資料の復習
6	強制執行総論 5. ①　違法執行と不当執行 ②　執行異議と執行抗告	①　違法執行と不当執行の意義 ②　国家賠償請求との関係 ③　執行異議と執行抗告の意義 ④　不執行の合意	教科書　P. 82～83、64～67 前回講義における配布資料の復習
7	強制執行総論 6. ・第三者異議の訴え	①　第三者異議の訴えの趣旨 ②　手続 ③　第三者異議事由	教科書　P. 68～81 前回講義における配布資料の復習
8	まとめ＆復習	・強制執行総論のまとめと復習	強制執行総論全範囲の復習 前回講義までに配布した全ての配布資料の復習
9	強制執行各論 1. 金銭執行 Ⅰ ①　金銭執行序説 ②　不動産執行	①　金銭執行の諸段階・優先主義と平等主義 ②　不動産執行の意義・強制競売・強制管理	教科書　P. 84～132 前回講義における配布資料の復習
10	強制執行各論 2. 金銭執行 Ⅱ ・動産執行	①　動産執行の意義 ②　差押え・換価・満足	教科書　P. 133～142 前回講義における配布資料の復習
11	強制執行各論 3. 金銭執行 Ⅲ ・債権執行	①　債権執行の意義 ②　差押え・換価・満足 ③　少額訴訟債権執行	教科書　P. 142～170 前回講義における配布資料の復習
12	強制執行各論 4. ・非金銭執行	①　不動産/動産の引渡しの強制執行 ②　目的物を第三者が占有する場合の引渡しの強制執行 ③　代替的作為の強制執行 ④　不代替的作為および不作為の強制執行	教科書　P. 171～181 前回講義における配布資料の復習
13	担保権の実行としての競売等	①　序説 ②　不動産担保権の実行 ③　動産競売 ④　債権およびその他の財産権についての担保権の実行 ⑤　形式的競売	教科書　P. 182～202 前回講義における配布資料の復習
14	民事保全. ①　序説 ②　保全命令手続 ③　保全執行手続	①　民事保全の意義・種類・手続 ②　保全命令手続の申立て・審理・裁判・不服申立て ③　保全執行手続の申立て・仮差押えの執行・仮処分の執行	教科書　P. 205～225 前回講義における配布資料の復習
15	まとめ＆復習	①　強制執行各論のまとめ＆復習	該当範囲の復習

			②　担保権の実行としての競売等のまとめ＆復習 ③　民事保全のまとめ＆復習	当該講義において配布した全ての配布資料の復習

関連科目	民法全般、民事訴訟法Ⅰ、民事訴訟法Ⅱ、倒産法
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎からわかる民事執行法・民事保全法〔第３版〕	和田吉弘	弘文堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民事執行・保全　判例百選〔第２版〕	上原・長谷部・山本編	有斐閣
2			
3			

評価方法 （基準）	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民事法全般の知識をリフレッシュさせてください。
担当者の 研究室等	11 号館９階　萩原准教授室
備考	

科目名	民法応用講義Ⅰ	科目名（英文）	Advanced Civil Law Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	公務員試験等を視野に、民法の基礎を再確認する。
到達目標	民法（財産法）の基礎を確実に身に付ける。
授業方法と留意点	過去問等を素材に演習形式とする。 具体的な問題レベルは、受講生の希望・実力を確認の上、決する。初回授業には、必ず出席するように。
科目学習の効果（資格）	公務員試験、宅建、司法試験(ロースクール)、司法書士試験、行政書士試験等。民法が受験科目となる試験全般。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方針決定	実力テスト・希望聴取	民法の既習内容について、復習してくること。
2	民法総則①	問題演習	授業時に指示する。
3	民法総則②	問題演習	授業時に指示する。
4	民法総則③	問題演習	授業時に指示する。
5	民法総則④	問題演習	授業時に指示する。
6	債権法①	問題演習	授業時に指示する。
7	債権法②	問題演習	授業時に指示する。
8	債権法③	問題演習	授業時に指示する。
9	債権法④	問題演習	授業時に指示する。
10	債権法⑤	問題演習	授業時に指示する。
11	債権法⑥	問題演習	授業時に指示する。
12	物権法①	問題演習	授業時に指示する。
13	物権法②	問題演習	授業時に指示する。
14	物権法③	問題演習	授業時に指示する。
15	物権法④	問題演習	授業時に指示する。

関連科目：民法（財産法）の全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 100%
学生へのメッセージ	民法は、基本です。この基本を、問題演習を通じ、正確に、確実に身に付けることを目指します。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　城内准教授室
備考	初回授業時の協議により、上記内容は変更することがあります。

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名（英文）	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川　謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎,DP7◎		

授業概要・目的	民法に関連する各講義で学んだ基礎的な知識をもととして、民法の判例および法理論を多角的に検討する予定です。
到達目標	民法を様々な角度から検討を行い、民法の理論の意義を確認しつつ、その問題点等も含め理解することを目的としている。
授業方法と留意点	細かな点は学生の目標等に合わせて、調整する予定です。
科目学習の効果（資格）	民法が関連する試験全般

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の内容、学生の目標等の確認。	講義において指摘する。
2	民法総則①	制限行為能力者制度等の確認。	講義において指摘する。
3	民法総則②	意思表示理論の確認。	講義において指摘する。
4	物権総論	物権総論部分の確認。	講義において指摘する。
5	担保物権①	担保物権法の確認。	講義において指摘する。
6	担保物権②	抵当権の確認。	講義において指摘する。
7	契約法①	契約総論部分の確認	講義において指摘する。
8	契約法②	売買制度の確認。	講義において指摘する。
9	契約法③	各契約制度の確認。	講義において指摘する。
10	事務管理・不当利得①	事務管理制度の確認。	講義において指摘する。
11	事務管理・不当利得②	不当利得制度の確認。	講義において指摘する。
12	不法行為①	一般不法行為の確認。	講義において指摘する。
13	不法行為②	特別不法行為の確認。	講義において指摘する。
14	親族法	親族法の確認。	講義において指摘する。
15	相続法	相続法の確認。	講義において指摘する。

関連科目	民法系科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業対応、テスト等で判断いたします。詳細は初回に確認します。
学生へのメッセージ	民法応用講義Ⅰ
担当者の研究室等	11 号館 9 階　大川講師室
備考	教科書等も含め、詳細は学生の目標等、および、民法応用講義Ⅰに合わせて、基本的に初回に確認いたします。

科目名	民法総則	科目名（英文）	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内　明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。 本講義は、この民法総則の基礎を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	民法総則の基本を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	毎週配布のレジュメに沿って授業します。小型六法は、毎回、必ず持ってきて下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験のほか、宅建・行政書士・司法書士等、各種資格試験に必須。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス・民法の構造	授業時に指示する
2	意思表示の瑕疵(1)	契約の成立・意思表示の構造	授業時に指示する
3	意思表示の瑕疵(2)	意思の不存在(1) －心裡留保・虚偽表示・古典的錯誤－	授業時に指示する
4	意思表示の瑕疵(3)	意思の不存在(2) －古典的錯誤と動機の錯誤－	授業時に指示する
5	意思表示の瑕疵(4)	瑕疵ある意思表示 －詐欺・強迫－	授業時に指示する
6	契約の有効性要件	契約の有効性要件	授業時に指示する
7	人Ⅰ	権利能力	授業時に指示する
8	人Ⅱ	意思能力・行為能力	授業時に指示する
9	人Ⅲ	未成年者・制限行為能力者の相手方の保護	授業時に指示する
10	人Ⅳ	成年後見制度	授業時に指示する
11	代理Ⅰ	代理総論	授業時に指示する
12	代理Ⅱ	無権代理(1)	授業時に指示する
13	代理Ⅲ	無権代理(2)	授業時に指示する
14	代理Ⅳ	表見代理	授業時に指示する
15	時効	消滅時効	授業時に指示する

関連科目：民事法概論・法学概論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験により評価します。
ただし、私語等の授業妨害行為については、減点・単位不授与の措置を講じることがあります。ご注意下さい。
なお、本授業では、カリキュラムの節目毎に、「まとめペーパー」の作成時間を設けます。ペーパーは授業時に配布・回収し、試験時に返却します。試験では、このペーパーのみ参照可とします。
ペーパー作成にあたって参照物持込は一切不可です。試験に役立つペーパーを作成するためにも、毎回の復習を欠かさないことを強くオススメします。

学生へのメッセージ

民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。
2年次以降に債権法・物権法（・および相続法）を学ぶ予定のある人は、必ず受講して下さい。
民法総則は、非常に難しい科目です。毎回の授業後に復習を欠かさないことが、単位取得の最低条件と考えて下さい。

担当者の研究室等：11号館10階　城内准教授室

備考：

科目名	有価証券法	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	有価証券は、権利の譲渡の簡易化・効力の強化のためにその機能を発揮する。手形・小切手は有価証券の典型である。手形には約束手形と為替手形がある。約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として、小切手は支払の手段として利用される。手形・小切手は、このような経済的機能を果たしているが、とくに約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担ってきた。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	有価証券の法的仕組みを理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	手形･小切手の意義　有価証券の機能	手形とは何か・権利の譲渡方法の簡易化・効力の強化	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	手形・小切手の経済的機能	信用の手段・送金の手段・支払の手段	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	銀行取引と手形・小切手	自宅払い手形と銀行払い手形	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	手形行為の成立要件　形式的要件（1）	支払約束文句・一定の金額・満期	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	形式的要件（2）	受取人・振出日・支払地	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	有益的記載事項　無益的記載事項　有害的記載事項	指図禁止文句・利息文句	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	署名の意義	記名捺印・署名の代行	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	別名使用　法人の署名	別名による手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	実質的要件　手形権利能力手形行為能力	法人の手形権利能力･制限無能力者の手形行為能力	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	手形理論	交付契約説・発行説・創造説 鈴木理論と権利外観説	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	手形行為と意思表示の瑕疵・欠缺	錯誤・詐欺・強迫と手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	他人による手形行為（1）	代理・代行方式の手形行為（1）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	他人による手形行為（2）	代理・代行方式の手形行為（2）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	他人による手形行為（3）	代理・代行方式の手形行為（3）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	他人による手形行為（4）	代理・代行方式の手形行為（4）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：民法総則・債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例手形・小切手法	木村秀一	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、期末の試験によって評価する。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	有価証券法Ⅰ	科目名（英文）	Law of Negotiable Instruments Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村　秀一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	有価証券は、権利の譲渡の簡易化・効力の強化のためにその機能を発揮する。手形・小切手は有価証券の典型である。手形には約束手形と為替手形がある。約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として、小切手は支払の手段として利用される。手形・小切手は、このような経済的機能を果たしているが、とくに約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担ってきた。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	有価証券の法的仕組みを理解する。
授業方法と留意点	AV 教室においてノートパソコン画面をディスプレイに表示しながら、講義を行う。全学生がノートを取れるようスピード調整しながら行う。プリントを配付する。教材フォルダにアップロードしてあるので、各自で授業第一回目までに入手すること。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務法務検定試験３級取得に必要な法知識を提供する。この試験に合格すれば、ビジネス法務リーダーの称号が与えられ、受験を推奨する企業が増えている。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	手形･小切手の意義　有価証券の機能	手形とは何か・権利の譲渡方法の簡易化・効力の強化	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
2	手形・小切手の経済的機能	信用の手段・送金の手段・支払の手段	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
3	銀行取引と手形・小切手	自宅払い手形と銀行払い手形	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
4	手形行為の成立要件　形式的要件（1）	支払約束文句・一定の金額・満期	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
5	形式的要件（2）	受取人・振出日・支払地	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
6	有益的記載事項　無益的記載事項　有害的記載事項	指図禁止文句・利息文句	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
7	署名の意義	記名捺印・署名の代行	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
8	別名使用　法人の署名	別名による手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
9	実質的要件　手形権利能力手形行為能力	法人の手形権利能力･制限無能力者の手形行為能力	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
10	手形理論	交付契約説・発行説・創造説 鈴木理論と権利外観説	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
11	手形行為と意思表示の瑕疵・欠缺	錯誤・詐欺・強迫と手形行為	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
12	他人による手形行為（1）	代理・代行方式の手形行為（1）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
13	他人による手形行為（2）	代理・代行方式の手形行為（2）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
14	他人による手形行為（3）	代理・代行方式の手形行為（3）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。
15	他人による手形行為（4）	代理・代行方式の手形行為（4）	テキストおよび配布プリントの該当部分を予習し、受講後は板書も含めて復習する。

関連科目：民法総則・債権法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	判例手形・小切手法	木村秀一	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として、期末の試験によって評価する。
学生へのメッセージ	教科書は必ず購入すること。確実な理解をはかるため質問日なども設ける。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　木村教授室
備考	授業計画は各年度の事情（新事件・新判例の追加等）により多少の修正が生ずることがある。

科目名	労働組合法	科目名（英文）	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分かれるといわれています。この授業では、団体的労働関係法に属し、労働者、使用者と並ぶ重要な主体である労働組合について規定している労働組合法の内容を概観したいと考えています。
到達目標	労働組合の組織率が低下しており、争議行為も減少している現在においても、「労働者が使用者との交渉において対等の立場にたつことを促進することにより労働者の地位を向上させること」、「労働条件の維持改善その他経済的地位の向上を図ること」を目的とする労働組合は、なお重要な地位を占めているということができます。そして、そのことは、勤労者の団結する権利を保障している憲法 28 条に表れているといえます。そうした、労働組合の意義、内容、問題点を理解することをこの授業では目標としています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	団体的労働関係法の歴史と現状	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	労働者の集団が代表者を通じて使用者と行う交渉である団体交渉について、基本的な内容を理解してください。
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の効力	労働協約の意義と効力について理解してください。
5	労働協約②	・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約がどのような場合に組合員以外に拡張して適用されるかを理解してください。
6	労働者の団体行動①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・争議行為と賃金	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
7	労働者の団体行動②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	違法な争議行為が行われた場合の責任について、理解してください。
8	労働者の団体行動③	・使用者の争議対抗行為	使用者が、ストライキを中心とする労働者の争議行為に対抗する手段にどのようなものがあるか、概観してみましょう。
9	労働者の団体行動④	・法律による争議権の制限 ・労働争議の調整	争議行為が法律により制限・禁止されている場面、労働争議の調整を定める労働関係調整法の規定を概観します。
10	組合活動①	・組合活動の法的保障 ・就業時間中の組合活動	就業時間中に組合活動を行うことの是非について、判例の流れを参照にして、理解してください。
11	組合活動②	・企業施設利用の組合活動 ・組合活動に対する便宜供与	ビラ貼り、ビラ配布の正当性、組合活動への便宜供与の内容について理解してください。
12	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の主体	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨を理解してください。
13	不当労働行為②	・不当労働行為の成立要件	不当労働行為にはどのような種類があり、それぞれどのような要件があれば成立するかを理解してください。
14	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	不当労働行為の救済として、労働委員会による救済と、裁判所による救済の2つのルートを概観します。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を捕捉したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目：憲法、民法、労働保護法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法[第 11 版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働法[第 6 版]	水町 勇一郎	有斐閣
3	労働判例百選[第 9 版]		有斐閣

評価方法（基準）	学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。
学生へのメッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。自分にも関係してくる可能性があることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

科目名	労働保護法	科目名（英文）	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田　剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎,DP3◎,DP4◎,DP5◎		

授業概要・目的	契約自由の原則を貫くと、使用者と労働者の間には経済的な差があるため、労働者は、劣悪な労働条件や失業の危険にさらされることになりかねません。こうした不都合を修正するために、労働法が生成し、発達してきたと言われています。その中でも、労働者の保護を目的とする法律のことを「労働保護法」と呼ぶことがあります。 この授業では、労働保護法の分野の中から、労働基準法、労働契約法、男女雇用機会均等法などを概観したいと考えています。
到達目標	労働保護法の中心となる労働基準法や労働契約法、男女雇用機会均等法などの基本的な内容を理解することを目標とします。また、就職した後、トラブルに巻き込まれないようにするための基本的知識、トラブルに巻き込まれてしまった場合にそれを解決するための基本的知識を学び、万が一の場合に自分自身の身を守ることができるようになってもらいたいと考えています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果（資格）	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでくると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働法の基本構造と法源	・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	労働法の全体像を把握し、労働法の法源には何があるかを理解してください。
3	労働法上の当事者	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	労働法でいわれる「労働者」、「使用者」とは何かを理解してください。
4	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
5	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
6	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
7	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
8	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
9	労働者の人権の保障	・労働憲章 ・雇用差別 ・人格権、プライバシー ・内部告発	使用者による不当な人身拘束や仲介者による中間搾取などの人権侵害から労働者を守るために労働法が何を規定しているかを概観します。
10	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
11	基本的労働条件②	・労働時間法制の意義と現状 ・動労時間制度の基本的枠組み	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の１つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
12	基本的労働条件③	・労働時間制度の特則	労働時間の基本的枠組みに対して、これを柔軟化するための特別の制度が労働基準法には定められています。それぞれの制度の内容と意義を理解してください。
13	基本的労働条件④	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
14	労働者の安全、健康の確保	・労働安全衛生 ・労災補償	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の１つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。
15	年少者、女性の保護 労働と私生活の調和	・年少者の保護 ・女性の保護 ・育児介護休業法	近年、労働と私生活の調和を図ることの重要性が認識されるようになっています(ワーク・ライフ・バランス)。年少者、女性の保護とあわせて、その内容を理解してください。

関連科目：憲法、民法、労働組合法

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	労働法[第 11 版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
2	労働法[第 6 版]	水町 勇一郎	有斐閣
3	労働判例百選[第 9 版]		有斐閣

評価方法（基準）：学期末テストの成績と授業中に実施する確認テストによって総合的に評価します。ただし受講者が少ない場合、定期試験に代えてレポートを実施する可能性があります。

学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。自分にも関係してくる可能性があることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基　礎　科　目

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purpose is to prepare students to travel abroad by not only raising skill levels but expanding cultural awareness.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	—

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　—

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
備考	Students should attend all classes if possible and must have a textbook. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purpose is to prepare students to travel abroad by not only raising skill levels but expanding cultural awareness.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	—

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　—

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success　Student Text	Helgesen, Brown, Wiltshire	Pearson Longman isbn 9789880030581
2	English Firsthand Success　Student Work Book		Pearson Longman isbn 9789880030703
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	Students should attend all classes if possible. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英会話Ⅰ	科目名（英文）	English Conversation Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purpose is to prepare students to travel abroad by not only raising skill levels but expanding cultural awareness.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	—

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目　—

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
備考	Students should attend all classes if possible. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン　ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purposes are varied and very beneficial to all aspects of the students' linguistic abilities. These range from clearer articulation and pronunciation to broad cultural and grammatical awareness and proper usage to enhanced reading of conversational phrases and much more. All purposes are aligned with departmental objectives.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
備考	Students should make the utmost effort to attend every class、and each student must have a textbook. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＣＤ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｽﾃｨｰﾌﾞ ﾄﾏｼｪﾌｽｷｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purposes are varied and very beneficial to all aspects of the students' linguistic abilities. These range from clearer articulation and pronunciation to broad cultural and grammatical awareness and proper usage to enhanced reading of conversational phrases and much more. All purposes are aligned with departmental objectives.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand Success　Student Text	Helgesen, Brown, Wiltshire	Pearson Longman isbn 9789880030581
2	English Firsthand Success　Student Work Book	Helgesen, Brown, Wiltshire	Pearson Longman isbn 9789880030703
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English to English Dictionary		Oxford, Cambridge or other respected publisher
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	Students should make the utmost effort to attend every class. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英会話Ⅱ	科目名（英文）	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ｸﾘｽﾄﾌｧｰ ｼﾞｮﾝｽﾄﾝ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	This course is designed to develop skills in conversational English. In class, students will use English to describe and explain experiences and express their opinions about familiar topics and everyday situations particularly in the context of traveling abroad.
到達目標	The course purposes are varied and very beneficial to all aspects of the students' linguistic abilities. These range from clearer articulation and pronunciation to broad cultural and grammatical awareness and proper usage to enhanced reading of conversational phrases and much more. All purposes are aligned with departmental objectives.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
備考	Students should make the utmost effort to attend every class. 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法確認、小テストやグループワークの予行演習	指定範囲の英文の暗記と暗唱練習
2	英文 no.1-10	グループワークと口頭テスト	同上
3	英文 no.1-10	筆記テストとグループワーク	同上
4	英文 no.11-20	グループワークと口頭テスト	同上
5	英文 no.11-20	筆記テストとグループワーク	同上
6	英文 no.21-30	グループワークと口頭テスト	同上
7	英文 no.21-30	筆記テストとグループワーク	同上
8	英文 no.31-40	グループワークと口頭テスト	同上
9	英文 no.31-40	筆記テストとグループワーク	同上
10	英文 no.41-50	グループワークと口頭テスト	同上
11	英文 no.41-50	筆記テストとグループワーク	同上
12	英文 no.1-50	まとめの口頭テスト（1）	同上
13	英文 no.1-50	まとめの口頭テスト（2）	同上
14	英文 no.1-50	まとめの筆記テスト	同上
15	英文 no.1-50	まとめのグループワークと総括	同上

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　単語集		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
8	Test, Unit 1-3	Test	Follow test instructions.
9	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
15	Final Test	Test	Follow test instructions

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
2	English Firsthand 2 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	Please participate fully in pair work, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	籔井　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	――――	――――
2	Lesson3	代名詞	演習３
3	Lesson4	代名詞	演習４
4	Lesson5	時制	演習５
5	Lesson6	時制	演習６
6	Lesson7	時制	演習７
7	Lesson8	助動詞	演習８
8	Lesson9	助動詞	演習９
9	Lesson10	態	演習１０
10	Lesson11	態	演習１１
11	Lesson12	不定詞	演習１２
12	Lesson13	不定詞	演習１３
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習
14	総合復習	総合復習	授業の復習
15	プリント教材	TOEIC 演習	――――

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	予習，復習は各 1 時間 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松下　乃亜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法	可能なら中学・高校で学習した英文法の復習
2	Unit 1 Be 動詞の現在形と過去形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １～４ページ	教科書　１～４ページ 単語集　単語番号 0001～0020
3	Unit 2 命令文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ５～８ページ 発表	教科書　５～８ページ 単語集　単語番号 0001～0040
4	Unit 3 現在形と現在進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ９～１２ページ 発表	教科書　９～１２ページ 単語集　単語番号 0021～0060
5	Unit 4 代名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １３～１６ページ 発表	教科書　１３～１６ページ 単語集　単語番号 0041～0080
6	Review Test	復習テスト（1）	教科書　１～１６ページ 単語集　単語番号 0061～0100
7	Unit 5 過去形と過去進行形	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 １７～２０ページ 発表	教科書　１７～２０ページ 単語集　単語番号 0081～0120
8	Unit 6 過去形と現在完了	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２１～２４ページ 発表	教科書　２１～２４ページ 単語集　単語番号 0101～0140
9	Unit 7 時を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２５～２８ページ 発表	教科書　２５～２８ページ 単語集　単語番号 0121～0160
10	Unit 8 数えられる名詞と数えられない名詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ２９～３２ページ 発表	教科書　２９～３２ページ 単語集　単語番号 0141～0180
11	Review Test	復習テスト（2）	教科書　１７～３２ページ 単語集　単語番号 0161～0200
12	Unit 9 be going to と will	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３３～３６ページ 発表	教科書　３３～３６ページ 単語集　単語番号 0001～0200
13	Unit 10 助動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書 ３７～４０ページ 発表	教科書　３７～４０ページ 単語集　単語番号 0001～0200
14	Review Test	まとめ復習テスト	
15	Unit 11 等位接続詞と２語で成り立つ接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等	教科書　４１～４４ページ 単語集　単語番号 0001～0200

			教科書 ４１～４４ページ 復習	

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / English Upload / RobertHickling / 金星堂 2 / The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test / Koji Nishiya / 成美堂 3 /	
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / プリント / / 2 / / / 3 / / /
評価方法 （基準）	全学共通英語課題Ａ　20% 全学共通英語課題Ｂ　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生への メッセージ	新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、旅行や語学研修で海外に出かけることを目標にするのもよいかもしれません。とにかく楽しみながら学習を続けることが大切です。
担当者の 研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 非常勤講師室における相談可能時間　水曜日１３時～１４時

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書 Unit 1 の予習。
2	Unit 1: Traveling with Your Dog	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.11-16 単語：NO.1-30
3	Unit 2: Please Take Just a Nibble	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 17-22 単語：NO.21-50
4	Unit 3: Let's Go to the Musium	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 23-28 単語：NO.41-70
5	Unit 4: A Fork in the Road	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 29-34 単語：NO.61-90
6	Unit 5: Products by Women for Women	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 35-40 単語：NO.81-110
7	教科書 Unit 1-5　テスト	Unit 1～5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
8	中間試験解説及び評	演習	単語：NO.101-130
9	Unit 6: Japan's Tokusatsu Hero Gone Global	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P.　41-46 単語：NO.121-150
10	Unit 7: Go for the Gold with New Wheelchairs!	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 47-52 単語：NO.141-170
11	Unit 8: Manzai for Education	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 53-58 単語：NO.161-190
12	Unit 9: Your Car Might Be Hacked	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 59-64 単語：NO.181-210
13	Unit 10: How Much s This Autograph	単語小テスト及び教科書演習	教科書：P. 65-70 単語：NO.201-230
14	教科書　Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	Unit 6-10 復習 単語：NO.221-248
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6～10 までの内容について小テストを行う。	Unit 6-10 テスト勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Insights 2017	Junko Murao et al.	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩永　道子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業方針の説明と第１章前半　「ジョン・レノン、Imagineに込めたメッセージ	Chapter 1　Message from John Lennon	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第１章後半と小テスト	Chapter 1	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第２章前半　「ソフィーの世界、１４歳の少女とたどる哲学ファンタジー」	Chapter 2　Sophie's World	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第２章後半と小テスト	Chapter 2	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第３章前半　「冥王星が惑星の地位を剥奪された理由」	Chapter 3　Pluto Demoted Under New Definition of Planet	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第３章後半と小テスト	Chapter 3	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第４章前半　「ダライ・ラマへのインタビュー」	Chapter 4　The Dalai Lama Interview	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第４章後半と小テスト	Lesson 4	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第５章前半　「古代エジプト、数の世界」	Chapter 5　Egyptian Math	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第５章後半と小テスト	Lesson 5	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第６章前半　「従順ならざる日本人、白洲次郎の手紙」	Chapter 6　The Jeep Way Letter from Shirasu to General Whitney	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第６章後半と小テスト	Lesson 6	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	前期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉａ	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！ 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業、提出物、評価方法の説明	――――
2	Unit1	be 動詞	教科書 p14-16
3	Unit2	一般動詞(現在)	教科書 p. 17-19
4	Unit3	一般動詞（過去）	教科書 p. 20-22
5	Unit4	進行形	教科書 p. 23-25
6	Unit5	未来形	教科書 p. 26-28
7	Unit6	助動詞	教科書 p. 29-31
8	Unit7	名詞、冠詞	教科書 p. 32-34
9	Unit8	代名詞	教科書 p. 35-37
10	Unit9	前置詞	教科書 p. 38-40
11	Unit10	形容詞、副詞	教科書 p. 41-43
12	Unit11	比較	教科書 p. 44-46
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer 〈Revised Edtion〉 基礎からの英語入門 ＜改訂新版＞	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A20% 全学共通英語課題 B10% 授業への参加、貢献 70%→定期試験、授業中の小テスト、平常点、提出物の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度を重視する。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

テキストに沿って読み進むとともに、練習問題に取り組んでいく。

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

英語語彙力の増強、TOEIC のスコアアップ、英検におけるレベルアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 1：自己紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.9-12 練習問題を行うこと。
2	Unit 2：家族・ペット	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.13-16 練習問題を行うこと。
3	Unit 3：趣味	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.17-20 練習問題を行うこと。
4	Unit 4：大学生活	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.21-24 練習問題を行うこと。
5	Unit 5：食べ物	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.25-28 練習問題を行うこと。
6	Unit 6：コンサート	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.29-32 練習問題を行うこと。
7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.9-32 復習。
8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 7：道案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.33-36 練習問題を行うこと。
10	Unit 8：日本文化紹介	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.37-40 練習問題を行うこと。
11	Unit 9：ジェスチャー	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.41-44 練習問題を行うこと。
12	Unit 10：観光案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.45-48 練習問題を行うこと。
13	Unit 11:航空券を Net で Get	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.49-52 練習問題を行うこと。
14	Unit 12：E-mail を送る	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.53-57 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A 20%
全学共通英語課題 B 10%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)70%

学生へのメッセージ

毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　(非常勤講師室)

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰa	科目名（英文）	English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	その他英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居　祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法確認、小テストやグループワーク方法の確認	指定範囲の英文の暗記と暗唱練習
2	英文 no.51-60	グループワークと口頭テスト	同上
3	英文 no.51-60	筆記テストとグループワーク	同上
4	英文 no.61-70	グループワークと口頭テスト	同上
5	英文 no.61-70	筆記テストとグループワーク	同上
6	英文 no.71-80	グループワークと口頭テスト	同上
7	英文 no.71-80	筆記テストとグループワーク	同上
8	英文 no.81-90	グループワークと口頭テスト	同上
9	英文 no.81-90	筆記テストとグループワーク	同上
10	英文 no.91-100	グループワークと口頭テスト	同上
11	英文 no.91-100	筆記テストとグループワーク	同上
12	英文 no.51-100	まとめの口頭テスト（1）	同上
13	英文 no.51-100	まとめの口頭テスト（2）	同上
14	英文 no.51-100	まとめの筆記テスト	同上
15	英文 no.51-100	まとめのグループワークと総括	同上

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test　単語集		
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	Please participate fully and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 3 階　鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース　ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
2	Unit 7	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
3	Unit 7	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
4	Unit 8	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
5	Unit 8	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
6	Unit 9	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
7	Unit 9	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
8	Test, Unit 7-9	Test	Follow test instructions.
9	Unit 10	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
10	Unit 10	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
11	Unit 11	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
12	Unit 11	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
13	Unit 12	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
14	Unit 12	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
15	Final Test	Test	Follow test instructions.

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
2	English Firsthand 2 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	Please participate fully, and enjoy the class.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	籔井　恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明	――――	――――
2	Lesson１４	分詞	演習１４
3	Lesson１５	分詞	演習１５
4	Lesson１６	動名詞	演習１６
5	Lesson１７	動名詞	演習１７
6	Lesson１８	形容詞	演習１８
7	Lesson１９	比較	演習１９
8	Lesson２０	比較	演習２０
9	Lesson２１	関係詞	演習２１
10	Lesson２２	関係詞	演習２２
11	Lesson２３	仮定法	演習２３
12	Lesson２４	仮定法	演習２４
13	Lesson１４－２４	Grammar Point の復習	授業の復習
14	総合復習	総合復習	――――
15	プリント教材	TOEIC 演習	――――

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	予習，復習は毎回 1 時間 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松下　乃亜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction	授業方法（小テスト実施、予習・復習課題等）の説明 単語の勉強方法 前期の復習	前期に学習した英文法の復習
2	Unit 13 場所と移動を表す前置詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　４９～５２ページ	教科書　４９～５２ページ 単語集　単語番号　0401-0420
3	Unit 14　Wh-疑問文	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５３～５６ページ 発表	教科書　５３～５６ページ 単語集　単語番号　0421-0440
4	Unit 15　a, an, the / one と ones	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　５７～６０ページ 発表	教科書　５７～６０ページ 単語集　単語番号　0441-0460
5	Unit 16 他動詞と自動詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６１～６４ページ 発表	教科書　６１～６４ページ 単語集　単語番号　0461-0480
6	Review Test	小テスト	教科書　４９～６４ページ 単語集　単語番号　0481-0500
7	Unit 17 能動態と受動態	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６５～６８ページ 発表	教科書　６５～６８ページ 単語集　単語番号　0501-0520
8	Unit 18 形容詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　６９～７２ページ 発表	教科書　６９～７２ページ 単語集　単語番号　0521-0540 発表のプリントの提出
9	Unit 19 動名詞と不定詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７３～７６ページ 発表	教科書　７３～７６ページ 単語集　単語番号　0541-0560
10	Unit 20 形容詞の比較級と最上級	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　７７～８０ページ 発表	教科書　７７～８０ページ 単語集　単語番号　0561-0580
11	Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ	発表	教科書　６５～８０ページ 単語集　単語番号　0581-0600
12	Unit 21 副詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８１～８４ページ 発表	教科書　８１～８４ページ 単語集　単語番号　0581-0600
13	Unit 22 従位接続詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング 文法エクササイズ等 教科書　８５～８８ページ 発表	教科書　８５～８８ページ 単語集　単語番号　0500-0600
14	Review Test	まとめ復習テスト	
15	Unit 23 関係詞	授業テーマの文法事項を含んだ英文リスニングとリーディング	教科書　８９～９２ページ

			文法エクササイズ等 教科書　８９～９２ページ	

関連科目	特になし
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Upload	RobertHickling	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	Koji Nishiya	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリント		
2			
3			

評価方法 （基準）	全学共通英語課題Ａ　20% 全学共通英語課題Ｂ　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生への メッセージ	新しく覚えた英単語・文法事項を実際のシチュエーションで使用することを意識しながら勉強してください。たとえば、２～３文の短い文章でもよいので、毎日英語で日記を書いてみたり、自分の興味のある事を英語で読んだり、聴いたりする習慣をつけて下さい。楽しみながら学習をしましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 非常勤講師室における相談可能時間　水曜日１３時～１４時

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷　継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 11: Math Drills for Cambodian Pupils	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.71-76 単語：　NO.387-416
2	Unit 12: Flying Causes Problems	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.77-82 単語：　NO.397-426
3	Unit 13: A Romantic Bridge between...	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.83-88 単語：　NO.407-436
4	Unit 14: Microbes Decide Your Health	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.89-94 単語：　NO.417-446
5	Unit 15: ″Light″ for a Buddhist Temple	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.95-100 単語：　NO.427-456
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	教科書： 単語：　NO.437-466
7	中間テスト	Unit 11～15 までの内容についてテスト	教科書： 単語：　NO.447-476
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	教科書：　P. 単語：　NO.457-486
9	Unit 16: Advanced Health Checker	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P. 101-106 単語：　NO.467-496
10	Unit 17: Do You Know Where Santa Lives?	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.107-112 単語：　NO.477-506
11	Unit 18: Is It Fair or Unfair?	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.113-118 単語：　NO.487-516
12	Unit 19: The Warmest Race in the Coldest Land	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.119-124 単語：　NO.497-526
13	Unit 20 : Solar Cells for the Near Future	単語小テスト及び教科書演習	教科書：　P.125-130 単語：　NO.507-523
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	教科書Unit 16～20 までの復習
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16～20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Insights2017	Junko Murao et al.	金星堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｉ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩永　道子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第７章前半　「太古の大陸は１つだった、ウェゲナーの大陸移動説」	Chapter 7　Wegener's Continental Drift	学生へのメッセージに記載のとおり
2	第７章後半と小テスト	Chapter 7	学生へのメッセージに記載のとおり
3	第８章前半　「ムハマド・ユヌス博士のノーベル平和賞受賞演説」	Chapter 8　Nobel Lecture by Muhammad Yunus	学生へのメッセージに記載のとおり
4	第８章後半と小テスト	Chapter 8	学生へのメッセージに記載のとおり
5	第９章前半　「感情についての科学的分析」	Chapter 9　Emotion	学生へのメッセージに記載のとおり
6	第９章後半と小テスト	Chapter 9	学生へのメッセージに記載のとおり
7	第１０章前半　「戦場のピアニスト、究極の調べ」	Chapter 10　The Pianist	学生へのメッセージに記載のとおり
8	第１０章後半と小テスト	Lesson 10	学生へのメッセージに記載のとおり
9	第１１章前半　「ミトコンドリア・イブ、人類はたった１人のアフリカ人女性にたどり着く」	Chapter 11　Mitochondrial Eve	学生へのメッセージに記載のとおり
10	第１１章後半と小テスト	Lesson 11	学生へのメッセージに記載のとおり
11	第１２章前半　「世界を『無』から救う、終りのない物語」	Chapter 12　The Neverending Story	学生へのメッセージに記載のとおり
12	第１２章後半と小テスト	Lesson 12	学生へのメッセージに記載のとおり
13	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
14	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり
15	総合復習	後期授業内容の復習	学生へのメッセージに記載のとおり

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Wisdom Explorer	岩永道子、上村淳子、吉田澄子、吉岡みのり	朝日出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A　20%
全学共通英語課題 B　10%
授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%

学生へのメッセージ

多くの英文を読みたいと思います。
予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。

担当者の研究室等

7 号館 2 階（非常勤講師室）

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	簡単な文法問題を中心にしたテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。授業計画は進度によって変わる場合がある。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！ 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 ＴＯＥＩＣテストに有効な単語力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習	前期に習った内容の復習など	――――
2	Unit13	接続詞(1)	教科書 p.50-52
3	Unit14	不定詞(1)、動名詞(1)	教科書 p.53-55
4	Unit15	受動態	教科書 p.56-58
5	Unit16	現在完了形	教科書 p.59-61
6	Unit17	接続詞(2)（時勢の一致を含む）等	教科書 p.62-64
7	Unit18	5 つの基本文型	教科書 p.65-67
8	Unit19	各種疑問文	教科書 p.68-70
9	Unit20	不定詞(2)	教科書 p.71-73
10	Unit21	It の特別用法	教科書 p.74-76
11	Unit22	分詞、動名詞(2)	教科書 p.77-79
12	Unit23	関係代名詞	教科書 p.80-82
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する。	――――
14	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	――――
15	総合復習	定期試験対策	――――

関連科目：英語Ｉａ、英語Ｉｃ、英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Primer 〈Revised Edtion〉 基礎からの英語入門 ＜改訂新版＞	佐藤哲三、アベ松伸二、愛甲ゆかり、小手川巧光、福島孝夫、重久睦美、村上美穂、新彰	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A20% 全学共通英語課題 B10% 授業への参加、貢献 70%→定期試験、授業中の小テスト、平常点、提出物の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度を重視する。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で感動を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰb	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的

比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。

到達目標

(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。
(2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。
(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。

授業方法と留意点

テキストに沿って読み進むとともに、練習問題に取り組んでいく。

演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果（資格）

英語語彙力の増強、TOEIC のスコアアップ、英検におけるレベルアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 13：機内で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.57-60 練習問題を行うこと。
2	Unit 14：空港で	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.61-64 練習問題を行うこと。
3	Unit 15：ホテル	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.65-68 練習問題を行うこと。
4	Unit 16：レストランで	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.69-72 練習問題を行うこと。
5	Unit 17：ショッピング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.73-76 練習問題を行うこと。
6	Unit 18：ベースボール	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.77-80 練習問題を行うこと。
7	復習	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.57-80 復習。
8	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。
9	Unit 19：ミュージカル鑑賞	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.81-84 練習問題を行うこと。
10	Unit 20：旅行案内	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.85-88 練習問題を行うこと。
11	Unit 21：トラブル・シューティング	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.89-92 練習問題を行うこと。
12	Unit 22：体調不良	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.93-96 練習問題を行うこと。
13	Unit 23：電話での申し込み	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.97-100 練習問題を行うこと。
14	Unit 24：さよなら、アメリカ！	リーディング、リスニング、スピーキング、練習問題	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。テキスト p.101-104 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習、臨時テスト	授業で指示した箇所を予習、復習しておく。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

全学共通英語課題 A 20%
全学共通英語課題 B 10%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)70%

学生へのメッセージ

毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等

7 号館 2 階　(非常勤講師室)

備考

毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｂ	科目名（英文）	English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目：他の全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ａ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤岡　真樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	この授業は、英文法のドリルの学習を通じて、学生の皆さんに、1. 基本的な語彙力と文法力を身につけてもらうこと、2. 一定量の英文から必要な情報をできるだけ速く、正確に読み取る力を身につけてもらうこと、3. 英語表現の基礎を学んでもらうことを目的として実施するものです。
到達目標	この授業では、皆さんに英文法の基礎を徹底的に身につけてもらうことを目標としています。
授業方法と留意点	授業は毎回 1. 単語テスト（解答：5 分、答え合わせ：10 分）、2. テキストの読解や作業とその解説（約 75 分）で構成し、この順番で進めます。 1. 単語テストについて：問題は The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK から出題します（範囲は「事前・事後学習課題」の項目に記した通り）。単語テストは授業の冒頭に実施しますので、遅刻などのないようにしてください。 2. テキストの読解・作業と解説について：English Primer を「授業テーマ」の項目に沿って進めます。授業では皆さんに各 Unit の「C 長文問題」の内容と問題の解答を尋ねますので、事前に必ずテキストを読み、問題を解いてきてください。必要があれば、「A 基本問題」、「B 発展問題」の問題にも取り組んでもらい、文法力の強化も図ります。難解な点や背景知識については、担当者から解説します。後期の英語 Id との連続履修を推奨します。 （留意点 1） リーダーズなど中レベル以上の英和辞典を毎回必ず持参してください。書籍型でも電子型でもかまいません。 （留意点 2） この授業は、担当者が一方的に教授するのではなく、担当者と受講者全員とが力を合わせて英語力の向上を図ることを目的としています。したがって授業中は、私語をしないなどの最低限の常識は守ってください。担当者の注意・指導に従わない学生は、単語テストや定期試験の出来いかんにかかわらず、単位を認定しません。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テストに有効な語彙の習得。 基礎的文法知識の定着。 読解力の向上。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	基礎的文法知識を定着させる。 a) There is (are) 構文を修得する。 b) 仮定法を理解するための基礎知識として、現在形との違いを理解する。	単語テスト Unit 1: be 動詞 Unit 3: 一般動詞（過去）	Unit 1, 3 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 1～38 の暗記。
3	基礎的文法知識を定着させる。 完了形を理解するための基礎知識として、現在形や過去形との違いを理解する。	単語テスト Unit 4: 進行形	Unit 4 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 39～76 の暗記。
4	基礎的文法知識を定着させる。 各種助動詞を習得する。	単語テスト Unit 6: 助動詞	Unit 6 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 77～114 の暗記。
5	基礎的文法知識を定着させる。 関係代名詞を理解するための基礎知識として、代名詞が何を指示しているのかを把握できるようになる。	単語テスト Unit 8: 代名詞	Unit 8 の「C 発展問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 115～152 の暗記。
6	基礎的文法知識を定着させる。 関係代名詞を理解するための基礎知識として、代名詞が何を指示しているのかを把握できるようになる。	単語テスト Unit 8: 代名詞	Unit 8 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 153～190 の暗記。
7	基礎的文法知識を定着させる。 長文読解に不可欠な前置詞の文法的知識を習得する。	単語テスト Unit 9: 前置詞	Unit 9 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 191～228 の暗記。
8	基礎的文法知識を定着させる。 長文読解に不可欠な前置詞の文法的知識を習得する。	単語テスト Unit 9: 前置詞	Unit 9 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 1～76 の復習。
9	基礎的文法知識を定着させる。 長文読解においてもっとも重要な「等位接続詞」について、何と何を「接続」するものなのかを理解する。	単語テスト Unit 13:　接続詞（I）	Unit 13 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 77～152 の復習。
10	基礎的文法知識を定着させる。 長文読解においてもっとも重要な「等位接続詞」について、何と何を「接続」するものなのかを理解する。	単語テスト Unit 13:　接続詞（I）	Unit 13 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 153～228 の復習。
11	基礎的文法知識を定着させる。	単語テスト Unit 17: 接続詞（II）（時制の一致も含	Unit 17 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。

	「従属接続詞」および「時制の一致」について理解する。	む)	WORD BOOK, 1〜114 の復習。
12	基礎的文法知識を定着させる。 「従属接続詞」および「時制の一致」について理解する。	単語テスト Unit 17: 接続詞 (II) (時制の一致も含む)	Unit 17 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 115〜228 の復習。
13	基礎的文法知識を定着させる。 第 5 文型の特徴と、It を用いた特殊な構文を修得する。	単語テスト Unit 18: 5 つの基本文型 Unit 21: It の特別用法	Unit 18 と 21 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。を解く。 WORD BOOK, 381〜494 の復習。
14	基礎的文法知識を定着させる。 第 5 文型の特徴と、It を用いた特殊な構文を修得する。	単語テスト Unit 18: 5 つの基本文型 Unit 21: It の特別用法	Unit 18 と 21 の「A 基本問題」および「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 1〜228 の復習。
15	基礎的文法知識を定着させる。 分詞、とくに過去分詞の理解に必要な受動態を理解する。	単語テスト Unit 15: 受動態	Unit 15 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 1〜228 の復習。

関連科目

他の英語全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer, Revised Edition.	Tetsuzo Sato and Yukari Aiko	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test WORK BOOK	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点（授業態度、予習の有無）：20%、毎回の単語テスト：10%、定期試験：70%

（注意点）
授業を円滑に進めるためにも予習は必ずしてきてください。予習を怠った場合には平常点を大幅に減点します。

学生へのメッセージ

英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることのできる力を身につけるため、共に頑張りましょう。

担当者の研究室等

7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考

1．テキストの予習は、「C 長文問題」だけでなく、各 Unit 冒頭の文法の説明もよく読みながら、毎回 1 時間以上かけて取り組んでください。
2．単語テストのための勉強は、20 分を目安に毎日必ず取り組むようにしてください。勉強の仕方は第 1 回目の授業で説明します。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。　特に、資格（TOEIC, 英検など）取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるので、毎回の授業で取り組みます。　聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。　資格取得に向けて前向きに受験してください。　また授業担当者がアメリカで経験したことも写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識をつけることを目標とします。　積極的に英語資格試験に挑戦してください。
授業方法と留意点	読解、文法問題、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。　電子辞書を持参のこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目：その他英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験６０％、小テスト４０％で全体の評価を行う。　居眠り、携帯電話の使用にはペナルティあり。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	海外の国々の法律に関する様々な記事を読む。「読む」ことが主な目的であるが、後の練習問題を通して文法、語彙、英作文の力をアップさせ読解の基礎力を固める。
到達目標	英文の正確な理解ができるようにする。 英語学習の中の文法知識を正確にする。 語彙力を向上する。
授業方法と留意点	毎回授業の始めに前回学習した箇所の単語テストをする。 本文記事の読解と後の Exercise の答え合わせをする。 教科書の文法解説で不十分な場合は随時プリントで補います。
科目学習の効果（資格）	文法と読む力の向上、英語試験のスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、自己紹介、簡単な確認テスト	出欠の取り方、授業の進め方、評価方法などの説明 Chapter 1を始める	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise）
2	1 What's so Free about Freeways?（ドイツ）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
3	2 Riding a Horse While Drunk Is Illegal?（アメリカ）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
4	3 Walk Your Dog Three Times a Day!（イタリア）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
5	4 Hungary Introduces a Tax on Chips（ハンガリー）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
6	5 Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!（アメリカ）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
7	6 Marriage and Divorce in Different Cultures（イスラム）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（中間テストの勉強)）
8	臨時テスト(前期中間)	前半の学習内容の確認テスト	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
9	7　Smile!　（イタリア）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
10	8 silent Sunday?（スイス）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
11	9 Want to Be a Pilot?（インド）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
12	10 Napoleon, the Pig?（フランス）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
13	11 Don't Drop Dead Here!(イギリス)	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（記事読解、単語調べ、Exercise） 単熟語の復習
14	12 Cheating Does Not Pay（バングラデッシュ）	復習単語テスト、記事読解、Exercise の答え合わせ	次回の予習（期末テストの勉強）
15	臨時テスト(前期期末)	後半の学習内容の確認テスト	

関連科目：英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界おもしろ比較文化ー法律から学ぶ文化事情ー	石井隆之、岩田雅彦、他２名	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験期間中の定期試験は行わず、２回の臨時テスト（中間＋期末）を行う。 テスト 60%,平常点（授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物）40%とし、総合的に判断する。
学生へのメッセージ	読解中心の授業なので、予習に時間をかけてください。 積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師）
備考	辞書を持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	関　初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	英語の正確な内容理解をふまえて、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	基礎文法を完全に習得できる。習得した文法を用いて、簡単な文章が書けるようになる、簡単な発話が出来るようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を進める。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 予習
2	Unit 1	″It's the Titanic″ （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 2 予習
3	Unit 2	″A Floating Palace″ （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 3 予習
4	Unit 3	Departure （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 4 予習
5	Unit 4	Iceberg (1) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 5 予習
6	Unit 5	Iceberg (2) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 6 予習
7	Unit 6	Iceberg (3) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 7 予習 中間テスト準備
8	中間テストと Unit 7	中間テスト Lifeboat （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 8 予習
9	Unit 8	中間テストのフィードバック The Miracle of Philip Aks (1) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 9 予習
10	Unit 9	The Miracle of Philip Aks (2) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 10 予習
11	Unit 10	The Miracle of Philip Aks (3) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 11 予習
12	Unit 11	Mr. Smith's ″White Lie″ （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 12 予習
13	Unit 12	Together until the End of Their Lives (1) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 13 予習
14	Unit 13	Together until the End of Their Lives (2) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	まとめテスト準備
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目：英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめテスト 60%、中間テスト 10%、授業参加度と小テストなど３０％
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の	7 号館 2 階（非常勤講師室）

研究室等	
備考	授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第１回目授業時に指示する。

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	本授業では基本的な英文法の知識を定着させると共に、 「読む」「聞く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れ、英語の総合的な基礎力を固める。 日本人が間違いやすい英単語についての英文を読むことから、 リーディング能力に合わせて、語彙力の向上を目指す。
到達目標	英文の正確な理解ができるようにする。 英語学習の中の文法知識を正確にする。 語彙力を向上する。
授業方法と留意点	教科書の学習が中心となる。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 テキストの導入	テキストの下読み
2	Unit1　Mansion	文法解説（be 動詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
3	Unit2　Repeater	文法解説（動詞①現在） Exercise	予習・復習 小テストの準備
4	Unit 1,2の復習	文法解説(be 動詞、動詞①現在) Exercise	予習・復習 小テストの準備
5	Unit3　Talent	文法解説（動詞②過去、未来） Exercise	予習・復習 小テストの準備
6	Unit４　Service	文法解説（助動詞）	予習・復習 小テストの準備
7	Unit 3.4の復習	文法解説（動詞②過去、未来、助動詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	テストを実施 問題解説	予習・復習 小テストの準備
9	Unit５　OL & Businessman	文法解説（進行形） Exercise	予習・復習 小テストの準備
10	Unit６　Challenge	文法解説（受動態） Exercise	予習・復習 小テストの準備
11	Unit５，６の復習	文法解説（進行形、受動態） Exercise	予習・復習 小テストの準備
12	Unit７　Claim	文法解説（現在完了形） Exercise	予習・復習 小テストの準備
13	Unit8 Manner Up	文法解説（不定詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
14	Unit７，８の復習	文法復習（現在完了形、不定詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	テストを実施 問題解説	復習

関連科目：英語Ｉｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Say It Right in English	Mark　Thompson　and Toshihiro Tanioka	英宝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験期間中の定期試験は行わず、 平常点（授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物、等）の成績を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ⅰ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中本　明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC，英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語の書き取りテストやテキストの内容確認テストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1	名詞	Uni t　1　の単語の確認と予習・復習
3	Unit 2	冠詞	Unit 2 の単語の確認と予習・復習
4	Unit 3	代名詞（1）	Unit 3 の単語の確認と予習・復習
5	Unit 1 から Unit 3 までの復習	名詞、冠詞と代名詞（1）	Unit 1 から Unit 3 までの単語の確認と復習
6	Unit 4	代名詞（2）	Unit 4 の単語の確認と予習・復習
7	Unit 5	基本時制	Unit 5 の単語の確認と予習・復習
8	Unit 6	進行形	Unit 6 の単語の確認と予習・復習
9	Unit 4 から Unit 6 までの復習	代名詞（2）、基本時制と進行形	Unit 4 から Unit 6 までの単語の確認と復習
10	Unit 7	完了形	Unit 7 の単語の確認と予習・復習
11	Unit 8	助動詞（1）	Unit 8 の単語の確認と予習・復習
12	Unit 9	助動詞（2）	Unit 9 の単語の確認と予習・復習
13	Unit 10	受動態（1）	Unit 10 の単語の確認と予習・復習
14	Unit 7 から Unit 10 までの復習	完了形、助動詞（1）、助動詞（2）と受動態（1）	前期の総復習
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目：他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Refreshing Engrish Grammar with Short Readings	福井慶一郎他３名	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 20%、課題・口頭発表 30%と前期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。英和辞書は毎回携帯して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階　（非常勤講師室）
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる文法力、読解力の養成を目標とする。
到達目標	基礎的な英文法の理解と読解力の養成。
授業方法と留意点	テキストに沿って練習問題をこなしながら、英文法の理解を深め、読解力を養う。
科目学習の効果（資格）	英文法の理解を中心とした英語力の向上と各種英語資格試験の得点アップ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit1	be 動詞	テキスト p.6-8 練習問題を行うこと。
2	Unit1	be 動詞	テキスト p.9 練習問題を行うこと。
3	Unit2	一般動詞(現在)	テキスト p.10-13 練習問題を行うこと。
4	Unit3	一般動詞（過去）	テキスト p.14-17 練習問題を行うこと。
5	Unit4	進行形	テキスト p.18-21 練習問題を行うこと。
6	Unit5	未来形	テキスト p.22-25 練習問題を行うこと。
7	Unit6	助動詞	テキスト p.26-29 練習問題を行うこと。
8	復習・臨時テスト	復習とテストの実施	
9	Unit7	名詞、冠詞	テキスト p.30-33 練習問題を行うこと。
10	Unit8	代名詞	テキスト p.34-37 練習問題を行うこと。
11	Unit9	前置詞	テキスト p.38-41 練習問題を行うこと。
12	Unit10	形容詞、副詞	テキスト p.42-45 練習問題を行うこと。
13	Unit11	比較	テキスト p.46-49 練習問題を行うこと。
14	Unit12	命令文・感嘆文	テキスト p.50-53 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習とテストの実施	

関連科目：スポーツ英語Ｉ、スポーツ英語ＩＩＩ、スポーツ英語Ⅳ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer 〈Revised Edition〉	佐藤哲三、愛甲ゆかり	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	臨時テスト 60%（30%×2 回）、平常点 40%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――――
2	Unit1	be 動詞、現在	教科書 p.6-9
3	Unit2	一般動詞,、現在	教科書 p.10 - 13
4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p.14-17
5	Unit4	be 動詞、過去	教科書 p.18-21
6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p.22-25
7	Unit6	特殊な文	教科書 p.26-29
8	Unit 7	未来形	教科書 p.30-33
9	Unit8	進行形	教科書 p.34-37
10	Unit9	助動詞	教科書 p.38-41
11	Unit10	英文の型	教科書 p.42-45
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――――

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物や授業への参加、貢献度など含め 25%)の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度を重視する。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰｃ	科目名（英文）	English Ic
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	テキストの問題に取り組むことによって、シンプルな構文の英文を理解し、発信する能力を養います。テキストは２回の授業で１ユニット進みます。各章、1 回目の授業では各ユニットのテーマとなっている項目を理解し、正しく受信（リスニング、リーディング）する能力を身に着け、2 回目の授業ではテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。毎回５分程度の復習テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC 受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし
2	Unit 1　動詞（1）　be 動詞	be 動詞の種類、活用、特殊用法の理解	授業内容の復習
3	Unit 1　動詞（1）　be 動詞	be 動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
4	Unit 2　動詞（2）　一般動詞	一般動詞の種類、代表的な不規則変化の理解	授業内容の復習
5	Unit 2　動詞（2）　一般動詞	一般動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
6	Unit 3　未来形	未来形の種類、表現方法	授業内容の復習
7	Unit 3　未来形	未来形を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
8	Unit 1-3 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習
9	Unit 4　助動詞	助動詞の種類	授業内容の復習
10	Unit 4　助動詞	助動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
11	Unit 5　冠詞	冠詞の用法	授業内容の復習
12	Unit 5　冠詞	冠詞に注意しながらセンテンスを作る	授業内容の復習
13	Unit 6　代名詞	代名詞の用法	授業内容の復習
14	Unit 6　代名詞	適切な代名詞に置き換えて発信する	授業内容の復習
15	Unit 4-6 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ⅰｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Simply Grammar (Revised Edition)	斎藤　喜久志	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 平常点（小テスト+授業中課題）50%、まとめテスト 50%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤岡　真樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	この授業は、英文法のドリルの学習を通じて、学生の皆さんに、1. 基本的な語彙力と文法力を身につけてもらうこと、2. 一定量の英文から必要な情報をできるだけ速く、正確に読み取る力を身につけてもらうこと、3. 英語表現の基礎を学んでもらうことを目的として実施するものです。
到達目標	この授業では、皆さんに英文法の基礎を徹底的に身につけてもらうことを目的としています。
授業方法と留意点	授業は毎回 1. 単語テスト（解答：5 分、答え合わせ：10 分）、2. テキストの読解や作業とその解説（約 75 分）で構成し、この順番で進めます。 1. 単語テストについて：問題は The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test WORD BOOK から出題します（範囲は「事前・事後学習課題」の項目に記した通り）。単語テストは授業の冒頭に実施しますので、遅刻などのないようにしてください。 2. テキストの読解・作業と解説について：English Primer を「授業テーマ」の項目に沿って進めます。授業では皆さんに各 Unit の「C 長文問題」の内容と問題の解答を尋ねますので、事前に必ずテキストを読み、問題を解いてきてください。必要があれば、「A 基本問題」、「B 発展問題」の問題にも取り組んでもらい、文法力の強化も図ります。難解な点や背景知識については、担当者から解説します。前期の英語 Ic との連続履修を推奨します。 （留意点 1） リーダーズなど中レベル以上の英和辞典を毎回必ず持参してください。書籍型でも電子型でもかまいません。 （留意点 2） この授業は、担当者が一方的に教授するのではなく、担当者と受講者全員とが力を合わせて英語力の向上を図ることを目的としています。したがって授業中は、私語をしないなどの最低限の常識は守ってください。担当者の注意・指導に従わない学生は、単語テストや定期試験の出来いかんにかかわらず、単位を認定しません。
科目学習の効果（資格）	TOEIC テストに有効な語彙の習得。 基礎的文法知識の定着。 読解力の向上。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容・評価方法についての説明 基礎的な文法事項の確認	なし
2	基礎的文法知識を定着させる。 名詞を修飾する現在分詞、過去分詞の違い、および主語・補語・前置詞の目的語になる動名詞について習得する。	単語テスト Unit 22: 分詞・動名詞（II）	Unit 22 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 381～418 の暗記。
3	基礎的文法知識を定着させる。 名詞を修飾する現在分詞、過去分詞の違い、および主語・補語・前置詞の目的語になる動名詞について習得する。	単語テスト Unit 22: 分詞・動名詞（II）	Unit 22 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 419～456 の暗記。
4	基礎的文法知識を定着させる。 名詞を修飾する現在分詞、過去分詞の違い、および主語・補語・前置詞の目的語になる動名詞について習得する。	単語テスト Unit 22: 分詞・動名詞（II）	Unit 22 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 457～494 の暗記。
5	基礎的文法知識を定着させる。 現在・過去完了形について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 16: 完了形	Unit 16 の「C 発展問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 495～523 の暗記。
6	基礎的文法知識を定着させる。 関係代名詞について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 23: 関係代名詞	Unit 23 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 524～563 の暗記。
7	基礎的文法知識を定着させる。 関係代名詞について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 23: 関係代名詞	Unit 23 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 564～602 の暗記。
8	基礎的文法知識を定着させる。 関係代名詞について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 23: 関係代名詞	Unit 23 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 381～456 の復習。
9	基礎的文法知識を定着させる。 仮定法について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 24: 仮定法	Unit 24 の「C 長文問題」の文章を読み、問題を解く。 WORD BOOK, 457～523 の復習。
10	基礎的文法知識を定着させる。 仮定法について、これまでに身につけた文法知識を総動員して理解する。	単語テスト Unit 24: 仮定法	Unit 24 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解く。 WORD BOOK, 524～602 の復習。
11	仮定法について、これまでに	単語テスト	Unit 24 の「A 基本問題」と「B 発展問題」を解

	身につけた文法知識を総動員して理解する。	Unit 24: 仮定法	く。 WORD BOOK, 381～418 の復習。
12	文法知識を用いて英文を読む力を身につける。 時事問題を扱った平易な(新聞) 記事を読めるようになる。	単語テスト 英文の読解・解説	課題の文章を精読する。 WORD BOOK, 418～494 の復習。
13	文法知識を用いて英文を読む力を身につける。 時事問題を扱った平易な(新聞) 記事を読めるようになる。	単語テスト 英文の読解・解説	課題の文章を精読する。 WORD BOOK, 495～602 の復習。
14	文法知識を用いて英文を読む力を身につける。 時事問題を扱った平易な(新聞) 記事を読めるようになる。	単語テスト 英文の読解・解説	課題の文章を精読する。 WORD BOOK, 381～602 の復習。
15	文法知識を用いて英文を読む力を身につける。 時事問題を扱った平易な(新聞) 記事を読めるようになる。	単語テスト 英文の読解・解説	課題の文章を精読する。 WORD BOOK, 381～602 の復習。

関連科目

他の英語全科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer, Revised Edition.	Tetsuzo Sato and Yukari Aiko	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for TOEIC Test WORK BOOK	NISHIYA Koji	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点（授業態度、予習の有無）：20%、毎回の単語テスト：10%、定期試験：70%

学生へのメッセージ

英語の習得において、多くの単語の暗記や文法の理解は不可欠です。そして、この授業の毎回の課題も決して「楽」ではないでしょう。しかし、それを乗り越えたところには、英語を読む「楽しさ」があります。その楽しさを感じることのできる力を身につけるため、共に頑張りましょう。

担当者の研究室等

7 号館 2 階(非常勤講師室)

備考

１．テキストの予習は、「C 長文問題」だけでなく、各 Unit 冒頭の文法の説明もよく読みながら、毎回 1 時間以上かけて取り組んでください。
２．単語テストのための勉強は、20 分を目安に毎日必ず取り組むようにしてください。勉強の仕方は第 1 回目の授業で説明します。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。　特に、資格（TOEIC, 英検など）取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるので、毎回の授業で取り組みます。　聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。　資格取得に向けて前向きに受験してください。　また授業担当者がアメリカで経験したことも写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識の習得を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。　電子辞書を持参のこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-up English	JACET 研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験６０％、小テスト４０％で全体の評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原　真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	本授業では英字新聞記事を用いた実践的な英文を読むことから、実社会で役立つ英語のリーディングスキルを身につける。
到達目標	実践的な英語力を身につける。 （英文の正確な理解ができ、必要な情報を見つけ出せる。） 文法知識を正確にし、定着させる。
授業方法と留意点	毎回授業の始めに前回学習した箇所の復習小テストをする。 記事の読解と Exercise の答え合わせをする。 時事問題についての英文を取り扱うため、日頃から新聞などに目を通し、それらの知識をあらかじめ知っておくのが望ましい（英文が理解しやすくなる） 記事の内容について、英語で質問するので英語で答えてもらう。予め、予習し内容をつかんでおくこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	簡単な小テスト Chapter 7 Smile!!	Chapter 7	予習（下読み、Exercise）
2	7　Smile!	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
3	8　Silent Sunday?	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
4	8　Silent Sunday?	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
5	9　Want to Be a Pilot?	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
6	9　Want to Be a Pilot?	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
7	10　Napoleon, the Pig?	単語小テスト 読解、Exercise	予習：テスト勉強
8	臨時テスト（後期中間）	前半の学習内容の確認テスト 問題解説	予習（下読み、Exercise）
9	10　Napoleon, the Pig?	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
10	11　Don't Drop Dead Here!	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
11	11 Don't Drop Dead Here!!	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
12	12　Cheating Does Not Pay	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
13	12　Cheating Does Not Pay	単語小テスト 読解、Exercise	予習（下読み、Exercise）
14	13　Putting a Stop to Traffic Jams	単語小テスト 読解、Exercise	予習：テスト勉強
15	臨時テスト（後期期末）	後半の学習内容の確認テスト 問題解説	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Funny Laws in the World（「世界おもしろ比較文化」）	石井隆之、岩田雅彦　他２名	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験期間中の定期試験は行わず、２回のテスト(中間＋期末）を行う。 テスト 60%,平常点（授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物）40%とし、総合的に判断する。
学生へのメッセージ	必ず、予め記事を読んで授業に出てください。 積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	辞書を持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	関　初海
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	英語の正確な内容理解をふまえて、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	基礎文法を完全に習得できる。習得した文法を用いて、簡単な文章が書けるようになる、簡単な発話が出来るようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を進める。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC など

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 14 予習
2	Unit 14	The Californian （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 15 予習
3	Unit 15	The Carpathia （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 16 予習
4	Unit 16	Radio Officers （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 17 予習
5	Unit 17	Firemen （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 17 予習
6	Unit 17	Firemen （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 18 予習
7	Unit 18	Eight Courageous Musicians (1) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 18 予習 中間テスト準備
8	中間テストと Unit 18	中間テスト Eight Courageous Musicians (1) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 19 予習
9	Unit 19	中間テストのフィードバック Eight Courageous Musicians (2) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 19 予習
10	Unit 19	Eight Courageous Musicians (2) （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 20 予習
11	Unit 20	Only 705 Surviors （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 20 予習
12	Unit 20	Only 705 Surviors （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 21 予習
13	Unit 21	If Only... （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	復習・Unit 21 予習
14	Unit 21	If Only... （文法理解とリーディング・リスニング、ライティング・スピーキング）	まとめテスト準備
15	まとめ	まとめテストとフィードバック	総復習

関連科目：英語Ｉｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	First Voyage	木村啓子他	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	まとめテスト 60%、中間テスト 10%、授業参加度と小テストなど３０％
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第１回目授業時に指示する。

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中野　阿佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	本授業では基本的な英文法の知識を定着させると共に、 「読む」「聞く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れ、英語の総合的な基礎力を固める。 日本人が間違いやすい英単語についての英文を読むことから、 リーディング能力に合わせて、語彙力の向上を目指す。
到達目標	英文の正確な理解ができるようにする。 英語学習の中の文法知識を正確にする。 語彙力を向上する。
授業方法と留意点	教科書の学習が中心となる。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC得点向上。英検の資格取得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方 テキストの導入	テキストの下読み
2	Unit９　I Cut My Hair.	文法解説（比較①） Exercise	予習・復習 小テストの準備
3	Unit10　Hearing & Listening	文法解説（比較②） Exercise	予習・復習 小テストの準備
4	Unit９，１０の復習	文法解説（比較①②） Exercise	予習・復習 小テストの準備
5	Unit 11 Rent & Borrow	文法解説（関係代名詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
6	Unit12　Trip, Tour, Travel	文法解説（形容詞と副詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
7	Unit11、12の復習	文法解説（関係代名詞、形容詞と副詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
8	確認テスト① テスト解説	テストを実施 問題解説	予習・復習 小テストの準備
9	Unit13　Customer, Guest, Client	文法解説（分詞と動名詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
10	Unit14　Pay, Wage, Salary	文法解説（前置詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
11	Unit13、14の復習	文法解説（分詞と動名詞、前置詞） Exercise	予習・復習 小テストの準備
12	Unit15 Cost, Price, Fee, Fare	文法解説（否定） Exercise	予習・復習 小テストの準備
13	Unit　１～８　の復習と応用	文法事項の復習とアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
14	Unit　９～15の復習と応用	文法事項の復習とアウトプット練習	予習・復習 小テストの準備
15	確認テスト② テスト解説	テストを実施 問題解説	復習

関連科目　英語Ｉｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Say It Right in English	Mark Thompson and Toshihiro Tanioka	英宝社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	試験期間中の定期試験は行わず、 平常点（授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物、等）の成績を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	積極的な授業参加を期待します。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師控室）
備考	授業中の携帯の使用は認めません。辞書を持参するようにしてください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	Ｉ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中本　明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	基礎的な語彙と文法を中心とした実践的な英語力の向上を図ります。
到達目標	資格（TOEIC，英検など）取得の前提となる英語基礎力（特に、語彙・文法を中心として）を身に付けます。
授業方法と留意点	ユニットごとに基礎から語彙と文法を学習し、無理なく英語に慣れ親しみます。 （問題を解く）→（解説を読む）→（再び問題を解く）→（再び解説を読む）を繰り返します。 さらに小テストとして、単語の書き取りテストとテキスト内容の確認テストを毎回行います。
科目学習の効果（資格）	英検３級、準２級

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明、前期学習事項の確認	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 11	受動態（２）	Unit 11 の単語の確認と予習・復習
3	Unit 12	不定詞（１）	Unit 12 の単語の確認と予習・復習
4	Unit 13	不定詞（２）	Unit 13 の単語の確認と予習・復習
5	Unit 11 から Unit 13 までの復習	受動態（２）、不定詞（１）と不定詞（２）	Unit 11 から Unit 13 までの単語の確認と復習
6	Unit 14 & 15	分詞（１）＆（２）	Unit 14 & 15 の単語の確認と予習・復習
7	Unit 16	動名詞（１）	Unit 16 の単語の確認と予習・復習
8	Unit 18	形容詞	Unit 18 の単語の確認と予習・復習
9	Unit 14 から Unit 18 までの復習	分詞（１）＆（２）、動名詞（１）と形容詞	Unit 14 から Unit 18 までの単語の確認と復習
10	Unit 19	副詞	Unit 19 の単語の確認と予習・復習
11	Unit 20	比較（１）	Unit 20 の単語の確認と予習・復習
12	Unit 21	比較（２）	Unit 21 の単語の確認と予習・復習
13	Unit 22	前置詞	Unit 22 の単語の確認と予習・復習
14	Unit 19 から Unit 22 までの復習	副詞、比較（１）、比較（２）と前置詞	後期の総復習
15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習

関連科目	他の英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Refreshing Engrish Grammar with Short Readings	福井慶一郎他３名	朝日出版社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト 20%、課題・口頭発表 30%と後期まとめテスト 50%で、授業態度は減点方式とし、総合的に評価します。
学生へのメッセージ	テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておいて下さい。語彙力が英語の上達に大きく影響します。英和辞書は毎回携帯して下さい。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	休まず積極的に授業に参加して下さい。努力は実ります。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅰｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田村　康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ英語を文法を中心にもう一度復習し、更なる文法力、読解力の養成を目標とする。
到達目標	基礎的な英文法の理解と読解力の養成。
授業方法と留意点	テキストに沿って練習問題をこなしながら、英文法の理解を深め、読解力を養う。
科目学習の効果（資格）	英文法の理解を中心とした英語力の向上と各種英語資格試験の得点アップ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit13	接続詞(I)	テキスト p.54-56 練習問題を行うこと。
2	Unit13	接続詞(I)	テキスト p.57 練習問題を行うこと。
3	Unit14	不定詞(I)、動名詞(I)	テキスト p.58-61 練習問題を行うこと。
4	Unit15	受動態	テキスト p.62-65 練習問題を行うこと。
5	Unit16	現在完了形	テキスト p.66-69 練習問題を行うこと。
6	Unit17	接続詞(II)（時勢の一致を含む）等	テキスト p.70-73 練習問題を行うこと。
7	Unit18	5 つの基本文型	テキスト p.74-77 練習問題を行うこと。
8	復習、臨時テスト	復習とテストの実施	
9	Unit19	各種疑問文	テキスト p.78-81 練習問題を行うこと。
10	Unit20	不定詞(II)	テキスト p.82-85 練習問題を行うこと。
11	Unit21	It の特別用法	テキスト p.86-89 練習問題を行うこと。
12	Unit22	分詞、動名詞(II)	テキスト p.90-93 練習問題を行うこと。
13	Unit23	関係代名詞	テキスト p.94-97 練習問題を行うこと。
14	Unit24	仮定法	テキスト p.98-101 練習問題を行うこと。
15	復習、臨時テスト	復習とテストの実施	

関連科目：英語Ⅰａ、英語Ⅰｃ、英語Ⅰｄ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Primer 〈Revised Edition〉	佐藤哲三、愛甲ゆかり	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	臨時テスト 60%（30%×2 回）、平常点 40%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦　茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	――――
2	Unit11	受動態	教科書 p.46-49
3	Unit12	比較	教科書 p.50 - 53
4	Unit13	完了形	教科書 p.54-57
5	Unit14	不定詞	教科書 p.58-61
6	Unit15	分詞	教科書 p.62-65
7	Unit16	動名詞	教科書 p.66-69
8	Unit 17	節	教科書 p.70-73
9	Unit18	関係代名詞	教科書 p.74-77
10	Unit19	熟語の整理	教科書 p.78-81
11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p.82-85
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する	
14	総合復習１	定期試験対策	――――
15	総合復習２	定期試験対策	――――

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	カレッジ英文法入門	大坂四郎	南雲堂
2	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集	西谷悟志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験(70%)、授業中の小テスト(5%)、平常点(提出物、授業への参加、貢献度含め 25%)の点数を総合評価する。また、日頃の授業態度を重視する。
学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ｉｄ	科目名（英文）	English Id
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	前期に引き続き、テキストの問題に取り組むことによって、シンプルな構文の英文を理解し、発信する能力を養います。テキストは２回の授業で１ユニット進みます。各章、１回目の授業では各ユニットのテーマとなっている項目を理解し、正しく受信（リスニング、リーディング）する能力を身に着け、２回目の授業ではテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。毎回５分程度の復習テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC 受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし
2	Unit 7　前置詞	前置詞の種類、意味、用法	授業内容の復習
3	Unit 7　前置詞	適切な前置詞を用いてセンテンスを作成する	授業内容の復習
4	Unit 8　接続詞	接続詞の種類、意味、用法	授業内容の復習
5	Unit 8　接続詞	接続詞を用いてセンテンスをつなげる	授業内容の復習
6	Unit 9　進行形	進行形の種類、意味、用法	授業内容の復習
7	Unit 9　進行形	進行形を使って表現する	授業内容の復習
8	Unit 7-9 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習
9	Unit 10　受動態	受動態の種類、意味、用法	授業内容の復習
10	Unit 10　受動態	受動態を使って表現する	授業内容の復習
11	Unit 11　完了形	完了形の種類、意味、用法	授業内容の復習
12	Unit 11　完了形	完了形を使って表現する	授業内容の復習
13	Unit 12　比較	比較表現の種類、意味、用法	授業内容の復習
14	Unit 12　比較	様々なものを比較する	授業内容の復習
15	Unit 7-12 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ｉｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Simply Grammar (Revised Edition)	斎藤　喜久志	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 平常点（小テスト+授業中課題）50%、まとめテスト 50%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。
科目学習の効果（資格）	・・・

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Test	Feedback session	・・・

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　(Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471822-6
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes and an end of semester final test.
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱa	科目名（英文）	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction and review of semester Ⅰ	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1 2nd edition	Ken Wilson	Oxford Uni. Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書(英和･和英)を必ず持参すること　Dictionary－book or electronic		
2			
3			

評価方法（基準）	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱｂ	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＡＢＣ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー　ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

授業概要・目的

The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.

到達目標

読解力をつけるための単語力、文法力をつける。

自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。

音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。

授業方法と留意点

Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.
単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。

科目学習の効果（資格）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson
15	Final Test	Feedback session	・・・

関連科目

なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	PASSPORT 2　(Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471822-6
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes and an end of semester final test.

学生へのメッセージ

興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。

担当者の研究室等

７号館２階　（非常勤講師室）

備考

「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱb	科目名（英文）	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	ＤＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ﾌﾞﾗｲｱﾝ ｽﾚｰﾀｰ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8○		

基礎科目

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC などのスコアアップ

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction and review of semester Ⅰ	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Smart Choice 1 2nd edition	Ken Wilson	Oxford Uni. Press
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書(英和･和英)を必ず持参すること　Dictionary－book or electronic		
2			
3			

評価方法（基準）	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集から情報の加工、情報の発信ができるようになることを目的とする。
到達目標	インターネットを利用して情報の収集ができる。 インターネット社会の危険性について説明できる。 Word、Excel を使って情報の加工、資料の作成ができる。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト　オフィス　スペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスをしてみる
2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事後：演習課題の復習
3	インターネットの活用	インターネットの歴史と仕組み、情報検索	事後：演習課題の復習
4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事後：演習課題の復習
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文書の作成	事後：演習課題の復習
6	文書作成（2）	画像の挿入、図の作成	事後：演習課題の復習
7	文書作成（3）	表の挿入	事後：演習課題の復習
8	前半確認テスト	前半確認テスト	事前：これまでの復習
9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事後：演習課題の復習
10	表計算（1）	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事後：演習課題の復習
11	表計算（2）	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事後：演習課題の復習
12	表計算（3）	関数の利用	事後：演習課題の復習
13	表計算（4）	グラフの作成	事後：演習課題の復習
14	表計算（5）	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事後：演習課題の復習
15	後半確認テスト	後半確認テスト	事前：これまでの復習

関連科目：ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（30%）、確認テスト（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	情報処理Ｉ	科目名（英文）	Information Processing Ｉ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集から情報の加工、情報の発信ができるようになることを目的とする。
到達目標	インターネットを利用して情報の収集ができる。 インターネット社会の危険性について説明できる。 Word、Excel を使って情報の加工、資料の作成ができる。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト　オフィス　スペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスをしてみる
2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事後：演習課題の復習
3	インターネットの活用	インターネットの歴史と仕組み、情報検索	事後：演習課題の復習
4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事後：演習課題の復習
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文書の作成	事後：演習課題の復習
6	文書作成（2）	画像の挿入、図の作成	事後：演習課題の復習
7	文書作成（3）	表の挿入	事後：演習課題の復習
8	前半確認テスト	前半確認テスト	事前：これまでの復習
9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事後：演習課題の復習
10	表計算（1）	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事後：演習課題の復習
11	表計算（2）	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事後：演習課題の復習
12	表計算（3）	関数の利用	事後：演習課題の復習
13	表計算（4）	グラフの作成	事後：演習課題の復習
14	表計算（5）	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事後：演習課題の復習
15	後半確認テスト	後半確認テスト	事前：これまでの復習

関連科目：ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（30%）、確認テスト（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。前半はレポート・論文ツールの技法、画像編集、Web プレゼンテーションツールの活用法を学習し、後半は PowerPoint の基本操作から学習した技法を用いて、プレゼンテーションの準備から実行までを練習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに生かすことができるようになることを目的とする。
到達目標	レポート・論文作成時に Word のツールを活用することができる。 画像ソフトを使って、簡単な画像編集ができる。 情報発信のための、プレゼンテーションの準備ができる。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文書作成の応用技術（1）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
2	文書作成の応用技術（2）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
3	情報の表現（1）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
4	情報の表現（2）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
5	情報の発信（1）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
6	情報の発信（2）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
7	課題制作（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
8	課題制作（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
9	情報の表現（3）	スライド作成方法	事後：演習課題の復習
10	情報の表現（4）	グラフィックの利用	事後：演習課題の復習
11	情報の表現（5）	アウトラインの利用	事後：演習課題の復習
12	課題制作と発表（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
13	課題制作と発表（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
14	課題制作と発表（3）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
15	課題制作と発表（4）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備

関連科目：情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（30%）、提出課題と発表（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。前半はレポート・論文ツールの技法、画像編集、Web プレゼンテーションツールの活用法を学習し、後半は PowerPoint の基本操作から学習した技法を用いて、プレゼンテーションの準備から実行までを練習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに生かすことができるようになることを目的とする。
到達目標	レポート・論文作成時に Word のツールを活用することができる。 画像ソフトを使って、簡単な画像編集ができる。 情報発信のための、プレゼンテーションの準備ができる。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文書作成の応用技術（1）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
2	文書作成の応用技術（2）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
3	情報の表現（1）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
4	情報の表現（2）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
5	情報の発信（1）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
6	情報の発信（2）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
7	課題制作（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
8	課題制作（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
9	情報の表現（3）	スライド作成方法	事後：演習課題の復習
10	情報の表現（4）	グラフィックの利用	事後：演習課題の復習
11	情報の表現（5）	アウトラインの利用	事後：演習課題の復習
12	課題制作と発表（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
13	課題制作と発表（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
14	課題制作と発表（3）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
15	課題制作と発表（4）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備

関連科目：情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（30%）、提出課題と発表（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	スポーツ科学概論	科目名（英文）	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	運動およびスポーツ活動は私たちの健康づくりにおいて欠かせない要素である。また運動やスポーツの効果を最大限に発揮するためには、運動時の身体の変化についての知識を身につける必要がある。本授業では、身体のしくみを理解し、運動（スポーツ）により私たちの心身がどのように変化するのかについて科学的根拠に基づいた基礎知識を修得する。
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによるそれらの変化について、正しく理解することができる。 スポーツパフォーマンス向上を目指すために必要な基礎知識を修得できる。 心身の健康の保持・増進に向けたスポーツの役割を理解することができる。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。 次回のテーマに沿った課題を課す。 予習内容に沿ってグループワークを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
2	身体のつくり	中学・高校で既知の身体のつくりについて復習する。身体のつくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
3	身体を動かすしくみ?筋・骨格系?	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
4	身体を動かすしくみ?呼吸循環器系?	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
7	体組成（筋肉・脂肪・骨）とエクササイズ	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
8	全身持久力とエクササイズ	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
9	身体機能（柔軟性・平衡性）とエクササイズ	柔軟性やバランス能力を向上させるために必要な運動について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
10	身体機能（巧緻性・調整力）とエクササイズ	身体を巧みに動かすための運動について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
12	運動時の体温調節と水分補給	運動時における体温の変化について、メカニズムと調整方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
13	スポーツと貧血	スポーツ性貧血について、その原因と、予防・対応法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
14	運動障害と予防、応急処置	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法、応急処置について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
15	スポーツ時における体調管理	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
評価方法 （基準）	期末試験（３０％）、課題（３０％）、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物（４０％）により評価する。 １００点中６０点で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館１階　藤林研究室			
備考				

科目名	スポーツ科学実習Ｉａ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美.内部　昭彦.堀　美幸.村上　陽一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は、上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ＩａとＩｂで同じ種目を履修することはできない（アスリートコースを除く）。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ｉｂ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.内部　昭彦.岡﨑　和伸.村上　陽一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ＩａとＩｂで同じ種目を履修することはできない（アスリートコースを除く)。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱａ	科目名（英文）	Practice of Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬　泰治.藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ科学実習Ⅰａ・Ⅰｂ で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は、上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意事項の説明） コース種目分け	授業内容のまとめ
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰａ・Ⅰｂ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業（競技）への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室に来ること。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウエア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱｂ	科目名（英文）	Practice of Sports Science IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	内部　昭彦.西村　和恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

基礎科目

授業概要・目的	スポーツ科学実習Ⅰａ・Ⅰｂ で修得した基礎知識をベースにより応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は、上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意事項の説明） コース種目分け	授業内容のまとめ
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グループピンク・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰａ・Ⅰｂ、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお、活動点とは、授業（競技）への参加意欲、態度点とは、積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室に来ること。
担当者の研究室等	体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	【準備物】 トレーニングウエア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	専門日本語R	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	復習
7	話し方１	話題の変え方	復習
8	話し方２	話の終わらせ方	復習
9	話し方３	話の広げ方	復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語会話R	科目名（英文）	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：F ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方１	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方２	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語総合Ｒ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。 質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。 メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語読解R	科目名（英文）	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文R	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語表現作文FⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語文法R	科目名（英文）	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：F○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本事情ＲＩ	科目名（英文）	Japanese Culture & Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！　事前・事後学習は 1.5 時間ずつ。
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＲⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture & Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	後期	授業担当者	梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	１）日本の文化・社会について理解を深める。 ２）時事（日常の社会の出来事）について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 ３）日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	１）自分が関心をもった日本のニュースや記事について５分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 ２）発表後はクラス全体で質問や意見交換をする（15～20 分）。 ３）講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。　　４）考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 ５）最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する（小テスト、または小レポート）。
科目学習の効果（資格）	１）日本語での口頭表現力の向上 ２）語彙の習得
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 －日本の地理－	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
2	日本の年中行事（１） －墓参り－	口頭発表 盆と彼岸－日本人の先祖供養－ 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
3	Nippon Guide 2 －日本の歴史－	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『かぐや姫』（にほんごよむよむ文庫）を読む。または『かぐや姫の物語』（ジブリ）の視聴
4	日本の年中行事（２） －十五夜－ Nippon Guide 3 －マンガ･アニメのことば－	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） 10 月 4 日中秋の名月を楽しもう！
5	日本の年中行事（３） －日本の祭り－	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10 月 22 日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて（１）	（発表準備） 原稿とスライドの作成 （交流準備） クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
7	高校訪問に向けて（２） Nippon Guide 4 －若者ことば・関西弁－	発表の練習	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事（４） －紅葉狩り－	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を１０回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事（５） －七五三－ Nippon Guide 5 －神社－	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族（１）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
11	日本の家族（２）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
12	日本の年末（１）	お歳暮、忘年会、 宝くじ －ギャンブル大国、日本－	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
13	日本の年末（２）	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
	15	2月、3月の行事 授業の振り返り	口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	日本の映画史　10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
3	Hiragana　Times		ヤック企画

評価方法 （基準）	到達目標：４０％（うち自己到達目標１０％）、事前・事後学習：３０％（発表準備、発表）、授業への参加：３０％（意見交換などでの発言１５％、小テスト、小レポート：１５％）
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館４F）
備考	

教　養　科　目

科目名	英語Ⅰ	科目名（英文）	English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習（固有名詞、複数形など）	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	趣味についての文章を通して主語＋動詞～の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	コンサートについての文章を通して How＋形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	その他英語科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ	科目名（英文）	English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本　好一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。　中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
15	9－14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目：他の全ての英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Forerunner to Power-up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 A　20% 全学共通英語課題 B　10% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）　70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。　英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅲ	科目名（英文）	English III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	髙橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	テキストの問題に取り組むことによって、シンプルな構文の英文を理解し、発信する能力を養います。テキストは２回の授業で１ユニット進みます。各章、1 回目の授業では各ユニットのテーマとなっている項目を理解し、正しく受信（リスニング、リーディング）する能力を身に着け、2 回目の授業ではテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。毎回５分程度の復習テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC 受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし
2	Unit 1　動詞（1）　be 動詞	be 動詞の種類、活用、特殊用法の理解	授業内容の復習
3	Unit 1　動詞（1）　be 動詞	be 動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
4	Unit 2　動詞（2）　一般動詞	一般動詞の種類、代表的な不規則変化の理解	授業内容の復習
5	Unit 2　動詞（2）　一般動詞	一般動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
6	Unit 3　未来形	未来形の種類、表現方法	授業内容の復習
7	Unit 3　未来形	未来形を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
8	Unit 1-3 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習
9	Unit 4　助動詞	助動詞の種類	授業内容の復習
10	Unit 4　助動詞	助動詞を用いた文章の作成、応用、及び発信	授業内容の復習
11	Unit 5　冠詞	冠詞の用法	授業内容の復習
12	Unit 5　冠詞	冠詞に注意しながらセンテンスを作る	授業内容の復習
13	Unit 6　代名詞	代名詞の用法	授業内容の復習
14	Unit 6　代名詞	適切な代名詞に置き換えて発信する	授業内容の復習
15	Unit 4-6 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ⅰd

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Simply Grammar (Revised Edition)	斎藤　喜久志	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 平常点（小テスト+授業中課題）50%、まとめテスト 50%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅳ	科目名（英文）	English Ⅳ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋　章夫
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	英語を正確に読み聞きし、受信する能力を磨き、その受信した英語を応用し、書いて話せるようにする訓練をします。また、単語テストを通して、コミュニケーションに不可欠な語彙力を向上させます。また、毎回、授業の最初に、単語テストと前回の授業の復習テストを行います。
到達目標	語彙力を強化し、受信した英語を発信できるよう、基礎的な英語力を確実に身につける。
授業方法と留意点	前期に引き続き、テキストの問題に取り組むことによって、シンプルな構文の英文を理解し、発信する能力を養います。テキストは２回の授業で１ユニット進みます。各章、１回目の授業では各ユニットのテーマとなっている項目を理解し、正しく受信（リスニング、リーディング）する能力を身に着け、２回目の授業ではテーマに沿った発信（スピーキング、ライティング）の訓練を行います。毎回５分程度の復習テストを行います。
科目学習の効果（資格）	英語の四技能を向上させるとともに、TOEIC 受験に対応できる英語力を身に着ける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし
2	Unit 7　前置詞	前置詞の種類、意味、用法	授業内容の復習
3	Unit 7　前置詞	適切な前置詞を用いてセンテンスを作成する	授業内容の復習
4	Unit 8　接続詞	接続詞の種類、意味、用法	授業内容の復習
5	Unit 8　接続詞	接続詞を用いてセンテンスをつなげる	授業内容の復習
6	Unit 9　進行形	進行形の種類、意味、用法	授業内容の復習
7	Unit 9　進行形	進行形を使って表現する	授業内容の復習
8	Unit 7-9 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習
9	Unit 10　受動態	受動態の種類、意味、用法	授業内容の復習
10	Unit 10　受動態	受動態を使って表現する	授業内容の復習
11	Unit 11　完了形	完了形の種類、意味、用法	授業内容の復習
12	Unit 11　完了形	完了形を使って表現する	授業内容の復習
13	Unit 12　比較	比較表現の種類、意味、用法	授業内容の復習
14	Unit 12　比較	様々なものを比較する	授業内容の復習
15	Unit 7-12 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習

関連科目：英語Ⅰｃ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Simply Grammar (Revised Edition)	斎藤　喜久志	南雲堂
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 平常点（小テスト+授業中課題）50%、まとめテスト 50%
学生へのメッセージ	英語を習得するには、日々の積み重ねが大切です。授業時間のみならず、意識的に英語に触れる機会を増やすよう試みてください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	応用情報処理	科目名（英文）	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内　睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	1年次に習ったワープロ、スプレッドシート、プレゼンテーションツールの応用を目指し、データ分析、資料作成、プレゼンテーションのレベルアップを図る。
到達目標	Excel によるデータ分析、Word による文書作成、Powerpoint の応用的活用を習得する。
授業方法と留意点	演習方式の講義で、毎回コンピュータによる実習を行います。なお進捗度合いに応じて，講義内容は適宜変更する場合があります。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: Word 復習	授業の進め方、評価方法、復習課題	課題を仕上げておくこと
2	Excel 復習	データ集計処理の復習	課題を仕上げておくこと
3	Excel 関数(1)	Excel 関数による処理 1	課題を仕上げておくこと
4	Excel 関数(2)	Excel 関数による処理 2	課題を仕上げておくこと
5	Excel ピボットテーブル	Excel ピボットテーブルの利用	課題を仕上げておくこと
6	Excel 統計処理(1)	Excel 統計処理 1	課題を仕上げておくこと
7	Excel 統計処理(2)	Excel 統計処理 2	課題を仕上げておくこと
8	PowerPoint による情報処理 1	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと
9	PowerPoint による情報処理 ２	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと
10	PowerPoint による情報処理 3	PowerPoint を活用した処理を学ぶ	課題を仕上げておくこと
11	PowerPoint 練習課題の作成	課題制作	課題を仕上げておくこと
12	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(1)	発表の構想、設計、デザイン	構想を練り上げる
13	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(2)	発表の構想、設計、デザイン、制作	仕様書を仕上げておくこと
14	PowerPoint 発表内容と発表資料の作成(3)	発表の構想、設計、デザイン、制作	発表資料を仕上げる
15	発表とまとめ	各自作成した課題を紹介し、まとめとフォローアップを行う	発表練習をしておくこと

関連科目	情報処理 I，情報処理 II
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回授業時に出す課題（100%）をもとに評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので，欠席したときにはその時の授業内容を理解して、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　寺内研究室
備考	

科目名	海外語学研修	科目名（英文）	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤　安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎,DP8△		

授業概要・目的	この研修は、語学力（英語力）の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。 研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は 45 万円前後を予定（為替レートにより変動の可能性あり）。＊詳細は、４月の募集ガイダンスで周知する。
到達目標	・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。
授業方法と留意点	４月 募集ガイダンス（日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する）、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。 ５月 申込書の提出 ５月下旬 派遣学生の決定および履修申請 ６月～８月 事前ガイダンスを実施（全３回） ８月上旬 結団式 ＜研修スケジュール＞ ［２週間コース］ ８月中旬～８月下旬（予定） ［３週間コース］ ８月中旬～９月上旬（予定） 9 月下旬～10 月上旬（予定） 成果報告会
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。 事前学習 ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備でできる英語学習（ガイダンス時に説明） ・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 海外研修中 ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 事後学習課題 ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート（３０％） 研修先での成績（７０％）
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。
担当者の研究室等	国際交流センター
備考	・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。

	・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。 ・各学部の期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名（英文）	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。 そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観などもつ海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。
到達目標	・日本と相手国（インドネシア・バリ島）の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。
授業方法と留意点	研修先として美術館（ホテル、レストラン併設）、PPLH（NPO）、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校,マングローブセンター等を予定しています。 研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	事前学習　１０日を予定。現地での各自の研修内容の事前準備（プレゼン等）が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。 現地実習　１０日（移動日含む） １日目　移動 ２日目　環境学習　マングローブセンター、PPLH にて実習 ３日目　各研修先へ移動、ガイダンス ４日目～8 日目　各研修先にて各々インターンシップ研修実施 ９日目　現地視察 １０日目　移動日 研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業の SA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、、毎日研修内容の報告書を作成する。 事後学習　３日（資料の作成が間に合わない場合は、追加する） 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習前の事前学習（10%）、海外現地研修 60%（実習記録 20%、実習態度 50%（研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する）、実習報告書（20%）、全体報告会のプレゼン 10%
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館８階　佐井研究室 11 号館８階　高尾研究室
備考	共同担当者　高尾教授

科目名	会計学	科目名（英文）	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井　英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公務員試験における会計学を学ぶための基礎知識を習得し、次年次以降のより実践的な学び（試験対策）に備える。
到達目標	・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。 ・上記を修得し、国家公務員一般試験および地方上級職における専門試験で出題される会計学を学ぶ基礎を修得することを目標とする。
授業方法と留意点	・講義資料を配布して講義形式で行うが、基本的に毎回、練習問題の解答やレポート課題が課されることに留意する。
科目学習の効果（資格）	・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシィーが修得できる。 ・組織（主として企業）に関する会計情報を読み取る力を修得することにより２年次以降の学びに有用できる。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。（公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	配布資料 練習問題①
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	配布資料 練習問題②
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	配布資料 練習問題③
5	会計情報の内容（１）	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	配布資料 練習問題④
6	会計情報の内容（１）	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑤
7	会計情報の内容（２）	貸借対照表 資産と負債・純資産について	配布資料 練習問題⑥
8	まとめと確認テスト	確認テストと解説	今までの復讐
9	会計情報の内容（３）	損益計算書 様式、基本原則、分類基準	配布資料 練習問題⑦
10	会計情報の内容（４）	損益計算書 収益と費用の認識と測定	配布資料 練習問題⑧
11	会計情報の内容（５）	キャッシュフロー計算書 資金の範囲、キャッシュフロー計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑨
12	会計情報の内容（６）	キャッシュフロー計算書 営業キャッシュフロー、投資キャッシュフロー、財務キャッシュフロー	配布資料 練習問題⑩
13	会計情報の内容（７）	株主資本等変動計算書 株主資本とは、株主変動計算書の仕組み	配布資料 練習問題⑪
14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、BATIC、公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士	配布資料 練習問題⑫
15	まとめ	講義の復習とまとめ	配布資料

関連科目：経営学、企業簿記

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業への参加と課題の提出（３０％）、確認テスト（２０％）、定期テスト（５０％）
学生へのメッセージ	毎回授業に出席して下さい。
担当者の研究室等	佐井研究室（１１号館８階）
備考	

科目名	北河内を知る	科目名（英文）	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の３つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域おける摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域（１，２）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域（１，２）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	地域（３，４）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域（３，４）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域（５，６）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域（５，６）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域（７，８）に関する事前学習	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域（７，８）に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目：ソーシャルイノベーション副専攻科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	個人成果物（３０％、提出物）、講演に対するグループごとの聴講態度（３０％、ルーブリック）、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物（４０％、ルーブリック・提出物）。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「０」とする。
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？
担当者の研究室等	枚方キャンパス１号館６階（薬理学研究室）、寝屋川キャンパス１１号館１階（教務課）
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。

科目名	教養化学	科目名（英文）	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内　健治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説します。
到達目標	身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができます。
授業方法と留意点	教科書やプロジェクター、配布資料などを用いて、モデル図や写真を使って解説します。小テストや課題により理解度を確認します。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづくっている材料は原子です。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
13	酸および塩基とｐＨ	酸と塩基を定義する。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
14	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。
15	有機化学	有機分子とは炭素原子どうしがさまざまな形でつながってできた分子である。	授業で説明した内容を整理し、理解しておいてください。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト（３０％）、課題（１０％）、定期試験（６０％）により評価します。
学生へのメッセージ	質問は適宜受け付けます。
担当者の研究室等	枚方学舎１号館５階細胞生物学研究室
備考	

科目名	教養経済学	科目名（英文）	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	日本経済の身近な事例を題材として説明し、経済活動の仕組みの基礎や日本経済と世界とのつながりについて理解することを目的とします。
到達目標	経済活動の仕組みの基礎を理解することによって、今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ際の基礎的理解を養います。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。また、数回にわたって日本経済に関するデータ分析の授業を行います。
科目学習の効果（資格）	今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ差異の基礎的理解を習得します。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習
2	国内総生産	国内総生産の三面等価	配布レジュメの復習
3	付加価値	付加価値の考え方と国際総生産の関係	配布レジュメの復習
4	物価	物価（インフレ・デフレ）とその要因	配布レジュメの復習
5	物価変動	物価変動による所得・貯蓄への影響	配布レジュメの復習
6	景気	景気変動の要因とその影響	配布レジュメの復習
7	貨幣	貨幣の種類とその性質	配布レジュメの復習
8	金融政策	金融政策の方式と景気への影響	配布レジュメの復習
9	財政政策	財政政策の方式と景気への影響	配布レジュメの復習
10	財政赤字	財政赤字発生の要因とその影響	配布レジュメの復習
11	経済データ分析(1)	経済成長のデータ分析	配布レジュメの復習
12	経済データ分析(2)	所得水準のデータ分析	配布レジュメの復習
13	経済データ分析(3)	地域経済のデータ分析	配布レジュメの復習
14	経済データ分析(4)	データ分析結果のレポートへの反映	配布レジュメの復習
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習

関連科目：経済学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	2回のレポート（50%）と期末試験（50%）による総合評価
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味　俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。１つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようにしたい。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目	教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＤＥＩ
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	西脇　純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。１つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようにしたい。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
担当者の研究室等	3 号館 3 階(数学準備室)
備考	

科目名	教養数学	科目名（英文）	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＧＨ
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	黒木　和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。 一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。１つの目安として、各種採用試験（公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題には十分対応できるようにしたい。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・１次方程式	課題レポート
2	方程式(2)	・２次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(１)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方，選び方 ・順列，組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数，倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

関連科目：教養物理

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	演習、レポート、小テスト及び期末テスト等により総合的に判断、評価する。
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っているでしょうが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また、学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
担当者の研究室等	数学準備室（3 号館 3 階）、 学習支援センター（3 号館 2 階）
備考	

科目名	教養生物	科目名（英文）	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。
到達目標	１．現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 ２．生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。
授業方法と留意点	講義を主体とし、各回のテーマに沿って系統的に生物学全体を説明する。また、本講義はアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学生が積極的に講義に参加できるよう工夫する。具体的には、講義終了約 20 分前に時間を設け、グループワークによる、各講義の内容についてのディスカッション、まとめ作成及びピア評価を行う。 また、毎回の授業の終りに「リアクションペーパー」を書く時間（５分間）を設け、理解の程度を把握すると同時に質問を受け、次回に回答する。 また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のリアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とする。
科目学習の効果（資格）	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 他の科目にも使える！生物学の勉強の仕方 教科書を素早く読んでキチンと自分の知識にする方法 食べることと生きることとは？	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、生物の階層性・食べることと生きること・必要な栄養素・食べ物の運命とエネルギーの関係について、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 12 ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと
2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ１日３度の食事をするのか？	３度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨である ATP について、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 16 ページからの第１章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、27 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
3	糖の種類と性質 甘いのに太らない？人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖分・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 28 ページからの第２章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、39 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、ＴＣＡ回路、電子伝達系、ATP の生成などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 40 ページからの第 3 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、55 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの？	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 56 ページからの第 4 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、69 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太る？	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合成などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 70 ページからの第 5 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、83 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの？	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、95 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
8	第Ⅱ部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 98 ページからのはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、111 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体､DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 112 ページからの第 8 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、124 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボゾームによるタンパク質の合成などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 125 ページからの第 9 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、137 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 138 ページからの第１０章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、149 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報を細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 150 ページからの第１１章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、162 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と形、体細胞分裂における染色体の構造変	講義前に教科書 163 ページからの第１２章を最期まで読んでおくこと。

	続けているの？	化と分配機構、配偶子形成における減数分裂などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義終了時には、173 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
14	発生と分化 1つの細胞から体ができあがる仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の運命はいつ決まるのか、発生後期における分化と器官形成、遺伝子による細胞の運命決定などについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書176ページからのはじめにと教科書178 ページからの第１３ 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、190 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。
15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷はがんを引き起こす、活性酸素による損傷、DNA のキズを修復する仕組みなどについて、パワーポイントと黒板を使った板書で説明する。	講義前に教科書 191 ページからの第 14 章を最期まで読んでおくこと。 講義終了時には、201 ページの章末問題について考え、自分なりに答えられるようにしておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎生物学	南雲　保	羊土社
2			
3			

評価方法（基準）

事前・事後学習課題の到達度、定期試験、確認試験、臨時試験及びレポートなどから総合的に評価する。

学生へのメッセージ

遅刻は厳禁です。
講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。
本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分り易く説明します。
予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。

担当者の研究室等

枚方学舎・薬学部１号館５階生化学研究室

備考

講義終了後もしばらく残りますので、不明な点は質問してください。
なお、質問等はメールでも受け付けます。

科目名	教養中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：ビジネス中国語基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：ビジネス中国語基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	教養物理	科目名（英文）	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津　浩哲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	自然は法則に従って動いています。物理学は自然の法則を理解する学問であり、人間社会の法学に対して、自然界の「法」学ともいえるものです。この授業では、物理学をこれまで学んでこなかった人向けに、数式による表現を最小限にして、物理学がこの世界(空間、時間、物質、エネルギー)をどのようにとらえているかということについて概観します。また、身近な現象を題材に、その現象を生じさせる原理や物理法則についても述べます。
到達目標	自然現象やこれに基づく科学技術に関する基礎知識が身につき、新しい情報に対して、自らが知的好奇心を育むことができる。
授業方法と留意点	毎回、特定のテーマを題材にして、その関連分野も含め広く解説をおこないます。
科目学習の効果（資格）	法曹界や法務の分野においても、特許、医療、環境など、自然現象やこれに基づく科学技術に関する知識が必要とされることがあります。この授業で科学技術のうち物理分野の基礎知識が得られます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	物理学における表現方法	時間、空間、速度、次元、単位	予習・復習課題(1 時間)
2	私たちが見ているものは過去	相対速度、マイケルソン・モーリーの実験、光速一定の原理、特殊相対性理論、ローレンツ収縮	予習・復習課題(1 時間)
3	私たちの生きるこの世界はいかに作られたか	銀河、ドプラー効果、ハッブルの法則、ビッグバン、ダークマター、太陽系と地球の形成	予習・復習課題(1 時間)
4	私たちの体は星くずでできている	恒星、太陽、超新星爆発、質量とエネルギー、元素生成、核分裂、核融合、放射線	予習・復習課題(1 時間)
5	私たちだけが特別ではない	天動説と地動説、惑星の運動、ケプラーの法則、太陽系外惑星、ハビタブル	予習・復習課題(1 時間)
6	月とりんごは同じ法則で運動する	運動の三法則、万有引力の法則、重力	予習・復習課題(1 時間)
7	ぶらんこをこぐには	単振動、振り子の等時性、復元力、フックの法則、エネルギー保存の法則、固有振動、共鳴	予習・復習課題(1 時間)
8	台風の渦の向きと曲がった空間	大気圧、コリオリ力、フーコーの振り子、みかけの力、慣性、等価原理、一般相対性理論	予習・復習課題(1 時間)
9	空も飛べるはず	流体、ベルヌーイの定理、揚力、航空機の構造、乱流	予習・復習課題(1 時間)
10	電子の発見からコンピュータまで 120 年間の進展	原子模型、ラザフォードの実験、トムソンの実験、二重スリット実験、不確定性原理、真空管、半導体、トランジスタ	予習・復習課題(1 時間)
11	電気を作る	電磁場、フレミングの法則、モーター、電磁誘導、太陽電池、交流と直流	予習・復習課題(1 時間)
12	テレビはなぜ映るのか	電磁波、偏光、液晶、三原色、3D 映像、アンテナ	予習・復習課題(1 時間)
13	熱と時間の矢	気体分子運動論、アボガドロ数、温度と内部エネルギー、熱力学第二法則、エントロピー	予習・復習課題(1 時間)
14	未来は決まっているか	線形と非線形、複雑系、カオス、バタフライ効果	予習・復習課題(1 時間)
15	法と科学技術	科学技術基本法、宇宙開発基本法、科学技術政策	復習(30 分)

関連科目：教養数学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	プリントを配布		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数式なしでわかる物理学入門	桜井邦朋	祥伝社
2	現代物理学を学びたい人へ―原子から宇宙まで	青木健一郎	慶應義塾大学出版会
3	現代物理の世界がわかる	和田純夫	ベレ出版

評価方法（基準）	毎回のレポート 100%。 毎回、予習・復習課題を指示するので、それをレポートとして提出してください。 採点して返却しますので、学習に活用してください。
学生へのメッセージ	現代の科学技術文明は、身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。ほんのささいな疑問から次の疑問へとつながることで、文明の進歩が継続していきます。課題を仕上げる中で、理解できなかった点を洗い出し、次の授業にて遠慮なく質問をしたうえで、さらなる知識を積み上げてください。
担当者の研究室等	８号館２階　物理準備室
備考	質問・相談時間：金曜 14:50～16:20

科目名	グローカルな視点から異文化共生を考える	科目名（英文）	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷　英之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則 10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民、難民問題など人権問題を考えることによってグローカルな人材を育成することを目的とします。 現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。 こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。 ①国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。 ②ニュージーランドでの海外研修を行います。 ＊2017 年度については、①は、10 月、②は、2 月に実施予定。
到達目標	学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加およびニュージーランド海外研修を通じて、移民・難民の問題を自分自身の問題として捉え直し、グローカルな人材として必要な人権感覚を身につけます。 さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。
授業方法と留意点	集中講義の形式をとります。 通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まることがあります。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。 ①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高め、企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。 ②次にニュージーランドでの海外研修を通じ、移民、難民問題をあらためて考えます。現地でのホームステイ及び語学研修、さらに現地の人々へのインタビューなどを通じて異文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。 ①②の課題実行にあたって、それぞれ事前打ち合わせと事後の検証報告を行います。
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	二つの課題①②への積極的参加および検証報告の内容を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。 海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　糟谷研究室 E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp
備考	＊海外研修もありますので、必須ではありませんが、是非前期から特に TOEIC 受験も考えて英語力の育成を意識しておいてください。また法学部学生は、前期科目の「法律英語」をできれば受講してください。 ＊UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的内容については、ガイダンスで紹介します。海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。

科目名	経営学入門	科目名（英文）	Introdution to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的

【授業概要】
基本的な企業経営の仕組みについての講義を行います。この講義では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していきます。

【目的】
経営学の基本的な理論と概念を理解すること

到達目標

【到達目標】
経営学の基本的な概念や用語を説明できるようにします。
国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を習得します。

授業方法と留意点

教科書を中心にした講義を行います。講義の理解を促進するために、講義の中で理解度テストを行うことがあります。

科目学習の効果（資格）

国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験科目の「経営学」対策

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	本講義のガイダンスを行います。	シラバスを事前に読んでおくこと
2	企業経営の基本的な仕組み	企業、経営、管理、経営資源といったキーワードから、企業経営の基本的な仕組みについて学習します。	今回のノートの復習
3	古典的管理論	テイラーの科学的管理法およびファヨールの管理過程論について学習します。	今回のノートの復習
4	フォード・システム	フォード・システムおよびフォーディズムについて学習し、フォード・システムが世の中に与えた影響や意義について検討します。	今回のノートの復習
5	人間関係論	メイヨーの人間関係論についてホーソン実験を通じて学習します。	今回のノートの復習
6	新人間関係論(1)	アージリスの成熟・未成熟理論、マズローの欲求階層説、アルダーファーのERG理論、マグレガーのX理論・Y理論について学習します。	今回のノートの復習
7	新人間関係論(2)	マレーの欲求リスト、マクレランドの達成欲求理論、ハーズバーグの二要因理論について学習します。	今回のノートの復習
8	モチベーション理論(1)	デシの内発的動機付け理論、ロックの目標設定理論の他にモチベーションの内容理論である誇りの理論や目標共有理論について学習します。	今回のノートの復習
9	モチベーション理論(2)	モチベーションのプロセス理論である、アダムスの公平理論、ヒュースマンの公平感受性理論、ブルームの期待理論について学習します。	今回のノートの復習
10	中間テスト	中間テストを行います。テスト終了後、解説を行います。	第1～9回に行った講義内容を復習しておくこと。
11	モチベーション向上の実践	TESSEI の事例を用いて、ワークを行います。また、企業で実際に導入されているモチベーション向上施策について学習します。	今回のノートの復習
12	ヒトのマネジメント	企業の人事管理について学習します。具体的には、人事評価制度、賃金制度、教育制度について学習した上で、企業がどのような人材を求めているのかを紹介します。	今回のノートの復習
13	近代組織論と意思決定論(1)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
14	近代組織論と意思決定論(2)	バーナード革命とサイモンの意思決定理論について学習します。	今回のノートの復習
15	DVD視聴	ガイアの夜明け（セブンイレブンの海外進出）を視聴し、今後海外展開する上で必要な知識やスキルについてワークを行います。	今回のノートの復習

関連科目

経営学、経営管理論、経営組織論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	経験から学ぶ経営学入門	上林憲雄他	有斐閣ブックス

	2	経営管理論	上野恭裕/馬場大治	中央経済社
	3	テキスト経営学（第3版）	井原久光	ミネルヴァ書房

評価方法 （基準）	期末試験（論述式）70%と中間テスト30%の成績によって評価します。
学生への メッセージ	経営学は、社会で働く上で役立つ知識になります。理論が企業内でどのように活用されているのか等、実経営のエピソードを絡ませて解説します。 授業の方法は講義形式になりますが、より主体的に学べるように工夫します。
担当者の 研究室等	11号館8階　西之坊講師室
備考	

科目名	経済学Ⅰ	科目名（英文）	Economics Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	――――――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
5	企業分析入門②	第４回の続き	練習問題１
6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習
7	企業分析入門④	第６回の続き	練習問題２
8	株式投資の基礎知識	株価はどうして決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	練習問題３
9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題４
10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習
11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	前回の内容を復習
12	日本の財政②	第 11 回の続き	練習問題５
13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	練習問題６
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題７

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
3			

評価方法（基準）	期末試験のみで評価する。（定期試験 100%）
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	経済学Ⅱ	科目名（英文）	Economics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田　康禎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本経済の身近な事例を題材として説明し、経済活動の仕組みの基礎や日本経済と世界とのつながりについて理解することを目的とします。
到達目標	経済活動の仕組みの基礎を理解することによって、今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ際の基礎的理解を養います。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。また、数回にわたって日本経済に関するデータ分析の授業を行います。
科目学習の効果（資格）	今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ差異の基礎的理解を習得します。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習
2	国内総生産	国内総生産の三面等価	配布レジュメの復習
3	付加価値	付加価値の考え方と国際総生産の関係	配布レジュメの復習
4	物価	物価（インフレ・デフレ）とその要因	配布レジュメの復習
5	物価変動	物価変動による所得・貯蓄への影響	配布レジュメの復習
6	景気	景気変動の要因とその影響	配布レジュメの復習
7	貨幣	貨幣の種類とその性質	配布レジュメの復習
8	金融政策	金融政策の方式と景気への影響	配布レジュメの復習
9	財政政策	財政政策の方式と景気への影響	配布レジュメの復習
10	財政赤字	財政赤字発生の要因とその影響	配布レジュメの復習
11	経済データ分析(1)	経済成長のデータ分析	配布レジュメの復習
12	経済データ分析(2)	所得水準のデータ分析	配布レジュメの復習
13	経済データ分析(3)	地域経済のデータ分析	配布レジュメの復習
14	経済データ分析(4)	データ分析結果のレポートへの反映	配布レジュメの復習
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習

関連科目	経済学Ⅰ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	2回のレポート（50%）と期末試験（50%）による総合評価
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	１号館７階　朝田准教授室（経済学部）
備考	

科目名	経済学入門	科目名（英文）	Introdution to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。
到達目標	経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事をある程度理解できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。
科目学習の効果（資格）	経済学検定

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	――――――
2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習
4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
5	企業分析入門②	第４回の続き	練習問題１
6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習
7	企業分析入門④	第６回の続き	練習問題２
8	株式投資の基礎知識	株価はどうして決まるのか。株式投資の魅力とリスクについて学習する。	練習問題３
9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題４
10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	前回の内容を復習
11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	前回の内容を復習
12	日本の財政②	第 11 回の続き	練習問題５
13	国際金融①	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習
14	国際金融②	最近の国際金融の動向について学習する。	練習問題６
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題７

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
3			

評価方法（基準）	期末試験のみで評価する。（定期試験 100%）
学生へのメッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要不可欠です。
担当者の研究室等	11 号館 5 階　法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	健康論	科目名（英文）	Theory of Health
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	運動およびスポーツ活動は私たちの健康づくりにおいて欠かせない要素である。また運動やスポーツの効果を最大限に発揮するためには、運動時の身体の変化についての知識を身につける必要がある。本授業では、身体のしくみを理解し、運動（スポーツ）により私たちの心身がどのように変化するのかについて科学的根拠に基づいた基礎知識を修得する。
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによるそれらの変化について、正しく理解することができる。 スポーツパフォーマンス向上を目指すために必要な基礎知識を修得できる。 心身の健康の保持・増進に向けたスポーツの役割を理解することができる。
授業方法と留意点	レジュメを配布する。 次回のテーマに沿った課題を課す。 予習内容に沿ってグループワークを行う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
2	身体のつくり	中学・高校で既知の身体のつくりについて復習する。身体のつくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
3	身体を動かすしくみ?筋・骨格系?	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
4	身体を動かすしくみ?呼吸循環器系?	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
7	体組成（筋肉・脂肪・骨）とエクササイズ	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
8	全身持久力とエクササイズ	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
9	身体機能（柔軟性・平衡性）とエクササイズ	柔軟性やバランス能力を向上させるために必要な運動について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
10	身体機能（巧緻性・調整力）とエクササイズ	身体を巧みに動かすための運動について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
12	運動時の体温調節と水分補給	運動時における体温の変化について、メカニズムと調整方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
13	スポーツと貧血	スポーツ性貧血について、その原因と、予防・対応法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
14	運動障害と予防、応急処置	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法、応急処置について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・次回テーマに沿った課題を課すので必ず行うこと。
15	スポーツ時における体調管理	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。

関連科目

スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱb、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			

評価方法 （基準）	期末試験（３０％）、課題（３０％）、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物（４０％）により評価する。 １００点中６０点で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

科目名	現代ビジネス論	科目名（英文）	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧　美喜男
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー実例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の３つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向（interactive）の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果（資格）	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境 及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。 働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネジャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネジャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。 個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(小テスト実施)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。 各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。 多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車･GM との合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。 最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。(小テスト実施)	日本人は自己主張をしないと言われいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓 4 か国の若者調査 の紹介・12 人の有識者による若者の実像。 人材育成のモデルの紹介。 人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？ 自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性 を考えましょう。
11	自分はどのようなビジネスリーダーになるか 事例１．二宮尊徳	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3 人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例２　本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11 回参照
13	事例３　パナソニック創業者　松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11 回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10 人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全 14 回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
2	マネジメント入門	スティーブン P.ロビンス	ダイヤモンド社
3			

評価方法 （基準）	第５回時の小テスト（２０％）、第８回時の小テスト（２０％）、定期試験（６０％）
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。
担当者の 研究室等	教務課（11 号館１階）
備考	事前事後学習には、毎回１時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」

科目名	国語学	科目名（英文）	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 国語学では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色をいくつかあげ、具体的に正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の最後に、まとめや質問に答える作業を行う。 受講者数によって、シラバスの内容、進行を多少変更することがある。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、概説 日本語について考える	――――
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	日本語の特徴について考えてくる
3	世界の中の日本語２	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	日本語の文字の特徴をまとめる
4	発音１	日本語の発音について詳しく知る	日本語と外国語を比較する
5	発音２	日本語の発音について詳しく知る	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	リズム	日本語のリズムについて考える	拍の表を完成させる
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	日本語のリズムについての課題を作成する
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
10	文法１	自動詞と他動詞について考察する	アクセントの法則をまとめておく
11	文法２	受身文について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
12	文法３	「～た」形、「～ている」形について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	授業で指摘した文法の例を考える
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	方言とは何か整理する
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	身の回りの方言について調べる

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（75%）、授業時の課題（25%）により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前事後学習に、毎週１時間以上は必要。

科目名	国語学Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Language Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　正俊
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。 国語学では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。 言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色をいくつかあげ、具体的に正確に説明することができる。
授業方法と留意点	配布するプリントに沿って講義する。講義の最後に、まとめや質問に答える作業を行う。 受講者数によって、シラバスの内容、進行を多少変更することがある。
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解が深まる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、概説 日本語について考える	――――
2	世界の中の日本語１	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	日本語の特徴について考えてくる
3	世界の中の日本語２	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	日本語の文字の特徴をまとめる
4	発音１	日本語の発音について詳しく知る	日本語と外国語を比較する
5	発音２	日本語の発音について詳しく知る	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
6	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	授業で取り上げた子音の発音を確認しておく
7	リズム	日本語のリズムについて考える	拍の表を完成させる
8	アクセント１	東西におけるアクセントの違いを見る	日本語のリズムについての課題を作成する
9	アクセント２	アクセントの高低配分について考える	関西と関東のアクセントの違いをまとめておく
10	文法１	自動詞と他動詞について考察する	アクセントの法則をまとめておく
11	文法２	受身文について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
12	文法３	「～た」形、「～ている」形について考察する	授業で指摘した文法の例を考える
13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	授業で指摘した文法の例を考える
14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	方言とは何か整理する
15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	身の回りの方言について調べる

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験を実施する。 定期試験の成績（75%）、授業時の課題（25%）により、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の研究室等	７号館４階（橋本研究室）
備考	事前事後学習に、毎週１時間以上は必要。

科目名	時事英語Ⅰ	科目名（英文）	Journal English Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	2009年5月から始まった裁判員制度。それに伴い法律に関心を持つ機会が増えています。 幅広い分野から身近な話題を取り上げ、日本だけでなくアメリカの法律についても理解を深めていきます。
到達目標	読解力を中心とした、語彙力・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習・復習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1 Child Abuse	授業内容についての説明 読解・問題（pp.7～8）	授業範囲の予習と復習
2	Unit 1 Child Abuse	Review 読解・問題（pp.8～10） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Unit 1 Child Abuse	Review 読解・問題（pp.10～12） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Unit 2 Divorce	読解・問題（pp.13～15） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Unit 2 Divorce	Review 読解・問題（pp.15～18） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Unit 3 Wills	Review 読解・問題（pp.18～20） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Unit 3 Wills	Review 読解・問題（pp.20～23） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Unit 3 Wills	Review 読解・問題（pp.23～24） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Unit 4 Bankruptcy	読解・問題（pp.25～27） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Unit 4 Bankruptcy	Review 読解・問題（pp.27～30） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Unit 5 Breach of Contract	読解・問題（pp.31～33） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Unit 5 Breach of Contract	Review 読解・問題（pp.33～36） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Unit 6 Traffic Violations	読解・問題（pp.37～38） Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Unit 6 Traffic Violations	Review 読解・問題（pp.38～42） Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	Unit 1～Unit 6 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Legal Matters	Masako Oka, Michael Howard Maesaka	センゲージ　ラーニング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題（30%）＋小テスト（40%）
学生へのメッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。 予習・復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	時事英語Ⅱ	科目名（英文）	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	里井　真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	『時事英語Ⅰ』で得た知識を踏まえて、最近ニュースなどでも良く見聞きするような話題を取り上げて、さらに日本とアメリカの法律に関する知識、及び理解を深めていきます。
到達目標	読解力を中心に、語彙・聴解力・表現力・運用能力の向上
授業方法と留意点	各ユニットを１～2回の授業で進めていく予定です。 必ずテキストの予習と復習をし、辞書を持って授業に臨みましょう。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	Unit 7 Products Liability	読解・問題（p43～44） Quiz	授業範囲の予習と復習
2	Unit 7 Products Liability	Review 読解・問題（pp.45～47） Quiz	授業範囲の予習と復習
3	Unit 7 Products Liability	Review 読解・問題（pp.47～48） Quiz	授業範囲の予習と復習
4	Unit 8 Harassment in the Workplace	Review 読解・問題（pp.49～51） Quiz	授業範囲の予習と復習
5	Unit 8 Harassment in the Workplace	Review 読解・問題（pp.51～53） Quiz	授業範囲の予習と復習
6	Unit 8 Harassment in the Workplace	Review 読解・問題（pp.53～54） Quiz	授業範囲の予習と復習
7	Unit 9 Copyright Infringement on the Internet	読解・問題（pp.55～57） Quiz	授業範囲の予習と復習
8	Unit 9 Copyright Infringement on the Internet	Review 読解・問題（pp.57～59） Quiz	授業範囲の予習と復習
9	Unit 10 Anti-Stalking Law	読解・問題（pp.59～63） Quiz	授業範囲の予習と復習
10	Unit 10 Anti-Stalking Law	Review 読解・問題（pp.63～66） Quiz	授業範囲の予習と復習
11	Unit 11 Rehabilitation of Juvenile Criminals	読解・問題（pp.67～69） Quiz	授業範囲の予習と復習
12	Unit 11 Rehabilitation of Juvenile Criminals	Review 読解・問題（pp.69～72） Quiz	授業範囲の予習と復習
13	Unit 12 Miscarriage of Justice	読解・問題（pp.73～75） Quiz	授業範囲の予習と復習
14	Unit 12 Miscarriage of Justice	Review 読解・問題（pp.75～78） Quiz	授業範囲の予習と復習
15	General Review	総まとめ	授業範囲の予習と復習 授業ノート・テキストをしっかり復習しておくこと。

関連科目	他の全英語科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Legal Matters	Masako Oka, Michael Howard Maesaka	センゲージ　ラーニング
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度（30%）＋ 授業時の課題（30%）＋小テスト（40%）
学生へのメッセージ	日頃から意識的にニュースや新聞などを読んだり視聴して、情報や知識を身につけましょう。 予習・復習をしっかり行いましょう。
担当者の研究室等	7号館2階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	自然地理学	科目名（英文）	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形･気候･土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史（過去から現在まで）	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	様々な地形と生活－その１－	台地･河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活－その2－	扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候－その１－	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	世界の気候－その２－	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市化にともなう流出の変化	都市化にともなって流出がどのように変化し、我々の生活にいかなる影響を与えるのか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	干拓地の自然的特性	干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	離島における地下ダムの建設	宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目：人文地理学、環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、授業参加点 20%、課題点 10%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、１時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	社会学Ⅰ	科目名（英文）	Sociology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷岡　謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念・キーワードと社会学的なものの見方について解説する。それらを通して、人が「社会的な存在」—他者から影響をうけ、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいく。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解読する「社会学的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は１回完結のオムニバス形式でおこなう。教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布する。参考書は授業中に適宜紹介する。視聴覚資料を用いることもある。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがある。
科目学習の効果（資格）	社会学的なものの見方を学ぶことによって、これまで当たり前と感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業の進め方・目標を理解する
2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（3）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間（4）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（1）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（2）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的知識と発想	集団・組織のなかの人間（3）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的知識と発想	ラベリング	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的知識と発想	予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的知識と発想	社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的知識と発想	ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的知識と発想	相対的剥奪	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的知識と発想	アノミー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目	社会学 II

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験…90%、授業参加度（授業中に提出してもらうリアクション・ペーパーの内容を評価）…10%
学生へのメッセージ	社会学では普段私たちが当たり前だと思っていることや、気にも留めない事柄を「見よう」「理解しよう」とするので、難しい言葉・用語が出てくるが、授業では身近な例を挙げ、できるだけ平易に解説していく。なお、授業中は私語を慎み、意欲的に授業に臨むこと。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	質問等に対する応対方法は、授業時に指示する。また、リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業中に行う。

科目名	社会学Ⅱ	科目名（英文）	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷岡　謙
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	この授業では、家族とジェンダー、グローバルリゼーション、コミュニティ、階層と格差、社会意識の５つのテーマから、現代社会の動向を社会学的にとらえていく。
到達目標	社会学的な視点から、日本社会の変動を読み解くことができるようになること。
授業方法と留意点	授業は講義形式でおこなう。教科書は使用せず、レジュメ・資料を配布する。参考書は授業中に適宜紹介する。時には視聴覚資料を用いることもある。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがある。
科目学習の効果（資格）	日本社会の変化と現状について、正しく認識する力を養うことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義をはじめるにあたって	オリエンテーション	授業の進め方・目標を理解する
2	家族とジェンダー	家族に関する基礎的知識	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	家族とジェンダー	現代家族の抱える諸問題（１）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	家族とジェンダー	現代家族の抱える諸問題（２）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	グローバリゼーション	グローバル化に関する基礎的知識	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	グローバリゼーション	グローバル化と福祉国家（１）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	グローバリゼーション	グローバル化と福祉国家（２）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	コミュニティ	人とのつながりの変容（１）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	コミュニティ	人とのつながりの変容（２）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	階層と格差	階層に関する基礎的知識	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	階層と格差	教育との関わり	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	階層と格差	労働との関わり	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会意識	現代日本人の社会意識（１）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会意識	現代日本人の社会意識（２）	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目：社会学Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	期末試験…90%、授業参加度（授業中に提出してもらうリアクション・ペーパーの内容を評価）…10%
学生へのメッセージ	日頃から新聞やニュースなどにできるだけ触れ、社会の動向や出来事に敏感になっておくこと。なお、授業中は私語を慎み、意欲的に授業に臨むこと。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部事務室
備考	質問等に対する応対方法は、授業時に指示する。また、リアクション・ペーパーへのフィードバックは授業中に行う。

科目名	社会調査の方法	科目名（英文）	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田　知也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	社会調査とは、社会で起こっていることを明らかにするために、主に現地調査によってデータを収集・分析し、その結果を公表する一連のプロセスのことをいう。授業の前半では、調査の設計・企画、データ収集の方法といった社会調査の基礎知識について解説する。後半は、データの集計やかんたんな分析の方法を紹介したり、実際に行われている調査の事例をとり上げたりして、結果の分析や解釈の仕方について学習する。
到達目標	（1）社会調査とはどのようなものか説明できる。 （2）社会調査を企画・設計することができる。 （3）データの解釈の基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	講義形式での授業が中心であるが、個人やグループで行う課題を出し、提出を求めることがある。 遅刻・欠席は、授業の内容がわからなくなり、課題の提出ができなくなることにつながるため、極力ないように努めること。
科目学習の効果（資格）	・レポート作成や卒業論文で調査を行う場合に、どのようにすればよいかという手法を学べる。 ・社会に出てからも、調査が必要な場面で社会調査に関する知識を応用できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	社会調査ってどんなもの？	・オリエンテーション ・社会調査とは ・いろいろな社会調査	参考書第 1 章を読んでおく
2	社会調査の実施方法	・調査方法の分類 ・調査倫理 ・量的調査と質的調査	参考書第 2 章を読んでおく
3	社会調査の進め方	・科学としての社会調査 ・よい問いの設定 ・データ収集と分析	参考書第 3 章を読んでおく
4	社会調査の計画	・調査方法の分類 ・調査の 5 ステップ	参考書第 4 章を読んでおく
5	サンプリングの方法	・母集団と標本 ・標本抽出の方法	参考書第 7 章を読んでおく
6	変数と測定尺度	・変数とデータ ・社会的態度の測定 ・信頼性と妥当性	参考書第 4 章を読んでおく
7	調査票の設計	・調査票の構成 ・質問文のワーディング	参考書第 6 章を読んでおく
8	調査票の設計 調査実施のプロセス	・質問文の作成 ・回答形式の設定 ・データの入力	参考書第 5～9 章を読んでおく
9	データの分析①：単純集計	・度数分布表とヒストグラム ・基礎統計量（代表値と散布度）	参考書第 10 章を読んでおく 復習プリント
10	データの分析②:データの標準化	・標準得点の算出 ・偏差値	参考書第 10 章を読んでおく 復習プリント
11	データの分析③：2 変数の関連	・クロス集計表 ・相関係数 ・カイ二乗検定	参考書第 11～13 章を読んでおく 復習プリント
12	社会調査の実際①:量的調査	実際におこなわれた調査をとりあげ、ポイントを解説する	授業でとりあげた調査から、社会的な調査の意義を考える
13	社会調査の実際②:質的調査	実際におこなわれた調査をとりあげ、ポイントを解説する	授業でとりあげた調査から、社会的な調査の意義を考える
14	社会調査のリテラシー	これまでの授業内容を踏まえて、社会調査を批判的に検討する	自分で関心のある調査例を探し、批判できるポイントをまとめる
15	社会調査の報告・発表 総まとめ	・社会調査をおこなった後に気をつけること ・これまでの授業のおさらい ・学期末試験に向けてのポイント	学期末試験に向けての学習

関連科目：なし

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義内に実施する課題(30%)と、学期末試験の成績(70%)をもとに評価する。
学生へのメッセージ	社会調査、というとなんだかおおげさなように聞こえるかもしれません。しかし、視聴率調査、インターネット調査、街頭インタビューなどの結果をテレビや新聞などで見ることも多いでしょう。あるいは、卒業論文や就職先などで調査を行わなければならない人もいるでしょう。社会調査は非常に身近なものです。そのときに役に立つよう、データを読み取る力や調査を企画する力を授業を通して養えるようにしたいと思います。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　増田講師室
備考	原則、授業をシラバス通り進めるが、受講者の習熟度や授業の進度によって、順序などを変更することがある。

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われる SPI 非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に説き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)･1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数･確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われる SPI 非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に解き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)･1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数･確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。　また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、3 回生の秋・冬から筆記試験対策を始めたものの、他の活動や行事が忙しく対策が出来ていないこともあります。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名（英文）	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策（算数・数学）について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3 回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦労する学生がとても多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って（もしくはそれ以前から）算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。 就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果（資格）	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･方程式	講座の目的,意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)･smartSPI の実施(目安：30 分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安：30 分)･1～3 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数･確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)･4～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安：1.5 時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・8～11 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5 時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安：30 分)・smartSPI の実施(目安：30 分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：2.5 時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安：5 時間)

関連科目：キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト　30%、中間テスト・最終テスト　50%、SmartSPI　20% その他授業態度などで加減します。
学生へのメッセージ	7～8 割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの 3 回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。 受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	情報処理Ⅰ	科目名（英文）	Information Processing Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。コンピュータとインターネットについて理解し、情報モラルとマナーを認識する。実用的なアプリケーションソフトを利用して、情報収集から情報の加工、情報の発信ができるようになることを目的とする。
到達目標	インターネットを利用して情報の収集ができる。 インターネット社会の危険性について説明できる。 Word、Excel を使って情報の加工、資料の作成ができる。
授業方法と留意点	授業は教科書に沿って演習形式で行う。授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフト　オフィス　スペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価について、学内ネットワーク説明、タッチタイピングの紹介	事後：自宅から学校サーバーへのアクセスをしてみる
2	パソコンの概要	パソコンの歴史と仕組み、日本語入力とファイル管理	事後：演習課題の復習
3	インターネットの活用	インターネットの歴史と仕組み、情報検索	事後：演習課題の復習
4	情報モラルとセキュリティ	インターネット利用の注意事項、インターネット利用のマナー	事後：演習課題の復習
5	文書作成（1）	Word の基礎知識、文書の作成	事後：演習課題の復習
6	文書作成（2）	画像の挿入、図の作成	事後：演習課題の復習
7	文書作成（3）	表の挿入	事後：演習課題の復習
8	前半確認テスト	前半確認テスト	事前：これまでの復習
9	文書作成・応用	論文やレポート作成のための Word 技術	事後：演習課題の復習
10	表計算（1）	Excel の基礎知識、基本操作、データの入力	事後：演習課題の復習
11	表計算（2）	表の作成、セルの書式設定、計算・集計	事後：演習課題の復習
12	表計算（3）	関数の利用	事後：演習課題の復習
13	表計算（4）	グラフの作成	事後：演習課題の復習
14	表計算（5）	データの並び替えと抽出、ピボットテーブル	事後：演習課題の復習
15	後半確認テスト	後半確認テスト	事前：これまでの復習

関連科目：ステップアップとして「情報処理 II」の受講を薦める

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の課題（30%）、確認テスト（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	情報処理Ⅱ	科目名（英文）	Information Processing II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本　はる美
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これからの学生生活において必要とされる情報スキルを習得する。前半はレポート・論文ツールの技法、画像編集、Web プレゼンテーションツールの活用法を学習し、後半は PowerPoint の基本操作から学習した技法を用いて、プレゼンテーションの準備から実行までを練習する。学習した情報スキルをレポート・論文作成、プレゼンテーションに生かすことができるようになることを目的とする。
到達目標	レポート・論文作成時に Word のツールを活用することができる。 画像ソフトを使って、簡単な画像編集ができる。 情報発信のための、プレゼンテーションの準備ができる。
授業方法と留意点	授業の出席と課題提出は必須である。コンピュータの利用経験の少ない者は、自分の手で操作することが重要である。
科目学習の効果（資格）	日常及び学生生活におけるパソコン活用に役立つ。 マイクロソフトオフィスソフトスペシャリスト（MOS）などコンピュータ利用に関する資格取得につながる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	文書作成の応用技術（1）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
2	文書作成の応用技術（2）	レポート・論文作成ツールの利用	事後：演習課題の復習
3	情報の表現（1）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
4	情報の表現（2）	フリーソフトを用いて画像編集	事後：演習課題の復習
5	情報の発信（1）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
6	情報の発信（2）	プレゼンツール prezi を用いた情報発信	事後：演習課題の復習
7	課題制作（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
8	課題制作（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と相互評価	課題制作
9	情報の表現（3）	スライド作成方法	事後：演習課題の復習
10	情報の表現（4）	グラフィックの利用	事後：演習課題の復習
11	情報の表現（5）	アウトラインの利用	事後：演習課題の復習
12	課題制作と発表（1）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
13	課題制作と発表（2）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
14	課題制作と発表（3）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備
15	課題制作と発表（4）	テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表、相互評価	課題の制作、発表の準備

関連科目：情報処理Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Windows8 Office2013 による情報処理入門	監修：高橋敏夫　執筆：安積淳、杉山靖彦、八野真弓	実教出版
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業中の演習課題（30%）、提出課題と発表（60%）、授業への参加状況（10%）をもとに総合的に評価する。 この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。
学生へのメッセージ	質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	11 号館 8 階（橋本講師室）
備考	

科目名	人文地理学	科目名（英文）	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的にには、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら３点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・アクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
9	輪中地域における生活	・輪中とは？ ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティー社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。全壊の授業内容を確認してください。
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
15	・平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。

関連科目：自然地理学・地誌学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、授業参加点 20%、課題点 10%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、１時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	心理学Ⅰ	科目名（英文）	Psychology Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城戸　楓
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	心理学はその行動法則を明らかにする行動の科学として、たいへん広い領域に関係している。実際に見ることができる、観察可能な行動から、人間の“こころ”の動きを検討したり、目で見て確認できないものについても、観察・実験・調査といった様々な方法を用いて客観的なデータを集め、心の働きを研究している。授業では、これまでに行われてきた多くの実証研究を学習することによって、心理学の専門的基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	共通の法則となった心理学的事実を知ることによって、自分自身や他者の心の働きや行動を予測、理解、考えることから、いろいろな場面に応用できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	板書講義形式。ただし、授業の理解を深めるために課題、レポート等の提出を求めることがある。
科目学習の効果（資格）	脳の成り立ちや働き、感覚や知覚のプロセスを知るとともに、自分らしさとはというテーマで自分自身について考えてみることで、より深く自分自身や他人を知り、日常生活に役立てることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	心理学とは(1)	・オリエンテーション	（事前学習）指定した図書を参考に、各領域の内容をインターネットなどで調べましょう。 （事後学習）授業中のレジュメを教員ホームページよりダウンロードしてまとめてみましょう。
2	心理学とは(2)	・心理学の目的 ・心理学の研究方法	参考図書：１０代からの心理学図鑑（ウィークス＆ミルディンホール著）
3	知覚のプロセス(1)	・ものの見え方 ・感覚と知覚のメカニズム・錯覚	参考図書：視覚の文法（ホフマン著）
4	知覚のプロセス(2)	・知覚の体制化	参考図書：脳と視覚―グレゴリーの視覚心理学（リチャード著）
5	知覚のプロセス(3)	・知覚の恒常性	参考図書：意識の探求 上・下（コッホ著）
6	パーソナリティ(1)	・パーソナリティの定義。理論	参考図書：パーソナリティを科学する（ネトル著）
7	パーソナリティ(2)	・パーソナリティの分類・診断	参考図書:精神分析的人格理論の基礎(馬場禮子著)
8	パーソナリティ(3)	・パーソナリティの変化	参考図書：アサイラム（ゴッフマン著）
9	記憶(1)	・右脳と左脳	参考図書：脳の中の幽霊（ラマチャンドラン著）
10	記憶(2)	・記憶のシステム	参考図書：ワーキングメモリ（バデリー＆井関龍太著）
11	行動の獲得と変容	・認知による学習	参考図書：Introduction to Psychology（Atkins & Hildegards）
12	動機づけと感情	・動機づけの分類 ・感情	参考図書：行動意思決定論―バイアスの罠（マックス著）
13	成長と変化	・遺伝と環境 ・生涯発達	参考図書：脳は生まれか育ちか（ダウリング著）
14	協調できる社会をめざす	・犯罪特徴と背景	参考図書：FBI 心理分析官（レスラー著）
15	心理学Ⅰのまとめ	・心理学Ⅰの総括	これまで配布したプリントやノートをまとめて整理してみよう。

関連科目	心理学Ⅱと併せて履修することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内の課題試験を主とし、授業での提出物（講義の要約、感想文、課題レポート等）をふまえて、総合的に評価する。 【授業内の課題試験 80%、授業での提出物 20%】
学生へのメッセージ	事前に特別な知識を必要としないが、「性格判断」などの心理学の一般的なイメージと、実際の授業の内容とは大きく異なると思われるため、心理学の守備範囲がたいへん広いことと、科学としての心理学の講義であることを理解し、積極的に授業に参加することを前提として受講してほしい。
担当者の研究室等	11 号館 6 階　経営学部非常勤講師室
備考	

科目名	心理学Ⅱ	科目名（英文）	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	城戸　楓
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	心理学は、人間の行動を予測することを究極的な目標としている。私たちは、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことができる。
到達目標	到達目標：以下の項目の理解を目標とする。 １）集団の中での個々人の行動 ２）対人的コミュニケーション ３）文化と心理
授業方法と留意点	講義方式で適宜資料を配布する。視聴覚教材なども積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	取得できる資格は特にない。しかしながら、自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるために重要な科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	（事前学習）指定した図書を参考に、各領域の内容をインターネットなどで調べましょう。 （事後学習）授業中のレジュメを教員ホームページよりダウンロードしてまとめてみましょう。
2	心の健康(1)	心の健康と適応について解説します。	参考図書：こころの処方箋（河合隼雄著）
3	心の健康(2)	こころのトラブルについて解説します。	日常生活にある心の健康を支えるものについて考えてください。
4	心の健康(3)	適応と不適応、ストレスについて解説します。	自分が暮らしている環境への適応について考えてください。
5	自己(1)	自己を守ることについて解説します。	参考図書：マインドタイム（リベット著）
6	自己(2)	自己を意識することについて解説します。	自らの社会的経験も考慮して、自己をうまく表現する方法について考えてください。
7	自己(3)	自己を表現するテクニックについて解説します。	自分に対する他者の評価について考えてください。
8	心の健康と適応(1)	ストレスと健康について解説します。	参考図書：夜と霧（フランクル著）
9	心の健康と適応(2)	心の健康、精神障害について解説します。	社会で問題となっている精神障害について調べてください。
10	心の構造(1)	精神分析学について解説します。	参考図書：心理療法序説（河合隼雄著）
11	心の構造(2)	局所論と構造論について解説します。	精神分析療法について調べて、レポートを書いてください。
12	心の構造(3)	神経症と防衛、フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて解説します。	フロイトと異なる立場をとる分析家たちについて調べてください。
13	対人認知(1)	対人認知のプロセス、パーソナリティの認知について解説します。	他者の存在が与える自分に対する影響を考えてください。
14	対人認知(2)	対人関係の認知について解説します。	参考図書：ソシュールを読む（丸山圭三郎著）
15	心理学Ⅱのまとめ	心理学Ⅱについて総括します。	テキストおよびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内の課題試験を主とし、授業での提出物（講義の要約、感想文、課題レポート等）、授業態度をふまえて、総合的に評価する。 【授業内の課題試験 70%、授業での提出物 20%、授業態度 10%】
学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名（英文）	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡﨑　和伸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通した健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やＶＴＲなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害（内科的・外科的）についての理解と対処法について学ぶ。（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康（1）	スポーツ活動と健康の関わり	テキスト P. 54-63
2	スポーツと健康（2）	身体活動（スポーツ活動や運動）の必要性	テキスト P. 64-75
3	スポーツ傷害（1）	スポーツ外傷・障害	テキスト P. 76-82
4	スポーツ傷害（2）	スポーツ外傷・障害の要因	テキスト P. 83-87
5	救急処置（1）	手当ての基本（観察）	テキスト P. 88-88
6	救急処置（2）	救命手当て（心肺蘇生法）	テキスト P. 89-95
7	救急処置（3）	ＡＥＤを用いた心肺蘇生法	テキスト P. 96-97
8	救急処置（4）	応急手当（きずと止血、包帯法、骨折固定）	テキスト P. 102
9	救急処置（5）	ＲＩＣＥ処置	テキスト P. 98-101
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 111-113
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P. 113
12	スポーツと栄養（1）	五大栄養素の役割	テキスト P. 104-108
13	スポーツと栄養（2）	栄養とトレーニング，コンディショニング	テキスト P. 109-113
14	ドーピング	ドーピングの定義，概要	資料
15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料

関連科目：スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト　共通科目Ｉ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポートなどで評価する。
学生へのメッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	授業時間外連絡先：okazaki@sports.osaka-cu.ac.jp

科目名	スポーツ栄養学	科目名（英文）	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀　美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 適宜、課題や小テストを実施する。
科目学習の効果（資格）	日常生活で実践可能な基礎栄養学からスポーツ栄養学へと応用できる知識を学ぶ。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは 食事バランスガイド	課題　１週間の食事日記
2	エネルギー代謝（１）	スポーツにおける栄養の役割とエネルギー供給機講	エネルギー供給機構の確認
3	エネルギー代謝（２）	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	課題　１日のエネルギー消費量
4	５大栄養素（１）：糖質	糖質の役割と摂取方法	糖質の役割について確認
5	５大栄養素（２）：脂質	脂質の役割と摂取方法	脂質の役割について確認
6	５大栄養素（３）：タンパク質	タンパク質の役割と摂取方法	タンパク質の役割について確認
7	５大栄養素（４）：ミネラル	鉄・カルシウムなどの役割と摂取方法	ミネラルの役割とスポーツ貧血について確認
8	５大栄養素（５）：ビタミン	ビタミンの役割と摂取方法	ビタミンの役割と働きについて確認
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法 熱中症：症状と対応	水分補給の方法、熱中症について確認
10	サプリメント	サプリメント（栄養補助食品）の利用方法 ドーピングの基礎知識	サプリメントの種類・利用方法について確認
11	スポーツ栄養の実際（１）	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	減量・増量について確認
12	スポーツ栄養の実際（２）	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	試合前の食事内容とタイミングについて確認
13	スポーツ栄養の実際（３）	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	トレーニング期分けに基づいた食事方法の確認
14	スポーツ栄養の実際（４）	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	傷害別摂取方法の確認
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

関連科目：スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新版　コンディショニングのスポーツ栄養学	樋口　満	市村出版
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、課題提出などで評価をするが平常態度なども総合して判断する。 小テスト　６０％、提出物　３０％、レポート　１０％
学生へのメッセージ	知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。 健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　体育館事務室
備考	

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practice of Sports Science Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤林　真美.内部　昭彦.堀　美幸.村上　陽一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は、上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ⅠａとⅠｂで同じ種目を履修することはできない（アスリートコースを除く）。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目

生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practice of Sports Science II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤林　真美.内部　昭彦.岡﨑　和伸.村上　陽一郎
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
授業方法と留意点	実技形式で行う。（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。） 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※教育効果ならびに安全配慮のため、スポーツ推薦入学者と強化クラブ（剣道、柔道、陸上、ラグビー）所属学生は上記コースとは別の「アスリートコース」を選択すること。 なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第１回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。 原則として、スポーツ科学実習ＩａとＩｂで同じ種目を履修することはできない（アスリートコースを除く）。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ
8	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
9	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動点５０％、態度点２５％、技能点２５％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館１Ｆ体育館事務室へ来ること。
担当者の研究室等	総合体育館　１Ｆ　体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）

科目名	スポーツ教育学	科目名（英文）	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動が新聞に大きく取り上げられられることも多い。本講義では、スポーツの与える功罪について考え、スポーツ人として必要な基礎知識を学習する。
到達目標	①　スポーツに関わる道徳問題が理解できる。 ②　スポーツがもたらす教育効果が理解できる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。またテーマに応じてグループ発表も行う。 教科書は使用しないが、適宜授業資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	基礎教育（1）	スポーツ教育学とは何か考える。 スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。
2	基礎教育（2）	自己アピール プロファイル	自己紹介文を作成する。
3	スポーツと教育（1）	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し
4	スポーツと教育（2）	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し
5	スポーツと教育（3）	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し
6	スポーツと教育（4）	体罰問題について考える（1）。	配布プリントの読み返し
7	スポーツと教育（5）	体罰問題について考える（2）。	配布プリントの読み返し
8	スポーツと教育（6）	スポーツ特待生について考える。	配布プリントの読み返し
9	障がい者とスポーツ（1）	障がい者スポーツについて考える（1）。	配布プリントの読み返し
10	障がい者とスポーツ（2）	障がい者スポーツについて考える（2）。	配布プリントの読み返し
11	障がい者とスポーツ（3）	障がい者スポーツについて考える（3）。	配布プリントの読み返し
12	スポーツの功罪（1）	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し
13	スポーツの功罪（2）	スポーツ障害について考える。	配布プリントの読み返し
14	生涯スポーツ（1）	ニュースポーツなど生涯スポーツについて学ぶ。	配布プリントの読み返し
15	生涯スポーツ（2）	将来自分の生活にスポーツをどう取り入れるか考える。	配布プリントの読み返し

関連科目：スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb、Ⅱa 、Ⅱb、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート、小テスト、プレゼン、平常点を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツ指導者入門	科目名（英文）	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ指導者としての基礎的指導法を学びスポーツを一般的に広く定着させることのノウハウを身に付ける。 スポーツ指導の経験が浅い学生を対象とする。
到達目標	スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布や映像資料などを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果（資格）	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ（公認スポーツ指導者資格取得対応科目）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	――――――
2	指導者の役割（1）	スポーツ指導者とは	課題テキスト　P14
3	指導者の役割（2）	指導者の心構え・視点	課題テキスト　P15～P16
4	指導者の役割（3）	競技者育成プログラムの理念（一貫指導システム）	課題テキスト　P17～P25
5	指導者の役割（4）	競技者育成プログラムの理念（指導者の役割、ネットワーク）（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P26～P29
6	文化としてのスポーツ（1）	スポーツの概念と歴史（スポーツの歴史的発展と現代スポーツの考え方）	課題テキスト　P32～P33
7	文化としてのスポーツ（2）	スポーツの概念と歴史（スポーツを取り巻く環境）	課題テキスト　P34～P36
8	文化としてのスポーツ（3）	文化としてのスポーツ（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P40～P45
9	指導計画と安全管理（1）	指導計画の立て方（集団の指導計画、個人の指導計画）	課題テキスト　P106～P110
10	指導計画と安全管理（2）	指導計画の立て方（期別計画）	課題テキスト　P111～P112
11	指導計画と安全管理（3）	スポーツ活動と安全管理（スポーツにおける安全管理の知識）	課題テキスト　P113～P116
12	指導計画と安全管理（4）	スポーツ活動と安全管理（スポーツ活動における安全確保のための具体的行動）（小テスト・レポート提出）	課題テキスト　P117～P118
13	運動と健康（1）	運動と健康・スポーツプログラマーの役割	課題テキスト　P68～P69
14	運動と健康（2）	加齢臭現象と健康	課題テキスト　P68～P70
15	運動と健康（3）	急性障害と慢性障害	課題テキスト　P72～P75

関連科目：スポーツ文化論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ		日本体育協会
2	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	筆記試験及びレポートなどで総合的に評価する。
学生へのメッセージ	スポーツ指導者ニーズは年々高くなっている。
担当者の研究室等	総合体育館１階　横山講師室
備考	

科目名	スポーツ心理学	科目名（英文）	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式を基本とする。ただし学生と双方向の講義になるよう、講義内容について質問等をすることもあるので留意されたい。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、小グループに分けディスカッションの時間を設ける場合もある。
科目学習の効果（資格）	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。
2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ	スランプとプラトウの違いを整理する。
6	リーダーシップとスポーツ（1）	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
7	リーダーシップとスポーツ（2）	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
8	リーダーシップとスポーツ（3）、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論、および到達度確認のための試験	これまでの講義の整理とその理解。
9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法	関連資料に目を通す。
11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。
12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
13	心理的技能とパフォーマンス（1）	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
14	心理的技能とパフォーマンス（2）	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系づけて整理する。

関連科目：スポーツに関係する科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業へ取り組む姿勢と試験の結果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室
備考	

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名（英文）	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡本　香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則、およびコーチングにおける心理的面を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上の基礎を習得する。スポーツ指導におけるトレーニングメニュー作成や指導法について学ぶ。
到達目標	スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識について理解を深める。
授業方法と留意点	必要に応じてプリントを配布するが、パワーポイントなどを活用し視覚的にもわかり易く行う。毎回の授業スケジュールは、前回テーマの復習、本日のテーマ、質疑応答および小テストである。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
2	体力とは②	トレーナビリティー	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
3	トレーニングの原理･原則①	スポーツトレーニングの３原理・５原則、特異性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
4	トレーニングの原理･原則②	筋機能と呼吸循環機能	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
5	トレーニング処方	トレーニング計画	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの５つの内容	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
9	スポーツと心②	スポーツとストレス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
14	コーチングの心理③	グループダイナミクス、チームビルディング	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
15	コーチングの心理④	コーチング評価	授業ノートのまとめと、小テストの確認。

関連科目：発育発達論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（40%）、レポート点（30%）、小テスト（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	スポーツ科学の基礎を理解し、実践に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	スポーツの歴史	科目名（英文）	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤　潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレーヤーなどについてを学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは２０２０年東京で開催されることが決まり、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につける。
到達目標	オリンピックの歴史を飾ってきたメダリストや出来事について学習し、オリンピックの変遷を理解する。 スポーツ用具の進化とスポーツ新技術とルールとのかかわりを理解する。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。第１回目のガイダンスは、授業方針、目的、評価方法など詳細を説明するので欠席しないように。
科目学習の効果（資格）	スポーツの歴史を理解し、オリンピックを中心としたスポーツ文化を学ぶことによって、社会人として必要な幅広い教養を身につけることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス スポーツの歴史とは	授業の目的、方針、内容、評価方法などを詳しく説明する。 スポーツの歴史を学ぶｊことの意味、重要性を学習する。	シラバスをよく読み、配布された資料を熟読する。
2	オリンピックの歴史（1）	古代オリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
3	オリンピックの歴史（2）	古代オリンピックから近代オリンピックへの変遷	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
4	オリンピックの歴史（3）	近代オリンピック創生期 近代オリンピックの発案者 日本のオリンピックへの参加	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
5	オリンピックの歴史（4）	第２次世界大戦までのオリンピック	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
6	オリンピックの歴史（5）	第２次世界大戦後から現代	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
7	オリンピックの歴史（6）	日本人のオリンピックメダリストについて（1）	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
8	オリンピックの歴史（7）	日本人のオリンピックメダリストについて（2）	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
9	オリンピックの歴史（8）	日本がオリンピックに果たした役割	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を熟読する。
10	サッカーの歴史（1）	サッカーの起源からラグビーへの分岐点	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を熟読する。
11	サッカーの歴史（2）	日本がサッカーで世界レベルになっていく過程について	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を熟読する。
12	柔道の歴史	日本発祥の世界的スポーツについて	インターネットで柔道について調べる。 配布された資料を熟読する。
13	スポーツ用具の変遷	スポーツ用具の材料や形状の変遷について	インターネットでにスポーツ用具ついて調べる。 配布された資料を熟読する。
14	スポーツルールの変遷	様々なスポーツでのルールの変遷について	インターネットでスポーツルールについて調べる。 配布された資料を熟読する。
15	スポーツ新技術	スポーツ新技術がもたらした革命	インターネットでスポーツ新技術について調べる。 配布された資料を熟読する。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰａ、Ⅰｂ、Ⅱａ、Ⅱｂ、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト、レポート、平常点を総合して評価する。
学生へのメッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。
担当者の研究室等	総合体育館　近藤研究室
備考	

科目名	スポーツプログラミング	科目名（英文）	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡本　香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	健康な身体であるためには、体力を維持・増進させることが大切であり、運動・スポーツを行うことは身体の生理的機能を向上させるのに役立つ。授業では、運動・スポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学ぶ。
到達目標	対象者に合わせたスポーツプログラムの作成と実践指導ができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントやプリントを用いた講義と、対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	フィットネスプログラムの基本的方法	スポーツプログラミング概論、運動処方概論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
2	子どものフィットネスプログラム①	子どもを対象とした運動処方論（生活・遊び）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
3	子どものフィットネスプログラム②	子どもを対象とした運動処方論（体力・スポーツ）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
4	子どものフィットネスプログラム③	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
5	子どものフィットネスプログラム④	子どもを対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
6	壮年（中年）のフィットネスプログラム①	壮年（中年）を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
7	壮年（中年）のフィットネスプログラム②	壮年（中年）を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
8	高齢者のフィットネスプログラム①	高齢者を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
9	高齢者のフィットネスプログラム②	高齢者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
10	女性のフィットネスプログラム①	女性を対象とした運動処方論	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
11	女性のフィットネスプログラム②	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
12	女性のフィットネスプログラム③	女性を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
13	障害者のフィットネスプログラム①	障害者を対象とした運動処方論（運動の意義）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
14	障害者のフィットネスプログラム②	障害者を対象とした運動処方論（運動実施上の配慮・プログラムの特色）	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。
15	障害者のフィットネスプログラム③	障害者を対象とした運動処方の理論と実際	授業ノートをまとめ、ミニレポート課題を確認すること。

関連科目	発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実践

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度点（50%）、技能点（20%）、レポート点（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	対象者に応じた運動・スポーツ指導について学び、実践に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名（英文）	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテータ養成講座」は、サービスラーニングの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に１度、90 分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第１回目の事前授業は４月 10 日６時限目、1134 教室で行う。 ---------- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、ＡＥＤの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキル C：アイスブレーキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90 分×20 回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90 分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ---------- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2017 年２月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の４点を総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	７号館５階　（浅野研究室）
備考	第１回目の事前授業は４月 10 日６時限目、1134 教室で行う。

科目名	生命科学入門	科目名（英文）	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚　正人
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
到達目標	・生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。 ・課題（レポート）に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。
授業方法と留意点	・毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート（小テストを含む）を提出させる。 ・レポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。 ・独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。 ・成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。 ・欠席が７回以上の場合（初回を含めて）は、レポートの採点はおこなわない。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	講義について 講義の受け方 生命科学のプロローグ	講師紹介、この講義の学習の仕方・評価方法、生命科学とは何かについて説明する。	講義後によく復習しておく事
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞や ES 細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか？抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか？	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメード医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA 創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。 講義後によく復習しておく事。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生命科学の基礎	野島博	東京化学同人
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	・定期試験（６０％）、レポート（４０％）、６０％で合格とする。 ・シャトルカードにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。 ・欠席が７回以上の場合（初回を含めて）は、レポートの採点はおこなわない。

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	世界史概論	科目名（英文）	World History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林田　敏子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	21 世紀を迎えた今、20 世紀という時代はすでに歴史研究の対象として重要な意味をもち始めている。二度にわたる世界大戦とファシズム、大量虐殺や民族紛争など、いまだ過去のものとはなっていない多くの問題を、われわれはどのようにとらえたらよいのだろうか。本講義では、第一次世界大戦からソ連崩壊までを、豊富に残るドキュメンタリー映像の分析を通して考察する。
到達目標	世界恐慌・ファシズム・戦争という三重の脅威にさらされながら、世界情勢はいかに変化したのか、その概要を理解する。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し、板書と組み合わせて授業をすすめる。DVD 映像をもちいる。
科目学習の効果（資格）	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第一次世界大戦	「新しい」戦争がもたらした負の遺産	20 世紀におこった事件から興味のあるものを一つ選び、その概要を調べてくる。
2	世界恐慌	ウォール街の大暴落とドイツのインフレ	第一次世界大戦の特徴についてまとめてくる。
3	ファシズムの台頭	ナチス一党独裁への道 ～ヒトラーによる大衆宣伝～	世界恐慌とファシズムの関係について調べてくる。
4	ヒトラーの野望	ドイツの再軍備とユダヤ人迫害	授業中に紹介したホロコーストに関する文献を読んでくる。
5	第二次世界大戦①	戦争捕虜問題	戦争捕虜に関する国際的取り決めについて調べてくる。
6	第二次世界大戦②	「追放」から「殺戮」へ ～ユダヤ人問題～	第一次世界大戦と第二次世界大戦の共通点と相違点についてまとめてくる。
7	帝国の終焉①	イギリスのインド統治とフランス領インドシナ	イギリス・フランスの植民地統治の歴史を年表化する。
8	帝国の終焉②	・インドの独立とカシミール紛争の勃発 ・中間テストの実施	前半の授業内容を復習する。
9	冷戦時代の幕開け	・ドイツ分割と朝鮮戦争 ・中間テストの解説	印パ戦争の経緯についてまとめてくる。
10	緊張の高まり ～キューバ危機～	キューバ危機が世界に与えたインパクト	ドイツの分断と統一の経緯についてまとめてくる。
11	ベトナム戦争	反戦思想のおこり	授業中に紹介したベトナム戦争に関する文献を読んでくる。
12	パレスチナ問題	第一次世界大戦から中東戦争まで	パレスチナ紛争の歴史を通して、現代のテロリズムの問題について考えてくる。
13	難民の世紀	紛争と難民問題	難民に関する国際的取り決めについて調べてくる。
14	ソ連の崩壊	崩壊過程と東欧の再編制	ソ連崩壊の意味を、20 世紀の歴史のなかに位置づける。
15	総括	小テストの実施と解説	全授業内容を復習しておく。

関連科目	ヨーロッパ史学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	第 15 回目の授業中に実施する小テスト（80%）と、中間テストおよび提出物（20%）で評価する。
学生へのメッセージ	歴史学とは過去に起こった事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を批判的に摂取するよう心がけてください。
担当者の研究室等	7 号館 4 階　林田研究室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 中間テストに関するフィードバックは第 9 回目、小テストに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	＜過疎地域における地域資源活用プロジェクト（グリーンプロジェクト）＞ 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは、地域の連携団体（すさみ町役場地域未来課）と協働して実現することになる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 2 年目のプロジェクトです。1 年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。 実施手順は １．テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 ２．現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 ３．大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 ４．大型装置・設備については現地で加工組み立て ５．現地で加工、施工、組み立て開始 ６．装置・設備の完成 ７．試作装置・設備による実験評価 ８．実験結果の考察と改良 ９．改良した装置について評価実験・考察 １０．現地で再実験 １１．実験結果の考察と改良 １２．最終実地評価と報告 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	概要：本プロジェクトは、PBL プロジェクトの初年度の 2010 年から開講し、７年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。 2017 年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと 子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容：　１．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日２・３限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、近畿水環境交流会（7 月)、天若湖アートプロジェクト（8 月)、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の３種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道５時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営　　を行います。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います ２．由良町の現状を学ぶ１ 由良町の抱える問題について学びます。　事前学習：由良町の WEB サイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する ３．マーケティング　商品開発について１ マーケティングの基礎を学びます。　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ４．マーケティング　商品開発について２ マーケティングの基礎を学びます　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ５．地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換　事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる ６．パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえパンフレットに使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む ７．ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う　事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる ８．７の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 ９．７の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10.「海の日」イベント企画　事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11.１０企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12.11 の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13.全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。
関連科目	各学部マーケティング関連科目
教科書	番号 ／ 書籍名 ／ 著者名 ／ 出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
3			

評価方法 （基準）	プロジェクトへの参加度　50%　　提出物　50%
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。
担当者の 研究室等	11 号館７階　鶴坂研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山　廣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創りだす“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は 2017 年 5 月～2018 年 1 月であり、月２回の全体ミーティングと年間 9 回の交野市での活動を予定している。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム（10m の半球形空間）の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を 2017 年４月～2018 年１月に実施する(機器の状況により変更がある)。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の３点について、ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価表などで評価を行う。
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発（ソフト）を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。
担当者の研究室等	理工学部生命科学科（松尾先生、尾山）は１号館８階または９階、住環境デザイン学科（川上先生）は１２号館７階に教授室がある。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の企画プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．必要な情報を収集することができる。 ２．情報を整理し、分析することができる。 ３．お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 ４．結果を第三者に説明できる。
授業方法と留意点	４人の教員が担当し、１グループ５人（合計 20 名）までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。 実施手順は以下のとおりである。 １．新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 ２．集めた情報を一定の形式に整理する。 ３．それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 ４．お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 ５．候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 ６．候補商品（１～数個）に対する連携企業を探す。 週１回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館９階）、木村准教授室（1 号館８階）、船越准教授室（1 号館９階）、青笹教授室（1 号館８階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色　美博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．教員の指導の下に目標と計画を作る。 ２．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 ３．計画からの遅れには対策を講じる。 ４．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ５．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ６．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	担当者の研究室等 １号館３階　一色教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　賢太郎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用方法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育 授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。 0.専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1.制約条件の確認、2.構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3.図面化、4.解析ソフトウェアを用いた数値計算、5.模型製作、6.ポスター作成、7.プレゼンテーションの資料作成、8.コンペティション参加、9.成果報告および反省会 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、ＣＡＤ実習

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「道路橋示方書・同解説」（共通編，鋼橋編）』	日本道路協会編	日本道路協会
2			
3			

評価方法（基準）	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうに考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧にかくこと。 また、確認テストを実施する。
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。
担当者の研究室等	１号館３階　田中准教授室
備考	構造力学系の知識、ＣＡＤの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本 PBL のプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。 ・主な学修テーマは、以下のとおりです。 ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身が PBL プロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	【本 PBL プロジェクトの到達目標】 ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本 PBL の到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 【摂南大学 PBL プロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】 ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	・大きく分けて、学外の PBL 活動と学内の PBL 授業に分かれます。 【学外 PBL 活動】 ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらう予定です。 【学内 PBL 授業】 ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、実例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 【授業・活動上の注意点】 ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際の PBL 授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本 PBL 履修の募集定員は、30 名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【４月】 ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBL ガイダンス 【５月】 ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 【６月】 ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【７月】 ①七夕イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【８～９月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期 PBL 活動における所属小チームの決定 【10～11 月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、現地での PBL 活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 【12 月】 ①成果と検証（何をアウトプットするのか？）、②最終成果発表準備 【１月】 ・最終成果発表（学内） 【２～３月】 ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 【事前学習課題】 ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	【事後学習課題】 ・毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。
関連科目	・２年次…企業論、３年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など ・各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。 / / / 2 / / / / 3 / / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。 / / / 2 / / / / 3 / / / /
評価方法 （基準）	① 本 PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度（50%）、 ② 本 PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力（25%）、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価（25%） による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。
学生への メッセージ	・PBL の最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 ・35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　大田住吉研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーＡリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室 ７号館３階　水野講師室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部　昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①　小学生の運動活動を活性させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②　小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法（基準）	実習（小学校に訪問し指導サポート）や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　内部研究室
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し，高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ ■5 月 ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 ■6 月? ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 ■10 月 ・中間報告会 ・由良町にて活動 ■１月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】　紙芝居ボランティアを通した社会貢献 【概　要】　寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ，および，門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。
授業方法と留意点	学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【方法】 ・寝屋川市役所や警察署のご担当者，門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり，相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 【内容】 年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。 ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し，近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加，学生自らイベントの企画提案，幼少学校での上演などが考えられる。さらに，門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングの参加態度（40%）、自分の役割に対する貢献（40%）、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表（20%）
学生へのメッセージ	昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。 今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。 プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野　武
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 　社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 　また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。
授業方法と留意点	寝屋川市成美小校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	4 月～6 月 　プログラムコンテンツの作成 　体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 　学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7 月～8 月 　①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレーキング、グループワーク） 　②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） 　③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） 　④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） 　⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 　9 月～10 月 　①体験活動の振り返り 　②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 　小学生・保護者・協働協議会員を招待 1 月 　最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。
担当者の研究室等	林研究室（7 号館 3 階） 鶴坂研究室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営 【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。
授業方法と留意点	活動は、主に学内と OIT 梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部の HP を必ず閲覧すること
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。 (2017 年) 3 月　　オリエンテーション(研修) 3～5 月　前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 6～8 月　講座実施、運営補助 8～9 月　前期まとめ、中間報告 9～10 月　後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 11 月　　講座実施、運営補助 (2018 年) 1 月　　学内 PBL 発表会 2 月　　年間まとめ、年間の結果報告
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	PBL での活動による成長内容をルーブリックで評価する（５０％） 提案書等のレポート（５０％） ６０％で合格とする。
学生へのメッセージ	本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。
担当者の研究室等	・荻田喜代一（薬学部教授・教務部長）：寝屋川キャンパス 11 号館 10 階あるいは教務課、枚方キャンパス 1 号館 6 階薬理学研究室（履修者には詳細な連絡先を周知します） ・水野　武（教務部キャリア推進室）：寝屋川キャンパス、７号館３階 ・今井起代（就職課長）：寝屋川キャンパス１０号館１階、就職部
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。 【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 （1）リーダーシップに関する知見を知る （2）企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける （3）プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける 以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。
授業方法と留意点	まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。 また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。 最後に、このＰＢＬのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【内容】 （1）基本的リーダーシップ理論の理解 （2）実務家との交流による組織社会化の促進 （3）提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 （4）プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発 【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション 【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。 【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにＰＤＣＡサイクルをまわす習慣を身につける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊研究室、7 号館 3 階　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」（梅田ロフト）と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1.チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2.計画を立て、段取りが組める 3.小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5 月～7 月 ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言　プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング ■8 月～9 月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10 月 ・中間報告会 ■ 1 月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　経営学部　鶴坂研究室 11 号館 8 階　経営学部　栢木研究室 7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本　正治
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	＜過疎地域における地域資源活用プロジェクト（グリーンプロジェクト）＞ 和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。 「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのビフォーアフターを体験する。 具体的なイベントは、地域の連携団体（すさみ町役場地域未来課）と協働して実現することになる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 ２．問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 ３．ものつくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。
授業方法と留意点	年数回すさみ町で作業します。(2 泊 3 日を 3-4 回、7 泊 8 日夏休み中に 1 回) それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	3 年計画の 2 年目のプロジェクトです。1 年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。 実施手順は １．テーマの情報共有（昨年度までの成果の説明）と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 ２．現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 ３．大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 ４．大型装置・設備については現地で加工組み立て ５．現地で加工、施工、組み立て開始 ６．装置・設備の完成 ７．試作装置・設備による実験評価 ８．実験結果の考察と改良 ９．改良した装置について評価実験・考察 １０．現地で再実験 １１．実験結果の考察と改良 １２．最終実地評価と報告 事前事後課題は、週 1 回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	通常(週 1 回の) 活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。
学生へのメッセージ	「古民家再生」では建物のビフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当の PBL 授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものつくりを通じた地域活性とも言える活動です。
担当者の研究室等	８号館１階テクノセンター、１号館５階メカトロニクス研究室で活動します。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田　裕子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	概要：本プロジェクトは、PBL プロジェクトの初年度の 2010 年から開講し、７年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。 2017 年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと 子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。 目的：池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 地域の子どもたちの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ビオトープを題材に学習・調査を進める。プ ロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。
授業方法と留意点	連携内容・方法：池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容：　１．寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 ２．巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 ３．淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 ４．天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 ５．天然アユ復活プロジェクトの学習 ６．いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月１回）は原則として平常授業期間内の土曜日２・３限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分（月１回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、近畿水環境交流会（7 月)、天若湖アートプロジェクト（8 月)、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)
学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	１号館３階　石田准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野　英一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の３種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点（廃校になった小学校の校舎）を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の１つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィシュトーナメント」「ケンケン鰹祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで､貸切の大型バスで片道５時間という距離である｡この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。
担当者の研究室等	7 号館 5 階　浅野研究室
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保　貞也
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 地元の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト　?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる? 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河南町）などである。 【方法】 ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営　　を行います。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	１．オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います ２．由良町の現状を学ぶ１ 由良町の抱える問題について学びます。　事前学習：由良町の WEB サイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する ３．マーケティング　商品開発について１ マーケティングの基礎を学びます。　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ４．マーケティング　商品開発について２ マーケティングの基礎を学びます　事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する ５．地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換　事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる ６．パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえパンフレットに使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む ７．ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う　事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる ８．７の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 9．7 の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10.「海の日」イベント企画　事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11. １０企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12. 11 の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13. 全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。
関連科目	各学部マーケティング関連科目
教科書	番号 ／ 書籍名 ／ 著者名 ／ 出版社名

	1			
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
3			

評価方法 （基準）	プロジェクトへの参加度　50%　　提出物　50%
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。
担当者の 研究室等	11 号館７階　鶴坂研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山　廣
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創りだす“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は 2017 年 5 月～2018 年 1 月であり、月２回の全体ミーティングと年間 9 回の交野市での活動を予定している。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム（10m の半球形空間）の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を 2017 年４月～2018 年１月に実施する(機器の状況により変更がある)。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の３点について、ﾙｰﾌﾞﾘｯｸ評価表などで評価を行う。
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発（ソフト）を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。
担当者の研究室等	理工学部生命科学科（松尾先生、尾山）は１号館８階または９階、住環境デザイン学科（川上先生）は１２号館７階に教授室がある。
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場　嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	〈摂大ブランド商品の企画プロジェクト〉 様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 １．必要な情報を収集することができる。 ２．情報を整理し、分析することができる。 ３．お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 ４．結果を第三者に説明できる。
授業方法と留意点	４人の教員が担当し、１グループ５人（合計 20 名）までの少人数で活動を行う。 そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。 実施手順は以下のとおりである。 １．新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 ２．集めた情報を一定の形式に整理する。 ３．それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 ４．お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 ５．候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 ６．候補商品（１～数個）に対する連携企業を探す。 週１回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館９階）、木村准教授室（1 号館８階）、船越准教授室（1 号館９階）、青笹教授室（1 号館８階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色　美博
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔３．５インチ、５インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。 また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、 「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、 「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。
授業方法と留意点	週１回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	本年度はレール間隔３．５インチ、５インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 １．教員の指導の下に目標と計画を作る。 ２．計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 ３．計画からの遅れには対策を講じる。 ４．製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 ５．運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 ６．計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	汎用的能力（40%）、主体性・柔軟性・課題発見解決（30%）、貢献度（30%）について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。
担当者の研究室等	担当者の研究室等 １号館３階　一色教授室 ８号館１階　テクノセンター
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中　賢太郎
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決し計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用方法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育 授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを経験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。 0.専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1.制約条件の確認、2.構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3.図面化、4.解析ソフトウェアを用いた数値計算、5.模型製作、6.ポスター作成、7.プレゼンテーションの資料作成、8.コンペティション参加、9.成果報告および反省会 「前期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 「後期」 ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、ＣＡＤ実習
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『「道路橋示方書・同解説」（共通編，鋼橋編）』	日本道路協会編	日本道路協会
2			
3			

評価方法（基準）	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうに考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めるので、項目抜けがなく、かつ、丁寧にかくこと。 また、確認テストを実施する。
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを経験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。
担当者の研究室等	１号館３階　田中准教授室
備考	構造力学系の知識、ＣＡＤの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田　住吉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本 PBL のプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。 ・主な学修テーマは、以下のとおりです。 ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身が PBL プロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	【本 PBL プロジェクトの到達目標】 ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本 PBL の到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 【摂南大学 PBL プロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】 ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	・大きく分けて、学外の PBL 活動と学内の PBL 授業に分かれます。 【学外 PBL 活動】 ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おりひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらう予定です。 【学内 PBL 授業】 ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、実例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 【授業・活動上の注意点】 ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際の PBL 授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本 PBL 履修の募集定員は、30 名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【４月】 ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBL ガイダンス 【５月】 ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 【６月】 ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【７月】 ①七夕イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 【８～９月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期 PBL 活動における所属小チームの決定 【10～11 月】 ①小チーム(4～5 人程度)に分かれ、現地での PBL 活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 【12 月】 ①成果と検証（何をアウトプットするのか？）、②最終成果発表準備 【１月】 ・最終成果発表（学内） 【２～３月】 ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 【事前学習課題】 ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	【事後学習課題】 ・毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。
関連科目	・２年次…企業論、３年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など ・各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。		
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。		
2			
3			

評価方法 （基準）	① 本 PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度（50%）、 ② 本 PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力（25%）、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価（25%） による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。
学生への メッセージ	・PBL の最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 ・35 年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階　大田住吉研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　信輝
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーＡリーグの PR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には 2019 年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する １．プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 ２．マーケティング手法の学習（座学による） ３．連携先との面談 ４．連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 ５．学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 ６．広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） ７．学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者への 　　アンケートの実施 ８．まとめと最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。
担当者の研究室等	11 号館 10 階　石井准教授室 ７号館３階　水野講師室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部　昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①　小学生の運動活動を活性させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ②　小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、タグラグビーを指導する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる（フィードバック）。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	実習（小学校に訪問し指導サポート）や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	総合体育館１Ｆ　内部研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林　真美
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し，高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ ■5 月 ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 ■6 月? ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 ■10 月 ・中間報告会 ・由良町にて活動 ■１月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	総合体育館１階　藤林研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】　紙芝居ボランティアを通した社会貢献 【概　要】　寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ，および，門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。
授業方法と留意点	学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【方法】 ・寝屋川市役所や警察署のご担当者，門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり，相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 【内容】 年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。 ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し，近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加，学生自らイベントの企画提案，幼少学校での上演などが考えられる。さらに，門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	全体で行う活動やミーティングの参加態度（40%）、自分の役割に対する貢献（40%）、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表（20%）
学生へのメッセージ	昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。 今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。 プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野　武
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 　社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 　また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的な研究方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関りによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場面で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。
授業方法と留意点	寝屋川市成美小校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	4 月～6 月 　プログラムコンテンツの作成 　体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 　学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7 月～8 月 　①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレーキング、グループワーク） 　②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） 　③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） 　④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） 　⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 　9 月～10 月 　①体験活動の振り返り 　②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 　小学生・保護者・協働協議会員を招待 1 月 　最終報告会
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。
担当者の研究室等	林研究室（7 号館 3 階） 鶴坂研究室（11 号館 7 階）
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営 【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。
授業方法と留意点	活動は、主に学内と OIT 梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部の HP を必ず閲覧すること
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。 (2017 年) 3 月　　オリエンテーション(研修) 3～5 月　前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 6～8 月　講座実施、運営補助 8～9 月　前期まとめ、中間報告 9～10 月　後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HP など)作成、告知等のマーケティング 11 月　　講座実施、運営補助 (2018 年) 1 月　　学内 PBL 発表会 2 月　　年間まとめ、年間の結果報告
関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	PBL での活動による成長内容をルーブリックで評価する（５０％） 提案書等のレポート（５０％） ６０％で合格とする。
学生へのメッセージ	本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。
担当者の研究室等	・荻田喜代一（薬学部教授・教務部長）：寝屋川キャンパス 11 号館 10 階あるいは教務課、枚方キャンパス 1 号館 6 階薬理学研究室（履修者には詳細な連絡先を周知します） ・水野　武（教務部キャリア推進室）：寝屋川キャンパス、７号館３階 ・今井起代（就職課長）：寝屋川キャンパス１０号館１階、就職部
備考	

教養科目

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊　穂
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。 【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 （1）リーダーシップに関する知見を知る （2）企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける （3）プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける 以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。
授業方法と留意点	まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。 また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。 最後に、このＰＢＬのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクト　－中小企業にフォーカスして－ 【内容】 （1）基本的リーダーシップ理論の理解 （2）実務家との交流による組織社会化の促進 （3）提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 （4）プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発 【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション 【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。 【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにＰＤＣＡサイクルをまわす習慣を身につける。
関連科目	

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	11 号館 8 階　西之坊研究室、7 号館 3 階　水野研究室
備考	

科目名	摂南大学ＰＢＬプロジェクトⅡ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木　紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,DP5△,DP6△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」（梅田ロフト）と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい！」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1.チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2.計画を立て、段取りが組める 3.小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	■4 月 ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ ■5 月～7 月 ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言　プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング ■8 月～9 月 ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 ■10 月 ・中間報告会 ■ 1 月 ・最終報告会 ■2 月 ・ふりかえり ・総括
関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイディアを形にしてゆく授業です。 主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。
担当者の研究室等	11 号館 7 階　経営学部　鶴坂研究室 11 号館 8 階　経営学部　栢木研究室 7 号館 3 階　キャリア教育推進室　水野研究室
備考	

科目名	専門日本語ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、E メールの書き方、自己 PR の書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
2	E メールの書き方１	E メールの基本	復習
3	E メールの書き方２	レポート提出のメール	復習
4	E メールの書き方３	依頼メール１	復習
5	E メールの書き方４	依頼メール２	復習
6	E メールの書き方５	問い合わせ／質問メール	復習
7	話し方１	話題の変え方	復習
8	話し方２	話の終わらせ方	復習
9	話し方３	話の広げ方	復習
10	自己 PR１	自己 PR とは何か	復習
11	自己 PR２	自己 PR 例の検討、修正１	復習
12	自己 PR３	自己 PR 例の検討、修正２	復習
13	自己 PR４	自分の自己 PR を書く１	復習
14	自己 PR５	自分の自己 PR を書く２	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：専門日本語ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	専門日本語ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 ビジネスマナーや、ビジネス場面で使用する日本語も学ぶ。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 ・ビジネスマナーに則った行動ができる。 ・ビジネス場面での電話応対ができる。
授業方法と留意点	授業では、ビジネスマナー、電話のかけ方／受け方、履歴書の書き方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果（資格）	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ビジネスマナー１	授業の説明 ビジネス場面での行動、言葉遣い１	復習
2	ビジネスマナー２	ビジネス場面での行動、言葉遣い２	復習
3	ビジネスマナー３	名刺交換、席次	復習
4	電話のかけ方／受け方１	電話の基本	復習
5	電話のかけ方／受け方２	取り次ぎ	復習
6	電話のかけ方／受け方３	コールバック１	復習
7	電話のかけ方／受け方４	コールバック２	復習
8	履歴書１	履歴書の書き方	復習
9	履歴書２	履歴書の作成	復習
10	電話のかけ方／受け方５	伝言１	復習
11	電話のかけ方／受け方６	伝言２	復習
12	電話のかけ方／受け方７	メモ・復唱	復習
13	ドラマ１	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
14	ドラマ２	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目　専門日本語ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	ビジネス場面で役立つ話し方／書き方を身につけ、将来に備えた練習をしましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名（英文）	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	１）ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 ２）社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（３つの力）を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果（資格）	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考える。 ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定個所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修：企業の事例を調べる。
3	組織の種類　－営利組織と非営利組織－	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる①－経済のグローバル化と高度情報化－	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる②－地球環境問題と少子高齢社会－	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる－オフィスからワークプレイスへ－	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本①　－仕事の進め方－	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：問題プリント①を解く。 ・事後学修：問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本②－ビジネスと諸活動－	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめる。 ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③－ビジネスと経営資源－	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめてくる。 ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④－ビジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）－	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の 2 社 CM を比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング　－セルフマネジメントと自己啓発－	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通した自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン①－起業への意識－	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM 比較をイノベーションの観点から行う。	・事前学修：各自がテーマを見つける。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM 比較プレゼンテーションを行う。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修：グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修：プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修：最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
2	イノベーションと企業家精神	P.F.ドラッカー	ダイヤモンド社
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社

評価方法 （基準）	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名（英文）	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学＋男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち６名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性た地に関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修：自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修：共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修：自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修：M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修：アサーティブに話す練習をする。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修：男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習する。 ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書

評価方法 （基準）	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもにそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	地域と私	科目名（英文）	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂　貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,DP6◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第２回目、３回目は外部講師による体験型の研修となります。 第 11 回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めて行きますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4 月 8 日（土）	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 （荻田・鶴坂）	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4 月 15 日（土）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4 月 16 日（日）	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 （外部講師）	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか ５月６日（土）１限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 （鶴坂）	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 －地域の観光･ブランディング－ 5 月 6 日（土）２限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 （鶴坂・久保）	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 －空き家の現状と課題－ 5 月 6 日（土）３限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 （平田・稲地）	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 －地域とスポーツ－ 5 月 20 日（土）１限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ（プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など）との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 （藤林・内部）	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 －地域で健康な生活を送るには？－ 5 月 20 日（土）２限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 （荻田・田中）	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① 由良町関係者の講演 ５月 20 日（土）３限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状や課題をお聞きします。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6 月３日（土）１、２限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。
11	体験学習 （和歌山県由良町）	由良町に出かけ、フィールドワーク（調査）を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。

	6月17日（土）終日		【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。
12	プレゼンテーション講座 7月1日（土）1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 （石井、鶴坂）	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。
13	事後学習① グループワーク 7月1日（土）2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。
14	事後学習② 成果発表会 7月15日（土）1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。
15	事後学習③ ふりかえり 7月15日（土）3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。（鶴坂）	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。

関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワークの成果物　40% グループの成果発表　20% 最終レポート　40%　６０%で合格とする。
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。
担当者の 研究室等	鶴坂研究室　11号館7階
備考	

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.小山　裕樹.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館4階（小山研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田　佐治子.朝日　素明.小山　裕樹.林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週１回９０分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年１月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。
授業テーマ・内容、方法･事前、事後学習課題	事前指導１　活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備 事前指導２　マナー講座・小中学校の教育現場について 事前指導３　「守秘義務」の意味とその内容について 活動準備　受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する 活動 1～25　受け入れ校にて活動　（活動業務日報・活動時間票の提出） 最終報告会　活動報告会を開催する。 ※注意事項 事前指導に１回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。 事前・事後学習課題　学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各１時間程度行う。
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数（出席数）票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館４階（小山研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。

科目名	チームビルディング	科目名（英文）	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野　武
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。 本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。 ２回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か　を理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク（予定） ・チームの 10 カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返える。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・ヒーローインタビュー ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第１０回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 50%　で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の	7 号館 3 階　キャリア教育推進室（水野研究室）

研究室等	
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	地誌学	科目名（英文）	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	稲田　克二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	地誌学は、地域を対象としてそこにある地理的事象を総合的に研究する学問である。講義では、まず地理学における地誌学の位置づけや研究目標を理解する。 次に地域研究の基礎である自然環境、特に地形・気候の概観を学び、その後各地域ごとに自然環境・政治経済・文化・生活様式など、各地域の特色を学び、地域を総合的に理解する。
到達目標	世界各地の地域的特色を把握し、そこで生活する人々の生活様式や政治経済・文化を理解する。 また中学校社会科・高等学校地歴科の教員を目指す者が、中学校・高等学校で授業をするための技術・手法を理解する。
授業方法と留意点	講義を中心とし、受講者数によっては、適宜学生による研究発表を行う予定である。そのため、毎回出席し、かつ随時与えられる課題を提出することが特に重要である。
科目学習の効果（資格）	世界の国々の状況や国家間の関係が理解できるようになる。 中学社会・高校地理歴史教員職員免許

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに 地誌学とはどんな学問か？1	講義の目的・方法・進め方を理解する。 地理学全般の中における、地誌学の位置づけを理解する。	事前に世界の国々の国名と位置を理解しておく。事後に講義内容を復習する。
2	地誌学とはどんな学問か？2	地誌学の研究目標を理解する。	事後に講義内容を復習する
3	自然環境　（地形・気候）	自然環境を構成する地形・気候について、概観する。	世界の地形・気候を概観しておく。事後に講義内容を復習する。
4	中国 1	中国の自然環境について理解する。	中国について概観しておく。事後に講義内容を復習する。
5	中国 2	中国の政治経済・文化を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
6	中国 3	中国の課題・問題点を理解する	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
7	EU 諸国 1	ＥＵの成り立ちを理解する。	ＥＵ諸国について概観しておく。事後に講義内容を復習する。
8	EU 諸国 2	ＥＵ諸国の自然環境や政治経済を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
9	EU 諸国 3	ＥＵ諸国の問題点・課題を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
10	ＵＳＡ1	ＵＳＡの自然環境を理解する。	ＵＳＡについて概観しておく。事後に講義内容を復習する。
11	ＵＳＡ2	ＵＳＡの政治経済や文化を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
12	ＵＳＡ3	ＵＳＡの問題点を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
13	USA4	ＵＳＡの課題を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
14	ロシア 1	ロシアの自然環境や政治経済・文化を理解する。	ロシアについて概観しておく。事後に講義内容を復習する。前回の
15	ロシア 2	ロシアの問題点・課題を理解する。	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。

関連科目：適宜指示をする。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	各単元終了後に提出するレポート、適宜与える課題の提出により成績を評価します。 ですから毎回出席して、与えられた課題を提出することが重要です。
学生へのメッセージ	世界にはどのような地域があり、そこではどのような生活様式や政治経済、文化があるか考えましょう。 地誌は暗記科目ではなく、地域について総合的に考える「科学」であることを理解しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	講義の内容および評価方法に変更が生じるときには、講義中に随時連絡する。受講生の状況により、研究発表の授業を行う場合もある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発音編 第１課　発音１	ピンインと四声，単母音，子音①，複母音①。	練習問題を解答する。
2	第２課　発音２	複母音②，鼻母音，子音②。	練習問題を解答する。
3	第３課　発音３	複母音③④，子音③。	練習問題を解答する。
4	第４課　発音４	子音④⑤。	練習問題を解答する。
5	本文編 第１課　お名前は？	☆単元テスト１ 形容詞述語文，疑問文，副詞「很」。	練習問題を解答する。
6	第１課　お名前は？	副詞「不」，疑問詞疑問文，名前の言い方。	練習問題を解答する。
7	第２課　僕は日本人だ	「是」構文，副詞「都」。	練習問題を解答する。
8	第２課　僕は日本人だ	助詞「的」，反復疑問文。	練習問題を解答する。
9	第３課　君は大阪人だよね？	☆単元テスト２ 動詞述語文，終助詞「?」，副詞「也」。	練習問題を解答する。
10	第３課　君は大阪人だよね？	命令文，同時進行の表現。	練習問題を解答する。
11	第４課　おいくら？	動詞の重ね型，お金の言い方。	練習問題を解答する。
12	第４課　おいくら？	こそあどの言い方，単位の言葉「張」「個」。	練習問題を解答する。
13	第５課　どの先生が好き？	前置詞「和」，名詞述語文。	練習問題を解答する。
14	第５課　どの先生が好き？	時間の言い方。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：ビジネス中国語基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	J
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹　櫻
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準４級受験可能。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	第６課　今は３時５分前だ	「有」と「在」，疑問詞の使い方。	練習問題を解答する。
2	第６課　今は３時５分前だ	意見を求める言い方。	練習問題を解答する。
3	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	副詞「経常」，例示の言い方。	練習問題を解答する。
4	第７課　この前の土曜日映画を見に行った	文型「是・・・還是・・・」。	練習問題を解答する。
5	第８課　小説は好きなの？	☆単元テスト１ 前置詞「従」と「到」，副詞「太」と「不太」。	練習問題を解答する。
6	第８課　小説は好きなの？	前置詞「離」，前置詞「跟」、副詞「又」。	練習問題を解答する。
7	第９課　ファーストフード店は家から近い	副詞「就」，副詞「才」。	練習問題を解答する。
8	第９課　ファーストフード店は家から近い	結果補語「完」，文型「一・・・就・・・」。	練習問題を解答する。
9	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	☆単元テスト２ 助詞「過」，助動詞「要」。	練習問題を解答する。
10	第 10 課　北京ダックを食べたことある？	副詞「再」，副詞「別」。	練習問題を解答する。
11	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	「把」構文，助動詞「会」，構造助詞「得」，副詞「只」。	練習問題を解答する。
12	第 11 課　一緒に中国語を勉強した方がいいね	助動詞「可以」，比較の「没有」，禁止表現「不要」。	練習問題を解答する。
13	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	助動詞「想」，仮定表現「要是」。	練習問題を解答する。
14	第 12 課　もし彼と知り合いになりたいなら	方向補語「来」。	練習問題を解答する。
15	おさらい	☆単元テスト３	練習問題を解答する。

関連科目：ビジネス中国語基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中国語入門	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。
担当者の研究室等	７号館２階　（非常勤講師室）
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	地理学Ⅰ	科目名（英文）	Geography Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形･気候･土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学と環境	人類による環境への働きかけの歴史（過去から現在まで）	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	様々な地形と生活－その１－	台地･河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活－その2－	扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候－その１－	熱帯気候・乾燥気候・高山気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	世界の気候－その２－	温帯気候・冷帯気候・寒帯気候	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市化にともなう流出の変化	都市化にともなって流出がどのように変化し、我々の生活にいかなる影響を与えるのか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	干拓地の自然的特性	干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	離島における地下ダムの建設	宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

関連科目：人文地理学、環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、授業参加点 20%、課題点 10%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、１時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	地理学Ⅱ	科目名（英文）	Geography II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原　俊則
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的にには、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら３点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果（資格）	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・アクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
9	輪中地域における生活	・輪中とは？ ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティー社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。全壊の授業内容を確認してください。
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。
15	・平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の授業内容を確認してください。

関連科目：自然地理学・地誌学・環境関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、授業参加点 20%、課題点 10%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、１時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	哲学Ⅰ	科目名（英文）	Philosophy Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田　清
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れした学問ではない。授業では、映像（映画、写真、夢）を見るという、ありふれた体験でありながらも、避けられない日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。とりわけ映画やTVドラマを観るという体験の中で、「自分」という存在について知ることができるようになること。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。参考文献は、そのつど紹介します。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起きれば、それについて考えます。
科目学習の効果（資格）	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さ、とりわけ人間関係の複雑さあるいは逆に単純さを知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――――
2	物を見ることの複雑性	ものの認識と行動への強迫	シラバスの熟読
3	――――	精神分析的見解	前回のノートの見直し
4	――――	現象学的見解	――――
5	――――	自己認識とそのほつれ	――――
6	写真を見ることの複雑性	バルトの写真論その１	――――
7	――――	バルトの写真論その２	――――
8	――――	ソシュールの言語論	――――
9	――――	ラカンの無意識論	――――
10	――――	写真・言語・無意識の交錯	――――
11	映画を観ることの複雑性	映画の物語世界の構成	――――
12	――――	メッツの映画論その１	――――
13	――――	メッツの映画論その２	――――
14	――――	ラカンの自我論	これまでのノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	――――

関連科目：思想系の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加、筆記試験などをもとに総合的に評価します。
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやろ ?」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	哲学Ⅱ	科目名（英文）	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田　清
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れした学問ではない。授業では、映像（映画、写真、夢）を見るという、ありふれた体験でありながらも、避けられない日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。とりわけ映画やTVドラマを観るという体験の中で、「自分」という存在について知ることができるようになること。
授業方法と留意点	テキストは使用しない。板書は相当な量になるので、ノートは必ず準備すること。参考文献は、そのつど紹介します。試験問題は、書き残したノートから出題されます。また、見逃せない時事的な出来事が起きれば、それについて考えます。
科目学習の効果（資格）	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さ、とりわけ人間関係の複雑さあるいは単純さを知ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	――――
2	エディプス論	フロイトのエディプス論	シラバスの熟読
3	――――	ラカンのエディプス論その１	前回のノートの見直し
4	――――	ラカンのエディプス論その２	――――
5	――――	自我の分裂あるいは統一	――――
6	映画論再考	映像単語説その１	――――
7	――――	映像単語説その２	――――
8	――――	映像単語説批判	――――
9	――――	映画論と言語論の交錯その１	――――
10	夢を見ることの複雑性	フロイトの夢理論	――――
11	――――	フロイトの「イルマの注射の夢」解釈	――――
12	――――	ラカンの「イルマの注射の夢」解釈	――――
13	映像技法の複雑性	映画論と言語論の交錯その２	――――
14	――――	映画論と言語論の交錯その３	これまでのノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	――――

関連科目：思想系の科目。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業参加、筆記試験などをもとに総合的に評価します。
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやろ ?」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語会話ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本や世界的に有名な企業のビジネスケースについて知り、自国の状況やビジネスモデルについて議論する。また、授業の始めに発音練習も取りいれていく。
到達目標	さまざまなビジネスケースについて、論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 相手に伝わる発音で話すことができる。
授業方法と留意点	グローバルに展開している企業のビジネスケースについて議論を行い、議論に必要な語彙や表現を学ぶとともに、提示されているビジネスモデルの強みや弱みなど自身の考えを深めていく。
科目学習の効果（資格）	
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業概要説明 発音練習①	授業の進め方、自己紹介 発音「区切り」	復習
2	発音練習② ビジネストピック１－１	発音「山と丘」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
3	発音③ ビジネストピック１－２	発音「複合名詞」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
4	発音④ ビジネストピック１－３	発音「動詞のアクセント」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
5	発音⑤ ビジネストピック１－４	発音「動詞の一語文」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
6	発音⑥ ビジネストピック２－１	発音「形容詞のアクセント」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
7	発音⑦ ビジネストピック２－２	発音「外来語のアクセント」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
8	発音⑧ ビジネストピック２－３	発音「協調」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
9	発音⑨ ビジネストピック２－４	発音「同音異義語」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
10	発音⑩ ビジネストピック３－１	発音「特殊拍１」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
11	発音⑪ ビジネスケース３－２	発音「特殊拍２」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
12	発音⑫ ビジネスケース３－３	発音「特殊拍３」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
13	ビジネスケース３－４	ビジネスモデルについて議論する。	復習 スピーチ原稿作成
14	スピーチ準備	トピックに関するスピーチ原稿の推敲 スピーチのための発音練習	スピーチ練習
15	まとめ	スピーチ発表 授業の振り返り	復習

関連科目	
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、スピーチ発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語会話ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原　京佳
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べることができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	トピック①	議論	復習
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方１	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方２	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター（３号館４階）
備考	

科目名	日本語総合ＦＩ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。 質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。 メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語総合ＦⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川　由理子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では次の３点を目標にします。 ①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。
到達目標	日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。 JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する（N１、N２に限る）。
授業方法と留意点	この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確にていねいに読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。 １．キーワード・キーセンテンスを探す ２．接続詞に注意する ３．テキストの流れに注意する ４．予測して読む ５．テキストをまとめる
科目学習の効果（資格）	・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 （・JPT　N1 を持っていないものは取得を目指す。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の概要説明 プレースメントテスト	復習
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する
5	キーセンテンスを探す（1）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
6	キーセンテンスを探す（2）	練習問題をこなす	授業内容を復習する
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する
8	説明文を読む（1）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
9	説明文を読む（2）	2～3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
10	論説文を読む（1）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
11	論説文を読む（2）	2～3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する
12	随筆を読む	2～3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する
13	小説を読む（1）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
14	小説を読む（2）	2～3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する

関連科目：日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新完全マスター　読解　日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask
3	日本語能力試験問題集　N1 読解　スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽子・竹田慎吾	Ｊリサーチ出版

評価方法（基準）	定期試験を実施（試験の形式については授業中に説明する） 出席・授業態度　＋　期末テスト　＝　100% 50%　　50%
学生へのメッセージ	受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。 出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）
備考	受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。 質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室（7 号館 2 階）またはメールにて対応します。 メールアドレスは授業時にお知らせします。

科目名	日本語読解ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
12	ローソクの進化①	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語読解ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
4	背理法①	読解、内容理解	復習
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
8	ついでに何をする？①	読解、内容理解	復習
9	ついでに何をする？②	語彙テスト、内容まとめ（話す）、タスク	復習
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	復習
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ（書く）、タスク	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語読解ＦＩ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現作文ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｆ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1◎,DP7△,DP8△,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP8◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果（資格）	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
5	段落②	実践練習	復習 作文課題
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
13	要約②	実践練習	復習 作文課題
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（50%）、提出物（50%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語表現作文ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	復習
8	序論②	序論を書く	復習
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	復習
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	復習
11	本論③	本論を書く	復習
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	復習
13	結論②	結論を書く	復習
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習

関連科目：日本語表現作文ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（30%）、レポート（30%）
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。

科目名	日本語文法ＦⅠ	科目名（英文）	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	Ｖ科：Ⅲ○,Ⅳ○,Ｒ科：A◎,Ａ科：C◎,Ｍ科：B2◎,Ｅ科：Ｆ○,Ｃ科：Ⅲ○,Ⅵ○,Ｌ科：DP1◎,DP7△,DP8△,Ｄ科：DP1◎,Ｓ科：DP1◎,Ｐ科：DP2△,DP4△,Ｊ科：DP1◎,DP8◎,Ｗ科：DP1◎,DP7◎,Ｎ科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
12	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法ＦⅡ、日本語読解ＦⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語文法ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡　樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅲ○,Ⅳ○,R科：A◎,A科：C◎,M科：B2◎,E科：Ｆ○,C科：Ⅲ○,Ⅵ○,L科：DP1◎,DP7△,DP8△,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1◎,DP8◎,W科：DP1◎,DP7◎,N科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果（資格）	高度な日本語運用能力

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	復習
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	復習
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	復習
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	復習
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
15	総復習	総復習	復習

関連科目：日本語文法ＦⅠ、日本語読解ＦⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、課題（30%）、小テスト（30%）
学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本史概論	科目名（英文）	Japanese History Introdution
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木　純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史的実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統（的なもの）”だと思われている諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。 半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。
到達目標	・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。 ・現代とは相当異質な社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。 ・“日本の伝統（的なもの）”だと思われていた諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもはらむことを学ぶ。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。 教科書はとくになし。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくること。
2	天皇（1）：天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
3	天皇（2）：創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前期代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
4	宗教（1）：仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
5	宗教（2）：鎌倉新仏教	いわゆる「鎌倉新仏教」の歴史的な実像や、その背景にある前近代の人々の宗教的な観念・世界観を考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
6	宗教（3）：葬式仏教と「無宗教」	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と自認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
7	武士（1）：「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
8	武士（2）：武家政権	鎌倉幕府や室町幕府の成立、その背景や意義について、最新の研究をふまえ、朝廷との関係にも注目しつつ概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
9	武士（3）：戦国大名・統一政権	戦国大名や統一政権の成立、その背景や意義について、最新の研究をふまえ、時代区分の問題も交えつつ概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
10	村社会（1）：荘園制と「村」の成立	現代に続くような村落（永続的な村、自律的・自立的な村）の成立について、中世の社会体制であった荘園制との関係を視野に入れつつ考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
11	村社会（2）：村町制と戦国大名	成立した村を基盤とした社会体制（村町制）への移行について、戦国大名や統一政権と村とが取り結んだ新たな関係に注目しつつ検討する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
12	村社会（3）：近代地方自治体制と村	村町制と近代地方自治体制とのズレ、高度経済成長期以降における村町制の解体を概観し、「村社会」と呼ばれるよう	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。

	な日本の“伝統的”社会性の形成という観点から村の歴史を再構成する。	復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
13	景観（1）：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
14	景観（2）：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即しつて再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返っておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

平常点 50%：授業内ランダムに計５回、感想・疑問などを記入したコメントペーパーを提出してもらう。
レポート 50%：授業で配付する課題文献リストから一つを撰び、それについて 2000 字程度の書評レポートを提出してもらう。

学生へのメッセージ

主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。

担当者の研究室等

質問等は非常勤講師室（７号館２階）にて対応する。

備考

自身が使用した高校・中学校日本史教科書を持参することが望ましい。
すでに捨てた、手元にないなどの場合は『もういちど読む山川日本史』等を購入して対応すること。
百科辞典・歴史辞典の収録された電子辞書の持参も推奨。
私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。
連絡先：jun01.tkg@gmail.com

科目名	日本事情ＦＩ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇　薫
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。（１）映画についての情報・その他背景知識について説明　（２）映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題　（３）テーマについてディスカッション　（４）「書く」練習
科目学習の効果（資格）	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
2	映画１：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
3	映画１：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
4	映画１：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
5	映画２：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
6	映画２：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
7	映画２：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
8	テーマ１・２に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
9	映画３：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
10	映画３：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
11	映画３：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
12	映画４：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
13	映画４：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、　発表準備
14	映画４：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ３・４に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目：日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2			
3			

評価方法（基準）	各課題及びレポート（80%),授業への参加度（20%）により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！　事前・事後学習は 1.5 時間ずつ。
担当者の研究室等	７号館４階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情ＦⅡ	科目名（英文）	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野　将之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅲ○,Ⅳ○,R 科：A◎,A 科：C◎,M 科：B2◎,E 科：Ｂ○,C 科：Ⅲ○,Ⅵ○,L 科：DP1△,DP2○,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP2△,DP4△,J 科：DP1◎,DP7◎,W 科：DP1◎,DP7◎,N 科：DP1◎,DP8△N：DP1◎,DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	１）日本の文化・社会について理解を深める。 ２）時事（日常の社会の出来事）について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 ３）日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	１）自分が関心をもった日本のニュースや記事について５分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 ２）発表後はクラス全体で質問や意見交換をする（15～20 分）。 ３）講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。　　４）考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 ５）最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する（小テスト、または小レポート）。
科目学習の効果（資格）	１）日本語での口頭表現力の向上 ２）語彙の習得
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 －日本の地理－	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
2	日本の年中行事（１） －墓参り－	口頭発表 盆と彼岸－日本人の先祖供養－ 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
3	Nippon Guide 2 －日本の歴史－	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『かぐや姫』（にほんごよむよむ文庫）を読む。または『かぐや姫の物語』（ジブリ）の視聴
4	日本の年中行事（２） －十五夜－ Nippon Guide 3 －マンガ･アニメのことば－	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） 10 月 4 日中秋の名月を楽しもう！
5	日本の年中行事（３） －日本の祭り－	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10 月 22 日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて（１）	（発表準備） 原稿とスライドの作成 （交流準備） クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
7	高校訪問に向けて（２） Nippon Guide 4 －若者ことば・関西弁－	発表の練習	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事（４） －紅葉狩り－	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を１０回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事（５） －七五三－ Nippon Guide 5 －神社－	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて） ②『日本の映画史１０』第１章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族（１）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
11	日本の家族（２）	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
12	日本の年末（１）	お歳暮、忘年会、 宝くじ －ギャンブル大国、日本－	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
13	日本の年末（２）	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備（日本の時事に関する記事、ニュースについて）

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
	15	2月、3月の行事 授業の振り返り	口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！

関連科目	
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / 日本の映画史　10のテーマ / 平野共余子 / くろしお出版
	2 / 映画で日本文化を学ぶ人のために / 窪田守弘 / 世界思想社
	3 / Hiragana　Times / / ヤック企画
評価方法 （基準）	到達目標：４０％（うち自己到達目標１０％）、事前・事後学習：３０％（発表準備、発表）、授業への参加：３０％（意見交換などでの発言１５％、小テスト、小レポート：１５％）
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館４F）
備考	

科目名	発育発達論	科目名（英文）	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岡本　香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	スポーツ指導では、年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことが、効果やケガの面でとても大切になる。特に、ジュニア期においては、運動の果たす役割は大きく身体の発達に働きかけるだけでなく、精神的な発達を促すものである。この授業では、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解するとともに、高齢者や女性の特徴についても学び、スポーツ指導を実践する上での基礎的知識を得る。
到達目標	発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識について理解を深める。
授業方法と留意点	パワーポイントやプリントを用いた講義を行う。授業スケジュールは、前回テーマの復習、本日のテーマ、質疑応答および小テストである。
科目学習の効果（資格）	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴①	からだの発育・発達、運動の健康への意義	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
2	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴②	筋力・持久力の発達	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
3	発育発達期の身体的特徴、心理的特徴③	疾走能力・跳躍能力・投能力の発達	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
4	発育発達期に多いケガや病気①	スポーツ外傷とスポーツ障害	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
5	発育発達期に多いケガや病気②	肥満、骨折、ストレス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
6	発育発達期のプログラム①	走る・跳ぶ・投げる	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
7	発育発達期のプログラム②	有酸素運動・無酸素運動	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
8	中高年者とスポーツ①	社会的要因・環境と運動不足病	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
9	中高年者とスポーツ②	中高年者における身体活動・運動の重要性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
10	中高年者とスポーツ③	中高年者のトレーニング効果、運動能力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
11	女性とスポーツ①	女性の身体特性	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
12	女性とスポーツ②	女性アスリートの身体特性とパフォーマンス	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
13	女性とスポーツ③	女性の特徴に応じたスポーツプログラム	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
14	障害者とスポーツ①	障害者スポーツの意義・課題	授業ノートのまとめと、小テストの確認。
15	障害者とスポーツ②	障害別から見た障害者の体力	授業ノートのまとめと、小テストの確認。

関連科目：スポーツプログラミング

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ		日本体育協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	受講態度（40%）、レポート点（30%）、小テスト（30%）の総合評価。
学生へのメッセージ	ジュニア期のスポーツ指導は、その子の持っている才能を伸ばすこともあれば、競技生活を短くしてしまうこともあります。経験に頼りすぎず理論を基盤に指導に活かそう。
担当者の研究室等	総合体育館１階　非常勤講師室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名（英文）	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野　晃正
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。 しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果（資格）	・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義	事前：「犯罪被害者」について調べてみよう 事後：重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害（テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット） ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
4	加害者との示談	・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 被告人質問と意見陳述	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事前：前回までの復習 事後：重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間	事前：「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後：重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

11	その他の経済的支援制度	・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
12	少年事件における被害者保護	・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
13	DV 被害	・DV とは何か ・配偶者による犯罪 ・DV 被害者の保護と支援 ・保護命令	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
14	ストーカー被害	・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる
15	高齢者の虐待	・高齢者虐待の原因論	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる

関連科目

各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法
法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	実践 犯罪被害者支援と刑事弁護―弁護士による被害者支援と刑事弁護人の対応	兵庫県弁護士会「実践犯罪被害者支援と刑事弁護」出版委員会	民事法研究会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	開講時に指示する。		
2			
3			

評価方法（基準）

・期末試験の成績による。

学生へのメッセージ

・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。

担当者の研究室等

11 号館 10 階　小野准教授室

備考

事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回１時間以上の予習に取り組むこと。
事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回２時間以上の復習に取り組むこと。

科目名	ビジネスマナー	科目名（英文）	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション －あいさつの重要性（理論と実践）	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・５W２H から６W３H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目：キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	武道論	科目名（英文）	Budo-ron（Theory of Japanese Martial Arts）
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山　喬之
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	日本伝統文化である武道（意味・種類）についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。
科目学習の効果（資格）	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる
4	武道（柔道 1）	柔道の創始と嘉納治五郎について	嘉納治五郎について調べ内容をまとめる
5	武道（柔道 2）	柔道の普及発展、形について	柔道の普及発展、形について調べ内容をまとめる
6	武道（剣道 1）	剣道の起源について	剣道の起源について調べ内容をまとめる
7	武道（剣道 2）	流派の成立について	流派の成立について調べ内容をまとめる
8	武道（弓道・相撲）	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる
9	武道（空手・合気道）	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる
10	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる
11	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる
12	武道と修行	武道における修行について	千日回峰行とは何かを調べまとめる
13	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる
14	武道の身体技法	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる
15	武道論総括	１４回まで行った授業の内容に関してまとめを行う	これまでの授業の復習

関連科目

スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ
生涯スポーツ実習
健康論
保健論

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	武士道	新渡戸　稲造	
2	今、なぜ武道か	中村　民雄	
3			

評価方法（基準）	出席率 80%以上のものを評価資格者とする。遅刻は 2 回で 1 回の欠席と同等とみなす。（遅刻は授業開始から 30 分以内に入室したことをいう） 提出課題、小テスト、総括を総合的に評価し、単位を認定する。（ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。）
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。
担当者の研究室等	総合体育館 1 F 横山講師室
備考	

科目名	プレゼンテーション論	科目名（英文）	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	１）自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べることができるようになる。 ２）相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 ３）自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善してくことが望まれる。
科目学習の効果（資格）	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修：プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修：初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修：漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間的要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修：漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修：コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修：プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1 分、3 分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修：初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修：自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修：自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修：評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修：評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことばを基に、評価表を作成する。	・事前学修：修正した自己紹介プレゼンをさら練習する。 ・事後学修：クループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修：評価表作成を行う。 ・事後学修：グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修：評価表を完成させる。 ・事後学修：フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修：紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修：作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修：紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修：個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修：個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>プレゼンテーション ZEN</td><td>ガー・レイノルズ</td><td>阪急コミュニケーションズ</td></tr><tr><td>2</td><td>TED トーク 世界最高のプレゼン術</td><td>ジェレミー・ドノバン</td><td>新潮社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>
評価方法 （基準）	プレゼンテーション（50%）、レポート（50%）で評価し、総点の 60%で合格とする。
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べることが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名（英文）	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村　浩
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	サービスデザインの概観を学習する。新しい商品・サービスを企画段階では、提供者（企業）、利用者（消費者）の発信する情報をいかに融合させて価値を示していくのかが課題である。本授業は、Web サービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考（Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、ミニ提案活動の体験をとおして、提案を支援するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。 1. サービス思考　どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創（コラボレーション）　異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案　共創のアウトプット（結果）を整理し、アウトカム（成果）としてまとめて、プレゼン等で発信する。 プロポーザル・デザインに係るテーマとして、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Local 地域活性化支援 の簡易な課題を指定する。（これらの事業に係る企業や NPO 法人からのゲスト講演の受講機会あり。）
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義を中心に、特定テーマについて、グループワーク（7～8 名／グループ）を複数行う。デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論で、異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向いた内容。
科目学習の効果（資格）	・新聞や Web が提供する Web デザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野者の間のグループワークによる交流・親交の機会に接する。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考（Design Thinking)』とは何か	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
2	サービスのデザイン科学	・サービスをデザインする ・Web サービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン（Human-Centered Design)	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素の考慮 ・メンタルマトリックス ・グループワーク［ミニ課題 1］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
4	サービスの市場	・『市場（Market)』とは何か ・Web サービスの特質 ・市場の生態系	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
5	『デザイン思考（Design Thinking)』の概観	・『デザイン思考（Design Thinking)』の骨子 ・ワークショップ適用事例　効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
6	ケーススタディ 2	・発散思考と収束思考の両立 ・ユーザーエクスペリエンスデザイン（User Experience Design) ・グループワーク［ミニ課題 2］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
7	『デザイン思考（Design Thinking)』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見（Discover）/定義（Define）/発想（Ideate）/実証（Prototype）	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
8	『デザイン思考（Design Thinking)』の視点	・サービス提供者（企業）と利用者（消費者）の関係性マネジメント ・RAD（Rapid Application Development）	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
9	ケーススタディ 3	・プロトタイピング ・人間系の考慮　顧客、取引先、CMO（chief marketing officer)、利益団体（Interest Group) ・グループワーク［ミニ課題 3］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
10	『デザイン思考（Design Thinking ）』と提案（Proposal）活動	・提案（Proposal）活動の骨子 ・ビジネス活動事例　効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
11	ケーススタディ 4-1	・ビジネスデザイン思考 ・ケーススタディ・ガイダンス ・グループワーク［課題 4］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
12	ケーススタディ 4-2	・グループワーク［課題 4］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
13	ケーススタディ 5-1	・オープンデザイン ・グループワーク［課題 5］	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
14	ケーススタディ 5-2	・グループワーク［課題 5］ ・ゲスト講演の聴講	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習
15	まとめ	・ゲスト講演の聴講 総括	教科書、適宜指定する参考書、記事（新聞、Web ニュース）の予習・復習

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	Bas Van Abel	オライリージャパン

2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
2	IBM の思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
3	Fab ―パーソナルコンピュータからパーソナルファブリケーションへ	Neil Gershenfeld	オライリージャパン

評価方法 （基準）	平常点（25%）、課題・レポートの提出（15%）、定期試験（60%）による総合評価を行う。平常点は、小テスト（不定期）、グループワークでのディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進行を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている『デザイン思考（Design Thinking）』の手法は、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのか、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。
担当者の 研究室等	11 号館 7 階（北村教授室）
備考	全座席指定での着席をお願いします。10 号館設備（グループワークスペース、情報処理室等）を利用する場合あり。#11～#15 の授業は、梅田キャンパスでグループワークを実施します。寝屋川からの移動時間を考え、これらの回は、4 時限ではなく 5 時限での授業です。その際、企業や NPO 法人によるゲスト講演の聴講機会を設けます。（初回授業で、学生の皆さんの梅田 5 時限開催を再周知します。）

科目名	文学	科目名（英文）	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	３～４講ごとにテーマを絞り、プリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。

関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」「などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。 ◇最終成績は、定期試験の結果７割と小レポートの回答状況３割とを合わせて判断します。 ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。 ◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。
学生へのメッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	水曜は３限からの出講なので、昼休みは非常勤講師室に在室です。

科目名	文学Ⅰ	科目名（英文）	Literature Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾　佳津子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなぁ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？　若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力を一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じること。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	３～４講ごとにテーマを絞り、プリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果（資格）	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
2	短詩型文学（1）	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
3	短詩型文学（2）	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
4	現代詩（1）	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
5	現代詩（2）	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
6	童謡（1）	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
7	童謡（2）	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
8	短歌（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
9	短歌（2）	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
10	短歌（3）	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
11	俳句（1）	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
12	俳句（2）	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
13	俳句（3）	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
14	韻文の翻訳（1）	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
15	韻文の翻訳（2）	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。

関連科目：こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」「日本語表現」「などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。近年散見する代筆提出については、代筆者・被代筆者共、成績処理時に大幅減点します。 ◇最終成績は、定期試験の結果７割と小レポートの回答状況３割とを合わせて判断します。 ◇私語・飲食・頻繁な離席・他授業の課題作成・居眠りなど、受講態度の著しく悪い学生には退室を指示して当日の出席は無効とし、さらに状況に応じてマイナス評価を下します。また、回収した小レポートの回答状況が著しく悪い場合も、当日の出席は無効とします。 ◇原則として出席が半分以下の場合は、成績評価を行いません。
学生へのメッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の研究室等	７号館２階(非常勤講師室)
備考	水曜は３限からの出講なので、昼休みは非常勤講師室に在室です。

科目名	マーケティングと歴史	科目名（英文）	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居　奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果（資格）	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
6	マーケティングのＳＴＰアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
10	越後屋の仕入機構（１）	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
11	越後屋の仕入機構（２）	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましょう。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居　奈緒子	千倉書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居　奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法（基準）	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の研究室等	11 号館８階　武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名（英文）	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼　丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部［II］
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。１件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト１を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV（配偶者からの暴力）	ストーカーや DV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。
15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。

関連科目

法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。

学生へのメッセージ

勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。

担当者の研究室等

11 号館 9 階 中沼研究室

備考

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野　竜平
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生（大学３年）を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCA サイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック（株）より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック（株）の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2～6 回目までは 120 分授業とする。
科目学習の効果（資格）	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	開講にあたり 4 月 6 日（木）	インターンシップ研修の目的･ねらい等の概要を説明する	-----
2	プレゼンテーションの方法 4 月 13 日（木）	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	-----
3	企業・製造業・仕事の基本とは① 4 月 20 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
4	企業・製造業・仕事の基本とは② 4 月 27 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	-----
5	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5 月 11 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②～③の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
6	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5 月 18 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	-----
7	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5 月 25 日（木）	社会人としてのマナー、仕事に取組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④～⑤の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途）
8	品質教育① 6 月 1 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	-----
9	品質教育② 6 月 8 日（木）	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からＱＣ7 つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①～②の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
10	原価・コスト教育① 6 月 15 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
11	原価・コスト教育② 6 月 22 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	-----
12	原価・コスト教育③ 6 月 29 日（木）	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①～③の講義終了後、レポートを提出する（書式は別途）
13	課題解決教育① 7 月 6 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	-----
14	課題解決教育② 7 月 13 日（木）	PDCA サイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①～②の講義終了後、レポートを提出のこと（書式は別途） また、14 回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7 月 20 日（木）	14 回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目：『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法：課題レポート（6 回）と受講レポート 50%、授業姿勢（積極性）20%、全体討議（プレゼンテーション）10%、期末試験 20%とした総合評価を

（基準）	行う。
学生への メッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の 研究室等	1 号館 4 階　奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回 1 時間程度。　レポート各回 3 時間程度，プレゼン準備と期末試験のための学習 20 時間程度。 全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため，2 回 実習前指導を実施する（7/6(木)，7/13(木)6 限目）. パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	本科目は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で，実際に海外に渡航し，海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識（社会・文化等）,協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では，将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ，海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか，英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は，夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ，日本語を使わないようにする。
科目学習の効果（資格）	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また，社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス,海外渡航手続き概要,英語コミュニケーション１	パスポート，チケット予約（航空機，ホテル），保険，海外渡航準備，英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情,日系企業のグローバル化,英語コミュニケーション２	英語による自己紹介発表，海外の文化，経済，グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先　事前調査,英語コミュニケーション３	英字新聞記事の調査，文化，歴史，経済事情，企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える，ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力,英語コミュニケーション４	社会人として必要な基礎力,英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション５	海外渡航，海外生活，大学紹介，専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション６	研修先企業，大学の調査，英語による発表，英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション７	海外研修を想定したグループ実習１,テクノセンター見学，ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション８	海外研修を想定したグループ実習２,テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション９	海外研修を想定したグループ実習３,テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション１０	海外研修を想定したグループ実習４,英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション１１	海外研修を想定したグループ実習５,英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶，礼儀，服装，ミーティング，質疑，懇親会，感謝，気配り，機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航，海外生活	渡航準備，入出国，習慣，食生活，健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目：ものづくり海外インターンシップ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題レポート６０％，取組み姿勢２０％，成果発表２０％として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。
担当者の研究室等	１号館４階　諏訪教授室
備考	【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　諏訪教授（M 科），石田准教授（C 科），川野教授（M 科），理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名（英文）	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野　竜平
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』 の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』 で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、 更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・ＱＣＤ問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック（株）人材開発カンパニーで、計７日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 ・1 回目　ものづくりインターンシップ基礎のまとめ，インターンシップⅡの準備　7/9（木）　6 限目 ・2 回目　ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導　7/16（木）　6 限目 宿泊実習（パナソニック人材開発カンパニー） ・1～3 日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1 個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】 モノづくりシュミレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得（設計～生産）し、目標達成のためのチームワーク・QCD 問題意識の重要性を体得する。（グループ演習） 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと ・6 日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2 工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと ・7 日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。（グループ単位） 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと 実習中指導 ・9 月 2 日（土）　1～4 限目　プレゼンテーション指導 実習後指導 ・1 回目　体験報告書の添削指導 ・2 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　研修成果報告会（2 回目）に向けたプレゼンテーション指導 ・4 回目　研修成果報告会（2 回目） ・5 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・6 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎
教科書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
参考書	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
評価方法（基準）	実習成果 40%、研修成果報告会（2 回）20%、実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、実習・授業態度 20%とした総合評価を行なう。
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。
担当者の	奥野教授室（1 号館 4 階）

教養科目

研究室等	
備考	期間：2017 年 8 月 28 日（月）～9 月 1 日（金）、9 月 4 日（月）～9 月 5 日（火）　パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9 月 3 日（土）には摂大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。 【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20 時間程度。 【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名（英文）	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪　晴彦
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎,R 科：A◎,A 科：A◎,M 科：A1○,E 科：Ｂ△,C 科：Ⅱ◎,L 科：DP2◎,D 科：DP1◎,S 科：DP1◎,P 科：DP8△,J 科：DP1◎,W 科：DP1◎,N 科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は,「ものづくり海外インターンシップ」と呼び，世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては，海外の大学でワークショップ体験も含める。
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。
授業方法と留意点	東南アジアは，フィリピン１箇所とタイ１箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約１０日間（予定）の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお，本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班)」の受講を必須とする。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	直前指導 　ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導，海外実習の準備など 海外実習 ・1～2 日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学（英語）研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・3 日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習／ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・4～5 日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場，施設，建築，デザイン作品の見学、現地従業員，大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート，アイディアスケッチなどを提出のこと ・6～8 日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと ・9～10 日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位で PPT でプレゼン，または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成をを提出のこと 実習後指導 ・1 回目　最終レポート（体験報告書）の添削指導 ・2 回目　成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3 回目　全体報告会　学生代表者の発表・質疑 ・4 回目　全体報告会　企業管理者の講演と講評
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	海外現地研修 60%（実習記録簿 20%，実習・授業態度 20%，実習成果プレゼン 20%)，実習前後の学習 5%，実習最終レポート 10%、体験報告書 10%、成果報告会（2 回）15%として評価を行う。
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は，海外実習後に顕著な成長が認められるので，大いにチャレンジしてほしい。授業方法，留意点にも記載のとおり，参加学生は専門分野も，文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため，希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は，前期の「ものづくりインターンシップ基礎（海外班)」の受講を必須とする。
担当者の研究室等	１号館４階　諏訪教授室，川野教授室， １号館３階　石田准教授室
備考	【注意事項】研修予定期間：2017 年 8 月中旬（研修先の都合により変更する場合があります。） 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成，復習の学習時間：20 時間程度 【共同担当者】　石田准教授，川野教授，理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	役立つ金融知力	科目名（英文）	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川　富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、たかだか「要領良く正解を教えてもらって覚えるだけ」という程度のことをやってきたに過ぎません。 しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、そこに最初から決まり切った正解なんかありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかないのです。 実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。そしてそのためには、先ずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく能力と気概を身に着ける必要があります。 経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実戦的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。 本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方を含めた実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けることです。
到達目標	主としてファイナンスの観点から、実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着ける。 諸君が、将来直面する経済生活やビジネスライフにおいて、「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。 講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。
授業方法と留意点	本講義は１５回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。 ①　先ずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。 ②　次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実戦的に学んでいきます。 ③　更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に着け、社会生活に応用する方法を学びます。 本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。 但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。
科目学習の効果（資格）	経済・社会生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実戦的なビジネスインテリジェンスの基本を身に着けます。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置 」	テキスト＜P15～14,4～13＞ ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト＜P44～49,38～44＞ ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト＜P16～18,25～29,18～25＞ ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト＜P154～157,159～166＞ ・契約社会　Ⅰ ・ローン・クレジット ・契約社会　Ⅱ
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト＜P79～87,166～168,157～159,168＞ ・リスクマネジメント ・契約社会　Ⅲ
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト＜P88～97＞ ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト＜P98～104＞ ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト＜P30～31,56～57,32～36,54～55,37,50～53＞ 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品（株式等)」	テキスト＜P123～135＞ ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品（債券他)」	テキスト＜P117～123＞ ・預貯金 ・信託

教養科目

			・債券
11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」	テキスト＜P105～117＞ ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格
12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト＜P136～153＞ ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資
13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト＜P58～67＞ ・ライフプランニング
14	ライフプランニング ②	「プラン見直しと人生の三大資金」	テキスト＜P68～78＞ ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題
15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。

関連科目

民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学　など

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）

下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。
・試験　　：　20%（経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。）
・レポート　：　50%（自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。）
・平常点　　：　30%（全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。）

講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が必要です。

講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。

成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限（定期試験当日を予定）までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。
（講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。）

なお、レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。

学生へのメッセージ

本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全１５回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。
しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。
その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。
そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。

本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。

受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。

その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。

本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせて考えていくことで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身に着けてください。

なお、講義中に席を立ったり私語が多いなど講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。

担当者の研究室等

11 号館 1 階（教務課）

備考

・この授業は、ＳＭＢＣ日興証券グループによる「寄附講座」です。

・「事前・事後学習課題」について
　予習（シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む）：３０分程度
　復習（講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する）：３０分程度

・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。
　私語が多い者、授業の妨げとなる者には適宜指導を行い、それに従わない場合は容赦なく退席させる。

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名（英文）	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢　芳昭.青笹　治.井尻　貴之.居場　嘉教.尾山　廣.川崎　勝己.木村　朋紀.中嶋　義隆.長田　武.西村　仁.船越　英資.松尾　康光.松川　通.村田　幸作
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎,R科：A◎,A科：A◎,M科：A1○,E科：Ｂ△,C科：Ⅱ◎,L科：DP2◎,D科：DP1◎,S科：DP1◎,P科：DP8△,J科：DP1◎,W科：DP1◎,N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクターによる講義を行う。
科目学習の効果（資格）	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学（村田）	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学（松川）	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学（川崎）	分子生物学ににについて説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学（丸山）	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きるためだが，生殖は「未来」を作る現象であり，具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学（吉岡）	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目：生物学概論、生化学Ⅰ、生物無機化学、生物統計学

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の研究室等	１号館　８階および９階　（理工学部生命科学科全専任教員）
備考	

科目名	歴史学概論	科目名（英文）	A Survey of History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高木　純一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では、日本の歴史を概観しつつ、とくに現代の私たちが“伝統的”と観念しているような日本の諸要素について、その形成過程や歴史的実態を提示する。その際、私たちがそれらに対して抱いているイメージとのギャップに注意し、何となく“日本の伝統（的なもの）”だと思われている諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度かけ離れたものであったことを明らかにする。 半期という限られた期間であるため、ある程度日本通史を兼ねることが可能で、かつ最も重要な要素として、とくに【天皇・宗教・武士・村社会・景観】という五つのテーマを取り上げる。基本的にはテーマごとに時系列に沿って講義を進めるが、各時代の比重は必ずしも同等ではなく、テーマに応じて異なってくるはずである。
到達目標	・日本史の大まかな流れを理解し、最低限の認識・知識を身につける。 ・現代とは相当異質な社会がかつて存在したことを知ることで、現代社会を相対化する。 ・“日本の伝統（的なもの）”だと思われていた諸要素が、その歴史的実態において、私たちの認識とは相当程度異なるものであったことを理解し、そうした無理解はときに大きな危険性をもはらむことを学ぶ。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。レジュメとパワーポイントを主に使用する。 教科書はとくになし。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法などについて説明する。併せて、単なる基礎教養・知識にとどまらない歴史を学ぶことの意義や、「日本史学」という学問の特質を提示する。	シラバスを一読してくること。
2	天皇（1）：天皇と「日本」の起源	日本における国家形成とその特質について、とくに大陸との関係性を意識しつつ、天皇制や「日本」という国号の成立を中心に概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
3	天皇（2）：創られた近代天皇制	前回講義をふまえつつ、近代の天皇制について、前期代とは相当程度断絶した「創られた伝統」という性格に注目して考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
4	宗教（1）：仏教伝来と神仏習合	日本における諸宗教の成立・伝来や相互の関係について、とくに「神仏習合」という観点からその特質を述べる。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
5	宗教（2）：鎌倉新仏教	いわゆる「鎌倉新仏教」の歴史的な実像や、その背景にある前近代の人々の宗教的な観念・世界観を考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
6	宗教（3）：葬式仏教と「無宗教」	現代に続いていくような日本的な宗教のあり方の起源や、「無宗教」と自認して顧みることのない現代の我々の心性の淵源について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
7	武士（1）：「武士」の成立	武士と貴族の意外な親近性、「武士」の身分的性格などの指摘により、従来型の武士の成立論に再検討を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
8	武士（2）：武家政権	鎌倉幕府や室町幕府の成立、その背景や意義について、最新の研究をふまえ、朝廷との関係にも注目しつつ概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
9	武士（3）：戦国大名・統一政権	戦国大名や統一政権の成立、その背景や意義について、最新の研究をふまえ、時代区分の問題も交えつつ概観する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
10	村社会（1）：荘園制と「村」の成立	現代に続くような村落（永続的な村、自律的・自立的な村）の成立について、中世の社会体制であった荘園制との関係を視野に入れつつ考察する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
11	村社会（2）：村町制と戦国大名	成立した村を基盤とした社会体制（村町制）への移行について、戦国大名や統一政権と村とが取り結んだ新たな関係に注目しつつ検討する。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
12	村社会（3）：近代地方自治体制と村	村町制と近代地方自治体制とのズレ、高度経済成長期以降における村町制の解体を概観し、「村社会」と呼ばれるよう	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。

		な日本の“伝統的”社会性の形成という観点から村の歴史を再構成する。	復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
13	景観（1）：里山・棚田・松原	「日本の原風景」として語られる里山・棚田・松原（いわゆる「白砂青松」）の歴史的形成過程や実態や、前近代の植生景観について考察を加える。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
14	景観（2）：「鎮守の森」	同じく「日本の原風景」とされる「鎮守の森」について、とくに近代的改変を意識しつつその歴史的成立や実態を明らかにする。	予習：高校・中学校日本史教科書のテーマに該当する記述・コラムを索引等を用いて検出し、一読しておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。
15	本講義のまとめ	本講義で述べてきたことを時系列に即しつて再構成しつつ、全体を総括する。	予習：これまでのレジュメ・ノートをもとに、講義をふり返っておくこと。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	平常点 50%：授業内ランダムに計５回、感想・疑問などを記入したコメントペーパーを提出してもらう。 レポート 50%：授業で配付する課題文献リストから一つを撰び、それについて 2000 字程度の書評レポートを提出してもらう。
学生への メッセージ	主体的に学習する意志を持つ学生の受講を期待します。
担当者の 研究室等	質問等は非常勤講師室（７号館２階）にて対応する。
備考	自身が使用した高校・中学校日本史教科書を持参することが望ましい。 すでに捨てた、手元にないなどの場合は『もういちど読む山川日本史』等を購入して対応すること。 百科辞典・歴史辞典の収録された電子辞書の持参も推奨。 私語・携帯電話の使用等は厳禁。これを守れない場合には受講を認めない場合がある。 連絡先：jun01.tkg@gmail.com

キャリア形成科目

科目名	インターンシップⅠ	科目名（英文）	Internship Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に　1）仕事の社会における役割　2）仕事の成果とは　　3）仕事の責任と充実感　を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義（演習を含む）であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果（資格）	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第４回目の課題をプレゼンテーションする	・第４回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目：この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	発表（40%）、レポート等の提出物（30%）、授業態度（30%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※４月下旬にリスト公開→５月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→５月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→６月末頃に事前訪問→８月上旬からインターンシップ開始（予定） インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 なお、事前事後学習には毎回１時間以上かけること。

科目名	インターンシップⅡ	科目名（英文）	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井　三恵.水野　武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果（資格）	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	直前学修① ６月１７日(土)　３限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認	・社会人を意識したスーツ着用のこと。 ・身だしなみを自分なりに整えてくること。
2	直前学修② ６月１７日(土)　４限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に１０日間以上（原則）	・実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上（原則）	・事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 （担当教員への提出と教務課へ電子データを提出）	・事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① ９月１６日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② ９月１６日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ ９月３０日(土)　３限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ ９月３０日(土)　４限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ １０月１４日（土）　３限目（予定）	・インターンシップを振り返る （実習記録簿の提出）	・実習記録簿を見直してくること。
13	事後学修⑥ １０月１４日（土）　４限目（予定）	・インターンシップを振り返る	・実習記録簿を見直してくること。
14	事後学修⑦ １０月２１日（土）　１限目（予定）	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・学生代表者はパワーポイントで１０分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ １０月２１日（土）　２限目（予定）	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ（予定）	・全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	企業による報告書（20%）、体験報告書など提出物（40%）、発表を含む授業態度（40%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。

	参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は 3 時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際はスーツを着用してくること。

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment Design Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、 またどのような職業へと導かれたかの３つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、 それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、４年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を 行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみること、またそのための試行錯誤することを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、 内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は１年生向けの科目である。
科目学習の効果（資格）	大学生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかかわることについて考える契機となる。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な３つのこと～ （担当：地域連携センター係長 古屋豊吾）	・みなさんと同じ摂大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話します。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
3	学生生活② チャンスだらけの摂南大学-学生時代に飛躍する方法- （担当：経営学部　准教授 久保 貞也　）	（１）摂南大学をうまく活かした先輩たち（事例紹介） （２）チャンスを失う典型的な学生（注意喚起） （３）摂大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた１０のこと（担当：教務課　池田 有紀）	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・グループ分けの実施 ・講義２回から４回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第１回「学生生活」に関するレポート締切
6	キャリアパス① 「私のキャリア」　キャリアアップを考える（担当：経済学部 教授　持永 政人）	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
7	キャリアパス② 個別ワーク「私が NO.1 プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること
8	キャリアパス③ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？（担当:スポツ振興センター　准教授　藤林 真美）	・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義を振り返る
9	キャリアパス④ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	・講義７で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・講義を振り返る ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること
10	キャリアパス⑤ 自らのキャリアは自らデザインする（担当：経営学部講師　西之坊 穂）	・自らの"employability"を高めるために何をすべきか、講師のキャリア事例を通じてお話します。	・講義を振り返る
11	キャリアパス⑥ 講義の中間まとめ（担当：キャリア教育推進室）	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第２回課題「キャリアパス」に関する課題を提出
12	学修① 学修の回のオリエンテーション（担当：キャリア教育推進室）	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・講義を振り返る
13	学修② 法律とスポーツと将来の職 （担当:法学部　准教授　石井信輝）	法とスポーツとの関係性は見出しにくいが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る
14	学修③	・講義１２で取り組んだ課題をグループ	・講義を振り返る

	課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	・グループ課題を提出
15	講義のまとめ（担当：キャリア教育推進室）	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返る ・第３回課題「講義のまとめのレポート」

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク（15%）、グループ課題（10%）、レポート３回（60%）、を総合的に判断する。
学生へのメッセージ	学生生活４年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の研究室等	11 号館 10 階（荻田） ７号館５階キャリア教育推進室（石井） ７号館３階キャリア教育推進室（水野）
備考	教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名（英文）	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.石井　三恵.荻田　喜代一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション（キャリア教育推進室）	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点（特に聴く態度）について	・講義の感想を提出
2	「先人（企業家）に学ぶ　～仕事への心構え」（商工会議所 /管理職）	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・講義の感想を提出
3	ジャーナリストの仕事(新聞社/編集局)	・情報収集の手法とジャーナリズムの使命についてお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大ＯＢとしての歩み方(摂南大学 OB・メーカー／営業管理職)	・キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒ＯＢといえる人物であってほしいという願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～（警察官）	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介する DVD の上映も行います。	・講義の感想を提出
7	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで（摂大 OB/NPO 法人代表）	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性“を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・講義の感想を提出
8	「やりがいのある仕事」とは？ 社会貢献の意義と実践 （牧師）	・外交官を辞してキリスト教会の牧師となり、フリースクールや社会福祉法人を運営するようになった経緯や経験をお話しし、皆さんが本当にやりがいのある仕事とは何かについて考える機会を持って頂きたいと思います。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	信用金庫の歴史と社会的使命 （金融/人財開発）	・信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
10	新卒での就職活動で全てが決まる！？（摂南大学 OG・旅行代理店/カウンター業務）	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポートを提出
11	これから ～自分の将来像について考える～（摂大 OB/警備会社人事）	・「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事（高校教師）	・高校の教師の仕事についてお話します。	・講義の感想を提出
13	今求められる公務員像(摂南大学ＯＢ／市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ-職業としての公務員- 経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
14	社会人に求められるもの(摂南大学ＯＢ／代表取締役社長)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	毎回の感想（30%）、レポート２回（70%）を総合的に判断する。
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	７号館５階キャリア教育推進室（石井） ７号館３階キャリア教育推進室（水野）
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.亀田　峻宣.橋本　朗子.山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	１）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと。
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目	キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ２．2016 年以前入学者で再履修の者は別教室で実施する。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名（英文）	Career Planning Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	１）就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 ２）基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 ３)専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 ４）講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。
到達目標	１）摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 ２）社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 ３）調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義だけでなくグループワークなどを織り交ぜて進行するので積極的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること。
2	さぁ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること。
3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話を聴く	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること。 ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること。
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと。
5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・チームの中で「自分はどんな役割を果たしたいか」を考えること。
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること。
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること。
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読すること。
9	自分づくり①	・自分の良いところを１００挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと。
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学４年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること。
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること。
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選んでおくこと。
13	グループ課題の発表会	・グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること。
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること。

関連科目

キャリアデザインⅡ 、キャリアデザインⅢ 、インターンシップⅠ 、インターンシップⅡ
エンプロイメントデザイン Ⅰ、エンプロイメントデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）で総合的に評価する。
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野）
備考	１．必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 ２．2016 年以前入学者で再履修の者は別教室で実施する。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	水野　武.亀田　峻宣.橋本　朗子.山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等を考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。 ・グループ課題に取り組むこと。
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションンの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・キャリアデザインⅡのテキストの P42～P42 を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・講義で配布するレジュメを熟読するくこと。
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野）
備考	2015 年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名（英文）	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報から的確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果（資格）	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等を考えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生活１年目で経験したことを思い出しておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種の概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。 ・グループ課題に取り組むこと。
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・キャリアデザインⅡのテキスト P59～P79 を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションンの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・キャリアデザインⅡのテキスト P33～P41 を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・キャリアデザインⅡのテキストの P42～P42 を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・キャリアデザインⅡのテキスト P45～P55 を熟読すること。
13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・講義で配布するレジュメを熟読するくこと。
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループワーク（20%）、授業参加度（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野）
備考	2015 年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	水野　武.安久　典宏.石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説	・配布資料を熟読すること。
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・どんな業界があるのかを調べること。
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・どんな会社があるのかを調べること。
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・ビジネスモデルについて調べること。
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・自分のワークスタイルを考えること。
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・グループへの貢献の仕方を考えること。
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・自分の未来について考えること。
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・自分について振り返ること。
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・自分の特性について考えること。
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・エントリーシートを作成する準備をしておくこと。
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・グループへの貢献の仕方を考えること
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・模擬面接の準備をしておくこと。
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること。
16	８月７日（月） グループディスカッション①	グループディスカッションのパターンを解説し、実際に体験する	・自らのグループでの役割について考えること
17	８月７日（月） グループディスカッション②	グループディスカッションのパターンを解説し、実際に体験する	・自らのグループでの役割について考えること
18	８月７日（月） グループディスカッション③	グループディスカッションのパターンを解説し、実際に体験する	・自らのグループでの役割について考えること
19	８月７日（月） 模擬面接オリエンテーション	８月８日に実施する模擬面接のオリエンテーション	・講義９～１２回を思い出し、自分のことを他者に伝えられるようにしておくこと
20	８月８日（火） 模擬面接①	模擬面接を実施	・面接官との対話をシミュレーションすること
21	８月８日（火） 模擬面接②	模擬面接を実施	・面接官との対話をシミュレーションすること
22	８月８日（火） 模擬面接③	模擬面接を実施	・面接官との対話をシミュレーションすること
23	８月８日（火） 模擬面接④	模擬面接を実施	・面接官との対話をシミュレーションすること
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

関連科目	・キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	講義での提出物と授業態度（30%）、期末レポート（50%）、授業での課題（２０%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。 なお、２０１４年以前の入学者は前期講義１５回の後、夏季休暇中に集中講義を行うので注意すること。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井研究室） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名（英文）	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野　武.安久　典宏.石井　三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材（人財）になるために何をすべきかを考えられるようになる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果（資格）	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説	・配布資料を熟読すること。
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・どんな業界があるのかを調べること。
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・どんな会社があるのかを調べること。
4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・ビジネスモデルについて調べること
5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・自分のワークスタイルを考えること。
6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・グループへの貢献の仕方を考えること。
7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと
9	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・自分の未来について考えること。
10	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・自分について振り返ること。
11	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・自分の特性について考えること。
12	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・エントリーシートを作成する準備をしておくこと。
13	グループでのコミュニケーション	・グループディスカッションを学ぶ	・グループへの貢献の仕方を考えること
14	面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・模擬面接の準備をしておくこと。
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無いか確認すること。

関連科目：・キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発、コミュニケーション能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	講義での提出物と授業態度（30%）、期末レポート（50%）、授業での課題（２０%）を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井研究室） ７号館３階　キャリア教育推進室（水野研究室）
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名（英文）	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	津村　忠.橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの４技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。これはまた、本格的に社会生活を始める前に経験する「就職活動」においてもポイントとなるスキルです。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
授業方法と留意点	毎回、個人ワーク・グループワーク等演習を中心に進行します。主体性を持って積極的に参加することで一層の学習効果が期待できます。
科目学習の効果（資格）	

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聞く技術、話す技術	話す、聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習しておく。
3	言語能力開発①	正しい日本語の基礎を学ぶ。（語彙について）	講義内容を復習しておく。
4	言語能力開発②	正しい日本語の基礎を学ぶ。（文章について）	講義内容を復習しておく。
5	言語能力開発③	正しい日本語の基礎を学ぶ。（敬語表現について）	講義内容を復習しておく。
6	ロジカルシンキング①	論理的思考法の基礎、概要を学ぶ。	講義内容をまとめておく。
7	ロジカルシンキング②	論理的思考法を用いて、文章を構築する。	自己 PR を完成させる。
8	中間テスト	言語表現能力（日本語力／語彙力、文章構築力）を問う。	中間テスト
9	プレゼンテーション	論理的思考法を用いて構築した文章を効果的に伝える方法を学ぶ。	講義で学んだことを実践する。
10	グループディスカッション①	グループディスカッションの概要を知り、体験する。	講義で学んだことを実践する。
11	グループディスカッション②	ディベート型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
12	グループディスカッション③	問題解決型ディスカッションを体験する。	講義で学んだことを実践する。
13	面接演習①	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己 PR やアピールポイントなどを整理しておく。
14	面接演習②	対人コミュニケーションの代表的事例として面接を体験する。	自己 PR やアピールポイントなどを整理しておく。
15	講義の振り返り	全体のまとめとレポート作成	全ての範囲を確認しておく。

関連科目：キャリアデザインⅡ,数的能力開発

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	平常点 40%　テスト＆授業内レポート 60%（中間テスト及び最終レポート）で評価します。
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。 他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。 そのために求められるものが「コミュニケーション能力」です。 ビジネスにおいても同様です。社会を形成する一要素がビジネスなのだから当然ですね。 だから「学生に一番求める能力は？」というアンケートで、コミュニケーション能力は 10 年以上もずっと 1 位であり続けるのです。 さあ、その能力を、今から一緒に磨いて行きましょう！
担当者の研究室等	11 号館 1 階　教務課
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。就職活動・社会人での活用するための内容となります。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、前期に開講される数的能力開発Ⅰでは、より基礎的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、更に実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、更に実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、更に実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	亀田　峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。就職活動・社会人での活用するための内容となります。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、前期に開講される数的能力開発Ⅰでは、より基礎的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡　亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。就職活動・社会人での活用するための内容となります。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、前期に開講される数的能力開発Ⅰでは、より基礎的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	２年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本　朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	社会に出るにあたり必要とされる数的能力（算数・数学）を学習します。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。よって、この講義では数的能力を高め、将来のキャリアに活かしてもらいます。 後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。就職活動・社会人での活用するための内容となります。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数的能力が身についていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。 授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。 なお、前期に開講される数的能力開発Ⅰでは、より基礎的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目を履修する事をおすすめします。
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目：数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
担当者の研究室等	7号館3階　キャリア教育推進室
備考	

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	フィードバック	課題１のフィードバック	前回の復習
7	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する 意見を述べる	図表を引用する方法を学ぶ 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
10	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	前回の復習
11	レポートの書き方１	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	これまでの復習
12	フィードバック レポートの書き方２	課題２のフィードバック レポート作成の注意点をおさえる	前回の復習
13	資料収集の方法	文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
14	小テストの復習 【 レポート 】	小テストの復習テスト レポートを提出する	小テストの復習 レポートを作成する
15	レポートの講評	レポートについて講評する	これまでの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅰ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的な文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入 文章の書き方１	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――――
2	文章の書き方２	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
4	【課題１】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	前回の復習
5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習
6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
7	フィードバック	課題１のフィードバック	課題１を見直す
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
10	引用の復習 意見を述べる	文章と図表の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
11	【課題２】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
12	レポートの書き方１	レポート作成の方法と体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
13	レポートの書き方２ フィードバック１	レポート作成の補足 課題２のフィードバック	課題２を見直す
14	フィードバック２ 資料収集の方法	課題２のフィードバック 文献の検索について学ぶ	課題２を見直す
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題・レポート（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題、レポートの提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩＪ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＡＢＣＤ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中　教子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野　加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	１年	クラス	ＥＧＨＩ
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細川　知佐子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活で必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などを実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。３回の課題を提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	導入	授業の目的、進め方の説明	――――――
2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題１】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	前回の復習
4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	これまでの復習
5	フィードバック	課題１のフィードバック 敬語の練習問題	前回の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	課題１を見直す
7	【課題２】手紙	手紙を作成する	前回の復習
8	電子メールの書き方	電子メールの基本とマナーを学ぶ	これまでの復習
9	フィードバック	課題２のフィードバック	前回の復習
10	ディスカッション１	グループ分けとディスカッションを行う	課題２を見直す テーマの下調べ
11	ディスカッション２	ディスカッションとプレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
12	プレゼンテーション１	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	プレゼンテーション２	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う 報告文の準備をする	発表の準備
14	【課題３】報告文	ディスカッションの経過と結論を文書で報告する	報告文の準備
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目：キャリアデザイン

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学　日本語文章表現の会	和泉書院
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	課題（70%）、授業への取り組みなど（30%）により総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出も求める。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	７号館２階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、教科書・配布プリントの予習・復習を中心に、毎回１時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネスマナーⅠ	科目名（英文）	Bisiness Manner Ⅰ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパースンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション ーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の８つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の８つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定（MBO） ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO とと PDCA を考え、まとめる（400 字以上）。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの１週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護（P マーク） ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する（400 字以上）。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・５W２H から６W３H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客応対プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段（電子メール、ファックス等）の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書（社外社内）、郵便の知識、慶事のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	ロールプレイ等のワーク（20%）、複数回のレポート（40%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名（英文）	Bisiness Manner II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田　和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎,DP6◎,DP7◎		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織においての積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力（非言語ならびに言語能力）とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果（資格）	ビジネス実務能力が身に付く。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修：ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。 受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修：オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修：自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修：第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修：日常において段取りが悪かった事例の内容を６W３H でまとめる。 ・事後学修：その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修：日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修：相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修：テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修：逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」 ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修：「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修：「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修：日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修：ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用 クレーム対応	・来客応対、業務処理、重複業務処理と TPO の関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修：TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修：処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方方法、プレゼンテーションの方法	・設営業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修：会議等を開催する手順を考え、工程表を作成する。 ・事後学修：YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修：手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修：企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修：自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修：ケーススダディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修：実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修：「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事後学修：ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修：キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修：キャリアに関するレポートを作成をする。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事後学修：ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目：キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ワークプレイス共生論	佐藤啓子、石井三恵、他	嵯峨野書院

評価方法 （基準）	ワークならびに小テスト（30%）、レポート（30%）、期末試験（40%）を総合的に評価する。
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っおり、それを振り返ることから始まります。まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。
担当者の 研究室等	７号館５階　キャリア教育推進室（石井）
備考	予習・復習に毎回２時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。

教　職　科　目

科目名	教育課程論	科目名（英文）	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	（1）教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 （2）わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 （1）学校教育における教育課程の意義について理解できる。 （2）将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましい。また本授業用のノートを１冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておくこと。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後（経験主義～系統主義：高度経済成長期）の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当する部分と授業（第１回目）で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程（カリキュラム）の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素（内部要因と外部要因）について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当する分を読んでおくこと。
5	教育評価　その１	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価　その２	教育課程評価について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程　その１	「キャリア教育」について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程　その２	「アクティブラーニング」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程　その３	「社会に開かれた教育課程」について。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革　その１	特色のある学校づくり＝小中高編（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革　その２	カリキュラム・マネジメントについて。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差　その１	学力格差と学力低下問題について（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差　その２	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによる発表を予定）。	課題:本時テーマについて調べてくる(A4 一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目：教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	出席（8 割以上必須）、学期末試験（単位取得のためには 60 点以上必要）、中間試験（予定）、レポート及び授業態度や授業への貢献度（発表を含む）など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること（原則、第一回目から全 15 回出席すること）。
学生へのメッセージ	１．第一回目の授業は必ず出席すること。 ２．欠席・遅刻はしない。 ３．私語はしない。 ４．グループワークでは何事にも積極的に取り組む。 ５．授業内容の復習を怠らないこと。 ６．授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。

担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	2009 年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 テキストに代わる配布資料（「『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい」を使用予定）については事前に該当箇所を配布します。

科目名	教育経営論	科目名（英文）	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにとってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用のし方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバスを読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第３章１節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第３章２節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第７章１・２節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第３章３節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第７章２・３節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第４章１・２節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第４章３・４節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章１・２節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第１０章３・４節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第８章１・２節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第８章３・４節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第２章１節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第２章２・３節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第６章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育行政学　（改訂新版）	勝野正章・藤本典裕	学文社
2			
3			

参考書

	番号 / 書籍名 / 著者名 / 出版社名 1 / / /
	2 / / /
	3 / / /
評価方法 （基準）	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	教育原理	科目名（英文）	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山　裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか」。「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか」。「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることを目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようにします。
到達目標	「教育」をめぐる思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果（資格）	（1）高等学校教諭１種免許状　（2）中学校教諭１種免許状の取得　（3）学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについてもう一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐる諸論理①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐる諸論理②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観（あるいは「人間形成」観）の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐる諸論理③:「子ども」観の歴史的変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史的変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たなる展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかに立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習Ⅰ	科目名（英文）	Teaching Practice Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	（1）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、受講者は、それらに基づく様々な演習を経て、発表や討議を行う。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な心構えを身に付ける。
到達目標	（1）教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、受講者は、それらに基づく様々な演習を経て、発表や討議を行う。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な心構えを身に付ける。
授業方法と留意点	基本的には演習形式で授業を進めます。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育実習の意義	教育実習の目的と意義、免許制度の概要について。	授業時に指示する。
2	教育実習の実際①	教育実習の内容と形態。	授業時に指示する。
3	教育実習の実際②	教育実習中の勤務の要領、学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について。	授業時に指示する。
4	教育実習への準備	事前準備と心構えについて。	授業時に指示する。
5	授業の方法と技術	学習指導と教材研究について。	授業時に指示する。
6	学習指導案の作成①	授業の準備と配慮事項。	授業時に指示する。
7	学習指導案の作成②	学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成。	授業時に指示する。
8	学習指導案の作成③	板書計画について。授業の評価とその観点について。	授業時に指示する。
9	模擬授業①	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
10	模擬授業②	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
11	模擬授業③	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
12	模擬授業④	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
13	学校における人権教育について	人権教育とは。人権教育の現状と課題について。	授業時に指示する。
14	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育とは。障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について。	授業時に指示する。
15	まとめと補足	授業のまとめを行う。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	提出課題の内容や、学習指導案および模擬授業の内容、平常点などによって総合的に評価します。
学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学習してきたことの総まとめです。十分に準備をして、ぜひとも良い実習にしてください。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室）
備考	

科目名	教育実習Ⅱ	科目名（英文）	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において 10 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１１月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階（朝日研究室）
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育実習Ⅲ	科目名（英文）	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において 15 日間以上の実習を行う。（１）教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。（２）事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。（３）教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。（４）事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。
授業方法と留意点	（１）教育実習校での実習を中心に行う。（２）大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。（３）事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。（４）事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。
授業テーマ・内容､方法･事前、事後学習課題	1　教育実習特別個人指導（４月） 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。 2　教育実習事前指導（４月～５月） 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3　教育実習個人指導（４月～５月） 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること（必要な者のみ)。 4　前期教育実習開始（５月～６月） 実習校において授業を行なったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5　後期教育実習開始（９月～１０月） 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6　教育実習事後指導（７月～１１月） 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7　教育実習体験発表会（１０月） 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8　教育実習総括講義（１０月） 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。
関連科目	教職関連科目全般

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新編教育実習の常識 － 事例にもとづく必須６６項	教育実習を考える会	蒼丘書林
2	学習指導要領解説	文部科学省	
3			

評価方法（基準）	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。
担当者の研究室等	７号館３階
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。

科目名	教育社会学	科目名（英文）	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りです。
１．教育社会学の基礎理論と概念について学習する。
２．現代社会における様々な教育問題について理解する。
３．教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。
４．様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。

授業方法と留意点

講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会もあります。基本的に履修生は全プログラム（週末などに実施される課外活動含む）に出席する義務があります。また、毎時間、講義開始５分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが０点となりますので気を付けてください。
〇準備学習の具体的な方法
指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約する。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集する。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている単語をすべて覚える。

科目学習の効果（資格）

（１）高等学校教諭１種免許状　　（２）中学校教諭１種免許状の取得に必要です。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育の基礎理論に関する科目
各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション　教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：小テスト対策、教科書の第１章、第２章の要約。
3	教師と子ども	「教師－生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教小テスト対策、科書の第３章、第４章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題（体罰等）が発生する背景や要因について考える。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：事小テスト対策、前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困に関する映画鑑賞（予定）	事前課題：小テスト対策、教科書の第７章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第９章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目

「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス

	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			

評価方法 （基準）	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等により総合的に評価するが、試験で６割以上取れない場合、さらに、出席が 80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする（期末試験の受験資格なし）。遅刻は欠席とする。
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しませんのでお気を付けください。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りますが「未提出」扱いとします。
担当者の 研究室等	７号館３階(大野順子研究室)
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、課外活動が通常の時間割外に予定されています。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難です。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、ご注意ください。

科目名	教育心理学	科目名（英文）	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればよいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて，簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修，免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」６単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	＿＿＿＿＿
2	教育を支える認知機能１	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第８章、第９章を読む
3	教育を支える認知機能２	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第７章の１、第８章、第９章を読む
4	教育を支える認知機能３	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第９章の２、第11章を読む
5	教育を支える認知機能４	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能５	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第４章、第５章を読む
7	教育を支える認知機能６	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第４章、第５章を読む
8	こどもの学び１	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第１章を読む
9	こどもの学び２	様々な学習(2)……道具的条件付け、観察学習	テキスト第１章を読む
10	学習を支える動機づけ１	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第２章、第３章を読む
11	学習を支える動機づけ２	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
12	学習を支える動機づけ３	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第２章、第３章を読む
13	学習を支える動機づけ４	学習意欲を育むために ……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第０章の２、第２章、第３章を読む
14	個に応じた教育１	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第０章の３，第６章を読む
15	個に応じた教育２	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目：教育原理，教育相談

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論を実践―	藤田哲也（編著）	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	小テスト30%　期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	小テストは次回授業時に返却します。定期テストは希望者に返却します。

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える.
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は，グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」４単位のうち２単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	――――
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	――――
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	――――
8	問題の理解と対応 1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 3 章を読む
9	問題の理解と対応 2	ストレス、欲求不満，葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際 1	不登校……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
12	相談援助活動の実際 2	いじめ……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
13	相談援助活動の実際 3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動……その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために，教員への対応	テキスト第 14 章を読む

関連科目：教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	グループ発表 50%　期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	７号館３階（吉田研究室）
備考	グループ発表について，他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また，全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

科目名	教育方法論	科目名（英文）	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論を概観する講義、授業の設計・展開から評価に至る授業構成の理解と学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略を習得するミニ講座、それらに土台に、チームの共同作業によるマイクロ・ティーチングにより構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験することになる。 　それらのことを通じて、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。
授業方法と留意点	(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ（双方向的）な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。 (2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること（編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと）。 (3)　第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる（中間レポートとして）。 (4) 定期試験を受験すること。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション･現代教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第３章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第４章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か（学習論） 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる３つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割 、学習指導の形態	教科書第５章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか（学力論） 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第６章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか（計画論） 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第７章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境（教材論） 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第８章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか（評価論） チーム授業顔合わせ･自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第９章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第１章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第 1 グループのマイクロ･ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第２章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論） チーム授業③第２グループのマイクロ･ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第３グループのマイクロ･ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる②	情報教育、メディア・リテラシー、ｅラーニング、学校運営・教務事務の ICT 化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

	チーム授業⑤第４グループのマイクロ・ティーチング実施		
13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	２つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第１１章をよく読んでおく。学習内容を整理する。

関連科目

教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教育の方法	佐藤学	左右社
2			
3			

評価方法（基準）

定期試験（50%）、レポート（30%）、コメントペーパー（20%）により総合的に評価する。

学生へのメッセージ

「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。

担当者の研究室等

７号館３階(林研究室)

備考

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	４年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田　佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員５名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。１グループは 15～20 名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く） の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・３回以降のグループ学習の各課題の確認	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方では伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ：外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、Ａ４サイズの用紙１?2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業についた後、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」	（事前）自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。

			でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	（事前）自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 （事後）小レポートの提出。
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応，保護者への対応に応用する。	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を３つあげる。 （事後）小レポート
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り，そのための１方法としてのエゴグラム作成を行う。	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート

関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	グループ学習が中心であり，それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けること。
担当者の 研究室等	７号館３階（朝日、大野、林、吉田） ７号館４階（小山）
備考	

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これを基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）・進路選択に資する各種の機会の提供等

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性（1）	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性（2）	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性（3）	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性（4）	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像（1）	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像（2）	「不良教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像（3）	「熱血教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像（4）	「人間教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像（5）	「プロ教師」（文献・映像に基づく教師像の探究） レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務（1）	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務（2）	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務（3）	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務（4）	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。

	遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Civic Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 （1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 （2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 （3）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果（資格）	中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	模擬授業（3）	模擬授業の実践と指導（3）	模擬授業の準備。
13	模擬授業（4）	模擬授業の実践と指導（4）	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目：社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は「１→２」と連続して受講することが望ましい。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。成績評価対象となるためには少なくとも 80%以上の出席が必須。）、レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領を入手しておく（購入、あるいはインターネットでダウンロードし全ページをコピーをして講義に持参する。）

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野　順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的

本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育のあり方が問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（主権者教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。

到達目標

本講義の到達目標は以下の通りです。
（1）中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
（2）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
（3）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
（4）政治教育、主権者教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

授業方法と留意点

まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。

科目学習の効果（資格）

中学校１種「社会」、高校１種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取りれたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（主権者教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育（主権者教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括ー社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目

社会科・公民科教育法１、社会科・公民科教育法２は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法１を既に履修していること。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			

評価方法 （基準）	出席（全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80%以上は必要）、課題・レポート（レポート提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階　大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 各自、学習指導要領については予め購入するか、インターネットからダウンロードし全てのページを印刷してくること。

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名（英文）	Geography and History Education Method Ⅰ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上　正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前　既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後　授業終了時に指示する。
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後　授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前　中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後　授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成について１	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　学習指導案とは何かを調べておく。 事後　授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成について２	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前　与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後　授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業　１	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
7	学習指導案の作成と模擬授業　２	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
8	学習指導案の作成と模擬授業　３	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
9	学習指導案の作成と模擬授業　４	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
10	学習指導案の作成と模擬授業　５	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
11	学習指導案の作成と模擬授業　６	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
12	学習指導案の作成と模擬授業　７	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
13	学習指導案の作成と模擬授業　８	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前　どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後　授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前　評価方法の種類について考えておく。 事後　評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目：社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

担当者の 研究室等	１１号館　１階　教務課
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	３年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上　正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果（資格）	中学・高校教員免許（社会科、地歴科） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	学習指導要領歴史的分野（世界史）の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野（日本史）の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前　学習指導要領の通読 事後　講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施　1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施　2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施　3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施　4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施　5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施　6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施　7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施　8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施　9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施　１０	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前　各自模擬授業指導案を作成 事後　授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括１	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前　全員の授業計画案を再度確認 事後　レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括２	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後　レポート作成、提出

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生へのメッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の研究室等	１１号館　１階　教務課
備考	

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counceling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日　素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
3	生徒指導の理論（1）	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
4	生徒指導の理論（2）	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
6	生徒理解の進め方（2）	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
7	生徒理解の進め方（3）	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
8	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
9	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
10	学級経営の進め方（3）	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法（基準）	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の研究室等	7 号館 3 階　朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法
授業計画	

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②道徳の読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史的変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点とを整理する。
6	道徳教育の内容①：自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」（＝「私」）について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②：他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりのなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育（とりわけ「いのちの教育」）の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤：社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりのなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論（およびギリガンによるその批判）について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

		②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「甘え」と「自律」の教育学――ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(小山研究室)
備考	

科目名	道徳教育の研究	科目名（英文）	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	２年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山　裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道徳教育の歴史、道徳教育の内容を構成する諸概念、道徳性の発達理論、等）について解説を加えたうえで、実際に学校でどのように道徳教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道徳教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたうえで、道徳教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道徳科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭１種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:道徳教育をどのように考えるか	①現在道徳教育がどのように考えられているかを、確認する。 ②道徳の読み物教材の分析を通して、道徳教育に対するアプローチ法を考える。	自分が受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。
2	日本の道徳教育の歴史①:戦前の道徳教育	①明治から昭和初期にかけての道徳教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道徳教育の歴史②:戦後の道徳教育	道徳教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きとについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道徳教育の歴史的変遷を整理する。
4	日本の道徳教育の歴史③:現代の道徳教育	①近年の道徳教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道徳教育推進論の論拠の一つともなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道徳教育	①諸外国の道徳教育の状況について概観する。 ②諸外国の道徳教育を事例として、道徳教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道徳教育と自分の受けてきた道徳教育とを比較検討し、共通点と相違点とを整理する。
6	道徳教育の内容①：自我	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」（＝「私」）について道徳教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道徳教育の内容②：他者	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「他者」との関わりのなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道徳教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道徳教育（とりわけ「いのちの教育」）の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道徳教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること」をめぐり、道徳教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道徳教育について再考する。
10	道徳教育の内容⑤：社会	①学習指導要領において道徳教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道徳教育の視点から「社会」との関わりのなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道徳性の発達	①コールバーグによる道徳性の発達理論（およびギリガンによるその批判）について検討する。 ②道徳性の発達理論を応用したいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道徳の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道徳教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道徳教育の実践例をもとに、道徳教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道徳教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道徳教育の「要」とされている「道徳科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみることが大切です。

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	「甘え」と「自律」の教育学――ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房
2			
3			

評価方法 （基準）	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	７号館４階(小山研究室)
備考	

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	１年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林　茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動（児童会活動）、学校行事,それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7 つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、まずはその前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

授業計画

回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第 1 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐって	教科外活動としての位置づけ、特別活動の３つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第 1･2 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動（ホームルーム活動）その１ ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第 4･11 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動（ホームルーム活動）その２ ワーク③学級活動（係・班・当番・委員）の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第 4･11 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動（児童会活動）・学級行事 ワーク④学校行事（運動会・体育祭・文化祭等）の思い出	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第 5・6･12･13 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14 歳の頃」・「17 歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第 2 章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ（その１）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい グループ討議・発表・交流	教科書第 2・3 章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②暴力	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第 9 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第 10 章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤いじめ（その２）	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第 8 章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第 7･14 章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦インクルーシブ教育	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第 3 章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。
教科書	

番号	書籍名	著者名	出版社名

教職科目

	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説　特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説　特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			

評価方法 （基準）	定期試験（50%）、中間レポート（30%）、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況（20%）を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式＋記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況を評価する。
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。
担当者の 研究室等	７号館３階(林研究室)
備考	

発行　2017年4月

常翔学園　摂南大学

寝屋川校地　〒572-8508
大阪市寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

発行　2017年4月

常翔学園　摂南大学

枚方校地　〒573-0101
大阪市枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3101 【枚方事務室】

SETSUDAI